

IBM

@server

iSeries

OS/400 コマンド

STRDBMON (データベース・モニター開始) ~

バージョン 5 リリース 3





@server

iSeries

OS/400 コマンド

STRDBMON (データベース・モニター開始) ~

バージョン 5 リリース 3

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、531 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、OS/400 (プロダクト番号 5722-SS1) のバージョン 5、リリース 3、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： iSeries
Operating System/400 Commands
Starting with STRDBMON (Start Database Monitor)
Version 5 Release 3

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2004.5

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2004. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2004

目次

データベース・モニター開始 (STRDBMON)	1
パラメーター	1
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	2
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	2
ジョブ名 (JOB)	3
レコードのタイプ (TYPE)	3
強制レコード書き出し (FRCRCD)	3
注記 (COMMENT)	4
STRDBMONの例	4
エラー・メッセージ: STRDBMON	4
データベース読取プログラム開始 (STRDBRDR)	7
パラメーター	7
データベース・ファイル (FILE)	8
メンバー (MBR)	8
ジョブ待ち行列 (JOBQ)	8
読取プログラム・メッセージ待ち行列 (MSGQ)	9
読み取りプログラム (RDR)	9
STRDBRDRの例	10
エラー・メッセージ: STRDBRDR	10
DFUの開始 (STRDFU)	11
エラー・メッセージ: STRDFU	11
パラメーター	11
オプション (OPTION)	11
DFUプログラム (DFUPGM)	12
データベース・ファイル (FILE)	12
メンバー (MBR)	12
例	13
エラー・メッセージ: STRDFU	13
ディレクトリー・シャドウ化の開始 (STRDIRSHD)	15
パラメーター	15
STRDIRSHDの例	15
エラー・メッセージ: STRDIRSHD	15
ディスク読取プログラム開始 (STRDKTRDR)	17
パラメーター	17
ディスク装置 (DEV)	18
ディスク・ラベル (LABEL)	18
ボリューム (VOL)	18
ジョブ待ち行列 (JOBQ)	18
読取プログラム・メッセージ待ち行列 (MSGQ)	19
読み取りプログラム (RDR)	20
作成日 (CRTDATE)	20
コード (CODE)	20

STRDKTRDRの例	20
エラー・メッセージ: STRDKTRDR	21

ディスク書出プログラム開始 (STRDKTWTR)	23
パラメーター	23
ディスク装置 (DEV)	24
出力待ち行列 (OUTQ)	24
書出プログラムMSG用待ち行列 (MSGQ)	24
書き出しプログラム (WTR)	25
自動終了オプション (AUTOEND)	25
スプール・ファイル (FILE)	26
ジョブ名 (JOB)	26
スプール・ファイル番号 (SPLNBR)	26
STRDKTWTRの例	27
エラー・メッセージ: STRDKTWTR	27

DNS QUERYプログラムの開始 (STRDNSQRY)	29
パラメーター	33
ホスト (HOSTNAME)	33
ドメイン・ネーム・サーバー (DMNNAMSVR)	33
エラー・メッセージ	34

ディスク再編成の開始 (STRDSKRGZ)	35
パラメーター	35
補助記憶域プールID (ASP)	35
ASP装置 (ASPDEV)	35
時間制限 (TIMLMT)	36
STRDSKRGZの例	36
エラー・メッセージ: STRDSKRGZ	37

研修の開始 (STREDU)	39
パラメーター	39
STREDUの例	39
エラー・メッセージ: STREDU	39

3270表示装置エミュレーション開始 (STREML3270)	41
パラメーター	41
エミュレーション制御装置 (EMLCTL)	43
エミュレーション装置 (EMLDEV)	43
エミュレーション・ロケーション (EMLLOC)	43
表示装置 (バッチのみ) (DSPDEV)	43
前ページ・キー (PAGEUP)	44
次ページ・キー (PAGEDOWN)	44
テスト要求キー (TESTREQ)	45
カーソル選択キー (CSRSLT)	45
SNA日本語3270PCエミュレーション (IGCEMLPC)	45
エミュレーション印刷装置 (EMLPRTDEV)	46

ホスト待ちタイムアウト (INZWAIT)	46
数字ロック・キーボード (NUMLCK)	46
ヌル文字の処理 (NULLS)	47
ホスト・サイン・オン/ログオン・コマンド (LOGON)	47
待機応答 (WAITRSP)	47
エミュレーションの終了条件 (ENDCOND)	48
アテンション・エミュレーション・メニュー (ATNEMLMNU)	48
機能キー・プログラム (FKEYPGM)	49
キーボード言語タイプ (KBDTYPE)	50
出力変換テーブル (TRNTBLOUT)	51
入力変換テーブル (TRNTBLIN)	51
構成項目 (EMLCFGE)	52
STREML3270の例	52
エラー・メッセージ: STREML3270	52

EPM環境開始 (STREPMENV)	57
エラー・メッセージ: STREPMENV	57
パラメーター	57
環境名 (EPMENV)	57
環境プログラム (ROOTPGM)	57
例	58
エラー・メッセージ: STREPMENV	58

フォント管理援助機能の開始 (STRFMA) 59	59
エラー・メッセージ: STRFMA	59
パラメーター	59
例	59
エラー・メッセージ: STRFMA	59

ホスト・サーバーの開始 (STRHOSTSVR) 61	61
エラー・メッセージ: STRHOSTSVR.	62
パラメーター	62
サーバー・タイプ (SERVER)	62
必要なプロトコル (RQDPCL)	63
例	63
エラー・メッセージ: STRHOSTSVR.	63

IDDU開始 (STRIDD)	65
パラメーター	65
STRIDDの例	65
エラー・メッセージ: STRIDD.	65

SNA インターフェース上のIPの開始 (STRIPSIFC)	67
パラメーター	67
IPアドレス (INTNETADR)	67
STRIPSIFCの例	67
エラー・メッセージ: STRIPSIFC.	68

ITF開始 (STRITF)	69
パラメーター	69
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	69
STRITFの例	69
エラー・メッセージ: STRITF	69

ジャーナルの開始 (STRJRN).	71
パラメーター	72
オブジェクト (OBJ)	72
ファイル識別コード (OBJFID)	73
ジャーナル (JRN)	73
ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)	73
名前パターン (PATTERN)	74
新オブジェクト,ジャーナル処理継承 (INHERIT)	75
イメージ (IMAGES)	75
ジャーナル項目の省略 (OMTJRNE)	75
STRJRNの例	76
エラー・メッセージ: STRJRN.	77

アクセス・パス・ジャーナル開始 (STRJRNAP)	79
パラメーター	80
ジャーナル処理ファイル (FILE)	80
ジャーナル (JRN)	81
STRJRNAPの例	81
エラー・メッセージ: STRJRNAP.	81

ジャーナル・オブジェクト開始 (STRJRNOBJ).	85
パラメーター	86
オブジェクト (OBJ)	86
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE).	87
ジャーナル (JRN)	87
イメージ (IMAGES)	87
STRJRNOBJの例	88
エラー・メッセージ: STRJRNOBJ	88

物理ファイル・ジャーナル開始 (STRJRNPF)	89
パラメーター	90
ジャーナル処理する物理ファイル (FILE)	90
ジャーナル (JRN)	91
レコード・イメージ (IMAGES).	91
除外するジャーナル項目 (OMTJRNE).	91
STRJRNPFの例	92
エラー・メッセージ: STRJRNPF	92

モード開始 (STRMOD)	95
パラメーター	95
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	95
装置 (DEV)	95
モード (MODE)	96
ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	96
リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	96
STRMODの例	97
エラー・メッセージ: STRMOD	97

メール・サーバー・フレームワークの開始 (STRMSF)	99
パラメーター	99
メール・メッセージの処理方法 (MSGOPT)	99

MSFジョブの数 (NBRMSFJOB)	100
STRMSFの例	100
エラー・メッセージ: STRMSF	100
NFSサーバーの開始 (STRNFSSVR)	101
パラメーター	102
サーバー・デーモン (SERVER)	102
サーバー・デーモン数 (NBRSVR)	102
ブロックI/Oデーモン数 (NBRBIO)	103
RPC登録の検索 (RTVRPCREG)	103
デーモン開始のタイムアウト (STRJOBTIMO)	103
STRNFSSVRの例	103
エラー・メッセージ: STRNFSSVR	104
NETWARE接続の開始 (STRNTWCNN)	105
パラメーター	105
サーバー (SERVER)	106
サーバー・タイプ (SVRTYPE)	106
NDSツリー (NDSTREE)	106
認可されたユーザー・プロファイル (AUTUSR)	106
NDSコンテキスト (NDSCTX)	107
NETWAREユーザー (NTWUSER)	107
パスワード (PASSWORD)	107
認可されたジョブ (AUTJOB)	108
接続タイプ (CNNTYPE)	108
接続遊休時間 (CNNIDLTIME)	108
例	109
エラー・メッセージ: STRNTWCNN	109
オブジェクト変換開始 (STROBJCVN)	111
パラメーター	111
ライブラリー (LIB)	111
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	112
優先順位 (PTY)	113
例	113
エラー・メッセージ	113
パススルー開始 (STRPASTHR)	115
パラメーター	115
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	116
APPC装置 (CNNDEV)	116
仮想制御装置 (VRTCTL)	116
仮想表示装置 (VRTDEV)	117
モード (MODE)	117
ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	117
リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	118
システム要求プログラム (SRQ10PGM)	118
ユーザー・プロファイル (RMTUSER)	119
ユーザー・パスワード (RMTPWD)	119
呼び出す初期プログラム (RMTINLPGM)	119
初期メニュー (RMTINLMNU)	120
現行ライブラリー (RMTCURLIB)	120
表示オプション (PASTHRSCN)	120
STRPASTHRの例	121
エラー・メッセージ: STRPASTHR	121

PCコマンドの開始 (STRPCCMD)	125
エラー・メッセージ: STRPCCMD	125
パラメーター	125
PCコマンド (PCCMD)	125
停止 (PAUSE)	126
例	126
エラー・メッセージ: STRPCCMD	126
クライアント・アクセス・オーガナイザーの開始 (STRPCO)	127
エラー・メッセージ: STRPCO	127
パラメーター	127
テキスト援助機能 (PCTA)	127
例	127
エラー・メッセージ: STRPCO	128
PERFORMANCE EXPLORERの開始 (STRPEX)	129
パラメーター	129
セッションID (SSNID)	129
オプション (OPTION)	130
定義 (DFN)	130
フィルター (FTR)	130
STRPEXの例	131
エラー・メッセージ: STRPEX	131
エラー・メッセージ: RMVPEXDFN	131
パフォーマンス収集の開始 (STRPFCOL)	133
パラメーター	133
省略時収集プロファイル (COLPRF)	134
収集の循環 (CYCCOL)	134
STRPFCOLの例	135
エラー・メッセージ: STRPFCOL	135
パフォーマンス追跡の開始 (STRPFRTRC)	137
パラメーター	137
追跡テーブル・サイズ (SIZE)	137
追跡ポイントの省略 (OMTTCPNT)	138
ジョブ・タイプ (JOBTYPE)	138
ジョブ追跡間隔 (JOBTRCITV)	139
STRPFRTRCの例	139
エラー・メッセージ: STRPFRTRC	139
プログラム・エクスポート・リストの開始 (STRPGMEXP)	141
パラメーター	141
プログラム・レベル (PGMLVL)	141
インターフェース識別値レベル検査 (LVLCHK)	141
インターフェース識別値 (SIGNATURE)	142
STRPGMEXPの例	142
エラー・メッセージ: STRPGMEXP	142

プログラマー・メニュー開始 (STRPGMMNU)	143
パラメーター	143
ソース・ファイル (SRCFILE)	143
ソース・ライブラリー (SRCLIB)	144
目的ライブラリー (OBJLIB)	144
ジョブ記述 (JOBID)	144
変更可能 (ALWUSRCHG)	144
オプション 3(プログラム終了) (EXITPGM)	145
削除オプション (DLTOPT)	145
例	147
エラー・メッセージ	148

プログラム・プロファイリングの開始 (STRPGMPRF)	149
パラメーター	149
STRPGMPRFの例	149
エラー・メッセージ: STRPGMPRF	149

事前開始ジョブの開始 (STRPJ)	151
パラメーター	151
サブシステム (SBS)	151
プログラム (PGM)	152
STRPJの例	152
エラー・メッセージ: STRPJ	152

印刷装置エミュレーション開始 (STRPRTEML)	155
パラメーター	155
エミュレーション制御装置 (EMLCTL)	156
エミュレーション装置 (EMLDEV)	157
エミュレーション・ロケーション (EMLLOC)	157
印刷装置 (PRTDEV)	157
ジョブ名 (JOB)	157
ブラケット・イジェクト終了 (ENDBKTEJT)	158
印刷出力ファイル (PRTFILE)	158
イジェクト待ちタイムアウト (TIMOUTEJT)	158
スプール出力の印刷据え置き (DFRPRTOUT)	159
スプール出力 (SPOOL)	159
印刷装置ファイルのオープン (OPNPRTF)	160
印刷桁数/行 (NUMCOL)	160
1 ページ当たりの行数 (NUMLIN)	160
行/インチ (LPI)	161
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	161
言語文字セット (CHRSET)	161
ジョブ投入 (SBMJOB)	162
ジョブ記述 (JOBID)	162
出力変換テーブル (TRNTBLOUT)	163
ジョブ待ち行列 (JOBQ)	163
エミュレーションの終了条件 (ENDCOND)	163
確認された用紙送り (FORMFEED)	164
構成項目 (EMLCFGE)	164
STRPRTEMLの例	165
エラー・メッセージ: STRPRTEML	165

印刷装置書出プログラム開始 (STRPRTWTR)	167
パラメーター	167
印刷装置 (DEV)	168
出力待ち行列 (OUTQ)	168
書出プログラムMSG用待ち行列 (MSGQ)	169
用紙タイプ・オプション (FORMTYPE)	169
ファイル区切り (FILESEP)	171
分離ページの用紙入れ (SEPDRAWER)	171
書き出しプログラム (WTR)	171
自動終了オプション (AUTOEND)	172
直接印刷可能 (ALWDRTPRT)	172
ページの位置合わせ (ALIGN)	172
印刷装置の初期設定 (INIT)	173
スプール・ファイル (FILE)	173
ジョブ名 (JOB)	174
スプール・ファイル番号 (SPLNBR)	174
ジョブ・システム名 (JOBSYSNAME)	174
作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)	175
開始ページ (PAGE)	176
STRPRTWTRの例	176
エラー・メッセージ: STRPRTWTR	176

QUERY管理機能プロシージャ開始 (STRQMPPRC)	179
パラメーター	179
ソース・メンバー(SRCMBR)	179
ソース・ファイル (SRCFILE)	180
リレーショナル・データベース (RDB)	180
接続方式 (RDBCNNMTH)	180
ユーザー (USER)	181
パスワード (PASSWORD)	181
命名規則 (NAMING)	181
QRYDFNからの情報使用可能 (ALWQRYDFN)	182
コマンド・ソース・ファイル (CMDSRCFILE)	182
ソース・メンバー (CMDSRCMBR)	183
表示画面 (ALWDSPLAY)	183
STRQMPPRCの例	183
エラー・メッセージ: STRQMPPRC	184

QUERY管理機能プログラム開始 (STRQMQRV)	185
パラメーター	185
QUERY管理機能プログラム (QMQRV)	186
出力 (OUTPUT)	186
QUERY管理機能報告書書式 (QMFORM)	187
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	187
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	188
日付および時刻 (DATETIME)	188
ページ番号 (PAGNBR)	188
リレーショナル・データベース (RDB)	189
接続方式 (RDBCNNMTH)	189
ユーザー (USER)	189
パスワード (PASSWORD)	190
命名規則 (NAMING)	190

QRYDFNからの情報使用可能 (ALWQRYDFN)	190
集合変数 (SETVAR)	191
STRQMQRVの例	191
エラー・メッセージ: STRQMQRV	192
QUERY開始 (STRQRY)	193
パラメーター	193
STRQRYの例	193
エラー・メッセージ: STRQRY	193
QSHの開始 (STRQSH)	195
エラー・メッセージ: STRQSH	196
パラメーター	196
コマンド (CMD)	196
例	197
エラー・メッセージ: STRQSH	197
質問・回答開始 (STRQST)	199
パラメーター	199
Q/Aデータベース (QSTDB)	199
Q/Aデータベースが存在するライブラリー (LIB)	199
STRQSTの例	200
エラー・メッセージ: STRQST	200
REXXプロシージャ開始 (STRREXPRC)	201
パラメーター	201
ソース・メンバー(SRCMBR)	201
ソース・ファイル (SRCFILE)	201
パラメーター (PARM)	202
コマンド環境 (CMDENV)	202
終了プログラム (EXITPGM)	203
STRREXPRCの例	204
エラー・メッセージ: STRREXPRC	204
リモート・サポートの開始 (STRRMTSPT)	207
パラメーター	207
装置クラス (DEVCLS)	208
表示装置タイプ (DSPTYPE)	209
表示装置型式 (DSPMODEL)	209
アドレス (STNADR)	209
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	210
資源名 (RSRCNAME)	210
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	211
ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	211
リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	211
要求単位の最大長 (MAXLENRU)	211
データ圧縮 (DTACPR)	212
インバウンド・データの圧縮 (INDTACPR)	213
アウトバウンド・データの圧縮 (OUTDTACPR)	213
モデム (MODEM)	214
モデム・リモート・システム (MDMRMTSYS)	215
STRRMTSPTの例	215
エラー・メッセージ: STRRMTSPT	216

リモート書き出しプログラムの開始 (STRRMTWTR)	217
パラメーター	217
出力待ち行列 (OUTQ)	218
書出プログラムMSG用待ち行列 (MSGQ)	218
用紙タイプ・オプション (FORMTYPE)	219
書き出しプログラム (WTR)	220
自動終了オプション (AUTOEND)	220
STRRMTWTRの例	221
エラー・メッセージ: STRRMTWTR	221
S/36セッションの開始 (STRS36)	223
パラメーター	223
メニュー (MENU)	223
現行ライブラリー (CURLIB)	224
プロシージャかプログラム (PRC)	224
強制メニュー (FRCMNU)	224
STRS36の例	224
エラー・メッセージ: STRS36	225
S/36プロシージャの開始 (STRS36PRC)	227
パラメーター	227
プロシージャ (PRC)	227
現行ライブラリー (CURLIB)	227
プロシージャ・パラメーター (PARM)	228
STRS36PRCの例	228
エラー・メッセージ: STRS36PRC	228
サブシステム開始 (STRSBS)	229
パラメーター	230
サブシステム記述 (SBSDB)	230
STRSBSの例	230
エラー・メッセージ: STRSBS	231
検索見出しの開始 (STRSCHIDX)	233
パラメーター	233
検索見出し (SCHIDX)	233
STRSCHIDXの例	234
エラー・メッセージ: STRSCHIDX	234
サポート・ネットワーク開始 (STRSPTN)	235
パラメーター	235
会計 (ACCOUNT)	235
ユーザー識別コード (SPTUSRID)	235
パスワード (SPTPWD)	236
装置記述 (FEADEV)	236
宛先適用業務 (DESTAPP)	236
STRSPTNの例	236
エラー・メッセージ: STRSPTN	236
サービス・エージェントの開始 (STRSRVAGT)	237
パラメーター	237

タイプ(TYPE)	237
活性化パスワード(ACTPWD)	238
マスター・パスワード(MSTPWD).	238
STRSRVAGTの例	238
エラー・メッセージ: STRSRVAGT.	238

サービス・ジョブ開始 (STRSRVJOB) 239

パラメーター	239
ジョブ名 (JOB).	239
重複ジョブ・オプション (DUJOBLOPT)	240
STRSRVJOBの例	240
エラー・メッセージ: STRSRVJOB	240

システム保守ツール開始 (STRSST) . . . 243

パラメーター	243
STRSSTの例.	243
エラー・メッセージ: STRSST	243

TCP/IPの開始 (STRTCP) 245

パラメーター	248
適用業務サーバーの開始 (STRSVR)	248
TCP/IPインターフェースの開始 (STRIFC)	248
POINT-TO-POINT プロファイルの開始 (STRPTPPRF)	249
STRTCPの例.	249
エラー・メッセージ: STRTCP	249

TCP/IPインターフェースの開始 (STRTCPIFC) 251

パラメーター	251
IPアドレス (INTNETADR)	251
STRTCPIFCの例	252
エラー・メッセージ: STRTCPIFC	252

POINT-TO-POINT TCP/IPの開始 (STRTCPPTP) 255

パラメーター	255
プロファイルの構成 (CFGPRF)	255
スクリプト・ダイアログ出力 (OUTPUT)	256
再始動 (RESTART)	256
照会メッセージの送信 (SNDINQMSG)	257
構成の自動削除 (AUTODLTCFG)	257
STRTCPPTPの例	257
エラー・メッセージ: STRTCPPTP	258

TCP/IPサーバーの開始 (STRTCPSVR) 259

パラメーター	259
サーバー適用業務 (SERVER)	260
サーバーの再始動 (RESTART).	264
HTTPサーバー (HTTPSVR)	264
DNSサーバー (DNSSVR)	266
TCMサーバー (TCMSVR)	267
ASFOTMCATサーバー (TOMCATSVR)	267
SNTPサービス (NTPSRV)	268
STRTCPSVRの例	268
エラー・メッセージ: STRTCPSVR	269

TIEセッション開始 (STRTISSN) 271

パラメーター	271
ユーザー識別コード (SPTUSRID).	271
パスワード (SPTPWD)	271
会計 (ACCOUNT)	271
STRTISSNの例	272
エラー・メッセージ: STRTISSN	272

追跡の開始 (STRTRC) 273

パラメーター	273
セッションID (SSNID)	275
ジョブ名 (JOB).	275
ジョブ・タイプ (JOBTYPE)	276
使用最大記憶域 (MAXSTG).	277
追跡データ満杯時の処理 (TRCFULL)	277
追跡タイプ (JOBTRCTYPE).	277
追跡タイプ (TRCTYPE)	278
追跡フィルター (TRCFTR)	279
メッセージの監視 (WCHMSG).	279
監視されたメッセージ待ち行列 (WCHMSGQ).	280
監視されたジョブ (WCHJOB)	280
LICログ項目の監視 (WCHLICLOG)	281
監視する時間の長さ (WCHTIMO).	282
追跡プログラム (TRCPGM).	283
時間間隔 (TRCPGMITV).	285
STRTRCの例	285
エラー・メッセージ: STRTRC	286

トラップ管理機能の開始 (STRTRPMGR) 289

パラメーター	289
トラップの転送(FWDTRP)	289
STRTRPMGRの例	289
エラー・メッセージ: STRTRPMGR	290

バッチ・ジョブ転送 (TFRBCHJOB) 291

パラメーター	292
ジョブ待ち行列 (JOBQ)	292
経路指定データ (RTGDTA).	292
要求データまたはコマンド (RQSDTA)	293
TFRBCHJOBの例	293
エラー・メッセージ: TFRBCHJOB	293

制御権転送 (TFRCTL) 295

パラメーター	295
プログラム (PGM).	295
パラメーターCL変数名 (PARM)	296
TFRCTLの例.	296
エラー・メッセージ: TFRCTL	296

グループ・ジョブへの移行 (TFRGRPJOB) 297

パラメーター	297
グループ・ジョブ (GRPJOB)	297
初期グループ・プログラム (INLGRPPGM).	298
特殊環境 (SPCENV)	298
画面復元 (RSTDSP)	298

テキスト記述 (TEXT)	299	サイズ (SIZE)	324
TFRGRPJOBの例	299	形式設定するデータの追跡 (FMTDTA)	325
エラー・メッセージ: TFRGRPJOB	299	コード化文字セット識別コード (CCSID)	325
ジョブ転送 (TFRJOB)	301	ジョブ名 (JOB)	325
パラメーター	302	スプール・ファイル番号 (SPLNBR)	326
ジョブ待ち行列 (JOBQ)	302	ジョブ・システム名 (JOBSYSNAME)	326
経路指定データ (RTGDTA)	302	作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)	326
要求データまたはコマンド (RQSDTA)	303	TCP/IPデータ (TCPDTA)	327
TFRJOBの例	303	メッセージの監視 (WCHMSG)	328
エラー・メッセージ: TFRJOB	303	監視されたメッセージ待ち行列 (WCHMSGQ)	329
パススルーの転送 (TFRPASTHR)	305	監視されたジョブ (WCHJOB)	329
パラメーター	305	LICログ項目の監視 (WCHLICLOG)	330
TOジョブ (TOJOB)	305	監視する時間の長さ (WCHTIMO)	331
TFRPASTHRの例	306	追跡プログラム (TRCPGM)	332
エラー・メッセージ: TFRPASTHR	306	時間間隔 (TRCPGMITV)	334
2次ジョブへの移行 (TFRSECJOB)	307	TRCCNNの例	334
パラメーター	307	エラー・メッセージ	335
TFRSECJOBの例	307	CPI通信の追跡 (TRCCPIC)	337
エラー・メッセージ: TFRSECJOB	307	パラメーター	337
TCP/IP経路の追跡 (TRACEROUTE)	309	追跡オプションの設定 (SET)	338
パラメーター	309	使用最大記憶域 (MAXSTG)	338
リモート・システム (RMTSYS)	310	追跡データ満杯時の処理 (TRCFULL)	338
プローブするホップの範囲 (RANGE)	310	ユーザーのデータ長 (DTALEN)	338
ホップ単位の送信プローブ数 (PROBES)	310	出力 (OUTPUT)	339
応答待ち時間 (WAITTIME)	311	出力ファイル (OUTFILE)	339
パケットの長さ (バイト数) (PKTLEN)	311	出力メンバー・オプション (OUTMBR)	340
出力 (OUTPUT)	311	TRCCPICの例	340
データ待ち行列名 (DTAQ)	311	エラー・メッセージ: TRCCPIC	340
アドレス・バージョン形式 (ADRVERFMT)	312	ICFの追跡 (TRCICF)	343
ソースIPアドレス (LCLINTNETA)	312	パラメーター	343
基本・リモート・ポート (RMTPORT)	312	追跡オプションの設定 (SET)	344
検索ホスト名 (NAMELOOKUP)	312	使用最大記憶域 (MAXSTG)	344
プローブ・プロトコル (PROBEPCL)	313	追跡データ満杯時の処理 (TRCFULL)	344
フラグメント化の許可 (FRAGMENT)	313	ユーザーのデータ長 (DTALEN)	344
TRCTCPRTEの例	313	出力 (OUTPUT)	345
エラー・メッセージ: TRCTCPRTE	314	出力ファイル (OUTFILE)	345
ASPバランス化追跡 (TRCASPBAL)	317	出力メンバー・オプション (OUTMBR)	345
パラメーター	317	TRCICFの例	346
追跡オプションの設定 (SET)	318	エラー・メッセージ: TRCICF	346
ASP番号 (ASP)	318	内部事象追跡 (TRCINT)	349
ASP装置 (ASPDEV)	318	パラメーター	349
時間制限 (TIMLMT)	319	追跡オプションの設定 (SET)	352
TRCASPBALの例	319	追跡テーブル名 (TRCTBL)	353
エラー・メッセージ: TRCASPBAL	319	追跡テーブル・サイズ (SIZE)	353
接続の追跡 (TRCCNN)	321	追跡データ満杯時の処理 (TRCFULL)	354
パラメーター	321	追跡タイプ (TRCTYPE)	355
追跡オプションの設定 (SET)	323	ジョブ名 (JOB)	358
追跡タイプ (TRCTYPE)	323	組み込むスレッドID (SLTTHD)	359
追跡データ満杯時の処理 (TRCFULL)	323	サーバー・タイプ (SVRATYPE)	359
追跡テーブル名 (TRCTBL)	324	タスク名 (TASK)	360
		タスク番号 (TASKNBR)	360
		追跡ポイントの選択 (SLTTRCPNT)	361
		追跡ポイントの省略 (OMTTRCPNT)	361

追跡の停止点 (STOPTRCPNT)	362
ジョブ・タイプ (JOBTYPE)	363
ジョブ追跡間隔 (JOBTRCITV)	363
TCP/IPデータ (TCPDATA)	364
ソケット・データ (SCKDATA)	365
装置 (DEV)	366
制御装置 (CTL)	366
行 (LIN)	367
ネットワーク・インターフェース (NWI)	368
ネットワーク・サーバー (NWS)	369
ハードウェア資源 (RSRCNAME)	369
装置 (OUTDEV)	369
タスク情報 (TASKINF)	370
出力 (OUTPUT)	370
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	370
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	371
メッセージの監視 (WCHMSG)	371
監視されたメッセージ待ち行列 (WCHMSGQ)	372
監視されたジョブ (WCHJOB)	373
LICログ項目の監視 (WCHLICLOG)	373
監視する時間の長さ (WCHTIMO)	375
追跡プログラム (TRCPGM)	375
時間間隔 (TRCPGMITV)	377
TRCINTの例	377
エラー・メッセージ: TRCINT	378

ジョブ追跡 (TRCJOB) 383

パラメーター	383
追跡オプションの設定 (SET)	384
追跡タイプ (TRCTYPE)	384
使用最大記憶域 (MAXSTG)	385
追跡データ満杯時の処理 (TRCFULL)	385
追跡の前に呼び出すプログラム (EXITPGM)	385
追跡プロシージャの選択 (SLTPRC)	386
組み込むスレッドID (SLTTHD)	387
出力 (OUTPUT)	387
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	387
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	388
TRCJOBの例	388
エラー・メッセージ: TRCJOB	389

REXXの追跡 (TRCREX) 391

パラメーター	391
追跡オプションの設定 (SET)	391
TRCREXの例	392
エラー・メッセージ: TRCREX	392

TCP/IP適用業務の追跡 (TRCTCPAPP) 393

パラメーター	393
TCP/IP適用業務 (APP)	395
追跡オプションの設定値 (SET)	396
追跡用最大記憶域 (MAXSTG)	397
追跡満杯処置 (TRCFULL)	398
追加の追跡 (ADLTRC)	398
追跡プログラム (TRCPGM)	398
追跡タイトル (TITLE)	401

ユーザー・プロファイル (USER)	401
宛先メール・アドレス (MAILADR)	401
宛先ホスト名 (HOST)	401
リモート・ネットワーク・アドレス (RMTNETADR)	402
ローカル・ネットワーク・アドレス (LCLNETADR)	402
装置記述 (DEV)	403
装置タイプ (DEVTYPE)	403
追跡ポイント (TRCPNT)	404
引き数リスト (ARGLIST)	404
仮想プライベート・ネットワーク・サーバー (VPNSVR)	405
証明書サービス・タイプ (CERTTYPE)	405
ドメイン・ネーム・サービス (DNS)	405
PPP接続プロファイル (PPPCNNPRF)	406
追跡するTCP/IPデータ (TCPTRCDA)	406
QOS追跡タイプ (QOSTRCTYPE)	406
HTTPサーバー・インスタンス (HTTPSVR)	406
追跡レベル (TRCLVL)	407
パケット規則追跡点 (PKTTRCPNT)	407
構成オブジェクト (CFGOBJ)	407
タイプ (CFGTYPE)	407
メッセージの監視 (WCHMSG)	408
監視されたメッセージ待ち行列 (WCHMSGQ)	408
監視されたジョブ (WCHJOB)	409
LICログ項目の監視 (WCHLICLOG)	410
監視する時間の長さ (WCHTIMO)	411
時間間隔 (TRCPGMITV)	411
TRCTCPAPPの例	411
エラー・メッセージ: TRCTCPAPP	413

TCP/IP経路の追跡 (TRCTCPRTE) 415

パラメーター	415
リモート・システム (RMTSYS)	416
プローブするホップの範囲 (RANGE)	416
ホップ単位の送信プローブ数 (PROBES)	416
応答待ち時間 (WAITTIME)	417
パケットの長さ (バイト数) (PKTLEN)	417
出力 (OUTPUT)	417
データ待ち行列名 (DTAQ)	417
アドレス・バージョン形式 (ADRVERFMT)	418
ソースIPアドレス (LCLINTNETA)	418
基本・リモート・ポート (RMTPORT)	418
検索ホスト名 (NAMELOOKUP)	418
プローブ・プロトコル (PROBEPCL)	419
フラグメント化の許可 (FRAGMENT)	419
TRCTCPRTEの例	419
エラー・メッセージ: TRCTCPRTE	420

マウントFSの除去 (UNMOUNT) 423

パラメーター	423
ファイル・システムのタイプ (TYPE)	423
マウントされたディレクトリー (MNTOVRDIR)	424
マウント・ファイル・システム (MFS)	424
UNMOUNTの例	424
エラー・メッセージ: UNMOUNT	425

一時プログラムでのデータ更新 (UPDDTA)	427
エラー・メッセージ: UPDDTA	427
パラメーター	427
データベース・ファイル (FILE)	427
メンバー (MBR)	428
例	428
エラー・メッセージ: UPDDTA	428
プログラムの更新 (UPDPGM)	429
パラメーター	429
プログラム (PGM)	430
モジュール (MODULE)	431
置き換えライブラリー (RPLLIB)	431
サービス・プログラムのバインド (BNDSRVPGM)	432
*SRVPGM ライブラリー名のバインド (SRVPGMLIB)	433
ディレクトリーのバインド (BNDDIR)	433
活動化グループ (ACTGRP)	434
作成オプション (OPTION)	434
明細のリスト (DETAIL)	435
UPDPGMの例	436
エラー・メッセージ: UPDPGM	436
サービス・プログラムの更新 (UPDSRVPGM)	437
パラメーター	437
サービス・プログラム (SRVPGM)	438
モジュール (MODULE)	439
エクスポート (EXPORT)	440
ソース・ファイルのエクスポート (SRCFILE)	440
ソース・メンバーのエクスポート (SRCMBR)	441
置き換えライブラリー (RPLLIB)	441
サービス・プログラムのバインド (BNDSRVPGM)	442
*SRVPGM ライブラリー名のバインド (SRVPGMLIB)	442
ディレクトリーのバインド (BNDDIR)	443
活動化グループ (ACTGRP)	443
作成オプション (OPTION)	444
明細のリスト (DETAIL)	445
UPDSRVPGMの例	446
エラー・メッセージ: UPDSRVPGM	446
システム情報の更新 (UPDSYSINF)	447
パラメーター	447
ライブラリー (LIB)	447
情報のタイプ (TYPE)	448
UPDSYSINFの例	448
エラー・メッセージ: UPDSYSINF	448
APPC接続検査 (VFYAPPCNN)	449
パラメーター	449
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	449
モード (MODE)	450
リモート・ユーザーID (RMTUSER)	450

リモート・パスワード (RMTPWD)	450
メッセージ・モード (MSGMODE)	451
パケットの長さ (バイト数) (PKTLEN)	451
反復回数 (NBRITER)	451
パケット数 (NBRPKT)	451
エコー (ECHO)	452
待ち時間 (秒数) (WAITTIME)	452
VFYAPPCNNの例	452
エラー・メッセージ: APING	453

通信検査 (VFYCMN)	455
パラメーター	455
検査タイプ (VFYTYPE)	455
リモート制御点 (RCPNAME)	456
ネットワークID (NETID)	456
ユーザー識別コード (USERID)	456
パスワード (PASSWORD)	456
VFYCMNの例	457
エラー・メッセージ: VFYCMN	458

イメージ・カタログの検査 (VFYIMGCLG)	459
パラメーター	459
イメージ・カタログ (IMGCLG)	459
イメージ・カタログ・タイプ (TYPE)	459
イメージ・カタログのソート (SORT)	460
VFYIMGCLGの例	460
エラー・メッセージ: VFYIMGCLG	461

LPDA-2をサポートするリンク検査 (VFYLNKLPDA)	463
パラメーター	463
行 (LINE)	463
テスト (TEST)	463
ローカルDCEアドレス (LCLDCEADR)	464
リモートDCEアドレス (RMTDCEADR)	464
出力 (OUTPUT)	465
順序の数 (SEQCOUNT)	465
リモートDTEポート (DTEPORT)	465
DTE再試行 (DTERTY)	465
DCE再試行 (DCERTY)	466
テスト後のリンク状況 (VRYLNKSTS)	466
VFYLNKLPDAの例	466
エラー・メッセージ: VFYLNKLPDA	467

NETWARE認証項目の検査 (VFYNTWAUTE)	469
パラメーター	469
サーバー・タイプ (SVRTYPE)	469
NDSツリー (NDSTREE)	469
サーバー (SERVER)	469
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	470
VFYNTWAUTEの例	470
エラー・メッセージ: VFYNTWAUTE	470

OPTICONNECT接続の検査 (VFYOPCCNN)	471
パラメーター	471
VFYOPCCNNの例	471
エラー・メッセージ: VFYOPCCNN	471
光ディスクの検査 (VFYOPT)	473
パラメーター	473
装置 (DEV)	473
VFYOPTの例	473
エラー・メッセージ: VFYOPT	473
印刷装置検査 (VFYPRT)	475
パラメーター	475
ワークステーション印刷装置 (DEV)	476
印刷回数 (TIMES)	476
VFYPRTの例	476
エラー・メッセージ: VFYPRT	476
サービス・エージェントの検査 (VFYSRVAGT)	477
パラメーター	477
タイプ (TYPE)	477
エラー・ログ識別コード (ERRLOGID)	477
VFYSRVAGTの例	478
エラー・メッセージ: VFYSRVAGT	478
サービス構成の検証 (VFYSRVCFG)	479
パラメーター	479
サービス (SERVICE)	479
VFYSRVCFGの例	479
エラー・メッセージ: VFYSRVCFG	480
テープの検査 (VFYTAP)	481
パラメーター	481
装置 (DEV)	481
資源名 (RSRCNAME)	481
VFYTAPの例	481
エラー・メッセージ: VFYTAP	482
TCP/IP接続の検査 (VFYTCCNN)	483
パラメーター	483
リモート・システム (RMTSYS)	484
リモート・インターネット・アドレス (INTNETADR)	484
アドレス・バージョン形式 (ADRVERFMT)	484
メッセージ・モード (MSGMODE)	484
パケットの長さ (バイト数) (PKTLEN)	485
パケット数 (NBRPKT)	485
待ち時間 (秒数) (WAITTIME)	485
ローカル・インターネット・アドレス (LCLINTNETA)	486
TYPE OF SERVICE (TOS)	486
IP有効時間 (ホップ限界) (IPTTL)	486
VFYTCCNNの例	487

エラー・メッセージ: VFYTCCNN	488
構成変更 (VRYCFG)	489
パラメーター	491
構成オブジェクト (CFGOBJ)	491
タイプ (CFGTYPE)	492
状況 (STATUS)	492
範囲 (RANGE)	493
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	493
非同期のオフに構成変更 (ASCVRYOFF)	494
リセット (RESET)	494
資源名 (RSRCNAME)	494
構成ファイルのリセット (RESETCFGF)	494
強制的にオフに構成変更 (FRCVRYOFF)	494
TCP/IPインターフェースの開始 (STRTCPIFC)	495
複数ジョブの投入 (SBMMLTJOB)	495
ジョブ記述 (JOBDD)	495
VRYCFGの例	496
エラー・メッセージ: VRYCFG	498
待機 (WAIT)	499
パラメーター	499
応答する装置のCL変数 (DEV)	499
オープン・ファイル識別コード (OPNID)	500
WAITの例	500
エラー・メッセージ: WAIT	501
いつ (WHEN)	503
パラメーター	503
条件 (COND)	503
コマンド (THEN)	504
WHENの例	504
エラー・メッセージ: WHEN	505
活動ジョブ処理 (WRKACTJOB)	507
パラメーター	507
出力 (OUTPUT)	507
状況統計リセット (RESET)	508
サブシステム (SBS)	508
CPUパーセント限界 (CPUPCTLMT)	508
応答時間限界 (RSPLMT)	508
順序 (SEQ)	509
ジョブ名 (JOB)	510
自動再表示間隔 (INTERVAL)	510
WRKACTJOBの例	510
エラー・メッセージ: WRKACTJOB	511
警報処理 (WRKALR)	513
パラメーター	513
表示オプション (DSPOPT)	513
期間 (PERIOD)	514
警報タイプ (ALRTYPE)	515
資源名 (ALRRSC)	516
警報資源タイプ (ALRRSCTYPE)	516
ユーザー割り当て (ASNUSER)	517
グループ (GROUP)	517

出力 (OUTPUT)	517
詳細 (DETAIL)	518
WRKALRの例	518
エラー・メッセージ: WRKALR	518

警報記述の処理 (WRKALRD) 519

パラメーター	519
メッセージ識別コード (MSGID)	519
警報テーブル (ALRTBL)	519
WRKALRDの例	520
エラー・メッセージ: WRKALRD	520

警報テーブルの処理 (WRKALRTBL) 523

パラメーター	523
警報テーブル (ALRTBL)	523
WRKALRTBLの例	524
エラー・メッセージ: WRKALRTBL	525

APPN状況の処理 (WRKAPPNSTS) . . . 527

パラメーター	527
オプション (OPTION)	527
接続される制御装置 (CTL)	528
リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	528
リモート制御点 (RMTLOCNAME)	528
リモート制御点 (RMTCPNAME)	529
モード (MODE)	529
トランスポート接続ID (TCID)	529
WRKAPPNSTSの例	530
エラー・メッセージ: WRKAPPNSTS	530

付録. 特記事項 531

商標	532
資料に関するご使用条件	533
コードに関する特記事項	534

データベース・モニター開始 (STRDBMON)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データベース・モニター開始(STRDBMON)コマンドは、システム上の指定したジョブまたはすべてのジョブのデータベース・パフォーマンス統計の収集を開始します。この統計は指定したデータベース・ファイルおよびメンバーに入れます。ファイルまたはメンバーが存在しない場合には、ライブラリー QSYSのQAQQDBMNファイルに基づいてそれらが作成されます。ファイルまたはメンバーが存在する場合には、ファイルのレコード様式が検査されて同じであるかどうか調べられます。

制約事項:

1. モニターがJOB(*ALL)属性ですでに開始されている場合には、JOBパラメーターに*ALLを指定することはできません。特定のジョブで一度に開始できる特定のモニターは1つだけです。たとえば、同じジョブの中でSTRDBMON JOB(*)の後に別のSTRDBMON JOB(*)を続けることは、2つのSTRDBMONコマンド操作の間でENDDBMONを使用してジョブを終了しない限り、許可されません。
2. QTEMPは、JOB(*)も指定されていない限り、OUTFILEパラメーターでライブラリーとして指定することはできません。
3. このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。マルチスレッド・ジョブの場合には、このコマンドはスレッド・セーフではなく、OUTFILEパラメーターが分散ファイルまたはタイプ*SNAの分散データ管理機能(DDM) ファイルであった時には正常に実行されないことがあります。
4. JOB(*ALL)では、OUTFILEパラメーターに指定されたファイルが、システムASPに入っているライブラリーにあることが必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	
JOB	ジョブ名	単一値: *, *ALL その他の値: 修飾ジョブ名	オプション
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
TYPE	レコードのタイプ	*SUMMARY, *DETAIL	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
FRCRCD	強制レコード書き出し	0-32767, *CALC	オプション
COMMENT	注記	文字値, *BLANK	オプション

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

パフォーマンス統計を書き込むファイルを指定します。このファイルが存在しない場合には、ライブラリー QSYSのモデル・ファイルQAQQDBMNに基づいて作成されます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

***FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。そのメンバーがすでに存在している場合には、既存のメンバーの終わりに新しいレコードを追加するか、あるいはそのメンバーを消去して新しいメンバーを追加するオプションがあります。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。存在していない場合には、システムが作成します。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

***REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

トップ

ジョブ名 (JOB)

そのデータベース・モニターを開始するジョブを指定します。

単一値

- * STRDBMONコマンドを実行するジョブのデータ・モニターを開始します。
- *ALL ジョブ待ち行列で待機中のジョブを含む、システム上のすべてのジョブがモニターされます。

修飾子1: ジョブ名

名前 そのデータベース・モニターを開始するジョブの名前を指定してください。ジョブのユーザー名またはジョブ番号修飾子が指定されない場合には、現在システムにあるすべてのジョブで、指定された単純ジョブ名を検索します。指定したジョブ名に重複が見つかる場合には、変更するジョブを一意的に識別するジョブ・ユーザー名またはジョブ番号を指定する必要があります。

修飾子2: ユーザー

名前 そのデータベース・モニターを開始するジョブのユーザーの名前を指定してください。

修飾子3: 番号

000000-999999

そのデータベース・モニターを開始するジョブの番号を指定してください。

[トップ](#)

レコードのタイプ (TYPE)

出力ファイルに入れるデータベース・レコードのタイプを指定します。

*SUMMARY

要約データベース・モニター・レコードだけが収集されます。

*DETAIL

明細と要約の両方のデータベース・モニター・レコードが収集されます。

[トップ](#)

強制レコード書き出し (FRCRCD)

レコードをファイルに強制書き出しするまでバッファーに保持するレコード数を指定します。

*CALC

コマンドがバッファーに保持するレコード数を計算します。

レコード数

保持するレコード数を指定してください。有効な値の範囲は0-32767です。

[トップ](#)

注記 (COMMENT)

IDが3018であるデータベース・モニター・レコードに関連した記述を指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 最大100文字までのテキストを指定してください。

[トップ](#)

STRDBMONの例

例1:すべてのジョブのデータベース・モニターを開始

```
STRDBMON  OUTFILE(QGPL/FILE1)  OUTMBR(MEMBER1 *ADD)
          JOB(*ALL)  FRCRCD(10)
```

このコマンドは、システム上のすべてのジョブのデータベース・モニターを開始します。パフォーマンス統計は、QGPLライブラリーのファイル名FILE1のメンバー名MEMBER1に追加されます。ファイルへの書き込みの前に、10レコードが保留されることとなります。

例2:特定のジョブのデータベース・モニターを開始

```
STRDBMON  OUTFILE(*LIBL/FILE3)  OUTMBR(MEMBER2)
          JOB(134543/QPGMR/DSP01)  FRCRCD(20)
```

このコマンドは、ジョブ番号134543のデータベース・モニターを開始します。ジョブ名はDSP01でユーザー名QPGMRが開始したものです。パフォーマンス統計は、ファイル名FILE3のメンバー名MEMBER2に追加されます。ファイルへの書き込みの前に、20レコードが保留されることとなります。

例3:独立ASP中のライブラリーのファイルに、データベース・モニターを開始

```
STRDBMON  OUTFILE(LIB41/DBMONFILE)  JOB(134543/QPGMR/DSP01)
```

このコマンドは、ジョブ番号134543のデータベース・モニターを開始します。ジョブ名はDSP01でユーザー名QPGMRが開始したものです。パフォーマンス統計は、ライブラリー名LIB41のファイル名DBMONFILEのメンバー名DBMONFILE (OUTMBRが指定されていないため) に追加されます。このライブラリーは、複数の独立補助記憶域プール(ASP)に存在する可能性があり、開始元ジョブのネームスペース中のライブラリーが常に使用されることとなります。

•

[トップ](#)

エラー・メッセージ: STRDBMON

*ESCAPE メッセージ

CPF1321

ジョブ&1ユーザー&2ジョブ番号&3が見つからない。

CPF436B

&1をOUTFILEパラメーターに指定することはできない。

CPF436C

&4ジョブはすでにモニター中です。

CPF436E

ジョブ&1ユーザー&2ジョブ番号&3は活動状態になっていない。

[トップ](#)

データベース読取りプログラム開始 (STRDBRDR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データベース読取りプログラム開始(STRDBRDR)コマンドは、データベース・ファイルを使用するプール読取りプログラムを開始します。この読取りプログラムは、データベースからバッチ入力ストリームを読み取り、ジョブを1つまたは複数のジョブ待ち行列に入れます。このコマンドでは、入力ストリームが読み取られるデータベース・ファイルとメンバーの名前、読取りプログラムの名前、および使用されるジョブ待ち行列とメッセージ待ち行列の名前を指定します。

同時に複数の読取りプログラムを活動状態にすることができます（これは、プール・サブシステム記述によって決定されます）。各データベース読取りプログラムは固有の読取りプログラム名を持っていないければならず、指定されたファイルまたはメンバーが使用可能でなければなりません。また読取りプログラムは、読取りプログラム保留(HLDRDR)コマンドによって保留するか、あるいは読取りプログラム終了(ENDRDR)コマンドによって取り消すこともできます。

各読取りプログラムはそれを開始したジョブとは独立して実行されるため、ユーザーは読取りプログラムを開始させた後にシステムで他の作業を続けることができます。

制約事項: 指定のデータベース・ファイルは、単一フィールド・レコードから成っていないければならず、到着順アクセス・パスが必要です。そうでない場合には、標準データベース・ソース・ファイルとしなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	データベース・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: データベース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	名前, *FIRST	オプション, 定位置 2
JOBQ	ジョブ待ち行列	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前, QBATCH	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MSGQ	読取りプログラム・メッセージ待ち行列	単一値: *REQUESTER その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 読取りプログラム・メッセージ待ち行列	名前, QSYSOPR	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
RDR	読取りプログラム	名前, *FILE	オプション

データベース・ファイル (FILE)

これは必須パラメーターです。

読み取る入カストリームの入っているデータベース・ファイルの名前を指定します。読み取りプログラムを開始する前に、ファイルをスプール読み取りプログラムに割り振ることができなければなりません。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ファイルが入っているライブラリーを指定します。

データベース・ファイル名

読み取りプログラムによって読み取られる入カストリームが入っているファイルの名前を指定します。

トップ

メンバー (MBR)

入カストリームが入っている指定されたファイル内のメンバーの名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***FIRST**

メンバー名は指定しません。ファイルの最初のメンバーが使用されます。

メンバー名

読み取る入カストリームが入っているメンバーの名前を指定します。

トップ

ジョブ待ち行列 (JOBQ)

スプール読み取りプログラムが項目を入れるジョブ待ち行列の名前を指定します。この値は、バッチ・ジョブ(BCHJOB)コマンドのジョブ待ち行列プロンプト(JOBQパラメーター)に*RDRが指定された場合に使用されます。(この入カストリーム中の各ジョブのジョブ待ち行列は異なってもよいということに注意してください。)

考えられる値は、次の通りです。

QBATCH

ジョブ項目はQBATCHジョブ待ち行列に入ります。

ジョブ待ち行列名

この読み取りプログラムによって使用されるジョブ待ち行列の名前を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

そのジョブ待ち行列があるライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

読取プログラム・メッセージ待ち行列 (MSGQ)

読み取りプログラムによって作成されるメッセージを受け取るメッセージ待ち行列の名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

QSYSOPR

メッセージはシステム操作員のメッセージ待ち行列(QSYSOPR)に送られます。

*REQUESTER

メッセージは、この読み取りプログラムを開始したユーザーのワークステーションのワークステーション・メッセージ待ち行列に送られます。この値がバッチ・ジョブで使用されると、メッセージはシステム操作員のメッセージ待ち行列(QSYSOPR)に変更されます。

メッセージ待ち行列名

メッセージを受け取るメッセージ待ち行列の名前を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

メッセージ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

メッセージ待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

読み取りプログラム (RDR)

開始するスプーリング読み取りプログラムの名前を指定します。それぞれの読み取りプログラム名は固有のものでなければなりません。

考えられる値は、次の通りです。

***FILE** 読み取りプログラムの名前は、データベース・ファイルプロンプト(FILEパラメーター)に指定したデータベース・ファイルの名前と同じです。

読み取りプログラム名

開始したい読み取りプログラムを識別する名前を指定します。

[トップ](#)

STRDBRDRの例

STRDBRDR FILE(QGPL/BILLING)

このコマンドは、QGPLライブラリー中のBILLINGという名前のデータベース・ファイルからその入力データを読み取るスプール読み取りプログラムを開始します。RDRパラメーターは指定されていないので、読み取りプログラム名もBILLINGです。BILLINGファイルの最初のメンバーに、処理する入力ストリームが入っています。省略時のジョブ待ち行列QBATCHおよびシステム提供システム操作員のメッセージ待ち行列QSYSOPRがデータベース読み取りプログラムによって使用されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： STRDBRDR

*ESCAPE メッセージ

CPF1338

SBMJOBコマンドでエラーが起こった。

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF3301

読み取りプログラム&1はすでに開始されている。

CPF3307

ジョブ待ち行列&1が&2に見つからなかった。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3362

QTEMPのオブジェクトは、パラメーター値には正しくない。

CPF3363

ライブラリー&2のメッセージ待ち行列&1が見つからなかった。

CPF3364

ライブラリー&2のファイル&1がデータベース・ファイルまたはDDMファイルでない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9815

ライブラリー&3のファイル&2のメンバー&5が見つからない。

[トップ](#)

DFUの開始 (STRDFU)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

制御言語(CL)コマンドSTRDFUは、データ・ファイル・ユーティリティー (DFU) を開始します。

エラー・メッセージ: STRDFU

*ESCAPEメッセージ

DFU0005

コマンドが正しく実行されなかった。

DFU0018

実行オプションが正しくない。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	オプション	要素リスト	オプション、定位置 1
	要素 1: DFUオプション	1-5, *SELECT	
	要素 2: 実行オプション	1-2, *NONE	
DFUPGM	DFUプログラム	修飾オブジェクト名	オプション、定位置 2
	修飾子 1: DFUプログラム	名前, *PRV	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *PRV , *LIBL, *CURLIB	
FILE	データベース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション、定位置 3
	修飾子 1: データベース・ファイル	名前, *PRV , *SAME	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *PRV , *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	名前, *PRV , *FIRST	オプション、定位置 4

トップ

オプション (OPTION)

DFUメイン・メニューの値として使用するオプションを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SELECT**

DFUメイン・メニューが現われます。このメニューからオプションを選択することができます。

最初のメニュー・オプション

1～5の間の数を入力してください。DFUプログラムの実行には1，作成には2，変更には3，削除には4を入力してください。一時DFUプログラムを実行するためには，5を入力してください。

2番目のメニュー・オプション

1（DFUプログラムの実行）を入力した場合には，2番目のオプションを入力することもできます。2番目のオプションは，1または2を選択しなければなりません。データを変更するためには1を，データを変更なしで表示するためには，2を入力してください。

[トップ](#)

DFUプログラム (DFUPGM)

実行，作成，変更，または削除するDFUプログラムの名前を指定します。オプション5（一時DFUプログラムの実行）を選択した場合には，このパラメーターを使用してはなりません。

考えられる値は次の通りです。

***PRV** DFUは最後のDFUセッションで使用されたプログラムを使用します。

プログラム名

使用するDFUプログラムの修飾名を入力します。

[トップ](#)

データベース・ファイル (FILE)

変更または表示したいデータベース・ファイルを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***PRV** DFUは，最後のDFUセッションで使用されたファイルを使用します。

*SAME

DFUはプログラムを定義するために使用されたファイルを使用します。*SAMEを指定できるのは，オプション1（DFUプログラムの実行）またはオプション3（DFUプログラムの変更）を選択した場合だけです。

ファイル名

DFUに処理させたいデータ・ファイルの修飾名を入力します。（ライブラリー名を指定しない場合には，*LIBLが使用されます。）

注: データ・ファイル名がDFUプログラム名と異なっていることを確認してください。

[トップ](#)

メンバー (MBR)

変更または表示したいファイル中のメンバーを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***PRV** DFUは，最後のDFUセッションで使用されたメンバーを使用します。

メンバー名

DFUに処理させたいメンバーの名前を入力します。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ： STRDFU

*ESCAPEメッセージ

DFU0005

コマンドが正しく実行されなかった。

DFU0018

実行オプションが正しくない。

[トップ](#)

ディレクトリー・シャドウ化の開始 (STRDIRSHD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリー・シャドウ処理開始(STRDIRSHD)コマンドは、システム作業サブシステム(QSYSWRK)のディレクトリー・シャドウ処理環境を開始するジョブを投入します。システム管理者は、すでに活動化されていない場合に、このコマンドを使用してディレクトリー・シャドウ処理環境を再開することができます。1システム当たり1つの活動状態のディレクトリー・シャドウ処理環境を使用することができます。ディレクトリー・シャドウ処理環境がすでに活動状態の場合には、警告メッセージが出されます。

システム作業サブシステム(QSYSWRK)は、サブシステムの開始時に、事前開始ジョブとして自動的にディレクトリー・シャドウ処理環境を開始します。

このコマンドで投入されたジョブが正常に実行されるように、ジョブ処理(WRKJOB) コマンドでは、STRDIRSHDコマンドを出した後でメッセージによって戻されたジョブ番号を使用してください。

このコマンドにはパラメーターはありません。

制約事項: このコマンドを使用するためには、ジョブ制御(*JOBCTL)権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

STRDIRSHDの例

STRDIRSHD

このコマンドは、ディレクトリー・シャドウリング環境をシステム処理サブシステムQSYSWRK内で開始するジョブを投入します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: STRDIRSHD

*ESCAPEメッセージ

CPF89A8

ディレクトリー・シャドウ処理を制御するジョブを開始することができない。

[トップ](#)

ディスク読み取りプログラム開始 (STRDKTRDR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディスク読み取りプログラム開始(STRDKTRDR)コマンドは、指定されたディスク装置に対してスプール読み取りプログラムを開始し、バッチ入力ストリームを読み取って、それを適切なジョブ待ち行列に入れます。このコマンドでは、入力ストリームが読み取られるディスク装置の名前、入力ストリームのボリュームIDとデータ・ファイル名、および使用されるジョブ待ち行列とメッセージ待ち行列の名前を指定します。同時に複数の読み取りプログラムを活動状態にすることができます (これはスプール・サブシステム記述によって決定されます)。

制約事項各読み取りプログラムはこれを開始したジョブとは独立して実行するので、読み取りプログラムを開始してから、システムで他の作業を続行できます。このコマンドは保管/復元形式のディスクのデータ・ファイルを読み取るためには使用できません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	ディスク装置	名前	必須, 定位置 1
LABEL	ディスク・ラベル	文字値	必須, 定位置 2
VOL	ボリューム	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション, 定位置 4
JOBQ	ジョブ待ち行列	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前, QBATCH	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
MSGQ	読取プログラム・メッセージ待ち行列	単一値: *DEV , *REQUESTER その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 読取プログラム・メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
RDR	読み取りプログラム	名前, *DEV	オプション, 定位置 3
CRTDATE	作成日	日付, *NONE	オプション
CODE	コード	*EBCDIC , *ASCII	オプション

[トップ](#)

ディスク装置 (DEV)

これは必須パラメーターです。

入力ストリームの読み取りに使用するディスク装置の名前を指定します。

ディスク装置名

使用するディスク装置の名前を指定してください。

[トップ](#)

ディスク・ラベル (LABEL)

これは必須パラメーターです。

入力ストリームが入っているファイルのデータ・ファイル識別コードを指定します。

データ・ファイル識別コード

入力データ・ストリームが入っているディスク上のデータ・ファイルの名前を指定してください。データ・ファイル識別コードは、8文字を超える英数字とすることはできません。

[トップ](#)

ボリューム (VOL)

処理する入力ストリームが入っているディスク・ボリュームのボリューム識別コードを指定します。ボリュームは、このパラメーターでボリューム識別コードを指定した順序と同じ順序でディスク駆動機構に入れなければなりません。

考えられる値は、次の通りです。

*NONE

ボリューム識別コードは指定しません。ディスク読取装置に入っているボリュームを使用します。

ボリューム識別コード

1つまたは複数のボリュームの識別コードを、装てんして読み取る順序で指定してください。各識別コードは6文字またはそれ以下k英数字とすることができます。マルチボリュームがリストされる時には、区切り文字としてブランクが使用されます。

このパラメーターには複数の値を入力することができます。入力画面でこれらの複数の値を入力するための追加の入力フィールドが必要な場合には、値の続きは+句の対応する入力フィールドに正符号(+)を入力してから実行キーを押してください。

[トップ](#)

ジョブ待ち行列 (JOBQ)

スプール読み取りプログラムがジョブ項目を入れるジョブ待ち行列の名前を指定します。この値は、バッチ・ジョブ(BCHJOB)コマンドのジョブ待ち行列プロンプト(JOBQパラメーター)に*RDRが指定された場合に使用されます。(*RDRが指定されていない場合には、入力ストリーム中の各ジョブのジョブ待ち行列が異なってもよい、ということに注意してください。)

注: 読み取り中のジョブのジョブ記述で識別されたユーザーと、ディスク読み取りプログラム開始 (STRDKTRDR) コマンドを処理しているユーザーの両方が、そのジョブが入れられたジョブ待ち行列に対して認可されていない場合には、ジョブは終了し、ジョブ・ログに診断メッセージが入れられます。入力ストリームは、次のジョブから処理を続行します。どちらのユーザーもジョブ待ち行列に対して認可されている場合には、ジョブはエラーなしに実行されます。

考えられる値は、次の通りです。

QBATCH

ジョブ項目はQBATCHジョブ待ち行列に入ります。このジョブ待ち行列に入るのは、入力ストリームで指定変更がない場合だけです。

ジョブ待ち行列名

読み取られた各ジョブが送られるジョブ待ち行列の名前を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

そのジョブ待ち行列があるライブラリーを指定してください。

トップ

読取プログラム・メッセージ待ち行列 (MSGQ)

ディスク読み取りプログラムによって作成されたメッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***DEV D**

メッセージは、ディスク装置プロンプト(DEVパラメーター)で指定した装置の装置記述に指定されたメッセージ待ち行列に送られます。

***REQUESTER**

メッセージは、読み取りプログラムを開始したユーザーのワークステーションのワークステーション・メッセージ待ち行列に送られます。バッチ・ジョブの場合には、この値は*DEV Dとなります。

メッセージ待ち行列名

ディスク読み取りプログラム・メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

メッセージ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

メッセージ待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

読み取りプログラム (RDR)

開始するスプーリング読み取りプログラムの名前を指定します。それぞれの読み取りプログラム名は固有のものでなければなりません。

***DEV** 読み取りプログラムの名前は、**ディスク装置**プロンプト(DEVパラメーター)に指定されたディスク装置の名前と同じです。

読み取りプログラム名

開始している読み取りプログラムの名前を指定してください。

[トップ](#)

作成日 (CRTDATE)

ディスク・データ・ファイルがディスク上に作成された日付を指定します。作成日は、この日付をディスクの日付と突き合わせてシステムに検査させたい場合を除いて指定しないでください。

考えられる値は、次の通りです。

*NONE

作成日を指定しません。日付のチェックは行われません。

作成日 読み取られるデータ・ファイルの作成日を指定してください。この日付はジョブ日付形式で指定しなければなりません。

[トップ](#)

コード (CODE)

ディスク・データをジョブ待ち行列に読み取るために使用する文字コードのタイプを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*EBCDIC

ディスク・データ・ファイルはEBCDIC文字コードで書かれています。

*ASCII

ディスク・データ・ファイルはASCII文字コードで書かれています。

[トップ](#)

STRDKTRDRの例

```
STRDKTRDR  DEV(QDKT) LABEL(OCT24) VOL(SALES)
```

このコマンドは、装置QDKTからディスク入力データを読み取るQDKTという名前のスプール読み取りプログラムを開始します。*DEVが未指定のRDRパラメーターの省略時の値であるために、装置名QDKTは読み取りプログラム名としても使用されます。読み取りプログラムは、そのボリューム識別コードがSALESでなければならないOCT24という名前のデータ・ファイルからその入力データを読み取ります。省略時のジョブ待ち行列QBATCHおよびメッセージ待ち行列QSYSOPRがディスク読み取りプログラムによって使用されます。

トップ

エラー・メッセージ： STRDKTRDR

*ESCAPE メッセージ

CPF1338

SBMJOBコマンドでエラーが起こった。

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF3301

読み取りプログラム&1はすでに開始されている。

CPF3307

ジョブ待ち行列&1が&2に見つからなかった。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3347

装置&1が見つからない。

CPF3362

QTEMPのオブジェクトは、パラメーター値には正しくない。

CPF3363

ライブラリー&2のメッセージ待ち行列&1が見つからなかった。

CPF3367

装置&1はディスク装置ではない。

トップ

ディスク書き出しプログラム開始 (STRDKTWTR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディスク書き出しプログラム開始(STRDKTWTR)コマンドは、指定されたディスク装置に対してスプール書き出しプログラムを開始します。書き出しプログラムは、出力待ち行列からスプール・ファイルを取り出し、出力をディスク装置に作成します（書き出します）。このコマンドでは、ディスク装置と書き出しプログラムの名前、および使用される出力待ち行列とメッセージ待ち行列の名前を指定します。

複数の書き出しプログラムを同時に活動状態にすることができます（スプーリング・サブシステム記述で決定されている通り）。書き出しプログラム保留(HLDWTR)または書き出しプログラム終了(ENDWTR)コマンドを使用している場合には、書き出しプログラムを保留または停止することもできます。

各書き出しプログラムは、それを開始したジョブから独立して実行されるので、ユーザーは、書き出しプログラムを開始した後で、システム上で他の作業を続行することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	ディスク装置	名前	必須, 定位置 1
OUTQ	出力待ち行列	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MSGQ	書出プログラムMSG用待ち行列	単一値: *REQUESTER, *DEV その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 4
	修飾子 1: 書出プログラムMSG用待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
WTR	書き出しプログラム	名前, *DEV	オプション, 定位置 3
AUTOEND	自動終了オプション	要素リスト	オプション, 定位置 5
	要素 1: 書き出しプログラムの自動終了	*NO, *YES	
	要素 2: 終了条件	*NORDYF, *FILEEND	
FILE	スプール・ファイル	名前, *NONE	オプション
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプション
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
SPLNBR	スプール・ファイル番号	1-999999, *ONLY, *LAST	オプション

ディスク装置 (DEV)

これは必須パラメーターです。

スプール出力を受け取るディスク装置の名前を指定します。

ディスク装置名

スプール出力を送るディスク装置の名前を指定してください。

トップ

出力待ち行列 (OUTQ)

これは必須パラメーターです。

書き出しプログラムが処理するスプール・ファイルの出力待ち行列の名前を指定します。出力待ち行列が使用可能な状態になっていなければ、書き出しプログラムを開始することはできません。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

出力待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

出力待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

トップ

書出プログラムMSG用待ち行列 (MSGQ)

ディスク書き出しプログラムによって作成されるメッセージを送るメッセージ待ち行列の名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*DEV

メッセージは、**ディスク装置プロンプト**(DEVパラメーター) で指定した装置の装置記述に指定されたメッセージ待ち行列に送られます。

*REQUESTER

メッセージは、書き出しプログラムを開始したユーザーのワークステーションのワークステーション・メッセージ待ち行列に送られます。この値はバッチ・ジョブの場合には無効です。

メッセージ待ち行列名

ディスク書き出しプログラムのメッセージを送るメッセージ待ち行列の名前を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

メッセージ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

メッセージ待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

トップ

書き出しプログラム (WTR)

開始されている書き出しプログラムの名前を指定します。各書き出しプログラム名は固有でなければなりません。

考えられる値は、次の通りです。

***DEV** 書き出しプログラムの名前は、ディスク装置プロンプト(DEVパラメーター)に指定されたディスク装置の名前と同じになります。

書き出しプログラム名

開始したい書き出しプログラムの名前を指定します。

トップ

自動終了オプション (AUTOEND)

ディスク装置に書き出すスプール・ファイルがなくなった時に、ディスク書き出しプログラムを自動的に停止させるかどうかを指定します。

要素1:書き出しプログラム停止オプション

***NO** 書き出しプログラムは、出力待ち行列から使用可能な最後の項目が除去された時に終了しません。別のスプール・ファイル項目が待ち行列に入れられるのを待機します。

***YES** 書き出しプログラムは、このパラメーターの2番目の部分で指定されている状態に達した後で自動的に終了します。

要素2:書き出しプログラムの停止の条件

***NORDYF**

書き出しプログラムは、実行可能なファイルがなくなった（出力待ち行列から使用可能なすべてのファイルが除去された）時点で自動的に終了します。

***FILEEND**

書き出しプログラムは、1つのスプール・ファイルの処理を完了した後で停止します。

トップ

スプール・ファイル (FILE)

スプール書き出しプログラムによって処理してディスクットに書き出す最初の（またはただ1つの）スプール・ファイルの名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***NONE**

スプール・ファイル名は指定されません。出力待ち行列で最初に使用可能なスプール・ファイルが最初に処理されます。

スプール・ファイル名

ディスクットに書き出す最初の（またはただ1つの）ファイルにするスプール・ファイルの名前を指定します。

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

ディスクットに書き出されるスプール・ファイルを作成したジョブの名前を指定します。スプール・ファイルプロンプト(FILEパラメーター) に*NONEが指定されている時には、このパラメーターは無視されます。

考えられる値は、次の通りです。

* このディスクット書き出しプログラム開始(STRDKTWTR)コマンドを出したジョブが、スプール・ファイルを作成したジョブです。

ジョブ名

スプール・ファイルを作成したジョブの名前を指定してください。

ユーザー名

そのもとでジョブが実行されるユーザー・プロファイルを識別するユーザー名を指定してください。

ジョブ番号

システム割り当てジョブ番号を指定してください。

[トップ](#)

スプール・ファイル番号 (SPLNBR)

最初に処理されるスプール・ファイルの番号を指定します。このパラメーターが有効なのは、スプール・ファイル名がスプール・ファイルプロンプト(FILEパラメーター) に指定された場合だけです。

考えられる値は、次の通りです。

***ONLY**

指定された出力待ち行列上で、指定された名前を持つスプール・ファイルはジョブで1つだけです。スプール・ファイル番号は必要ありません。

***LAST** 指定された出力待ち行列のジョブで指定されたファイル名を持つ、最高の番号のスプール・ファイルが、最初に処理されるファイルとなります。

スプール・ファイル番号

指定された出力待ち行列のジョブで、最初に処理したい指定のファイルの番号を指定してください。

トップ

STRDKTWTRの例

```
STRDKTWTR  DEV(QDKT)  OUTQ(QDKT)  AUTOEND(*YES)
```

このコマンドは、ディスク装置に対するスプーリング書き出しプログラムを開始します。ディスクに書き込まれるファイルは、IBM提供の出力待ち行列QDKT上にあります。ファイルがすべて書き込まれた(QDKT出力待ち行列上に項目がなくなった)時点で、書き出しプログラムは自動的に終了され、ディスク装置は他の用途に使用できるようになります。

トップ

エラー・メッセージ： STRDKTWTR

*ESCAPE メッセージ

CPF0906

名前&3/&2/&1の重複ジョブが見つかった。

CPF1338

SBMJOBコマンドでエラーが起こった。

CPF1764

装置&1に対して、書き出しプログラムはすでに開始されている。

CPF1842

システム値&1をアクセスすることができない。

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF3303

ファイル&1はジョブ&5/&4/&3に見つからなかった。

CPF3305

ライブラリー&2の出力待ち行列&1は、別の書き出しプログラムに割り当てられている。

CPF3309

&1という名前のファイルは活動状態でない。

CPF3310

書き出しプログラム&1はすでに開始されている。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3340

指定された名前のファイルが、ジョブ&5/&4/&3で複数個見つかった。

CPF3342

ジョブ&5/&4/&3は見つからなかった。

CPF3343

重複したジョブ名が見つかった。

CPF3347

装置&1が見つからない。

CPF3357

ライブラリー&2に出力待ち行列&1が見つからない。

CPF3362

QTEMPのオブジェクトは、パラメーター値には正しくない。

CPF3363

ライブラリー&2のメッセージ待ち行列&1が見つからなかった。

CPF3367

装置&1はディスク装置ではない。

CPF3418

ジョブに重複したファイル&1番号&2が見つかった。

CPF3463

装置&1の出力待ち行列が見つからなかった。

CPF3478

ファイル&1はライブラリー&7の出力待ち行列&6のジョブ&5/&4/&3に見つからなかった。

[トップ](#)

DNS QUERYプログラムの開始 (STRDNSQRY)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
エラー・メッセージ

DNS QUERY開始(STRDNSQRY),およびその別名NSLOOKUP, NSLOOKUP (ネーム・サーバー検索) 開始ツール。

NSLOOKUPは、DNSサーバーから情報を検索したり、DNSサーバーの応答をテストすることができる対話式QUERYツールです。DNSサーバーを使用するためにシステムを構成する前に、そのDNSサーバーが正しく応答していることを確認することができます。また、ホスト、ドメイン、およびDNSサーバーに関するDNS情報を検索することもできます。

注: NSLOOKUPは、DNSサーバーから情報を求め(照会)ます。NSLOOKUP QUERYセッションを開始するためには、そのQUERYセッションに「省略時」のサーバーとして活動DNSサーバーが指定されていることが必要です。省略時のサーバーは、とくに指示がない限りNSLOOKUPがすべてのQUERYを送信する先のDNSサーバーです。以下のヘルプにおける「省略時のサーバー」または「省略時のDNSサーバー」に対するすべての参照は、現行NSLOOKUP QUERYセッションの省略時のDNSサーバーだけを指しています。

NSLOOKUPはDNSサーバーから情報を検索します。QUERYを送る活動DNSサーバーが必要です。ツールを開始する時にDNSサーバーをDMNNAMSVRで指定しない場合には、次の1つをセッションの省略時のDNSサーバーとして設定しようとします。1.システムを構成して使用するDNSサーバー。あるいは2.ローカル・システムで実行しているDNSサーバー。

これらの条件のいずれも存在しない場合には、NSLOOKUPはDNSサーバーをQUERY に指定しない限り情報を検索することができません。DMNNAMSVRによって、QUERYセッションを開始して選択したDNSサーバーをセッションの省略時のサーバーとして設定することができます。

このコマンドには、次の2つのパラメーターがあります。

1. HOSTNAME
2. DMNNAMSVR

これらのパラメーターは、QUERYセッションのための省略時のDNSサーバーを指定するため、あるいはセッションの始動時に特定のホストに関する情報を要求するために、STRDNSQRYで使用されます。これらのパラメーターのヘルプは、セッション・サブコマンドのリストの後にあります。

以下は、QUERYセッションが開始された後に使用することができるNSLOOKUPサブコマンドのリストです。

名前 ホストのIPアドレスNAMEを示します。NAMEをホスト名に置き換えます。現行または「省略時の」DNSサーバーが照会されます。

NAME1 NAME2

ホストのIPアドレスNAME (NAME1)を示しますが、現行(省略時の)DNSサーバーの代わりにNAME2に情報を照会します(ここで、NAME2はDNSサーバーの名前です)。

QUERYセッションのための現行または「省略時の」DNSサーバー以外のDNSサーバーに対するQUERYを指示することができます。

HELP (または?)

STRDNSQRY (NSLOOKUP)ツールのためのサブコマンドのリストを表示します。

SERVER NAME

現行 (省略時の) DNSサーバーを使用して、省略時の (現行) DNSサーバーをNAMEに変更します (ここで、NAMEはDNSサーバーの名前です)。

LSERVER NAME

初期の省略時のDNSサーバーを使用して、省略時の (現行) DNSサーバーをNAMEに変更します (ここで、NAMEはDNSサーバーの名前です)。

QUERYセッション中に省略時のDNSサーバーを切り替え、現行DNSサーバーが新しいDNSサーバー名を分析解決できない場合に有用です。LSERVERにより、現行DNSサーバーの代わりに初期の省略時のDNSサーバーを使用し、切り替えを行うことができます。初期DNSサーバーでも新しいDNS名を分析解決することができない場合には、IP アドレスが分かっているならばNAMEをそれに置き換えてください。新しいDNSサーバーのIPアドレスが分からない場合には、DMNNAMSVRパラメーターを使用してNSLOOKUPセッションを再始動し、その新しいDNSサーバーをQUERYセッションの省略時のサーバーとして指定してみてください。

ROOT ルートDNSサーバーをQUERYセッションの省略時のDNSサーバーにします。ルートDNSサーバーは、'SET ROOT=NAME'オプションによって定義されます。

SET SETサブコマンドによって、QUERYセッション・オプションの値を設定することができます。SETサブコマンドに有効なオプションの値は、次の通りです。

SET ALL

すべてのセッション・オプションの現行値を示します。オプション値が設定されていない場合には、各オプションの省略時の値が表示されます。

SET DEBUG

デバッグ情報を表示します。

SET NODEBUG

デバッグ情報は表示しません。

SET D2

完全な (冗長) デバッグ情報を表示します。

SET NOD2

完全な (冗長) デバッグ情報は表示しません。

SET DEFNAME

省略時のドメイン名を各QUERYに付加します。省略時のドメイン名は、'SET DOMAIN=NAME'オプションによって定義されます。

SET NODEFNAME

省略時のドメイン名を各QUERYには付加しません。

SET SEARCH

DEFNAMEオプションの代わりにSRCHLISTオプションを使用します。'SET SRCHLIST=N1/N2/N3...'オプションによって定義されたドメイン名のリストを使用します。

SET NOSEARCH

SRCHLISTオプションは使用しません。

SET RECURSE

省略時のサーバーに情報がない場合に、他のDNSサーバーを照会します。

SET NORECURSE

省略時のサーバーに情報がない場合に、他のDNSサーバーを照会しません。

SET VC

UDPに代えてTCPをQUERYに使用します。

SET NOVC

UDPに代えてQUERYのTCPを使用することはしません。

SET IGNORETC

UDP応答が切り捨てられた場合に、TCPを使用したQUERYは再試行しません。

SET NOIGNORETC

UDP応答が切り捨てられた場合に、TCPを使用したQUERYを再試行します。

SET DOMAIN=NAME

省略時のドメイン名をNAMEに設定します (NAMEをドメイン名に置き換えます)。'SET DEFNAME'オプションによって使用される省略時のドメイン名を定義します。

SET SRCHLIST=N1/N2/N3...

各QUERYに付加するドメイン名のリストを作成します。このリスト中の各ドメイン名が、応答が受信されるか、あるいはリスト中に名前がなくなるまで、QUERYに付加されます。N1, N2, N3,などをドメイン名に置き換えます。

SET ROOT=NAME

ルート・サーバーをNAMEに設定します (NAMEをDNSサーバー名に置き換えます)。
'ROOT'サブコマンドによって使用されるサーバーを定義します。

SET RETRY=X

再試行回数をXに設定します (Xは数値です)。

注: 再試行回数の省略時値は1です。再試行値は、NSLOOKUPが最初に再試行するまで待機する時間 (秒数) であるタイムアウト値と一緒に作用します。再試行値は、通常1または2に設定されます。

SET TIMEOUT=X

初期タイムアウト間隔をX秒に設定します (Xは数値です)。

注: TIMEOUT=Xは、最初のQUERYで応答が受信されない場合に、NSLOOKUPが最初の再試行をするまで待機する長さを決定します。正常に行われない再試行のたびにタイムアウト値は2倍になります。省略時の値は5秒です。

SET TYPE=X

DNSサーバーがQUERYへの返答に使用するDNSレコードのタイプを決定します。次のDNSレコード・タイプの1つを'X'に置き換えます。

A IPアドレス・レコード。これが省略時の値です。

ANY QUERYの対象として存在する任意のレコード・タイプ。

CNAME

正規名レコード。真の (正規) ホスト名の別名のリストが存在していれば、それを戻します。

HINFO

ホスト情報。QUERYの対象であるCPUタイプおよびオペレーティング・システムに関する情報。

MX メール交換レコード。

- NS** ゾーンのネーム・サーバー(DNSサーバー) 情報。
 - PTR** ポインター・レコード。IPアドレスに対するホスト名を戻します。
 - SOA** 権限の開始レコード。
 - TXT** テキスト・レコード。
 - WKS** このホストで使用可能な既知のサービスまたはアプリケーション。
- 注: このタイプの情報レコードは通常は使用できません。

SET PORT=X

DNSサーバーの照会にTCP/IPポート'X'を使用します。ここで、'X'はTCP/IPポート番号です。省略時の値はポート53です。

注: DNSサーバーの事前割り当てポート番号は53で、多くのDNSサーバーでこれを使用します。照会するDNSサーバーがポート53を使用していない限り、通常はポート値を設定する必要はありません。特殊な状況のもとでは、その他のポートが使用される場合があります。ポート53を使用しないDNSサーバーを照会するには、ポート値をそのDNSサーバーで使用されているポート番号に設定してください。

- LS** リスト。リスト・サブコマンドは、情報を表示するか、それをファイルに書き出すために使用されます。これは、表示または書き出される情報の種類、および書き出される場合には、情報を書き出すファイルのパスおよびファイル名を決定するために、追加の値で使用されます。LSサブコマンドの値は、次の通りです。

LS DOMAIN > FILE

DOMAIN中のIPアドレスのリストをFILEに書き出します。DOMAINをドメインの名前に置き換え、FILEを書き出す先の全パスおよびファイル名に置き換えます。

```
LS COMPANY.US.COM > /TEMP/FILENAME.EXTENSION
```

LS -A DOMAIN

DOMAIN中のすべての正規（真の）名および別名をリストします（DOMAINをドメイン名に置き換えます）。

LS -H DOMAIN

DOMAIN用のHINFO（CPUタイプおよびオペレーティング・システム）をリストします（DOMAINをドメイン名に置き換えます）。

LS -S DOMAIN

DOMAINで使用可能な事前割り当てサービスをリストします（DOMAINをドメイン名に置き換えます）。

LS -D DOMAIN

DOMAINに関する使用可能なすべてのレコードをリストします（DOMAINをドメイン名に置き換えます）。すべてのDNSレコード・タイプを含みます。

LS -T TYPE DOMAIN

DOMAINに関するすべてのDNS TYPEレコードをリストします。TYPEをDNSレコード・タイプに置き換え、DOMAINをドメイン名に置き換えます。DNSレコード・タイプのリストについては、'SET TYPE=X'サブコマンドを参照してください。

VIEW FILE

LS出力FILEの内容を表示します（FILEをLS出力ファイル名に置き換えます）。

EXIT QUERYセッションを終了します。次に実行キーを押して、コマンド行に戻ります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
HOSTNAME	ホスト	文字値, *NONE	オプションル, 定位置 1
DMNNAMSVR	ドメイン・ネーム・サーバー	文字値, *CFG	オプションル

トップ

ホスト (HOSTNAME)

ドメイン・ネーム・サービス(DNS)サーバーに情報を提供させたいTCP/IPホストを指定してください。ホストの語句による名前か、その数字によるIPアドレスのいずれかを使用することができます。たとえば、ホストの名前がANYBIZ.USA.COMで、その数字アドレスが123.4.56.7であるとします。アドレスを得るには名前を使用し、名前を得るにはアドレスを使用します。

HOSTNAMEパラメーターに有効な値は、次の通りです。

***NONE**

ホスト名は提供されません。これがHOSTNAMEパラメーターの省略時値であり、ホスト名またはアドレスを指定しない場合に使用されます。対話式NSLOOKUPセッションが開始されます。

ホスト名

DNSサーバーQUERYに使用するホストの名前を指定してください。

ホストIPアドレス

DNSサーバーQUERYに使用するホストのIPアドレスを指定してください。

トップ

ドメイン・ネーム・サーバー (DMNNAMSVR)

NSLOOKUPがQUERYセッションの省略時のサーバーとして使用するDNSサーバーの名前またはIPアドレスを指定してください。

注: NSLOOKUPはDNSサーバーから情報を検索します。QUERYを送る活動DNSサーバーが必要です。ツールを開始する時にDNSサーバーをDMNNAMSVRで指定しない場合には、次の1つをセッションの省略時のDNSサーバーとして設定しようとしています。1.システムを構成して使用するDNSサーバー。あるいは2.ローカル・システムで実行しているDNSサーバー。

これらの条件のいずれも存在しない場合には、NSLOOKUPはDNSサーバーをQUERY に指定しない限り情報を検索することができません。DMNNAMSVRによって、QUERYセッションを開始して選択したDNSサーバーをセッションの省略時のサーバーとして設定することができます。

NSLOOKUP QUERYセッションの省略時のDNSサーバーを指定するためには、STRDNSQRYコマンドのDMNNAMEパラメーターを使用してください。TCP/IPネットワークがアクセスするDNSサーバーを指定することができます。あるいは、システムで使用すると指定する前にDNSサーバーの応答をテストしたい場合には、そのサーバーを指定します。

DMNNAMEパラメーターに有効な値は、次の通りです。

***CFG** 現在このシステムで使用するために指定されているDNSサーバーを使用します。

ドメイン・ネーム・サーバー名

DNSサーバーの名前を指定してください。

ドメイン・ネーム・サーバーIPアドレス

DNSサーバーのIPアドレスを指定してください。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

ディスク再編成の開始 (STRDSKRGZ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディスク再編成の開始 (STRDSKRGZ)コマンドによって、1つ以上の補助記憶域プール(ASP)に対してディスク再編成機能を開始することができます。ユーザーは、再編成している各ASPに対してその機能を実行する時間制限を指定します。各ASPに対して再編成機能が開始されると、システム活動記録(QHST)ログにメッセージが送信されます。

ASP内の未使用スペースがまとめられます。これによって、さらに大きなディスク割り振りを効率的に実行することができます。

制約事項: このコマンドを使用するには、*ALLOBJ特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
ASP	ASP番号	単一値: *ALL その他の値 (最大 32 回の繰り返し): 1-32	オプション、定位置 2
ASPDEV	ASP装置	値 (最大 32 回の繰り返し): 名前, *ALLAVL	オプション
TIMLMT	時間制限	1-9999, *NOMAX	必須、定位置 1

[トップ](#)

補助記憶域プールID (ASP)

ディスク再編成機能を開始する対象となる補助記憶域プールを指定します。

***ALL** システムに対して定義されたシステムASP (ASP番号1)およびすべての基本ASP (ASP番号2-32)では、ディスク再編成が開始されます。

補助記憶域プール番号

ディスク再編成の開始の対象となるASPを指定します。有効なASP番号は1 - 32です。最大32個のASP番号を指定することができます。

[トップ](#)

ASP装置 (ASPDEV)

ディスク再編成が開始されることになる補助記憶域プール(ASP)装置の名前を指定します。ASPパラメーターまたはASPDEVパラメーターに値を指定しなければなりません。

*ALLAVL

現在「使用可能」の状況となっているASP装置ではすべて、ディスク再編成が開始されます。

補助記憶装置名

ディスク再編成を開始する対象となる、独立ASP装置の名前を指定します。最大32個のASP装置名を指定することができます。

[トップ](#)

時間制限 (TIMLMT)

再編成機能を実行できる時間（分数）を指定します。この時間制限に達した場合には、機能は終了されます。指定された時間制限は、それぞれのASPを再編成するための時間です。たとえば、ASP(*ALL)が指定されて、そのマシンに4つのASPが構成されていて、TIMLMT(60)が指定された場合には、4つの再編成機能が開始され、それぞれ60分間実行することができます。いずれかのASPの再編成が60分経過後にも完了しない場合には、それは強制終了されます。これによって、ディスク再編成を増分的に実行することができます。

*NOMAX

再編成機能には時間制限はありません。小さい未使用ディスク・エリアが多い大型ASPでは、再編成機能の完了には時間がかかります。*NOMAXを指定して再編成機能を開始し、その機能を強制終了したい場合には、ディスク再編成の終了 (ENDDSKRGZ)コマンドを使用することができます。

時間制限

再編成機能が実行可能となる時間制限を指定します。有効な値の範囲は1-9999分です。

[トップ](#)

STRDSKRGZの例

例1: ASP 1のディスク再編成の開始

```
STRDSKRGZ  ASP(1)  TIMLMT(*NOMAX)
```

このコマンドによって、ASP 1 に対するディスク再編成機能を開始することができます。この再編成機能は、ASPが再編成されるか、あるいはそれがENDDSKRGZコマンドによって終了されるまで実行されます。

例2:時間制限付きディスク再編成の開始

```
STRDSKRGZ  ASP(*ALL)  TIMLMT(60)
```

このコマンドによって、システム上の各ASPに対するディスク再編成機能を開始することができます。それぞれの再編成機能には60分の時間制限があります。60分後に、完了していないすべての再編成機能が終了されます。

例3: ASP装置のディスク再編成の開始

```
STRDSKRGZ  ASPDEV(MYASP1)  TIMLMT(*NOMAX)
```

このコマンドによって、ASP装置MYASP1に対するディスク再編成機能を開始することができます。この再編成機能は、ASPが再編成されるか、あるいはそれがENDDSKRGZコマンドによって終了されるまで実行されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： STRDSKRGZ

*ESCAPE メッセージ

CPF1888

ASP &1のディスク再編成はすでに開始されている。

CPF1890

要求された操作には*ALLOBJ権限が必要である。

CPF1891

装置が1つだけのASPに対するディスク再編成は開始できない。

[トップ](#)

研修の開始 (STREDU)

実行可能場所:

- 対話式ジョブ (*INTERACT)
- 対話式プログラム (*IPGM)
- 対話式 REXX プロシージャ (*IREXX)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

研修開始(STREDU)コマンドにより、オンライン研修セッションが開始されます。

このコマンドにはパラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

STREDUの例

STREDU

このコマンドは、以下のメニューを表示します。

- 「**研修管理の開始**」メニューが管理者に表示されます。
- 管理者によって登録された新規の研修生に、「**コース選択オプション**」メニューが表示されます。
- 登録された新規の研修生に、「**名前の指定**」データ項目画面が表示されます。
- 登録済みの研修生に、「**コース選択オプション**」メニューが表示されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: STREDU

なし

[トップ](#)

3270表示装置エミュレーション開始 (STREML3270)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

3270表示装置エミュレーション開始(STREML3270)コマンドは、2進データ同期通信(BSC)またはシステム・ネットワーク体系(SNA)ホスト・システムとの表示装置の3270エミュレーション・セッションを開始します。ユーザーはこのコマンドをコマンド入力行に入力するか、CLコマンド入力行を指定できる任意の表示装置から入力することができます。このコマンドは、表示装置(DSPDEV)パラメーターを指定したバッチ・ジョブからも実行することができます。

STREML3270コマンドは、ユーザーが表示装置にサインオンするときに実行されるユーザー・プロファイル用のINLPGMとして指定される制御言語プログラムに入れることができます。

装置エミュレーションの詳細は3270 DEVICE EMULATION SUPPORT (SC41-5408)にあります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
EMLCTL	エミュレーション制御装置または	名前	オプションル、位置 1
EMLDEV	エミュレーション装置または	名前	オプションル、位置 2
EMLLOC	エミュレーション・ロケーション	通信名	オプションル、位置 3
DSPDEV	表示装置 (バッチのみ)	名前, *CURRENT	オプションル
PAGEUP	前ページ・キー	*PA2, *PA1, *PA3, *NONE, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *CLEAR, *ERASEINP, *CSRSLT	オプションル
PAGEDOWN	次ページ・キー	*PA1, *PA2, *PA3, *NONE, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24, *CLEAR, *ERASEINP, *CSRSLT	オプションル
TESTREQ	テスト要求キー	*DFT, *CLEAR, *ERASEINP	オプションル
CSRSLT	カーソル選択キー	*NONE, *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24	オプションル
IGCEMLPC	SNA日本語3270PCエミュレーション	*NO, *YES	オプションル
EMLPRTDEV	エミュレーション印刷装置	名前, *NONE, *EMLCTL, *EMLLOC	オプションル
INZWAIT	ホスト待ちタイムアウト	1-32767, 120, *NOMAX	オプションル
NUMLCK	数字ロック・キーボード	*EMLDEV, *NO, *YES	オプションル
NULLS	ヌル文字の処理	*BLANK, *REMOVE	オプションル

キーワード	記述	選択項目	注
LOGON	ホスト・サイン・オン/ログオン・コマンド	文字値, *NONE	オプション
WAITRSP	待機応答	*NO , *YES	オプション
ENDCOND	エミュレーションの終了条件	単一値: *NONE その他の値 (最大 2 回の繰り返し): *DACTLU, *UNBIND	オプション
ATNEMLMNU	アテンション・エミュレーション・メニュー	*YES , *NO	オプション
FKEYPGM	機能キー・プログラム	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: プログラム	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
	要素 2: 機能キー	単一値: *ALLFKEYS その他の値 (最大 24 回の繰り返し): *F1, *F2, *F3, *F4, *F5, *F6, *F7, *F8, *F9, *F10, *F11, *F12, *F13, *F14, *F15, *F16, *F17, *F18, *F19, *F20, *F21, *F22, *F23, *F24	
KBDTYPE	キーボード言語タイプ	*DSPDEV , *SYSVAL, *LCL, AGB, AGE, AGI, AGM, ALI, ALM, BGB, BGE, BLI, BLM, BRB, BRE, CAB, CAE, CAI, CAM, CLB, CLE, CSB, CSE, CYB, DMB, DME, DMI, DMM, ESB, FAB, FAE, FAI, FAM, FNB, FNE, FNI, FNM, FQB, FQI, GKB, GNB, GNE, HIB, HNB, HNE, ICB, ICE, ICI, ICM, INB, INI, IRB, ITB, ITE, ITI, ITM, JEB, JEL, JKB, JPB, JPE, JUB, KAB, KOB, LAE, LTB, LVB, MKB, MKE, NCB, NCE, NEB, NEE, NEI, NEM, NWB, NWE, NWI, NWM, PLB, PKE, PLE, PRB, PRE, PRI, PRM, RCB, RMB, RME, ROB, ROE, RUB, RUE, SFI, SFM, SGI, SGM, SKB, SKE, SPB, SPE, SPI, SPM, SQB, SQE, SSB, SSI, SSE, SSM, SWB, SWE, SWI, SWM, TAB, THB, THE, TKB, TKE, TRB, TRE, UAE, UKB, UKE, UKI, UKM, USB, USE, USI, USM, VNE, YGI, YGM, *TRNTBL	オプション
TRNTBLOUT	出力変換テーブル	単一値: *KBDTYPE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力変換テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
TRNTBLIN	入力変換テーブル	単一値: *KBDTYPE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 入力変換テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
EMLCFGE	構成項目	名前, QEMDFTCFGE, *NONE	オプション

トップ

エミュレーション制御装置 (EMLCTL)

3270エミュレーション装置記述が接続されている2進データ同期通信(BSC)制御装置記述またはシステム・ネットワーク体系(SNA)制御装置記述の名前を指定します。このパラメーターを指定すると、要求元の表示装置がエミュレーション制御装置上の使用可能な3270エミュレーション装置にリンクされます。制御装置に接続されている少なくとも1つの装置が使用可能でなければならず、また、コマンドの要求元はその制御装置および装置の使用を認可されていなければなりません。

このパラメーター、**エミュレーション装置プロンプト (EMLDEVパラメーター)**、または**エミュレーション・ロケーションプロンプト (EMLLOCパラメーター)**のいずれかが必要です。

[トップ](#)

エミュレーション装置 (EMLDEV)

2進データ同期通信(BSC)、または3270表示装置をエミュレートするために要求元表示装置とリンクされるシステム・ネットワーク体系(SNA)装置エミュレーション(3278)の名前を指定します。要求元端末は、この装置に対して認可されていなければならず、装置は使用可能になっていなければなりません。

このパラメーター、**エミュレーション制御装置 (EMLCTL)パラメーター**、あるいは**エミュレーション・ロケーション (EMLLOC)パラメーター**が必要です。

[トップ](#)

エミュレーション・ロケーション (EMLLOC)

3270エミュレーション装置のロケーションを記述するリモート・ロケーション名を指定します。この名前は装置記述の構成時に定義され、通信を行なうリモート・ロケーションを示します。このパラメーターが指定された時には、要求元の表示装置がこのリモート・ロケーションによって示される使用可能な3270エミュレーション装置にリンクされます。このリモート・ロケーションによって示される少なくとも1つのエミュレーション装置が使用可能でなければならず、また、コマンドの要求元はその装置の使用を認可されていなければなりません。リモート・ロケーションでは、最大1,016のエミュレーション表示装置を参照することができます。

このパラメーター、**エミュレーション制御装置プロンプト (EMLCTLパラメーター)**、または**エミュレーション装置プロンプト (EMLDEVパラメーター)**のいずれかが必要です。

[トップ](#)

表示装置 (バッチのみ) (DSPDEV)

コマンドがバッチ・ジョブにある時に、表示装置エミュレーションに使用される表示装置の名前を指定します。3270サポートはこの名前によって表示装置を獲得しようとします。表示装置が獲得されれば、その表示装置で3270エミュレーションが活動しています。

*CURRENT

現在の表示装置名が装置エミュレーションで使用されます。このパラメーターは、コマンドが対話式ジョブにある時に使用されます。

表示装置名

装置エミュレーションで使用される表示装置名を指定してください。このパラメーターは、コマンドがバッチ・ジョブにある時に使用されます。

[トップ](#)

前ページ・キー (PAGEUP)

3270エミュレーションが活動状態の時に、5250型キーボード上のPAGE UP (前ページ) キーに3270機能を指定します。この割り当ては、入力フィールドの数が入力フィールドの最大数より多くない時に有効となります。

*PAキー

PAGE UP (前ページ) キーに割り当てられる3270 PAキーを指定してください。省略時の値は*PA2キーです。

*NONE

PAGE UP (前ページ) キーに機能を割り当てません。画面上の入力フィールドの数が5250表示装置で使用できる入力フィールド数より少ない場合には、このキーには機能がありません。

*Fキー PAGE UP (前ページ) キーに割り当てる3270 Fキーを指定します。

*CLEAR

PAGE UP (前ページ) キーに3270 CLEARキーを割り当てます。

*ERASEINP

PAGE UP (前ページ) キーに3270 ERASE INPUTキーを割り当てます。

*CSRSLT

3270カーソル選択キーはPAGE UP (前ページ) キーに割り当てられ、実際のカーソル選択キーを使用することはできません。

[トップ](#)

次ページ・キー (PAGEDOWN)

3270エミュレーションが活動状態の時に、5250型キーボード上のPAGE DOWN (次ページ) キーに追加の機能を指定します。この割り当ては、入力フィールドの数が入力フィールドの最大数より多くない時に有効となります。

*PAキー

PAGE DOWN (次ページ) キーに割り当てられる3270 PAキーを指定してください。省略時の値は*PA1キーです。

*NONE

PAGE DOWN (次ページ) キーに機能を割り当てません。画面上の入力フィールドの数が5250表示装置で使用できる入力フィールド数より少ない場合には、このキーには機能がありません。

*Fキー PAGE DOWN (次ページ) キーに割り当てる3270 Fキーを指定します。

*CLEAR

PAGE DOWN (次ページ) キーに3270 CLEARキーを割り当てます。

*ERASEINP

PAGE DOWN (次ページ) キーに3270 ERASE INPUTキーを割り当てます。

*CSRLT

3270カーソル選択キーはPAGE DOWN（次ページ）キーに割り当てられ、実際のカーソル選択キーを使用することはできません。

[トップ](#)

テスト要求キー (TESTREQ)

3270エミュレーションが活動状態の時に、5250キーボード上のテスト要求キーに追加の機能を指定します。

***DFT** テスト要求キーに通常の機能が割り当てられます。これはシステムの省略時の値です。通常の機能は、3270エミュレーション表示装置が2進データ同期通信(BSC)を使用するか、あるいはシステム・ネットワーク体系(SNA)プロトコルを使用するかによって決まります。BSCは省略時の値として3270エミュレーション・テスト要求機能を使用しますが、SNAは省略時の値として3270エミュレーション・システム要求機能を使用します。

*CLEAR

テスト要求キーに3270 CLEARキーを割り当てます。

*ERASEINP

テスト要求キーに3270 ERASE INPUTキーを割り当てます。

[トップ](#)

カーソル選択キー (CSRLT)

いくつかの物理機能キーの1つをカーソル選択キーとして使用するよう指定します。3270エミュレーションが活動状態の時には、指定したキーを使用して選択可能なフィールドを選択または拒否することができます。

*NONE

カーソル選択キーをエミュレートするために、物理機能キーは割り当てられません。実際のカーソル選択キーが使用されます。

***Fキー** カーソル選択キーをエミュレートするために割り当てられた機能キーを指定します。実際のカーソル選択キーを使用することはできません。

[トップ](#)

SNA日本語3270PCエミュレーション (IGCEMLPC)

システム・ネットワーク体系(SNA)日本語3270PCエミュレーションを使用するか、3270エミュレーションを使用するかを指定します。このパラメーターが有効なのは、S/55パーソナル・コンピューターを使用している時だけです。

***NO** SNA DBCS 3270PCエミュレーションは使用されません。

***YES** SNA DBCS 3270PCエミュレーションが使用されます。

[トップ](#)

エミュレーション印刷装置 (EMLPRTDEV)

SNA DBCS 3270PCエミュレーションに使用されるエミュレーション印刷装置を指定します。印刷装置エミュレーション装置は、装置エミュレーションの選択後に選択されます。このパラメーターは、**SNA日本語3270PCエミュレーションプロンプト (IGCEMLPCパラメーター)** で*YESを指定した時にだけ有効です。

*NONE

装置エミュレーションにSNA DBCS 3270PC印刷装置エミュレーションは使用されません。印刷装置エミュレーション装置は選択されません。

エミュレーション装置記述名

SNA日本語3270PCエミュレーション用に選択された表示装置エミュレーション装置のある印刷装置エミュレーション装置を指定します。

*EMLCTL

エミュレーション制御装置プロンプト (EMLCTLパラメーター) に指定された制御装置で最初に使用可能な印刷装置エミュレーション装置が使用されます。

*EMLLOC

エミュレーション・ロケーションプロンプト (EMLLOCパラメーター) に指定されたロケーションから最初に使用可能な印刷装置エミュレーション装置が使用されます。

[トップ](#)

ホスト待ちタイムアウト (INZWAIT)

3270エミュレーションがホスト・システムからの最初の表示データを待機する初期時間 (秒数) を指定します。ホスト・システムがこの時間内に最初の表示を送信しない場合には、エミュレーション・セッションは終了し、要求元にメッセージが戻されます。

120 3270エミュレーションは、ホスト・システムからの最初の表示を120秒間待機します。

*NOMAX

3270エミュレーションがホスト・システムからの最初の表示を待機する時間に制限はありません。この値は、ホスト・システムがこのセッションに対して活動状態になっている時点がユーザーに分からない場合に使用することができます。この要求は、システム要求を使用して、要求機能を終了することによって終了することができます。

秒数 3270エミュレーションがホスト・システムからの最初の表示を待機する時間の長さ (秒数) を指定してください。有効な値の範囲は1-32767秒です。

[トップ](#)

数字ロック・キーボード (NUMLCK)

数値入力フィールドに使用できるのが5250キーボードで数字データだけであるかどうかを指定します。

*EMLDEV

数字ロックはエミュレーション装置記述のEMLNUMLCKフィールドで指定します。DSPDEVコマンドを使用して、エミュレーション装置の現行のEMLNUMLCK値を表示することができます。BSCコマンドのCRTDEVBSCまたはCHGDEVBSC、あるいはSNAコマンドのCRTDEVHOSTまたはCHGDEVHOSTを使用して、値を変更することができます。

***NO** 3270エミュレーションによって、任意のデータを数値入力フィールドに入力することができます。

- *YES** 3270エミュレーションによって、数字データだけを数値入力フィールドに入力することができます。入力できる数字データは、文字0 - 9と記号「+ - , .」およびシステムではスラッシュをもつ文字Bである「blank」です。

トップ

ヌル文字の処理 (NULLS)

3270データ・ストリーム内で、5250表示装置から送信された先行および挿入ヌルを処理する方法を指定します。先行ヌルは、非ヌルの文字の前に現れるヌルです。挿入ヌルは非ヌルの文字と文字の間に現れるヌルです。

***BLANK**

先行および挿入ヌルは、3270データ・ストリーム内でblankに変更されます。

***REMOVE**

先行および挿入ヌルは、3270データ・ストリームから除去されます。

トップ

ホスト・サイン・オン/ログオン・コマンド (LOGON)

SNA 3270エミュレーションの開始後にホスト・システムに送られるサインオン・テキストを指定します。このテキストを使用して、特定のホスト適用業務にサインオンすることができます。

このパラメーターは、BSC 3270エミュレーション、SNA 3270表示装置パススルー、またはSNA DBCS 3270PCエミュレーションに対して指定する場合には、使用することができません。

***NONE**

3270エミュレーションの開始後にテキストはホスト・システムに送られません。

ホスト・ログオン・コマンド

3270エミュレーションの開始後にホスト・システムに送られるテキストを指定してください。テキストにblankまたは他の特殊文字が入っている場合には、そのテキストをアポストロフィで囲まなければなりません。テキスト中のすべてのアポストロフィは、2つのアポストロフィで表さなければなりません。最大256文字を指定することができます。

トップ

待機応答 (WAITRSP)

3270エミュレーション装置が、ワークステーションの画面に受信データが表示されるまで、ホスト・システムに肯定応答を送信することを待機するかどうかを指定します。エミュレーション装置が待機しない時には、AS/400システムによって記録される応答時間はホストによって記録される時間より長くなる場合があります。

***NO** エミュレーション装置は肯定応答の送信を待機しません。データをワークステーション画面に受信するとすぐに、応答を送信します。

***YES** エミュレーション装置は、受信したデータがワークステーションの画面に表示されるまで、肯定応答の送信を待機します。

エミュレーションの終了条件 (ENDCOND)

SNA 3270エミュレーション・セッションを終了できる追加の方法を指定します。

このパラメーターは、BSC 3270エミュレーション、SNA 3270表示装置パススルー、またはSNA DBCS 3270PCエミュレーションに対して指定する場合には、使用することができません。

考えられる値は次の通りです。

*NONE

3270エミュレーションを終了する追加の方法は要求されません。

*DACTLU

3270エミュレーション・セッションは、ホスト・システムからSNA DACTLUを受け取った場合に終了します。この終了条件を選択する前に、次の事項を検討してください。

- ある種のホスト・システム適用業務は、開始する前にDACTLUを出します。たとえば、タイム・シェアリング・オプション(TSO)は、所要の適用業務にアクセスする前に3270エミュレーション・セッションを終了します。このような適用業務にアクセスしようとする時には、この終了条件を使用しないようにしてください。

*UNBIND

3270エミュレーション・セッションは、ホスト・システムからSNA UNBINDを受け取った場合に終了します。この終了条件を選択する前に、次の事項を検討してください。

- この終了条件を使用するのは、セッション中に1つのホスト適用業務にアクセスする必要がある時だけにしてください。UNBINDはある適用業務から次の適用業務に切り替わる時に行なわれ、3270セッションは2番目の適用業務にアクセスする前に終了します。
- この終了条件を使用するのは、ホスト・システムへの通信経路が単純なものである時だけにしてください。単純な通信経路とは、3270表示装置エミュレーション開始(STREML3270)コマンドを実行するAS/400へのアクセスと、所要の適用業務があるホスト・システムへのアクセスしか必要としないような通信経路のことです。中間システムは、それにアクセスしなければ、この単純通信路上に存在していてもかまいません。中間システムにアクセスした場合には、あるシステムから次のシステムに切り替わる時にUNBINDが行なわれ、3270表示装置エミュレーション・セッションは所要の適用業務にアクセスする前に終了します。
- ある種のホスト・システム適用業務は、開始する前にUNBINDを出します。たとえば、タイム・シェアリング・オプション(TSO)は、所要の適用業務にアクセスする前に3270エミュレーション・セッションを終了します。このような適用業務にアクセスしようとする時には、この終了条件を使用しないようにしてください。

アテンション・エミュレーション・メニュー (ATNEMLMNU)

アテンション・キーを押した時にSNA用3270エミュレーション・オプションの選択メニューまたはBSC用3270エミュレーション・オプションの選択メニューが表示されるようにしたいかどうかを指定してください。

このパラメーターは、SNA 3270表示装置パススルーまたはSNA DBCS 3270PCエミュレーションを指定する場合には、使用することができません。

考えられる値は次の通りです。

***YES** アテンション・キーを押すと、SNAまたはBSC用3270エミュレーション・オプションの選択メニューが表示されます。

***NO** アテンション・キーを押した時に、SNAまたはBSC用3270エミュレーション・オプションの選択メニューは表示されません。アテンション・キーを押すと、ジョブで現在活動中のアテンション・プログラムがあれば、そのアテンション・プログラムが制御権を獲得します。それでも、システム要求キー順序を押してからシステム要求メニューで**3270エミュレーション・オプション・メニューの表示オプション**を選択することによって、SNAまたはBSC用3270エミュレーション・オプションの選択メニューを表示することができます。

トップ

機能キー・プログラム (FKEYPGM)

プログラムを呼び出すユーザー出口プログラムおよび1つまたは複数の機能キーを指定します。指定された機能キーが3270エミュレーション・セッション中に押されてホスト・システムに送られると、ユーザー出口プログラムが呼び出されます。ユーザー出口プログラムが終了すると、制御は機能キーが押された時点の3270エミュレーション・セッションに戻されます。

このパラメーターは、BSC 3270エミュレーション、SNA 3270表示装置パススルー、またはSNA DBCS 3270PCエミュレーションに指定された場合には無効です。

ユーザー出口プログラムが呼び出されるのは、機能キーがホスト・システムに正常に送信された場合だけです。機能キーが正常に受信されない場合には、やり直しを示唆するエラー・リセット・メッセージが画面の下部に表示されます。

AS/400ユーザー出口プログラムは、入力パラメーターを使用できるようにコード化しなければなりません。次のパラメーターは指定された順序で次の通りプログラムに渡されます。

1. 機能キー識別コード (10桁)。押された機能キーの識別コード。機能キー1が押されると、パラメーター値は*F1となります。機能キー2が押されると、パラメーター値は*F2となり、機能キーの24まであります。この値はパラメーター内で左寄せされます。
2. 表示装置の名前 (10桁)。3270エミュレーションを実行中の表示装置の名前。この値はパラメーター内で左寄せされます。
3. カーソル位置(6桁)。機能キーが押された時のカーソルの画面上の位置。最初の3桁はカーソル位置の行位置です。次の3桁はカーソル位置の桁位置です。たとえば、機能キーが押された時にカーソル位置の桁が24行目、1桁目の場合には、このパラメーターの値は024001です。行および桁は、サブstring論理を使用して変数から取り出すことができます。

可能な**プログラム名**の値は次の通りです。

***NONE**

ユーザー出口プログラムはどの機能キーとも関連していません。

プログラム名

指定された機能キーの1つが押された時に呼び出されるユーザー出口プログラムの名前およびライブラリーを指定します。このプログラムがシステム・プログラムであってははいけません。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのユーザーとシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

可能な**機能キー**の値は次の通りです。

***ALLFKEYS**

すべての機能キーが指定されたユーザー出口プログラムを呼び出します。

機能キー

ユーザー出口プログラムを呼び出す機能キーを指定します。このパラメーターで指定できる最大値は 24です。

トップ

キーボード言語タイプ (KBDTYPE)

表示装置で使用される特定の全文字識別コード (CHRID-文字セットとコード・ページから構成されている) を表す 3 桁のキーボード言語識別コードを指定してください。キーボード言語識別コードから全 CHRIDを判別するためには、AS/400 CL (制御言語) 解説書(SC88-5339)の表示装置記述作成(CRTDEV DSP)コマンドのCHRID値テーブルを参照してください。

このパラメーターは、SNA 3270表示装置パススルーの実行時には適用されません。

***DSPDEV**

ローカル表示装置がSTREML3270表示装置(DSPDEV)パラメーターに指定された場合には、指定された表示装置の装置記述の現行KBDTYPE値を使用してください。リモート表示装置がSTREML3270 DSPDEVパラメーターに指定された場合には、現行のQKBDTYPEシステム値を使用してください。

***SYSVAL**

現行のQKBDTYPEシステム値を使用してください。この値は、ローカルおよびリモートの両方の表示装置で有効です。

***LCL** 3270エミュレーションを要求した表示装置はローカル表示装置です。キーボード・タイプは表示装置記述から判別されます。

***TRNTBL**

ユーザー定義の変換テーブルを使用することができます。文字の変換は、**出力変換テーブル**プロンプト (TRNTBLOUTパラメーター) および**入力変換テーブル**プロンプト (TRNTBLINパラメーター) で指定した変換テーブルに定義されています。

ローカル表示装置がSTREML3270表示装置(DSPDEV)パラメーターに指定された場合には、指定された表示装置の装置記述の現行KBDTYPE値を使用して、使用するCHRIDを判別してください。リモート表示装置がSTREML3270 DSPDEVパラメーターに指定された場合には、現行のQKBDTYPEシステム値を使用してください。

キーボード言語識別コード

使用するキーボード言語識別コードを指定してください。

[トップ](#)

出力変換テーブル (TRNTBLOUT)

ホスト・システムから3270エミュレーションに送信された文字を変換するために使用する出力変換テーブルを指定します。キーボード言語タイププロンプト (KBDTYPEパラメーター) に*TRNTBLが指定されている場合には、入力変換テーブルプロンプト (TRNTBLINパラメーター) も指定しなければなりません。

*KBDTYPE

キーボード言語タイププロンプト (KBDTYPEパラメーター) に指定された言語を使用して、変換が行なわれます。

テーブル名

出力変換に使用されるテーブルの名前およびライブラリーを指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのユーザーとシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーを使用して、出力変換テーブルを見つけます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

入力変換テーブル (TRNTBLIN)

3270エミュレーションからホスト・システムに送信された文字を変換するために使用する入力変換テーブルを指定します。キーボード言語タイププロンプト (KBDTYPEパラメーター) に*TRNTBLが指定されている場合には、出力変換テーブルプロンプト (TRNTBLOUTパラメーター) も指定しなければなりません。

*KBDTYPE

キーボード言語タイププロンプト (KBDTYPEパラメーター) に指定された言語を使用して、変換が行なわれます。

テーブル名

入力変換に使用されるテーブルの名前およびライブラリーを指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのユーザーとシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーを使用して、入力変換テーブルを見つけます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

構成項目 (EMLCFGE)

構成項目をこのセッションに使用するかどうかを指定します。構成項目は3270エミュレーション構成オプションを指示します。構成項目はエミュレーション構成項目追加(ADDEMLCFGE)コマンドによって作成されます。

考えられる値は次の通りです。

*NONE

構成項目の名前が指定されていない、構成項目の省略時の値が使用されます。

QEMDFTCFGE

省略時の構成項目QEMDFTDFGEが使用されます。この項目は構成項目の省略時の値と一緒に出荷され、エミュレーション構成項目変更(CHGEMLCFGE)コマンドによって更新することができます。

構成項目名

使用する構成項目の名前を指定してください。指定された構成項目が構成ファイルに存在していない場合には、構成項目の省略時の値が使用されます。

STREML3270の例

```
STREML3270 EMLCTL(TSOHOST) PAGEUP(*F7) PAGEDOWN(*F8)
```

このコマンドは、権限をもっている制御装置記述TSOHOST上で最初に使用可能な装置を使用するエミュレーション・セッションに表示装置を入れます。画面上の入力フィールドの数が5250表示装置で使用できる最大入力フィールド数より少なく、PAGE UP (前ページ) キーを押した場合には、F7キー値がホスト・システムに送られます。PAGE DOWN (次ページ) キーを押した場合には、F8キー値がホスト・システムに送られます。

エラー・メッセージ： STREML3270

*ESCAPEメッセージ

CPF2619

テーブル&1が見つからない。

CPF269A

呼び出しでライブラリー・パラメーターが"QSYS "にセットされていない。

CPF269B

T.61変換テーブルが見つからない。

CPF85EA

ホストから受け取った画面アドレスが画面サイズより大きい。

CPF85EB

3270エミュレーション・セッションが終了した。

CPF85EC

LOGONパラメーターでのテキストの指定はサポートされていない。

CPF85ED

ENDCOND(*NONE)以外の値はサポートされていない。

CPF85E2

3270エミュレーションはこのジョブですでに活動状態になっています。

CPF85E4

ライブラリー&2の変換テーブル&1は認可されていない。

CPF85E5

3270エミュレーション装置&1は装置&2用に予約されている。

CPF85E6

ライブラリー&2に変換テーブル&1が見つからなかった。

CPF8503

エミュレーション制御装置&1が見つからなかった。

CPF8504

制御装置&1は3270エミュレーションをサポートしていない。

CPF8505

エミュレーション装置&2が見つからなかった。

CPF8506

エミュレーション・ロケーション&1が見つからなかった。

CPF8507

表示装置エミュレーションが必要なファイルをオープンすることができない。

CPF8508

ホスト・システムが応答しなかった。

CPF851A

シフトインおよびシフトアウト文字の最大数を越えた。

CPF8510

装置&1で内部エラーが起こった。

CPF8511

装置&2のエラーによりエミュレーションが終了した。

CPF8512

装置&2が保留されているので、エミュレーションが終了した。

CPF8513

装置&2のエラーによりエミュレーションが終了した。

CPF8514

装置&1でエラー回復処置が停止した。

CPF8515

ホストが3270エミュレーション・セッションを終了した。

CPF8516

ホストと装置&2との間で一致していない。

CPF8517

許されるフィールドの最大数より多くを受け取った。

CPF8518

システムの内部的な障害のためにエミュレーションが終了した。

CPF8519

3270エミュレーションで機能チェックが起こった。

CPF852A

FKEYPGM(*NONE)以外の値はサポートされていない。

CPF852B

プログラム&1が見つからない。

CPF852C

プログラム&1は認可されていない。

CPF8521

制御装置&1が認可されていない。

CPF8522

エミュレーション装置&2が認可されていない。

CPF8523

ATNEMLMNUパラメーターの*NOはサポートされていない。

CPF8524

エミュレーションに必要な表示装置ファイルをオープンすることができない。

CPF8525

リモート表示装置にKBDTYPE(*LCL)を使用することはできない。

CPF8526

使用できる3270エミュレーション装置がない。

CPF8527

エミュレーション装置&2を使用することができない。

CPF8528

装置&2が表示装置エミュレーション装置でない。

CPF8530

表示装置エミュレーション装置の使用は認可されていない。

CPF8533

バッチ・ジョブで表示装置が指定されていない。

CPF8534

表示装置&1を使用することはできない。

CPF8535

表示装置&1が見つからなかった。

CPF8536

表示装置&1は認可されていない。

CPF8539

&1キーボード・タイプは3270エミュレーションではサポートされていない。

CPF8546

使用できる3270エミュレーション装置がない。

CPF8547

使用できる3270エミュレーション印刷装置がない。

CPF8550

内部障害のタイムアウトのためにエミュレーションが終了した。

CPF8551

エミュレーションがエラー・コード&1で終了した。

CPF8552

戻りコードのためにエミュレーションが終了した。

CPF8553

変換しないでBSC制御装置または装置を使用することはできない。

CPF8565

エミュレーション装置&1が見つからない。

CPF8568

装置&1がエミュレーション印刷装置でない。

CPF8569

どの印刷装置エミュレーションの使用も認可されていない。

CPF8571

使用できる3270エミュレーション印刷装置がない。

CPF8572

エミュレーション装置&1を使用することができない。

[トップ](#)

EPM環境開始 (STREPMENV)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

EPM環境開始(STREPMENV)コマンドは、ユーザー制御の環境を作成するために、拡張プログラム・モデル (EPM)言語といっしょに使用されます。C/400*, FORTRAN/400*,およびAS/400* PASCALの各言語は拡張プログラム・モデルの一部です。

このコマンドを使用して、別のAS/400言語プログラムから呼び出すEPM言語入口点の実行時環境を作成することができます。EPMおよびこのコマンドの詳細については、拡張プログラム・モデル (EPM) 使用者の手引きと参照(N:SC09-1294)を参照してください。

エラー・メッセージ: STREPMENV

なし

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
EPMENV	環境名	文字値	必須, 定位置 1
ROOTPGM	環境プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: 環境プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

トップ

環境名 (EPMENV)

作成するユーザー制御環境の名前を指定します。環境名は固有としなければなりません。

環境名 環境の名前を入力してください。

トップ

環境プログラム (ROOTPGM)

EPM実行時環境を作成するために必要な環境定義情報を含むプログラムおよびライブラリーの名前を指定します。

プログラム名

環境定義情報を含むEPM言語プログラム・オブジェクトの名前を入力してください。

ライブラリーに使用できる値は次の通りです。

***LIBL** 指定したプログラム・オブジェクトを見つけるためにライブラリー・リストが検索されます。

***CURLIB**

指定したプログラム・オブジェクトを見つけるために現行ライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

指定したプログラム・オブジェクトを含むライブラリーの名前を入力してください。

トップ

例

なし

トップ

エラー・メッセージ： STREPMENV

なし

トップ

フォント管理援助機能の開始 (STRFMA)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フォント管理援助機能開始(STRFMA)コマンドは、フォント管理援助機能(FMA)メニューを表示します。このメニューから、ワークステーション・フォント・ファイル(\$SYS1Z24.FNT)でDBCSフォント・テーブルのユーザー定義文字 (24 X 24ドット・マトリックス) を「処理」することができます。「処理」とは、ワークステーション・フォント・ファイル中のユーザー定義文字をDBCSフォント・テーブルにコピーし、あるいはDBCSフォント・テーブル中のユーザー定義文字をワークステーション・フォント・ファイルにコピーすることを意味します。FMAは、他のワークステーションからワークステーション・ユーザー・フォント / 辞書ファイルのコピーをとるためにも使用されます。

このコマンドにはパラメーターはありません。

エラー・メッセージ: STRFMA

なし

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ: STRFMA

なし

[トップ](#)

ホスト・サーバーの開始 (STRHOSTSVR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ホスト・サーバー開始(STRHOSTSVR)コマンドは、最適化されたホスト・サーバー・デーモンおよびサーバー・マッパー・デーモンを開始するために使用します。

ホスト・サーバーのタイプのそれぞれに1つのサーバー・デーモンがあります。さらに、クライアント適用業務が特定のホスト・サーバー・デーモンのポート番号を得られるように、すべてのホスト・サーバーに1つのサーバー・マッパー・デーモンがあります。このポート番号は、ホスト・サーバーのデーモンと接続するために、クライアント適用業務によって使用されます。このデーモンは、入力接続要求を受け入れ、後続の処理のためにサーバー・ジョブに送ります。

デーモンは、SERVERキーワードに指定した値によって、QSYSWRKまたはQSERVER サブシステムに投入されるバッチ・ジョブです。すべてのデーモン・ジョブは、QSERVERサブシステムに投入される *DATABASEおよび*FILEサーバー・デーモンを除いてQSYSWRKサブシステムに投入されます。

サーバー・デーモンおよびサーバー・マッパー・デーモンを正常に開始するためには、QSYSWRKサブシステム、そして*DATABASEおよび*FILEサーバーの場合にはQSERVERサブシステムが活動状態でなければなりません。必要なサブシステムが活動状態でない場合には、デーモン・ジョブの投入は正常に実行されません。さらに、関連したサーバー・ジョブを開始するためには、QUSRWRKサブシステムまたはユーザー定義のサブシステムが活動状態になっていなければなりません。関連したサーバー・ジョブは、以下を除き、すべてQUSRWRKサブシステムまたはユーザー定義のサブシステムで実行することができます。

- サーバー・ジョブ、QPWFSEVSOおよびQPWFSEVSS -これらのジョブは、QSERVERサブシステムまたはユーザー定義サブシステムで実行されます。
- サーバー・ジョブQPWFSEV2 -このジョブはQSERVERサブシステムで実行されます。
- サーバー・ジョブQIWVPPJT -このジョブはQSYSWRKサブシステムで実行されます。
- サーバー・ジョブQTFPJTCP -このジョブはQSERVERサブシステムで実行されます。

サーバー・マッパー・デーモンに関連したサーバー・ジョブはありません。

クライアント適用業務がソケット通信サポートを使用してホスト・サーバーとの接続を確立できるように、サーバー・デーモンが活動状態でなければなりません。いったん開始されると、サーバー・デーモンおよびサーバー・マッパー・デーモンは、ホスト・サーバー終了(ENDHOSTSVR)コマンドを使用して明示的に終了するか、あるいはエラーが起こるまで活動状態のままです。

制約事項

- このコマンドは、クライアント適用業務がソケット通信サポートを使用していずれかのホスト・サーバーと通信できるようにするためにのみ使用します。このコマンドはいずれのAPPCホスト・サーバーも開始しません。これらは、プログラム開始要求の結果として開始されます。
- 特定のサーバー・タイプで活動状態にできるサーバー・デーモンは1つだけです。すでに活動状態になっているサーバー・デーモンを開始するように要求すると、このコマンドを出したユーザーに通知メッセージが送られます。

エラー・メッセージ： STRHOSTSVR

*ESCAPE メッセージ

PWS300D

ホスト・サーバー・デーモン・ジョブを開始することができない。

PWS3006

サーバー・デーモン・ジョブの開始時にエラーが起こった。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SERVER	サーバー・タイプ	単一値: *ALL その他の値 (最大 8 回の繰り返し): *CENTRAL, *DATABASE, *DTAQ, *FILE, *NETPRT, *RMTCMD, *SIGNON, *SVRMAP	必須, 定位置 1
RQDPCL	必要なプロトコル	* <u>ANY</u> , *NONE, *TCP	オプション

[トップ](#)

サーバー・タイプ (SERVER)

このコマンドによって開始されるホスト・サーバー・デーモンを指定します。

指定できる値は次の通りです。

***ALL:** すべてのサーバー・デーモンおよびサーバー・マッパー・デーモンが開始されます。

*CENTRAL

QSYSWRKサブシステム中でセントラル・サーバー・デーモンが開始されます。デーモン・ジョブはQZSCSRVSDと名付けられています。関連サーバー・ジョブはQZSCSRVSと名付けられています。

*DATABASE

QSERVERサブシステム中でデータベース・サーバー・デーモンが開始されます。デーモン・ジョブはQZDASRVSDと名付けられています。関連サーバー・ジョブはQZDASOINIT, QZDASSINIT,およびQTFPJTCPと名付けられています。

*DTAQ

QSYSWRKサブシステムでデータ待ち行列サーバー・デーモンが開始されます。デーモン・ジョブはQZHQSRVDと名付けられています。関連サーバー・ジョブはQZHQSSRVと名付けられています。

***FILE** QSERVERサブシステム中でファイル・サーバー・デーモンが開始されます。デーモン・ジョブはQPWFSESRVSDと名付けられています。関連サーバー・ジョブはQPWFSESRVSO, QPWFSESRVSS,およびQPWFSESRVS2と名付けられています。

*NETPRT

ネットワーク印刷サーバー・デーモンが、QSYSWRKサブシステムで開始されます。デーモン・ジョブはQNPSERVDと名付けられています。関連サーバー・ジョブはQNPSERVSおよびQIWVPPJTと名付けられています。

*RMTCMD

QSYSWRKサブシステム中でリモート・コマンドおよび分散プログラム呼び出しサーバー・デーモンが開始されます。デーモン・ジョブはQZRCRSRVDと名付けられています。関連サーバー・ジョブはQZRCRSRVと名付けられています。

*SIGNON

QSYSWRKサブシステム中でサインオン・サーバー・デーモンが開始されます。デーモン・ジョブはQZSOSGNDと名付けられています。関連サーバー・ジョブはQZSOSIGNと名付けられています。

*SVRMAP

QSYSWRKサブシステム中でサーバー・マッパー・デーモンが開始されます。デーモン・ジョブはQZSOSMAPDと名付けられています。

[トップ](#)

必要なプロトコル (RQDPCL)

ホスト・サーバー・デーモンの開始にどの通信プロトコルの活動化が必要であるかを指定します。

単一値

***ANY:** STRHOSTSVRコマンドを出す時に、TCP/IPプロトコルが活動状態になっていなければなりません。TCP/IPが活動状態になっていない場合には、エスケープ・メッセージPWS300Dが出され、ホスト・サーバー・デーモンは開始されません。TCP/IPが非活動であることが分かった場合には、診断メッセージ(PWS3008)が出されます。

*NONE:

ホスト・サーバー・デーモンを開始するためにSTRHOSTSVRコマンドを出す時に、通信プロトコルが活動状態になっている必要はありません。非活動状態のプロトコルに対して、メッセージは出されません。

***TCP:** STRHOSTSVRコマンドを出す時に、TCP/IPプロトコルが活動状態になっていなければなりません。TCP/IPが活動状態になっていない場合には、診断メッセージPWS3008およびエスケープ・メッセージPWS300Dが出され、ホスト・サーバー・デーモンは開始されません。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ： STRHOSTSVR

***ESCAPE** [メッセージ](#)

PWS300D

ホスト・サーバー・デーモン・ジョブを開始することができない。

PWS3006

サーバー・デーモン・ジョブの開始時にエラーが起こった。

[トップ](#)

IDDU開始 (STRIDD)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

対話式データ定義ユーティリティー開始(STRIDD)コマンドにより、対話式データ定義(IDDU)メイン・メニューが実行されます。このメニューから、データ定義、データ・ディクショナリー、ファイル、およびライブラリーを処理できるオプションを選択するか、あるいは関連コマンドおよびオフィス・タスクを使用することができます。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

STRIDDの例

STRIDD

このコマンドは、メインIDDUメニューを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: STRIDD

なし

[トップ](#)

SNA インターフェース上のIPの開始 (STRIPSIFC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

SNAインターフェースを経由するIPの開始(STRIPSIFC)コマンドは、SNAインターフェースを経由するAF_INETソケット (SNAトランスポートでこのローカル・ホストが認識されるIPアドレス) を開始するために使用されます。

制約事項: 1つのホストで活動化できるSNAインターフェース上のAF_INETソケットは8個だけです。最大数のインターフェースが活動状態で別のインターフェースを開始したい場合には、最初にSNAインターフェース上のIP終了(ENDIPSIFC) CLコマンドを使用して1つ以上のインターフェースを終了しなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
INTNETADR	IPアドレス	文字値	必須, 定位置 1

[トップ](#)

IPアドレス (INTNETADR)

前にADDIPSIFC CLコマンドでSNA上のIP構成に追加された非活動状態の (終了された) インターフェースのインターネット・アドレスを指定します。インターネット・アドレスはNNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定されます。ここでNNNは0-255の範囲の10進数です。コマンド入力行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

STRIPSIFCの例

```
STRIPSIFC INTNETADR('9.5.1.248')
```

このコマンドは、IPアドレス9.5.1.248とのインターフェースを活動化 (開始) します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： STRIPSIFC

*ESCAPE メッセージ

CPFA10F

SNAを経由するIPインターフェース&1が開始されていない

[トップ](#)

ITF開始 (STRITF)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

端末対話機能開始(STRITF)コマンドによって、ユーザーは非同期通信を使用して5250ワークステーションのデータおよびファイル・メンバーを送受信することができます。また、端末対話機能(ITF)を使用して文書を送信することもできます。ITFを使用する前に、非同期通信を開始しなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名	必須, 定位置 1

[トップ](#)

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

通信したいリモート・ロケーションの名前を指定します。この名前は、構成時に指定されたりリモート・ロケーション名と同じです。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

STRITFの例

STRITF CHICAGO

このコマンドにより、ユーザーは、リモート・ロケーションCHICAGOと通信することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: STRITF

なし

[トップ](#)

ジャーナルの開始 (STRJRN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジャーナル処理開始(STRJRN)コマンドは、特定のジャーナルに対する変更をジャーナル処理（オブジェクトまたはオブジェクトのリストに対して実行）を開始するために使用されます。このインターフェースによってサポートされるオブジェクト・タイプは、データ域(*DTAARA)、データ待ち行列(*DTAQ)、バイト・ストリーム・ファイル(*STMF)、ディレクトリー(*DIR)、および記号リンク(*SYMLNK)です。ルート(/)、QOPENSYS、およびユーザー定義ファイル・システムに入っていて、タイプが*STMF、*DIR、または*SYMLNKのオブジェクトだけが、サポートされています。送信できる可能なジャーナル項目に関する詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter))にある「ジャーナル管理」情報を参照してください。

ジャーナル処理するのは、タイプ*DTAARAのオブジェクトを変更後イメージだけにするか、または変更前イメージおよび変更後イメージの両方にするかを指定できます。ジャーナル処理済み変更除去(RMVJRNCHG)コマンドを使用して、ジャーナル処理済み変更を除去するためには、変更前イメージが必要です。

オブジェクトのジャーナル処理を開始した後は、ジャーナル処理済みオブジェクトを保管して、そのジャーナル属性情報を保持する必要があります。また、オブジェクトを保管する必要があります。これは、たとえばジャーナル処理済み変更は、ジャーナル処理が有効になる前に保管されたオブジェクトのバージョンには適用できないためです。

ジャーナル処理を開始するその他の方法については、以下のコマンドを参照してください。

- アクセス・パス-アクセス・パスのジャーナル処理開始 (STRJRNAP)
- 物理ファイル-物理ファイルのジャーナル処理開始(STRJRNPF)
- 他のオブジェクト-オブジェクトのジャーナル処理開始(STRJRNOBJ)

制約事項:

- オブジェクトは、別のジャーナルに変更をジャーナル処理中であってはなりません。
- 1つのジャーナルに関連付けできるオブジェクトの最大数は250,000です。この最大数には、変更が現在ジャーナル処理されているオブジェクト数、現行レシーバーが接続されている間にジャーナル処理が終了したメンバー数、および現行ジャーナル・レシーバーが接続されている間にジャーナルと対応しているか対応していたジャーナル・レシーバー数が含まれます。オブジェクトの数がこの最大数より大きい場合には、ジャーナル処理は開始されません。
- 指定するジャーナルはローカル・ジャーナルでなければなりません。ローカル・ジャーナルにジャーナル処理できるすべてのオブジェクト・タイプにも、リモート・ジャーナルに送られるその変更がありますが、これは2ステップの処理によって行われます。最初に、ローカル・ジャーナルへのジャーナル処理を開始します。次に、このローカル・ジャーナルをリモート・インスタンスに接続します。このような接続を開始するには、リモート・ジャーナル追加(ADDRMTJRN)コマンドまたはリモート・ジャーナル追

加(QJOADDREMOJOURNAL) APIを使用してください。リモート・ジャーナル処理については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「ジャーナル管理」情報を参照してください。

- 指定のジャーナルおよびオブジェクトは同じ補助記憶域プール(ASP)に入っている必要があります。
- 現在メモリー・マップが行われているバイト・ストリーム・ファイルまたはIXSネットワーク記憶域スペースとして使用されているバイト・ストリーム・ファイルは、ジャーナル処理できません。
- ジャーナル処理に適さないものとして内部的にマークされたオブジェクトは、ジャーナル処理できません。システムは、ユーザー・ディレクトリーの内部に作成されるシステム作業ディレクトリーを、ジャーナル処理には適さないものとしてマークする場合があります。
- データ域の場合は、ローカル外部データ域オブジェクトだけをジャーナル処理されます。特別なデータ域(*LDA, *GDA, *PDA)およびDDMデータ域はジャーナル処理できません。
- データ待ち行列の場合は、ローカル・データ待ち行列だけがサポートされます。DDMデータ待ち行列はジャーナル処理できません。
- パラメーターOBJまたはOBJFIDの少なくとも1つを指定しなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 名前	パス名	
	要素 2: 組み込みまたは除外	*INCLUDE , *OMIT	
OBJFID	ファイル識別コード	値 (最大 300 回の繰り返し): 16 進値	オプション
JRN	ジャーナル	パス名	オプション
SUBTREE	ディレクトリーのサブツリー	*ALL , *NONE	オプション
PATTERN	名前パターン	値 (最大 20 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: パターン	文字値, *	
	要素 2: 組み込みまたは除外	*INCLUDE , *OMIT	
INHERIT	新オブジェクト,ジャーナル処理継承	*NO , *YES	オプション
IMAGES	イメージ	*AFTER , *BOTH	オプション
OMTJRNE	ジャーナル項目の省略	*NONE , *OPNCLOSYN	オプション

トップ

オブジェクト (OBJ)

変更がジャーナル処理される最大300のオブジェクトを指定します。パス名が*STMF, *DIR, *SYMLNK, *DTAARA,または*DTAQのタイプのオブジェクトを識別するオブジェクトだけがサポートされています。

要素 1: 名前

‘オブジェクトのパス名’

変更をジャーナル処理するオブジェクトのパス名を指定します。

パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンが入っている場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。パス名内の記号リンクはその限りではありません。パス名が波形記号文字で始まっている場合には、そのパスは該当するホーム・ディレクトリーに相対するものとみなされます。

パス名パターンの詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「統合ファイル・システム」情報にあります。

要素 2: 組み込みまたは除外

2番目の要素は、パターンと一致する名前を操作に含めるかまたは操作から除外するかを指定します。名前がパターンと一致するかどうかを判別する時に、相対的な名前パターンは常に現行作業ディレクトリーとの相対関係として取り扱われることに注意してください。

***INCLUDE**

*OMITの指定によって一時変更されない限り、オブジェクト名パターンと一致したオブジェクトがジャーナル処理されます。

***OMIT** オブジェクト名パターンと一致するオブジェクトがジャーナル処理されません。これは *INCLUDEの指定を一時変更するもので、前に選択されたパスのサブセットを除外するために使用されることとなります。

トップ

ファイル識別コード (OBJFID)

変更をジャーナル処理するファイル識別コード(FID)を最大300まで指定します。FIDは統合ファイル・システム関連オブジェクトと関連付けされている固有の識別コードです。このフィールドは16進形式で入力されます。FIDがタイプ*STMF, *DIR, *SYMLNK, *DTAARA,または*DTAQのオブジェクトを識別するオブジェクトだけがサポートされています。

ファイル識別コード

FIDで識別されるオブジェクトがジャーナル処理されます。

トップ

ジャーナル (JRN)

ジャーナル処理済み変更を受け取るジャーナルのパス名を指定します。

'ジャーナル・パス名'

ジャーナル処理済み変更を受け取るジャーナルのパス名を指定します。

トップ

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)

ディレクトリー・サブツリーをジャーナル処理操作開始に組み込むかどうかを指定します。

注: OBJパラメーターが指定されていない場合には、このパラメーターは無視されます。

注: オブジェクト・パス名がディレクトリー(*DIR)オブジェクトでない限り、このパラメーターは無視されます。

***NONE**

選択基準と一致するオブジェクトだけが処理されます。選択したディレクトリーにあるオブジェクトは、暗黙に処理されません。

***ALL** 選択基準と一致する各ディレクトリーのサブツリー全体に加えて、選択基準と合ったすべてのオブジェクトが、処理されます。このサブツリーには、すべてのサブディレクトリーおよびそのサブディレクトリー内のオブジェクトが含まれます。

トップ

名前パターン (PATTERN)

ジャーナル処理開始操作のオブジェクトを組み込みまたは除外するために使用されるパターンを、最大20まで指定します。このパラメーターを指定しないと、省略時値によりすべてのパターンが突き合わされます。

名前パターンの突き合わせにはパス名の終わりの部分だけが考慮されます。パス名区切り文字は名前パターンで使用できません。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンが入っている場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。パス名内の記号リンクはその限りではありません。

このパラメーターを指定しないと、省略時値によりすべてのパターンが突き合わされます。

パス名パターンの詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「統合ファイル・システム」情報にあります。

注: OBJパラメーターが指定されていない場合には、このパラメーターは無視されます。

要素 1: パターン

** 入力OBJパラメーターと一致するすべてのオブジェクトが、ジャーナル処理の開始操作に組み込まれるか、またはジャーナル処理の開始操作から除外されます。

名前パターン

ジャーナル処理の開始操作にオブジェクトを組み込むかまたは除外するためにパターンを指定します。

要素 2: 組み込みまたは除外

2番目の要素は、パターンと一致する名前を操作に含めるかまたは操作から除外するかを指定します。名前がパターンと一致するかどうかを判別する時に、相対的な名前パターンは常に現行作業ディレクトリーとの相対関係として取り扱われることに注意してください。

注: SUBTREEパラメーターは、サブツリーを組み込むかまたは除外するかを指定します。

***INCLUDE**

*OMITの指定によって変更されない限り、オブジェクト名パターンと一致するオブジェクトはジャーナル処理操作開始に組み込まれます。

***OMIT** オブジェクト名パターンと一致するオブジェクトがジャーナル処理操作開始に組み込まれません。これは *INCLUDEの指定を一時変更するもので、前に選択されたパターンのサブセットを除外するために使用されることとなります。

トップ

新オブジェクト,ジャーナル処理継承 (INHERIT)

ジャーナル処理済みディレクトリー内部で作成された新規オブジェクトが、その親ディレクトリーのジャーナル・オプションとジャーナル状態を継承するかどうかを指定します。

***NO** ディレクトリー内部で作成された新規オブジェクトは、親ディレクトリーのジャーナル・オプションとジャーナル状態を継承しません。

***YES** ディレクトリー内部で作成された新規オブジェクトは、親ディレクトリーのジャーナル・オプションとジャーナル状態を継承します。

トップ

イメージ (IMAGES)

オブジェクトに対する変更用のジャーナル・レシーバーに書き込むイメージの種類を指定します。

***AFTER**

変更後イメージだけがオブジェクトに対する変更用に生成されます。

***BOTH**

システムは、オブジェクトに対する変更用に变更前イメージと変更後イメージの両方を生成します。

注: 値*BOTHは*DTAARAオブジェクトだけに有効です。

トップ

ジャーナル項目の省略 (OMTJRNE)

除外されるジャーナル項目を指定します。

***NONE**

項目は除外されません。

***OPNCLOSYN**

項目のオープン、クローズ、および強制が除外されます。指定するオブジェクト上でのオープン、クローズ、および強制操作は、ジャーナル項目のオープン、クローズ、および強制を生成しません。これは、ジャーナル処理済み変更の適用(APYJRNCHG)コマンドでTOJOB0およびTOJOB C項目を使用できなくしますが、ジャーナル・レシーバーの一部の記憶域スペースを節約します。

注: 値*OPNCLOSYNは*DIRおよび*STMFオブジェクトだけに有効です。

トップ

STRJRNの例

例 1:ディレクトリーを省略したジャーナル処理の開始

```
STRJRN OBJ('/MYPATH' *INCLUDE) ('/MYPATH/MYOBJECT' *OMIT))
      JRN('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/JRNLA.JRN')
```

このコマンドは、第1レベル・ディレクトリー'/MYPATH'内の、このコマンドでサポートされるすべてのオブジェクトの変更をジャーナル処理します。ただし、'/MYPATH/MYOBJECT'からジャーナル'/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/JRNLA.JRN'を除きます。'/MYPATH'のサブディレクトリー内のオブジェクトはどれもジャーナル処理されません。

更新されたレコードの変更後イメージがジャーナルに書き込まれるだけです。

例 2:パターン・マッチングによるジャーナル処理の開始

```
STRJRN OBJ('/MYPATH' *INCLUDE) ('/MYPATH/MYOBJECT.TXT' *OMIT))
      JRN('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/JRNLA.JRN') SUBTREE(*ALL)
      PATTERN(('*.TXT' *INCLUDE)) OMTJRNE(*OPNCLOSYN)
```

このコマンドは、ディレクトリー'/MYPATH'のオブジェクト'/MYPATH/MYOBJECT.TXT'を除くパターン '*.TXT'と一致するすべてのオブジェクトに対する変更をジャーナル処理します。オープン、クローズ、および強制操作項目はジャーナル処理されません。

更新されたレコードの変更後イメージがジャーナルに書き込まれるだけです。

例 3:パターンによる省略でのジャーナル処理の開始

```
STRJRN OBJ('/MYPATH/MY*' *INCLUDE))
      JRN('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/JRNLA.JRN')
      PATTERN(('*.DTA*' *OMIT))
```

このコマンドは、パス'/MYPATH/MY*'のパターンと一致する第1レベル・ディレクトリー内のすべてのオブジェクトに対する変更をジャーナル処理し、パターン '*.DTA*' (タイプ *DTAARA および *DTAQ のオブジェクト) と一致するすべてのオブジェクトを省略します。

更新されたレコードの変更後イメージがジャーナルに書き込まれるだけです。

例 4:ファイル識別コードを使用したジャーナル処理の開始

```
STRJRN OBJFID(000000000000000007E09BDB000000009
              000000000000000009E09BDB00000000A)
      JRN('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/JRNLA.JRN')
```

このコマンドは、指定されたファイル識別コードによって表されるオブジェクトに対するすべての変更をジャーナル'/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/JRNLA.JRN'にジャーナル処理します。

更新されたレコードの変更後イメージがジャーナルに書き込まれるだけです。

例 5:一連のデータ待ち行列上のジャーナル処理の開始

```
STRJRN OBJ('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MYDATA*.DTAQ'))
      JRN('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MYJRN.JRN')
```

このコマンドは、文字'MYDATA'で始まるライブラリーMYLIBのタイプ*DTAQのオブジェクトに対するすべての変更のジャーナル処理を開始します。

トップ

エラー・メッセージ： STRJRN

*ESCAPEメッセージ

CPFA0D4

ファイル・システム・エラーが起こった。エラー番号は&1です。

CPF700A

&2個のオブジェクトのうち&1個がジャーナル処理を開始した。

CPF705A

リモート・ジャーナルのために操作が正常に行なわれていない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9873

ASPの状況によりオブジェクトにアクセスできない。

CPF9875

ASP &1で資源を超えています。

トップ

アクセス・パス・ジャーナル開始 (STRJRNAP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

アクセス・パス・ジャーナル開始(STRJRNAP)コマンドは、指定したジャーナルに対するデータベース・ファイルのすべてのメンバーのアクセス・パスのジャーナル処理を開始するために使用されます。後でファイルに追加された新しいメンバーも、そのアクセス・パスがジャーナル処理されます。

物理ファイルが指定されている場合には、そのアクセス・パスのジャーナル処理を開始することができません。物理ファイルのアクセス・パスのジャーナル処理が開始されると、物理ファイル・メンバーのアクセス・パスだけがジャーナル処理されます。論理ファイルのアクセス・パスのジャーナル処理が開始されるのは、その論理ファイルに対するアクセス・パスのジャーナル処理が開始された時だけです。

このコマンドの実行後に作成されたジャーナル項目は、ジャーナル処理済み変更の適用または除去操作では使用できません。これらの項目が使用されるのは、異常なシステム操作が終了した後で、アクセス・パスを再作成しないで回復する場合だけです。

アクセス・パスのジャーナル処理を開始する場合には、このジャーナルについてジャーナル作成(CRTJRN)またはジャーナル変更(CHGJRN)コマンドのいずれかにRCVSIPOPT(*RMVINTENT)を指定することを考慮に入れてください。そうすることによって、アクセス・パスのジャーナル処理に必要な余計な記憶域を減らすことができます。

ユーザー自身がアクセス・パスのジャーナル処理による経費を負担したくない場合には、システム管理のアクセス・パス保護サポートを利用することを考慮してください。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter))にある「ジャーナル管理」情報およびアクセス・パス回復の編集(EDTRCYAP)またはアクセス・パス回復の変更(CHGRCYAP)コマンドを参照してください。

ジャーナル処理を開始するその他の方法については、以下のコマンドを参照してください。

- 組み込みファイル・システム・オブジェクト-ジャーナル処理開始(STRJRN)
- 物理ファイル-物理ファイル・ジャーナル処理開始(STRJRNPF)
- その他のオブジェクト-オブジェクト・ジャーナル処理開始(STRJRNOBJ)

制約事項:

- アクセス・パスをジャーナル処理する前に、アクセス・パスが作成されるすべての物理ファイルを最初に、アクセス・パスのジャーナル処理のために使用されるものと同じジャーナルに対してジャーナル処理しなければなりません。特定の物理ファイルのすべての物理ファイル・メンバーが論理ファイルのアクセス・パスから除去されても、アクセス・パスをジャーナル処理する前に、すべての物理ファイルは同じジャーナルに対してジャーナル処理されなければなりません。
- ジャーナル処理するすべてのアクセス・パスにMAINT(*IMMED)またはMAINT(*DLY)を指定しなければなりません。
- 物理ファイル・メンバーの変更後イメージだけをジャーナル処理する場合には、システムは、物理ファイルに対して作成された任意のアクセス・パスのジャーナル処理が開始されると、物理ファイルの変更

前および変更後イメージのジャーナル処理を自動的に開始します。アクセス・パスのジャーナル処理が終了すると、システムは自動的に物理ファイルの変更前イメージのジャーナル処理を停止して、再び変更後イメージだけをジャーナル処理します。

- 一時変更はFILEパラメーターに指定されたファイルに適用されません。
- 指定するジャーナルはローカル・ジャーナルでなければなりません。ローカル・ジャーナルにジャーナル処理できるすべてのオブジェクト・タイプにも、リモート・ジャーナルに送られるその変更がありますが、これは2ステップの処理によって行われます。最初に、ローカル・ジャーナルへのジャーナル処理を開始します。次に、このローカル・ジャーナルをリモート・インスタンスに接続します。このような接続を開始するには、リモート・ジャーナル追加(ADDRMTJRN)コマンドまたはリモート・ジャーナル追加(QJOADDREMOTEJOURNAL) APIを使用してください。リモート・ジャーナル処理については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「ジャーナル管理」情報を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ジャーナル処理ファイル	値 (最大 50 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジャーナル処理ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
JRN	ジャーナル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: ジャーナル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

トップ

ジャーナル処理ファイル (FILE)

アクセス・パスをジャーナル処理する最大50のデータベース・ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子 1: ジャーナル処理ファイル

ファイル名

ファイルの名前を指定してください。

修飾子 2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

ジャーナル (JRN)

ファイル変更ジャーナル項目を受け取るジャーナルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子 1: ジャーナル

ジャーナル名

ジャーナルの名前を指定してください。

修飾子 2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

STRJRNAPの例

```
STRJRNAP FILE(MYFILE) JRN(MYLIB/JRNLA)
```

このコマンドは、(ライブラリー検索リストを使用して見つかった) ファイルMYFILEのすべてのメンバーのすべてのアクセス・パスをライブラリーMYLIBのジャーナルJRNLAにジャーナル処理します。

トップ

エラー・メッセージ: STRJRNAP

*ESCAPEメッセージ

CPF6971

損傷のためオブジェクト&1をジャーナル処理することができない。

CPF6972

&2のファイル&1のアクセス・パスを割り振ることができない。

CPF7003

項目はジャーナル&1にジャーナル処理されなかった。理由コードは&3です。

CPF7004

最大数のオブジェクトがジャーナル&1にジャーナル処理された。

CPF7008

ファイル&1のアクセス・パスのジャーナル処理を開始または終了することはできない。

CPF7009

基礎になるファイルがすべて&3にジャーナル処理されているわけではない。

CPF7011

記憶域または資源が十分でない。

CPF703C

DDLトランザクションによってジャーナル処理操作ができない。

CPF703D

DDLトランザクションによってジャーナル処理操作ができない。

CPF703E

DDLトランザクションによってジャーナル処理操作ができない。

CPF7030

タイプ*&3のオブジェクトはジャーナル処理中です。

CPF7031

&2のファイル&1のメンバー&3を割り振ることができない。

CPF7033

メンバー&3のジャーナル処理の開始または終了が正常に行なわれなかった。

CPF7034

&2のファイル&1の論理的な損傷。

CPF7035

&2のオブジェクト&1はすでにジャーナル処理用に認識されている。

CPF705A

リモート・ジャーナルのために操作が正常に行なわれていない。

CPF7079

ファイル&1のアクセス・パスのジャーナル処理は開始されなかった。

CPF708D

ジャーナル・レシーバーが論理的に損傷していることが判明した。

CPF7084

タイプ*&6のオブジェクトをジャーナル処理することはできませんでした。

CPF709D

タイプ*&7のオブジェクトのジャーナル処理を開始することができません。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9873

ASPの状況によりオブジェクトにアクセスできない。

CPF9875

ASP &1で資源を超えています。

[トップ](#)

ジャーナル・オブジェクト開始 (STRJRNOBJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト・ジャーナル処理開始(STRJRNOBJ)コマンドは、特定のジャーナルに対する変更をジャーナル処理（オブジェクトまたはオブジェクトのリストに対して実行）を開始するために使用されます。このインターフェースによってサポートされるオブジェクト・タイプは、データ域(*DTAARA)およびデータ待ち行列(*DTAQ)です。送信できるジャーナル項目の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「ジャーナル管理」情報を参照してください。

さらに、ジャーナル処理するのは、タイプ*DTAARAのオブジェクトの変更後イメージだけにするか、または変更前イメージおよび変更後イメージの両方にするかを指定できます。ジャーナル処理済み変更除去(RMVJRCHG)コマンドを使用して、ジャーナル処理済み変更を除去するためには、変更前イメージが必要です。

オブジェクトのジャーナル処理を開始した後は、ジャーナル処理済みオブジェクトを保管して、そのジャーナル属性情報を保持する必要があります。また、オブジェクトを保管する必要もあります。これは、たとえばジャーナル処理済み変更は、ジャーナル処理が有効になる前に保管されたオブジェクトのバージョンには適用できないためです。

ジャーナル処理を開始するその他の方法については、以下のコマンドを参照してください。

- アクセス・パス-アクセス・パス・ジャーナル処理開始 (STRJRNAP)
- 組み込みファイル・システム・オブジェクト-ジャーナル処理開始(STRJRN)
- 物理ファイル-物理ファイル・ジャーナル処理開始(STRJRNPf)

制約事項:

- オブジェクトは、別のジャーナルに変更をジャーナル処理中であってはなりません。
- 1つのジャーナルに関連付けできるオブジェクトの最大数は250,000です。この最大数には、変更が現在ジャーナル処理されているオブジェクト数、現行レシーバーが接続されている間にジャーナル処理が終了したメンバー数、および現行ジャーナル・レシーバーが接続されている間にジャーナルと対応しているか対応していたジャーナル・レシーバー数が含まれます。オブジェクトの数がこの最大数より大きい場合には、ジャーナル処理は開始されません。
- 指定するジャーナルはローカル・ジャーナルでなければなりません。ローカル・ジャーナルにジャーナル処理できるすべてのオブジェクト・タイプにも、リモート・ジャーナルに送られるその変更がありますが、これは2ステップの処理によって行われます。最初に、ローカル・ジャーナルへのジャーナル処理を開始します。次に、このローカル・ジャーナルをリモート・インスタンスに接続します。このような接続を開始するには、リモート・ジャーナル追加(ADDRMTJRN)コマンドまたはリモート・ジャーナル追加(QJOADDREMOJOURNAL) APIを使用してください。リモート・ジャーナル処理については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「ジャーナル管理」情報を参照してください。
- 指定のジャーナルおよびオブジェクトは同じ補助記憶域プール(ASP)に入っている必要があります。

- データ域の場合は、ローカル外部データ域オブジェクトだけをジャーナル処理されます。特別なデータ域(*LDA, *GDA, および *PDA) および DDM データ域はジャーナル処理できません。
- データ待ち行列の場合は、ローカル・データ待ち行列だけがサポートされます。DDM データ待ち行列はジャーナル処理できません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	値 (最大 300 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*DTAARA, *DTAQ	必須, 定位置 2
JRN	ジャーナル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 3
	修飾子 1: ジャーナル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
IMAGES	イメージ	*AFTER, *BOTH	オプション

トップ

オブジェクト (OBJ)

変更がジャーナル処理される修飾オブジェクト名を最大で300まで指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子 1: オブジェクト

オブジェクト名

変更をジャーナル処理するオブジェクトの名前を指定してください。

修飾子 2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

変更をジャーナル処理するオブジェクト・タイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

***DTAARA**

データ域オブジェクトの変更がジャーナル処理されます。

***DTAQ**

データ待ち行列オブジェクトの変更がジャーナル処理されます。

[トップ](#)

ジャーナル (JRN)

ジャーナル処理済み変更を受け取るジャーナルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子 1: ジャーナル

ジャーナル名

ジャーナル処理済み変更を受け取るジャーナルの名前を指定してください。

修飾子 2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

イメージ (IMAGES)

オブジェクトに対する変更用のジャーナル・レシーバーに書き込むイメージの種類を指定します。

***AFTER**

変更後イメージだけがオブジェクトに対する変更用に生成されます。

***BOTH**

システムは、オブジェクトに対する変更用にジャーナルに対する変更前イメージと変更後イメージの両方を生成します。

注: 値*BOTHは*DTAARAオブジェクトだけに有効です。

[トップ](#)

STRJRNOBJの例

STRJRNOBJ OBJ(DTALIB/MYDTAARA) OBJTYPE(*DTAARA)
JRN(MYLIB/JRNLA)

このコマンドは、ライブラリーDTALIBのデータ域MYDTAARAに対するすべての変更をライブラリーMYLIBのジャーナルJRNLAにジャーナル処理します。更新の変更後イメージがジャーナルに書き出されるだけです。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： STRJRNOBJ

*ESCAPEメッセージ

CPF6979

ライブラリー&2のジャーナル&1は使用できない。

CPF700A

&2個のオブジェクトのうち&1個がジャーナル処理を開始した。

CPF705A

リモート・ジャーナルのために操作が正常に行なわれていない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9873

ASPの状況によりオブジェクトにアクセスできない。

CPF9875

ASP &1で資源を超えています。

[トップ](#)

物理ファイル・ジャーナル開始 (STRJRNP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

物理ファイル・ジャーナル処理開始(STRJRNP)コマンドは、特定のジャーナルに対して特定のデータベース物理ファイルに行われた変更のジャーナル処理を開始するために使用されます。ファイルに追加された新しいメンバーの変更もジャーナル処理されます。

ユーザーは、ジャーナル処理済み物理ファイルのレコードの変更後イメージだけ、あるいは変更前イメージと変更後イメージの両方をジャーナル処理することを指定できます。ジャーナル処理済み変更除去(RMVJRNCHG)コマンドを使用して、ジャーナル処理済み変更を除去するためには、変更前イメージが必要です。さらに、ファイルがコミットメント制御によってオープンされた場合には、システムはデータベース・ファイルの変更前イメージを自動的に取り出します。コミットメント制御の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「データベース」情報を参照してください。

ファイルに対するジャーナル処理が開始された後、すべての新規メンバーがファイルに追加された後に、ユーザーはOBJTYPE(*FILE)およびOBJJRN(*YES)を指定した変更済みオブジェクトの保管(SAVCHGOBJ)コマンドを実行する必要があります。ファイルを保管する必要があります。これは、ジャーナル処理済み変更はジャーナル処理が有効になる前に保管されたファイルのバージョンには適用できないためです。

ジャーナル処理されているファイルが分散ファイルである時に、ジャーナル処理がローカルで正常に開始されていた場合には、STRJRNPコマンドも配布されます。配布要求に失敗した場合であっても、ローカル・ファイルはジャーナル処理済みのままです。

ジャーナル処理を開始するその他の方法については、以下のコマンドを参照してください。

- アクセス・パス-アクセス・パス・ジャーナル処理開始 (STRJRNAP)
- 組み込みファイル・システム・オブジェクト-ジャーナル処理開始(STRJRN)
- その他のオブジェクト-オブジェクト・ジャーナル処理開始(STRJRNOBJ)

制約事項:

- ファイルは、別のジャーナルに変更をジャーナル処理中であってはなりません。
- 一時変更はFILEパラメーターに指定されたファイルに適用されません。
- 1つのジャーナルに関連付けできるオブジェクトの最大数は250,000です。この最大数には、変更が現在ジャーナル処理されている物理ファイル・メンバー数、現行レシーバーが接続されている間にジャーナル処理が終了したメンバー数、および現行ジャーナル・レシーバーが接続されている間にジャーナルと対応しているか対応していたジャーナル・レシーバー数が含まれます。オブジェクトの数がこの最大数より大きい場合には、ジャーナル処理は開始されません。
- 指定するジャーナルはローカル・ジャーナルでなければなりません。ローカル・ジャーナルにジャーナル処理できるすべてのオブジェクト・タイプにも、リモート・ジャーナルに送られるその変更がありますが、これは2ステップの処理によって行われます。最初に、ローカル・ジャーナルへのジャーナル処理を開始します。次に、このローカル・ジャーナルをリモート・インスタンスに接続します。このような

接続を開始するには、リモート・ジャーナル追加(ADDRMTJRN)コマンドまたはリモート・ジャーナル追加(QJOADDRMOTAJOURNAL) APIを使用してください。リモート・ジャーナル処理については、ジャーナル処理管理のトピックを参照してください。

- マルチスレッド・ジョブではこのコマンドは分散ファイルに対してスレッド・セーフではなく、タイプ *SNAのリレーショナル・データベースを使用する分散ファイルに対して正常に実行されません。
- ファイルにラージ・オブジェクト(LOB)桁があり、LOB桁とレコード・サイズの合計が15,761,440バイトを超える場合は、ファイルをジャーナル処理できるのは指定のRCVSIZEOPT(*MAXOPT2)またはRCVSIZEOPT(*MAXOPT3)があるジャーナルに対してだけです。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ジャーナル処理する物理ファイル	値 (最大 50 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジャーナル処理する物理ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
JRN	ジャーナル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: ジャーナル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
IMAGES	レコード・イメージ	*AFTER, *BOTH	オプション
OMTJRNE	除外するジャーナル項目	*NONE, *OPNCLO	オプション

トップ

ジャーナル処理する物理ファイル (FILE)

変更がジャーナルに書き出される最大50の物理ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子 1: ジャーナル処理する物理ファイル

ファイル名

物理ファイルの名前を指定してください。

修飾子 2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

ジャーナル (JRN)

ファイル変更ジャーナル項目を受け取るジャーナルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子 1: ジャーナル

ジャーナル名

ジャーナルの名前を指定してください。

修飾子 2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

レコード・イメージ (IMAGES)

ファイルのレコードの変更についてジャーナルに書き出されるレコード・イメージの種類を指定します。

*AFTER

このファイルのレコードの変更について変更後イメージだけがジャーナルに書き出されます。

*BOTH

このファイルのレコードの変更について、システムは変更前イメージと変更後イメージの両方をジャーナルに書き出します。

トップ

除外するジャーナル項目 (OMTJRNE)

除外されるジャーナル項目を指定します。

*NONE

ジャーナル項目は除外されません。

*OPNCLO

オープンおよびクローズ項目が除外されます。指定したファイル・メンバーに対するオープンおよびクローズ操作では、オープンおよびクローズジャーナル項目は作成されません。これは、ジャーナル処理済み変更の適用(APYJRNCHG)コマンドおよびジャーナル処理済み変更の除去(RMVJRNCHG)コマンドでTOJOB0およびTOJOB0C項目を使用できなくしますが、ジャーナル・レシーバーの一部の記憶域スペースを節約します。

STRJRNPfの例

STRJRNPf FILE(MYFILE) JRN(MYLIB/JRNLA)

このコマンドは、（ライブラリー検索リストを使用して見つかった）ファイルMYFILEのすべてのメンバーに対するすべての変更をライブラリーMYLIBのジャーナルJRNLAにジャーナル処理します。更新されたレコードの変更後イメージがジャーナルに書き出されるだけです。

トップ

エラー・メッセージ： STRJRNPf

*ESCAPEメッセージ

CPF6971

損傷のためオブジェクト&1をジャーナル処理することができない。

CPF6979

ライブラリー&2のジャーナル&1は使用できない。

CPF700D

ライブラリー&2のファイル&1がジャーナル処理されなかった。

CPF7002

ライブラリー&2のファイル&1が物理ファイルではない。

CPF7003

項目はジャーナル&1にジャーナル処理されなかった。理由コードは&3です。

CPF7004

最大数のオブジェクトがジャーナル&1にジャーナル処理された。

CPF7011

記憶域または資源が十分でない。

CPF703C

DDLトランザクションによってジャーナル処理操作ができない。

CPF703D

DDLトランザクションによってジャーナル処理操作ができない。

CPF703E

DDLトランザクションによってジャーナル処理操作ができない。

CPF7030

タイプ*&3のオブジェクトはジャーナル処理中です。

CPF7031

&2のファイル&1のメンバー&3を割り振ることができない。

CPF7033

メンバー&3のジャーナル処理の開始または終了が正常に行なわれなかった。

CPF7034

&2のファイル&1の論理的な損傷。

CPF7035

&2のオブジェクト&1はすでにジャーナル処理用に認識されている。

CPF704B

ジャーナル処理がローカルで開始されたが、分散要求は正しく実行されなかった。

CPF705A

リモート・ジャーナルのために操作が正常に行なわれていない。

CPF708D

ジャーナル・レシーバーが論理的に損傷していることが判明した。

CPF7084

タイプ*&6のオブジェクトをジャーナル処理することはできませんでした。

CPF709D

タイプ*&7のオブジェクトのジャーナル処理を開始することができません。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9873

ASPの状況によりオブジェクトにアクセスできない。

CPF9875

ASP &1で資源を超えています。

トップ

モード開始 (STRMOD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

モード開始(STRMOD)コマンドは、拡張プログラム間通信機能(APPC)リモート・ロケーションに現在使用中のモードの1つまたはすべてを開始します。ユーザーはリセット状態または終了状態のいずれかでSTRMODを使用することができます。それはモード終了(ENDMOD)コマンドがモードを終了させた後にだけ必要です。詳細については、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)を参照してください。

制約事項: このコマンドを使用するためには、APPC装置に対する操作権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名	必須, 定位置 1
DEV	装置	名前, <u>*LOC</u>	オプションナル, 定位置 2
MODE	モード	通信名, <u>*NETATR</u> , *ALL	オプションナル
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	通信名, <u>*LOC</u> , *NETATR	オプションナル
RMTNETID	リモート・ネットワーク 識別コード	通信名, <u>*LOC</u> , *NETATR, *NONE	オプションナル

[トップ](#)

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

リモート・ロケーション名を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

装置 (DEV)

装置記述名を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***LOC** 装置記述はシステムによって決められます。

装置名 装置記述の名前を指定してください。

[トップ](#)

モード (MODE)

開始するモードを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***NETATR**

ネットワーク属性のモードが使用されます。

***ALL** リモート・ロケーションに現在使用中のすべてのモードが開始されます。

- APPNサポートによって自動的に作成された装置記述またはAPPNパラメーターに*YES を指定して手動で作成された装置記述の場合には、*ALLは、リモート・ロケーションの活動中に使用されたが現在開始されていないすべてのモードを開始することを示します。
- APPNパラメーターに*NOを指定して手動で作成された装置記述の場合には、*ALLは指定したリモート・ロケーションに対して構成されたすべてのモードを開始することを示します。

BLANK

モード名 (8文字の空白文字からなる) が使用されます。

モード名

モード名を指定してください。

注: SNASVCMGおよびCPSVCMGは、予約名であって、使用することはできません。

[トップ](#)

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

ローカル・ロケーション名を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***LOC** ローカル・ロケーション名はシステムによって決められます。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性で指定されたLCLLOCNAME値が使用されます。

ローカル・ロケーション名

このロケーションの名前を指定してください。リモート・ロケーションに対する特定のローカル・ロケーション名を指示したい場合には、ローカル・ロケーション名を指定します。

[トップ](#)

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

リモート・ロケーションと一緒に使用されるリモート・ネットワーク ID を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***LOC** システムがリモート・ネットワーク ID を選択します。

***NETATR**

ネットワーク属性に指定されたリモート・ネットワーク識別コードが使用されます。

***NONE**

リモート・ネットワーク識別コード(ID)は使用されません。

リモート・ネットワークID

リモート・ネットワーク ID を指定してください。

[トップ](#)

STRMODの例

```
STRMOD  RMTLOCNAME(APPCRLOC)  DEV(APPCDEV)  MODE(APPCMODE)
        RMTNETID(CHICAGO)
```

このコマンドは、APPCRLOCという名前のリモート・ロケーション、APPCDEVという名前の装置、およびリモート・ネットワークID CHICAGOに対してAPPCMODEという名前のモードを開始します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： STRMOD***ESCAPE** メッセージ**CPF598B**

1つまたは複数のモードで&1コマンドが正常に実行されなかった。

[トップ](#)

メール・サーバー・フレームワークの開始 (STRMSF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メール・サーバー・フレームワーク開始(STRMSF)コマンドは、システム作業サブシステム(QSYSWRK)中のメール・サーバー・フレームワーク・ジョブを開始します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MSGOPT	メール・メッセージの処理方法	<u>*RESUME</u> , *RESET, *CLEAR	オプション、位置 1
NBRMSFJOB	MSFジョブの数	1-99, <u>3</u>	オプション、位置 2

[トップ](#)

メール・メッセージの処理方法 (MSGOPT)

メール・サーバー・フレームワークが既存のメール・サーバー・フレームワーク・メッセージをどのように処理するかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***RESUME**

既存のすべてのメール・サーバー・フレームワーク・メッセージは、前にメール・サーバー・フレームワークが終了した点から処理を続行します。

***RESET**

既存のすべてのメール・サーバー・フレームワーク・メッセージは、作成されたばかりのものとして処理されます。

***CLEAR**

既存のすべてのメール・サーバー・フレームワーク・メッセージが削除されます。このオプションは、メール・サーバー・フレームワークでソフトウェア・エラーが報告されたか、あるいは出口点プログラムに関連している時のみ使用してください。

[トップ](#)

MSFジョブの数 (NBRMSFJOB)

開始するメール・サーバー・フレームワーク・ジョブの数を指定します。このオプションでは、複数のメール・サーバー・フレームワーク・メッセージを同時に処理することができます。

考えられる値は、次の通りです。

3 3つのジョブが開始されます。

ジョブ数

メール・サーバー・フレームワーク・メッセージを処理させたいジョブの数を指定してください。
有効な値の範囲は1-99です。

[トップ](#)

STRMSFの例

例1: 1つのメール・サーバー・フレームワーク・ジョブの開始

```
STRMSF NBRMSFJOB(1)
```

このコマンドは、1つのメール・サーバー・フレームワーク・ジョブを通常の方法で開始し、処理が中断された時点でメール・サーバー・フレームワーク・メッセージを処理します。

例2: メール・サーバー・フレームワーク・ジョブの再開

```
STRMSF NBRMSFJOB(3) MSGOPT(*RESET)
```

このコマンドは、3つのメール・サーバー・フレームワーク・ジョブを開始して、前のメール・サーバー・フレームワーク・ジョブで部分的に処理されたメール・サーバー・フレームワーク・メッセージを先頭から再び処理します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: STRMSF

*ESCAPE メッセージ

CPFADFAA

STRMSF正常に完了していない。

CPFADFAD

メール・サーバー・フレームワークは現在活動状態である。

CPFADFA0

MSF内部メッセージ索引でエラーが検出された。

CPFADFA1

MSF内部メッセージ待ち行列でエラーが検出された。

CPFADFFF

プログラム&1でシステムの内部エラー。

[トップ](#)

NFSサーバーの開始 (STRNFSSVR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・ファイル・システム・サーバー開始(STRNFSSVR)コマンドは、次のネットワーク・ファイル・システム(NFS)サーバー・デーモンの1つまたはすべてを開始します。これらのデーモン・ジョブの詳細については、OS/400 NFSサポート(SC88-4019)を参照してください。

SERVER(*ALL)を使用する必要があります。これは次の順序でデーモンを開始させます。(この順序は、ネットワーク・ファイル・システム・デーモンを開始させる場合に望ましい順序です。)

- リモート・プロシージャ呼び出し(RPC) RPCBINDデーモン
- ブロック入出力(I/O) (BIO)デーモン
- サーバー(SVR)デーモン
- マウント(MNT)デーモン
- ネットワーク状況モニター(NSM)デーモン
- ネットワーク・ロック・マネージャー(NLM)デーモン

1つのデーモンだけを開始させる場合には、NFSデーモンを開始させる適切な順序と、上記以外の順序でデーモンを開始させた場合に考えられる結果について理解するようにしてください。NFSデーモン開始の詳細については、OS/400 NFSサポート(SC88-4019)を参照してください。

すでに実行中の1つまたは複数のデーモンを開始させようとした場合に、そのことがコマンドの失敗原因になることはなく、開始を要求している他のデーモンの開始が続行されます。デーモンがすでに実行中であれば、コマンドが診断メッセージCPDA1BAまたはCPDA1BDを出します。ただし、最良の結果を得るには、STRNFSSVRコマンドを試みる前に、NFSデーモンを終了させてください。

NFSデーモンが実行中かどうかを判別するには、活動ジョブ処理 (WRKACTJOB)コマンドを使用して、サブシステムQSYSWRKに次のジョブが存在するかどうかを調べてください。

QNFSRPCD RPCBINDデーモン
QNFSBIOD ブロックI/O (BIO)デーモン
QNFSNFSD NFSサーバー(SVR)デーモン
QNFSMNTD マウント(MNT)デーモン
QNFSNSMD ネットワーク状況モニター(NSM)デーモン
QNFSNLM D ネットワーク・ロック・マネージャー(NLM)デーモン

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、入出力(I/O)システム構成(*IOSYSCFG) 特殊権限が必要です。
2. ユーザーは、システム配布ディレクトリーに登録されていなければなりません。ユーザーを登録するには、ディレクトリー項目追加 (ADDDIRE)コマンドを使用します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SERVER	サーバー・デーモン	*ALL, *RPC, *BIO, *SVR, *MNT, *NSM, *NLM	必須, 定位置 1
NBRSVR	サーバー・デーモン数	1-20, <u>1</u>	オプション, 定位置 2
NBRBIO	ブロックI/Oデーモン数	1-20, <u>1</u>	オプション
RTVPCREG	RPC登録の検索	*NO, *YES	オプション
STRJOBTIMO	デーモン開始のタイムアウト	1-3600, <u>30</u> , *NOMAX	オプション

[トップ](#)

サーバー・デーモン (SERVER)

このコマンドによって開始させるネットワーク・ファイル・システム(NFS)デーモン・ジョブを指定します。指定のデーモンはすでに実行中になってはいけません。

***ALL** すべてのNFSデーモンが開始されます。

***RPC** NFS RPCBINDデーモンが開始されます。

***BIO** NFSブロック入出力(I/O)デーモンを開始します。ブロックI/Oデーモン数 (**NBRBIO**)パラメーターに指定された数値がシステム上ですでに実行中のブロック入出力デーモンの数より大きい場合には、追加のデーモンが開始されます。

***SVR** NFSサーバー・デーモンを開始します。サーバー・デーモン数 (**NBRSVR**)パラメーターで指定された数値がシステム上ですでに実行中のサーバー・デーモンの数より大きい場合には、追加のデーモンが開始されます。

***MNT** NFSマウント・デーモンを開始します。

***NSM** NFSネットワーク状況モニター・デーモンを開始します。

***NLM** NFSネットワーク・ロック・マネージャー・デーモンを開始します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

サーバー・デーモン数 (NBRSVR)

実行中にしたいNFSサーバー(*SVR)デーモン・ジョブの数を指定します。このパラメーターで指定された数値がシステム上ですでに実行中のサーバー・デーモンの数より大きい場合には、追加のデーモンが開始されます。このパラメーターを使用できるのは、SERVER(*SVR)またはSERVER(*ALL) が指定されている場合だけです。

1 まだどのNFSサーバー・デーモンも実行中になっていない場合には、1つのNFSサーバー・デーモン・ジョブが開始されます。

1-20 実行中にしたいNFSサーバー・デーモンの数を指定してください。

[トップ](#)

ブロックI/Oデーモン数 (NBRBIO)

実行中にしたいNFSブロック入出力(I/O) (*BIO)デーモン・ジョブの数を指定します。このパラメーターで指定されている数値がシステム上ですでに実行中のブロック入出力デーモンの数より大きい場合には、追加のデーモンが開始されます。このパラメーターを使用できるのは、SERVER(*BIO)またはSERVER(*ALL)が指定されている場合だけです。

1 まだどのNFSブロックI/Oデーモンも実行中になっていない場合には、1つのNFSブロックI/Oデーモン・ジョブが開始されます。

1-20 実行中にしたいNFSブロック入出力デーモン・ジョブの数を指定してください。

[トップ](#)

RPC登録の検索 (RTVRPCREG)

RPCBINDデーモンが開始された時、以前に記録された登録情報を検索するかどうかを指定します。登録情報が検索されれば、RPCBINDデーモンにすでに登録済みのサービスは、RPCBINDデーモンに改めて登録する必要はありません。このパラメーターを使用できるのは、SERVER(*RPC)または(SERVER(*ALL) が指定されている場合だけです。

***NO** 登録情報を検索しません。

***YES** 登録情報を検索します。

[トップ](#)

デーモン開始のタイムアウト (STRJOBTIMO)

それぞれのデーモンが正常に開始されるのを待機する秒数を指定します。デーモンがタイムアウト値以内に開始されなかった場合には、このコマンドは正常に実行されないことになります。

30 タイムアウト前の省略時の秒数。

***NOMAX**

デーモンが開始されるまで永久に待機します。タイムアウトは起こりません。

1-3600

コマンドがタイムアウトになって失敗するまでにデーモンが開始されるのを待機する秒数を指定してください。30秒に満たないタイムアウト値は30秒に切り上げられます。

[トップ](#)

STRNFSSVRの例

例1: すべてのNFSデーモンの開始

```
STRNFSSVR SERVER(*ALL) STRJOBTIMO(*NOMAX)
```

このコマンドは、すべてのNFSデーモンを開始して、それらが開始されるのを永遠に待機します。すでに実行中のデーモンがあってはなりません。

例2: 1つのデーモンのみの開始

```
STRNFSSVR SERVER(*MNT)
```

このコマンドは、NFSマウント・デーモンを開始して、それが開始されるまで省略時値の最大30秒待機します。マウント・デーモンがすでに実行されているはずで、その他のデーモンは適切な順序で開始されています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： STRNFSSVR

なし

[トップ](#)

NETWARE接続の開始 (STRNTWCNN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

NETWARE接続開始(STRNTWCNN)コマンドは、指定されたサーバーへの認証済み接続を開始します。このコマンドは、次のために使用されます。

- サーバーに関する認証項目にパスワードがない場合（パスワード値は*STRNTWCNN です）に、接続を開始する。
- ユーザー・プロファイルの認証項目に指定されたものと異なる認証情報を使用して接続を開始する。
- それがないければNETWARE操作用に別のサーバーを使用できるように優先サーバーを指定する。

パスワードが認証項目に記憶されている場合には、このコマンドは不要です。システムでは、必要に応じて接続が開始および終了されます。

接続は、現行ジョブによる使用だけを認可する(AUTJOB(*))か、あるいは、たとえばバッチ・ジョブのように指定されたユーザー・プロファイルのもとで実行されているすべてのジョブによる使用を認可する(AUTJOB(*ANY))ことができます。各ユーザー・プロファイルには、指定のサーバーに対してオープンされたジョブ当たり一度に1つの接続だけを含めることができます。

NETWAREディレクトリー・サービス・ツリーの場合には、ツリー内の各サーバーに対して接続を開始することができます。すべてのサーバーへの接続を開始するためには、特殊値*ALLを使用することができます。これは、たとえば、ツリー内の1つのサーバーから別のサーバーにコピーしたり、NDSツリーの区画の相互間でコピーする場合に使用することができます。複数の接続が存在する場合に、特定のサーバーを必要としない操作は、最初に開始された接続を使用して実行されます。

NETWAREバックアップ・サービスには、各ユーザーが通常のログ・インに加えて別個の認証を実行することが必要です。接続タイプ(CNNTYPE)パラメーターによって、*SAVRST認証がこの目的で実行されるように指定することができます。

制約事項: (AUTUSRパラメーターに指定された) 別のユーザー・プロファイルについて接続を開始するためには、そのユーザー・プロファイルに対する*USE権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SERVER	サーバー	文字値, *ALL, *ANY	必須, 定位置 1
SVRTYPE	サーバー・タイプ	*SERVER, *NDS	オプション
NDSTREE	NDSツリー	文字値, *SERVER	オプション
AUTUSR	認可されたユーザー・プロファイル	名前, *CURRENT	オプション
NDSCTX	NDSコンテキスト	文字値, *AUTE, *USRPRF	オプション
NTWUSER	NETWAREユーザー	文字値, *AUTE, *USRPRF	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
PASSWORD	パスワード	文字値, *NONE, *AUTE	オプション
AUTJOB	認可されたジョブ	*, *ANY	オプション
CNNCTYPE	接続タイプ	単一値: *ALL その他の値 (最大 2 回の繰り返し): * USER , *SAVRST	オプション
CNNIDLTIME	接続遊休時間	1-9999, * NOMAX	オプション

トップ

サーバー (SERVER)

接続を開始するサーバーを指定します。

***ANY** *NDSサーバーの場合には、NDSツリー内の任意のサーバーへの接続を開始します。

***ALL** *NDSサーバーの場合には、NDSツリー内のすべてのサーバーへの接続を開始します。

文字値 接続を開始するサーバーの名前を指定してください。

トップ

サーバー・タイプ (SVRTYPE)

サーバーのタイプを指定します。

***SERVER**

サーバー・タイプを判別するために、指定されたサーバーに関するシステム情報を使用します。**サーバー (SERVER)**パラメーターに***ANY**または***ALL**を指定した場合には、この値を使用することはできません。

***NDS** サーバーはNETWAREディレクトリー・サービス・ツリーの中にあります。

トップ

NDSツリー (NDSTREE)

*NDSサーバーの場合には、接続を開始するNETWAREディレクトリー・サービス(NDS)ツリーの名前を指定します。

***SERVER**

NDSツリー名を判別するために、指定されたサーバーに関するシステム情報を使用します。**SERVER**パラメーターに***ANY**または***ALL**を指定した場合には、この値を使用することはできません。

文字値 NDSツリーの名前を指定します。

トップ

認可されたユーザー・プロファイル (AUTUSR)

接続の使用が認可されるユーザー・プロファイルを指定します。

***CURRENT**

接続は、現行ユーザー・プロファイルのもとで実行されているジョブでのみ使用することができます。

名前 ユーザー・プロファイルの名前を指定します。接続は、指定されたユーザー・プロファイルのもとで実行されているジョブでのみ使用することができます。

[トップ](#)

NDSコンテキスト (NDSCTX)

*NDSサーバーの場合には、NETWAREユーザー名が定義されているNETWAREディレクトリー・サービス・コンテキストを指定します。

***AUTE**

NDSディレクトリー・コンテキストを判別するために、ユーザー・プロファイル内のこのツリーに関する認証項目を使用します。

***USRPRF**

認可されたユーザーのプロファイル名をNDSディレクトリー・コンテキスト名として使用します。

文字値 NDSディレクトリー・コンテキストの名前を指定します。

[トップ](#)

NETWAREユーザー (NTWUSER)

ユーザーの認証に使用されるNETWAREユーザー名を指定します。

***AUTE**

NETWAREユーザー名を判別するために、ユーザー・プロファイル内の指定されたサーバーまたはNDSツリーに関する認証項目を使用します。

***USRPRF**

認可されたユーザーのプロファイル名をNETWAREユーザー名として使用します。

文字値 NETWAREユーザー名を指定します。

[トップ](#)

パスワード (PASSWORD)

指定されたユーザーについて権限を確認するために使用されるパスワードを指定します。

***AUTE**

ユーザー・プロファイル内のこのサーバーまたはNDSツリーに関する認証項目のパスワードを使用します。

***NONE**

権限の確認にパスワードは使用されません。

文字値 使用するパスワードを指定します。

[トップ](#)

認可されたジョブ (AUTJOB)

接続の使用が認可されるジョブを指定します。この接続は、現行ジョブでか、あるいは指定されたユーザー・プロファイル名のもとで実行されているすべてのジョブで使用することができます。

* 接続は、現行ジョブでのみ使用することができます。そのジョブが終了した場合には、接続はクローズされます。

***ANY** 接続は、指定されたユーザー・プロファイルのもとで実行されている任意のジョブで使用することができます。この接続は、NETWARE接続終了(ENDNTWCNN)要求によって終了しなければなりません。

注:

- QNETWAREファイル・システムには、現行ジョブの接続(AUTJOB(*))が必要です。
- 認証項目を使用して接続を開始することができない場合に、NETWARE印刷サーバーへの印刷には、任意のジョブの接続(AUTJOB(*ANY))が必要です。
- AUTJOB(*)の接続は、QFPZAUT活性化グループが再利用された(RCLACTGRPコマンド) 場合にも終了されます。

[トップ](#)

接続タイプ (CNNTYPE)

実行する認証のタイプを指定します。NETWAREバックアップ・サービスには、通常の利用者のログ・インに加えて別個の認証が必要です。

単一値

***ALL** *USERと*SAVRSTの両方の認証が実行されます。

他の値 (最大2回の反復)

***USER**

通常の利用者認証が実行されます。これによってユーザーは、保管および復元以外の管理およびファイル・システム・サービスを使用することができます。

***SAVRST**

NETWAREバックアップ・サービスに対する認証が実行されます。このオプションには、適切なNETWAREバックアップNLM (TSAXXX)がサーバーにロードされていることが必要です。

[トップ](#)

接続遊休時間 (CNNIDLTIME)

接続がクローズされるまでの遊休時間を指定します。遊休時間とは、サーバーに対する直前の要求以降の時間です。

***NOMAX**

遊休時間の範囲は指定されません。接続は、NETWARE接続終了(ENDNTWCNN)要求によって終了されるか、ジョブが終了するか、どちらか短い方の時点までオープンされたままになります。

1-9999

許容されるアイドル時間の分数を指定します。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ： STRNTWCNN

*ESCAPE メッセージ

FPE0226

サーバー&1への接続が開始されなかった。

[トップ](#)

オブジェクト変換開始 (STROBJCVN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト変換開始(STROBJCVN)コマンドは、弊社がサポートするオペレーティング・システムの前のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで使用された形式から、現在のオペレーティング・システムで使用するために必要な形式に、ユーザー・オブジェクトを変換します。このコマンドを使用して、以下のAS/400オブジェクトが変換されます。

1. プログラム (オリジナル・プログラム・モデル(OPM)および統合化言語環境(ILE))
2. サービス・プログラム
3. モジュール
4. 「リリースの置き換え」更新方式でのデータベース・ファイル (物理および論理)

このコマンドでは変換されないユーザー・オブジェクトは、それらを使用するために最初に指定した時に自動的に変換されます。

注: まだ変換されていないオブジェクトを使用すると、操作のパフォーマンスが低下します。

制約事項:

1. プログラム、サービス・プログラム、およびモジュールでは、すべての監視可能作成データを変換させる必要があります。監視不可作成データは、このコマンドでは使用できません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIB	ライブラリー	名前, *ALLUSR, *PTY	必須, 定位置 1
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*ALL, *FILE, *ALLPGM	オプション, 定位置 2
PTY	優先順位	1-99, *ALL	オプション, 定位置 3

トップ

ライブラリー (LIB)

そのオブジェクトが現行オペレーティング・システムの形式に変換されるユーザー・ライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は次の通りです。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが変換されます。次のものを除いて、英字Qで始まっていない名前をもつすべてのライブラリーが変換されます。

```
#CGULIB      #DFULIB      #RPGLIB      #SEULIB
#COBLIB      #DSULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、これらには一般的によく変更されるユーザー・データが収められます。したがって、これらのライブラリーはユーザー・ライブラリーと見なされて、やはり変換されます。

```
QDSNX      QPFRDATA    QUSER38      QUSRVXRXXM
QGPI       QRCL        QUSRINFSKR
QGPI38     QS36F      QUSRSYS
```

注: IBMがサポートしている各リリースごとに、ユーザーはQUSRVXRXXMの形式の別のライブラリー名を作成することができます。VXRXXMは、ライブラリーのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***PTY** PTYパラメーターに指定されている優先順位でライブラリーのセットを変換します。ライブラリーのオブジェクト変換優先順位は、オブジェクト変換の計画タスクを使用して設定することができます。

ライブラリー名

そのオブジェクトが変換されるユーザー・ライブラリーの名前を指定します。

注: このコマンドでは1つのライブラリーしか指定できませんが、CLプログラムでこのコマンドを繰り返し呼び出すことによって、1組のユーザー・ライブラリーを変換することができます。

トップ

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

ライブラリー中のどのオブジェクトを現行オペレーティング・システムの形式に変換するのかを指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** 指定されたライブラリー中のすべての*PGM, *SRVPGM, *MODULE,およびデータベース・ファイルが現行オペレーティング・システムの形式に変換されます。

***FILE** 指定されたライブラリー中のデータベース・ファイル・メンバー・オブジェクトだけが現行オペレーティング・システムの形式に変換されます。

*ALLPGM

指定されたライブラリー中の*PGMおよび*SRVPGMオブジェクトだけが現行オペレーティング・システムの形式に変換されます。

トップ

優先順位 (PTY)

現行オペレーティング・システムの形式に変換されるライブラリーの優先順位を指定します。優先順位グループは、アップグレード準備の時にソース・システムで設定します。このパラメーターは、LIB(*PTY)が指定されている場合にのみ有効です。

ライブラリーの優先順位は、OS/400用の更新援助機能のオブジェクト変換の計画タスクを使用して設定することができます。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** すべてのユーザー・ライブラリーが現行オペレーティング・システムの形式に変換されます。この値にLIB(*PTY)を指定することは、LIB(*ALLUSR)を指定することと同じです。

優先順位番号

現行オペレーティング・システムの形式に変換されるライブラリーを指定してください。

注: このコマンドには1つの優先順位しか指定できませんが、CLプログラムにおいてこのコマンドを繰り返し呼び出すことによって、いろいろな優先順位で複数のライブラリーのセットを変換することができます。

[トップ](#)

例

```
STROBJCVN LIB(LIB1)
```

このコマンドは、LIB1ユーザー・ライブラリーに入っているすべてのOPMプログラムとILEプログラム、サービス・プログラム、および物理データベース・ファイルと論理データベース・ファイルを、現行オペレーティング・システムの形式に変換します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPDA972

ライブラリー&2のタイプ*&3のオブジェクト&1を変換している時にエラーが起こった。

CPFA96D

ライブラリー&1には変換されるオブジェクトがない。

CPFA960

ライブラリー&1はユーザー・ライブラリーでない。

CPFA972

ライブラリー&1のすべての適格オブジェクトが変換されたわけではない。

CPFB0C1

優先順位&1の適格オブジェクトがすべて変換されたわけではない。

CPFBOC2

優先順位&1のオブジェクトは変換されていない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

[トップ](#)

パススルー開始 (STRPASTHR)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パススルー開始(STRPASTHR)コマンドによって、ターゲット・システムにパススルーして、ローカル接続の場合と同じようにサインオンすることができます。パススルー機能の構成または操作については、AS/400リモート・ワークステーション・サポートV3 (SC88-5284)を参照してください。

制約事項:

1. このコマンドは、表示画面が12行X 80文字のワークステーションで入力することはできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名, *CNNDEV	必須, 定位置 1
CNNDEV	APPC装置	単一値: *LOC その他の値 (最大 16 回の繰り返し): 名前	オプション
VRTCTL	仮想制御装置	名前, *NONE	オプション, 定位置 2
VRTDEV	仮想表示装置	単一値: *NONE その他の値 (最大 32 回の繰り返し): 名前	オプション, 定位置 3
MODE	モード	通信名, *NETATR	オプション
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	通信名, *LOC, *NETATR	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク 識別コード	通信名, *LOC, *NETATR, *NONE	オプション
SRQ10PGM	システム要求プログラム	単一値: *SRQMNU その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: システム要求プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
RMTUSER	ユーザー・プロファイル	文字値, *NONE, *CURRENT	オプション
RMPWD	ユーザー・パスワード	文字値, *NONE	オプション
RMTINLPGM	呼び出す初期プログラム	名前, *RMTUSRPRF, *NONE	オプション
RMTINLMNU	初期メニュー	名前, *RMTUSRPRF, *SIGNOFF	オプション
RMTCURLIB	現行ライブラリー	名前, *RMTUSRPRF	オプション
PASTHRSCN	表示オプション	文字値, *YES, *NO	オプション

[トップ](#)

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

次の1つを指定してください。

- **APPC装置**プロンプト (CNNDEVパラメーター) に(*LOC)が指定されている場合には、RMTLOCNAMEパラメーターは、パススルー・セッションのターゲットであるリモート・ロケーションの名前を指定します。
- CNNDEVパラメーターに装置が指定されている場合には、RMTLOCNAMEパラメーターは中間パススルー経路指定を実行する最初のシステムを指定します。

リモート・ロケーション名

パススルー・セッションのターゲットであるリモート・ロケーション名または中間パススルー経路指定を実行する最初のシステムを指定してください。APPNがこのロケーションへの経路を決定します。

*CNNDEV

APPC装置プロンプト (CNNDEVパラメーター) で指定されたAPPC 装置を使用します。

[トップ](#)

APPC装置 (CNNDEV)

パススルー経路指定を実行する最初のシステムをターゲット・システムと接続する装置記述の名前を指定します。また、リモート・ロケーションプロンプト (RMTLOCNAMEパラメーター) に *CNNDEVを指定した場合には、このパラメーターに指定された最初の装置がソース・システム上にあることとなります。リモート・ロケーションプロンプト (RMTLOCNAMEパラメーター) にリモート・ロケーションの名前を指定した場合には、このパラメーターに指定された最初の装置がそのリモート・ロケーションのシステム上にあることとなります。あるいは、別のシステムがソース・システムをターゲット・システムに接続し、パススルーによって中間セッションを確立しなければならない場合には、APPC装置記述のリストを指定しなければなりません。APPC装置名は、システムがターゲット・システムに到達するためにパススルーされる順序でリストしなければなりません。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

***LOC** リモート・ロケーションプロンプト (RMTLOCNAMEパラメーター) は、パススルー・セッションのターゲットであるリモート・ロケーションの名前を指定します。

装置名 ソース・システムからターゲット・システムへの経路指定を完了する装置記述の名前を指定します。最高16個までの名前を指定することができます。

[トップ](#)

仮想制御装置 (VRTCTL)

パススルー・ジョブを実行するために使用するリモート・システム上の仮想制御装置の名前を指定します。仮想制御装置を指定した場合には、これに接続された仮想表示装置の1つがパススルー・ジョブ用に選択されます。ターゲット・システム上の装置は、装置タイプおよび型式の比較に基づいて選択されます。

この項目は**仮想表示装置**プロンプト (VRTDEVパラメーター) の項目と一緒に使用することはできません。**仮想表示装置**プロンプト (VRTDEVパラメーター) に1つまたは複数の装置を指定した時には、*NONEを指定しなければなりません。

***NONE**

制御装置は指定されません。仮想表示装置プロンプト（VRTDEV パラメーター）にも*NONEを指定した場合には、自動構成を要求したことになります。

仮想制御装置名

ターゲット・システム上の仮想制御装置記述の名前を指定します。

[トップ](#)

仮想表示装置 (VRTDEV)

パススルー・セッションに使用される仮想制御装置に接続される、ターゲット・システム上の1つまたは複数の装置を指定します。ターゲット・システム上の装置は、装置タイプと型式の比較に基づいてリストから選択されます。

この項目は仮想制御装置プロンプト（VRTCTLパラメーター）の項目と一緒に使用することはできません。仮想制御装置プロンプト（VRTCTLパラメーター）に制御装置名を指定した時には、*NONEを指定しなければなりません。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

***NONE**

装置名を指定しません。仮想制御装置プロンプト（VRTCTLパラメーター）にも*NONEを指定した場合には、自動構成を要求したことになります。

仮想表示装置名

ターゲット・システムに仮想表示装置記述の名前を指定します。最大32の名前を指定することができます。

[トップ](#)

モード (MODE)

使用するモード名を指定します。

***NETATR**

ネットワーク属性のモードが使用されます。

モード名

モード名を指定してください。

[トップ](#)

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

ローカル・ロケーション名を指定します。

***LOC** ローカル・ロケーション名がシステムによって選択されます。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性で指定されたLCLLOCNAME値が使用されます。

APPNロケーション名

ソース・システムと対応したローカル・ロケーション名を指定してください。ローカル・ロケーション名が正しくない場合には、エスケープ・メッセージが送られます。

トップ

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

リモート・ロケーションのあるネットワークのネットワークIDを指定します。

***LOC** リモート・ロケーションの任意のリモート・ネットワークIDを使用することができます。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLNETID値が使用されます。

***NONE**

リモート・ロケーションはネットワーク識別コードをサポートしません。

APPNネットワーク識別コード

リモート・ネットワークIDを指定します。

トップ

システム要求プログラム (SRQ10PGM)

システム要求メニューを表示することを指定するか、あるいはシステム要求オプション10が選択された時にソース・システム上で開始されるプログラムの名前を指定します。

ユーザー・プログラムはメニューを表示し、これによって、アクセスしたいシステムを選択してから、パススルー開始(STRPASTHR)コマンドを所要のシステムに送信するグループ・ジョブへ移行することができます。詳細については、AS/400リモート・ワークステーション・サポートV3 (SC88-5284)を参照してください。

***SRQMNU**

ソース・システム上のシステム要求メニューを表示します。

プログラム名

システム要求オプション10が選択された場合に開始するプログラムの名前およびライブラリー名を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** プログラムを見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

プログラムを見つけるライブラリーを指定してください。

トップ

ユーザー・プロファイル (RMTUSER)

ターゲット・システムに自動サインオンするためのユーザー・プロファイルを指定します。このパラメーターにプロファイルが指定され、パスワードによる機密保護がターゲット・システムで活動状態である場合には、ユーザー・パスワードプロンプト (RMTPWDパラメーター) に(*NONE)は正しくありません。

***NONE**

ユーザー・プロファイル名は送られず、自動サインオンは行なわれません。

***CURRENT**

このコマンドを使用しているジョブのユーザー・プロファイルが送られます。ターゲット・システムがこれを認め、ターゲット・システムにユーザー・プロファイルが存在していて、RMTPWDパラメーターに指定されたパスワードがこのプロファイルに対して有効である場合には、ユーザーは自動的にサインオンされます。そうでない場合には、ターゲット・システムの構成に応じて、ターゲット・システム上にサインオン画面が表示されるか、あるいはソース・システム上に障害メッセージが表示されます。

プロファイル名

ターゲット・システム上に存在しているものの中から、使用するユーザー・プロファイル名を指定してください。ターゲット・システムがこれを認め、そのユーザー・プロファイル名がターゲット・システム上に存在している場合には、ユーザーは自動的にサインオンされます。そうでない場合には、ターゲット・システムの構成に応じて、ターゲット・システム上にサインオン画面が表示されるか、あるいはソース・システム上に障害メッセージが表示されます。プロファイルが指定されていて、パスワードによる機密保護がターゲット・システムで活動状態である場合には、指定されたプロファイルが現行プロファイルと同じであっても、パスワードを指定しなければなりません。

[トップ](#)

ユーザー・パスワード (RMTPWD)

ターゲット・システムに送るパスワードを指定します。

***NONE**

システムはパスワードを送信しません。ユーザー・プロファイルプロンプト (RMTUSERパラメーター) にプロファイルが指定されていて、パスワードによる機密保護がターゲット・システムで活動状態である場合には、この値を使用することはできません。

パスワード

RMTUSERパラメーターに指定されたユーザーのサインオンを検査するために、ターゲット・システムに送るパスワードを指定してください。このパスワードは、通信回線を通して送信される前に暗号化されます。

[トップ](#)

呼び出す初期プログラム (RMTINLPGM)

サインオンの直後に呼び出されるプログラムを指定します。

***RMTUSRPRF**

リモート・ユーザー・プロファイルに指定された初期プログラムが、自動サインオンの直後に呼び出されます。

***NONE**

初期プログラムがリモート・ユーザー・プロファイルに指定されていても、初期メニューが表示される前に、プログラムが実行されることはありません。

プログラム

自動サインオンの直後に呼び出されるプログラムの名前を指定します。

[トップ](#)

初期メニュー (RMTINLMNU)

初期プログラムが実行された後で、ターゲット・システムに自動的にサインオンする時に最初に表示するメニューを指定します。

***RMTUSRPRF**

リモート・ユーザー・プロファイルに指定された初期メニューが、初期プログラムが実行された直後に表示されます。

***SIGNOFF**

初期メニューがリモート・ユーザー・プロファイルに指定されていても、初期プログラムが実行された後で、メニューが表示されることはありません。初期プログラムが終了した後は、ユーザーはサインオフされ、パススルー・セッションが終了します。

メニュー

初期プログラムが実行された直後に表示されるメニューを指定します。

[トップ](#)

現行ライブラリー (RMTCURLIB)

自動サインオンの後でジョブのライブラリー・リストの現行ライブラリーになるライブラリーの名前を指定します。

***RMTUSRPRF**

リモート・ユーザー・プロファイルに指定された現行ライブラリーが、自動サインオンの後でライブラリー・リストの現行ライブラリーになります。

ライブラリー

自動サインオンの後でライブラリー・リストの現行ライブラリーになるライブラリーを指定します。

[トップ](#)

表示オプション (PASTHRSCN)

パススルー・セッションが確立される前に、パススルー画面および対応した状況メッセージを表示するかどうかを指定します。

***YES** パススルー・セッションが確立される前に、パススルー画面および情報メッセージが表示されます。

***NO** パススルー・セッションが確立される前に、パススルー画面および情報メッセージは表示されません。

STRPASTHRの例

例1:TORONTOへのパススルー

```
STRPASTHR RMTLOCNAME(*CNNDEV) CNNDEV(DET CHI TOR) VRTCTL(VWSC)
```

このコマンドは、DETROITとCHICAGOを経由することによって、TORONTOシステムへのパススルーの開始を指定します。詳細については、INFORMATION CENTERにある「リモート・ワークステーション・サポート」ブックにあります。

例2:DETROITへのパススルー

```
STRPASTHR RMTLOCNAME(DETROI) VRTCTL(VWSC)
```

このコマンドは、DETROITシステムへのパススルーを指定します。APPNは、DETROITへの経路を確立します。

例3:TORONTOへのパススルー

```
STRPASTHR RMTLOCNAME(DETROI) CNNDEV(CHI TOR) VRTCTL(VWSC)
```

このコマンドは、CHICAGOとDETROITを経由することによって、TORONTOシステムへパススルーする別の方法を指定します。APPNは、DETROITへの経路を確立します。

例4:DETROITへのパススルー

```
STRPASTHR RMTLOCNAME(DETROI) RMTUSER(*CURRENT)
```

このコマンドは、DETROITシステムへのパススルー、およびソース・システム上で現在使用されるのと同じ名前をもつユーザー・プロファイルを使用した自動サインオンを指定します。これはまた、仮想制御装置または仮想装置が指定されていなかったため、DETROITシステムが自動的にパススルー・セッションの仮想装置を構成するよう指定します。

エラー・メッセージ： STRPASTHR

*ESCAPEメッセージ

CPF2702

装置記述&1が見つからない。

CPF2703

制御装置記述&1が見つからない。

CPF5383

装置&4に指定したモード&7が正しくない。

CPF5536

システムはリモート・ロケーションのAPPC装置記述を自動的に選択することはできない。

CPF5546

装置&4のサービス・クラスが正しくない。

CPF8901

仮想装置&1がオンに構成変更されていない。

CPF8902

仮想装置&1が使用可能でない。

CPF8903

パススルーに装置&1は正しくない。

CPF8904

パススルー要求が受け入れられなかった。

CPF8905

このシステムでパススルーを使用することはできない。

CPF8906

セッションの初期設定中にエラー。理由コードは&1です。

CPF8907

装置&1で通信障害が起こった。

CPF8908

制御装置&1はオンに構成変更されなかった。

CPF8909

ソフトウェアのリリースが古い。パススルーは終了します。

CPF8910

パススルーに制御装置&1は正しくない。

CPF8911

通信障害が起こった。セッションは開始されませんでした。

CPF8912

パススルー・セッションが終了した。理由コードは&1です。

CPF8913

パススルーが異常終了した。

CPF8916

システム&2で仮想装置&1を選択することができない。

CPF8917

&1が認可されていない。

CPF8918

システム&1でジョブが取り消された。

CPF8919

装置&1はシステム&2によってアクセスされなかった。

CPF8920

パススルーが正常に実行されなかった。&1をオフにしてからオンに構成変更しなければなりません。

CPF8921

APPCの障害が起こった。障害コードは&3です。

CPF8922

システム&2の装置&1から否定応答を受け取った。

CPF8923

システム&1で受信したデータ・ストリームが正しくない。

CPF8924

仮想制御装置を使用することができない。

CPF8925

装置&1は作成されなかった。

CPF8928

装置&1を変更することができなかった。

CPF8929

装置&1をオンに構成変更することができなかった。

CPF8931

ロケーション&1がAPPCロケーションでない。

CPF8932

装置&1は非ネットワーキングAPPC装置でなければならない。

CPF8933

指定したロケーションへの経路が見つからない。

CPF8935

システム&1へのパススルーを使用することはできない。

CPF8936

機密保護上の理由のためにパススルーが正常に実行されなかった。

CPF8937

自動サインオンを使用することはできない。

CPF8938

QRMTSIGNプログラムにエラーがある。パススルーが正常に実行されなかった。

CPF8939

送信しようとしているデータが多すぎる。

CPF8940

仮想装置を自動的に選択することができない。

CPF8941

パススルーの内部的な使用が正しくない。

CPF8943

サーバーTELNETセッションからパススルーは使用できない。

***STATUS** メッセージ**CPI8901**

リモート・システム上に一致する装置がない。機能が制約されます。

CPI8902

システム&1でパススルーが開始された。

CPI8903

システム&2で仮想装置&1が選択された。

CPI8906

自動サインオンは使用できない。

[トップ](#)

PCコマンドの開始 (STRPCCMD)

実行可能場所:

- 対話式ジョブ (*INTERACT)
- 対話式プログラム (*IPGM)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

PCコマンド開始(STRPCCMD)コマンドによって、接続したパーソナル・コンピュータで単一の適用業務プログラム、DOSコマンド、またはOS/2コマンドを実行することができます。

注: この項目が、(画面自身またはヘルプ情報に) アスタリスク付きで示される「特殊値」でない限り、項目の前にアスタリスクをつけないでください。

エラー・メッセージ: STRPCCMD

なし

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PCCMD	PCコマンド	文字値	必須, 定位置 1
PAUSE	停止	*YES , *NO	オプション

[トップ](#)

PCコマンド (PCCMD)

実行したい有効なDOSコマンド、OS/2コマンド、またはパーソナル・コンピュータ・プログラムを指定します。AS/400コマンド入力行でSTRPCCMDコマンドを使用していて、コマンドまたはプログラム名に特殊文字が入っている場合には、コマンドをアポストロフィで囲まなければなりません。特殊文字には、ブラケット、コンマ、およびコロンが含まれます。

クライアント・アクセス・オーガナイザー・メニューからPCコマンドを開始するオプションを選択した場合には、コマンドがコロンで終わらない限りコマンドをアポストロフィで囲む必要はありません。PCコマンド全体をアポストロフィで囲まない限り、終わりのコロンは無視されます。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

停止 (PAUSE)

コマンドを実行した後で、コンピューターが一時停止する必要があるかどうかを指定します。

指定できる値は、次の通りです。

- *YES** コマンドの実行後、クライアント・アクセス・オーガナイザー・メニューに戻る前に、コンピューターが一時停止します。
- *NO** コマンドの実行後、コンピューターはただちにクライアント・アクセス・オーガナイザー・メニューに戻ります。

トップ

例

なし

トップ

エラー・メッセージ： STRPCCMD

なし

トップ

クライアント・アクセス・オーガナイザーの開始 (STRPCO)

実行可能場所:

- 対話式ジョブ (*INTERACT)
- 対話式プログラム (*IPGM)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クライアント・アクセス・オーガナイザー開始(STRPCO)コマンドは、ホスト・システムのクライアント・アクセス・オーガナイザーを開始します。

注: この項目が、（画面自身またはヘルプ情報に）アスタリスク付きで示される「特殊値」でない限り、項目の前にアスタリスクをつけないでください。

エラー・メッセージ: STRPCO

なし

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PCTA	テキスト援助機能	文字値, <u>YES</u> , *NO	オプション的, 位置 1

トップ

テキスト援助機能 (PCTA)

パーソナル・コンピューター・テキスト援助機能を使用するかどうかを指定します。

指定できる値は、次の通りです。

***YES** パーソナル・コンピューター・テキスト援助機能を使用することになります。

***NO** パーソナル・コンピューター・テキスト援助機能を使用することはありません。

トップ

例

なし

トップ

エラー・メッセージ: STRPCO

なし

[トップ](#)

PERFORMANCE EXPLORERの開始 (STRPEX)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

PERFORMANCE EXPLORER開始(STRPEX)コマンドは、新しいPERFORMANCE EXPLORERセッションを開始するか、または中断されているPERFORMANCE EXPLORERセッションを再開します。

制約事項:

- このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
- このコマンドを使用するには、*SERVICE特殊権限をもっているか、あるいはISERIESナビゲーターのアプリケーション管理サポートを介してオペレーティング・システム/400のサービス追跡機能に許可されていないとできません。また、QIBM_SERVICE_TRACEの機能IDをもつ機能使用法情報の変更(QSYCHFUI) APIも、追跡操作に実行できるユーザーのリストを変更するために使用できます。
- 次のユーザー・プロファイルはコマンドを使用するための専用認可を受けています。
 - QPGMR
 - QSRV
- STRPEXを同時に実行するために、同じジョブ内で2つのスレッドを使用することはできません。最初にSTRPEXを出したスレッドがコマンドの実行を完了するのを、2番目のSTRPEXが待機します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SSNID	セッションID	名前	必須, キー, 定位置 1
OPTION	オプション	*NEW, *INZONLY, *RESUME	オプション, 定位置 2
DFN	定義	名前, *SELECT	オプション
FTR	フィルター	名前, *NONE, *SELECT	オプション

トップ

セッションID (SSNID)

このPERFORMANCE EXPLORERセッションの識別コードを指定します。この名前は、PERFORMANCE EXPLORERツールの活動セッション内で固有でなければなりません。

これは必須パラメーターです。

セッション識別コード

新しいPERFORMANCE EXPLORERセッションまたは中断されたPERFORMANCE EXPLORERセッションのセッション識別コードを指定してください。

[トップ](#)

オプション (OPTION)

新しいセッションを開始するか、あるいは現在中断されているセッションを再開するかを指定します。

これは必須パラメーターです。

***NEW** PERFORMANCE EXPLORERツールの新しいセッションが開始されます。セッションが確立されると、即時にパフォーマンス・データの収集が始まります。

***INZONLY**

新しいPERFORMANCE EXPLORERセッションが開始されますが、セッションが確立されると、中断されます。このオプションによって、ユーザーはモニターするシナリオが始まる前に特定のセッションのセットアップを実行することができます。データ収集を開始するためには、同じセッションIDおよびOPTION(*RESUME)を指定して、もう一度このコマンドを呼び出さなければなりません。

***RESUME**

中断されたPERFORMANCE EXPLORERセッションが再開されます。このセッションは、ENDPEXコマンドにOPTION(*SUSPEND)を指定するか、あるいは前のSTRPEXコマンドにOPTION(*INZONLY)を指定することによって中断されています。

[トップ](#)

定義 (DFN)

新しいPERFORMANCE EXPLORERセッションの開始時に使用するPERFORMANCE EXPLORER定義の名前を指定します。この定義は、収集されるパフォーマンス・データを識別します。新しいPERFORMANCE EXPLORERセッションを開始するためには、このパラメーターが必要です。中断されたセッションにはすでに関連したPERFORMANCE EXPLORER定義があるので、中断されたPERFORMANCE EXPLORERセッションの再開時にこのパラメーターを指定することはできません。

定義名 PERFORMANCE EXPLORER定義の名前を指定してください。

[トップ](#)

フィルター (FTR)

新しいPERFORMANCE EXPLORERセッションの開始時に使用するPERFORMANCE EXPLORERフィルターの名前を指定します。このフィルターは、イベントの実際のデータと比較するフィルター値に基づいて収集されるイベントを判別します。フィルターが指定されない場合には、その定義中のすべてのイベントが収集されます。中断されたセッションの再開時には、このパラメーターを指定することはできません。

***SELECT**

既存のフィルターのリストがユーザー選択用に表示されます。この値が有効となるのは、そのコマンドを対話式ジョブで実行する場合だけです。

フィルター名

PERFORMANCE EXPLORER フィルターの名前を指定してください。

[トップ](#)

STRPEXの例

例1: 新しいセッションの開始

```
STRPEX  SSNID(TESTRUN2)  DFN(NEWDESC)  OPTION(*NEW)
        FTR(MYFILTER)
```

このコマンドは、NEWDESCという名前の定義で識別される基準とMYFILTERという名前のフィルターを使用して、PERFORMANCE EXPLORER の新しいセッションを開始します。新しいセッションの名前はTESTRUN2です。

例2: 中断されたセッションの再開

```
STRPEX  SSNID(TESTRUN1)  OPTION(*RESUME)
```

このコマンドは、TESTRUN1という名前のPERFORMANCE EXPLORER の既存のセッションを再開します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： STRPEX

エラー・メッセージ： RMVPEXDFN

*ESCAPE メッセージ

CPFAF05

STRPEXコマンドが正常に実行されませんでした。理由コードは&1です。詳細については、明細を参照してください。

CPFAF11

定義またはフィルターで指定したプログラム、オブジェクト、ライブラリー、またはファイル・メンバーが見つかりません。

[トップ](#)

パフォーマンス収集の開始 (STRPFRCOL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パフォーマンス収集開始(STRPFRCOL)コマンドは、収集サービスによるシステム・レベルのパフォーマンスデータ収集を開始します。システム・レベルの収集のプロパティは、収集サービス構成によって制御され、これはパフォーマンス収集の構成(CFGPFRCOL)コマンドを使用して変更することができます。システム・レベルの収集に含まれるデータは、収集プロファイル・パラメーターで指定された値によって決定されます。

パフォーマンス・データ収集は、収集サービスのサーバー・ジョブ(QYPSPFRCOL)によって実行されます。このジョブが活動状態でない場合には、このコマンドの結果として開始されます。このジョブが活動状態の場合には、収集プロファイルへの変更は即時有効となり中断することなく収集が継続されます。

QYPSPFRCOLは、パフォーマンス・データを保管する管理収集オブジェクト(*MGTCOL)を作成します。収集されるデータには、システム・レベルの収集プロファイルのカテゴリと、クライアント・アプリケーション（たとえば、ISERIESナビゲーター・モニターやパフォーマンス・データ収集プログラムAPIなど）のために収集されるデータの両方が含まれます。すべてのデータが現行管理収集オブジェクトに保管されます。このデータは、パフォーマンス・データ作成(CRTPFRDTA)コマンドを使用して処理され、パフォーマンス・データベース・ファイルが生成されます。

パフォーマンス収集を反復するすることによって、収集サービス・サーバー・ジョブは、指定された収集プロファイルを実装する前に、新しい管理収集オブジェクトを作成します。注: 反復によって、1つの間隔のデータが失われることがあり、収集サービスを使用しているクライアント・アプリケーションに影響が及ぶこともあります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
COLPRF	収集プロファイル	*CFG, *MINIMUM, *STANDARD, *STANDARDP, *ENHCPCPLN, *CUSTOM	オプション、位置 1
CYCCOL	収集の循環	*NO, *YES	オプション、位置 2

[トップ](#)

省略時収集プロファイル (COLPRF)

収集プロファイルを指定します。これは、システム・レベルの収集に含めるカテゴリを決定します。このパラメーターのプロファイルを指定すると、収集サービス構成の省略時の収集プロファイルが変更されます。省略時の収集プロファイルは、パフォーマンス収集の構成(CFGPFRCOL)コマンドを使用して変更することもできます。

***CFG** 収集では、現在構成されている値が使用されます。構成された値が変更されていない場合には、その収集プロファイルが*STANDARDPになります。

*MINIMUM

推奨される最小のデータ収集。次のカテゴリが含まれます。*SYSBUS, *POOL, *HDWCFG, *SYSCPU, *SYSLVL, *JOBMI, *JOBOS, *DISK,および*IOPBASE。

*STANDARD

標準プロファイルには、通信データを除く、通常ISERIESのパフォーマンス・ツールで必要となるすべてのカテゴリが含まれます。これには、*MINIMUMプロファイルのすべてのカテゴリだけでなく、次のカテゴリも含まれます。*POOLTUNE, *SUBSYSTEM, *SNADS, *LCLRSP, *APPN, *SNA, *TCPBASE, *USRTNS,および*LPAR。システムにDOMINO FOR ISERIESプロダクトが導入されている場合には、カテゴリ*DOMINOが含まれます。システムにIBM HTTP SERVER FOR ISERIESプロダクト(APACHEで稼働)が導入されている場合には、カテゴリ*HTTPが含まれます。

*STANDARDP

標準プラス・プロファイルには、通信データを含む、通常PERFORMANCE TOOLS FOR ISERIESで必要となるすべてのカテゴリが含まれます。これには、*STANDARDプロファイルのすべてのカテゴリだけでなく次のカテゴリが含まれます。*IPCS, *CMNBASE, *CMNSTN, *CMNSAP, *TCPIFC,および*DPS。

*ENHCPCPLN

拡張能力計画担当者プロファイルには、*INTPEXを加えた*STANDARDPプロファイルのすべてのカテゴリが含まれます。

*CUSTOM

カスタム・プロファイルには、ユーザーが定義したカテゴリが含まれます。このプロファイルは、ISERIESナビゲーターの収集サービス機能を使用して定義されなければなりません。

[トップ](#)

収集の循環 (CYCCOL)

収集が反復されるかどうかを指定します。収集が反復されると、データは新しい管理収集オブジェクト(*MGTCOL)で収集されます。

***NO** データは、現行の収集オブジェクトで引き続き収集されます。

***YES** データは、新しい収集オブジェクトで収集されます。

[トップ](#)

STRPFRCOLの例

例1: パフォーマンス収集の開始

STRPFRCOL

このコマンドは、収集サービス・サーバー・ジョブ(QYPSPFRCOL)を開始に、現在構成されている省略時の収集プロファイルを使用して、システム・レベルのパフォーマンス・データの収集を開始させます。

例2: 収集プロファイルおよび反復収集の開始

STRPFRCOL COLPRF(*MINIMUM) CYCCOL(*YES)

このコマンドは、収集サービス・サーバー・ジョブ(QYPSPFRCOL)を反復させ、*MINIMUM収集プロファイルを使用して、新しい管理収集オブジェクト(*MGTCOL)のパフォーマンス・データの収集を開始させます。注: このコマンドは、構成された省略時の収集プロファイルも*MINIMUMに変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: STRPFRCOL

*ESCAPE メッセージ

CPF3CF2

&1 APIの実行中にエラーが起こった。

CPFB94A

収集プログラムの通信エラー。理由コードは&1です。

[トップ](#)

パフォーマンス追跡の開始 (STRPFRTRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パフォーマンス追跡開始(STRPFRTRC)コマンドは、マルチプログラミング・レベル(MPL)およびトランザクション追跡データを収集するTRCINT コマンドに対する単純化インターフェースです。このコマンドによって、パフォーマンス・モニター開始(STRPFRMON)コマンドにより前のリリースで収集されたのと同じ追跡データが収集されます。

このコマンドで開始された追跡は、追跡テーブルQPM_STRPFRTRC を作成し、使用します。この追跡テーブルが存在する場合には、既存のデータがあると、この追跡が開始される前に削除されます。

この追跡は、パフォーマンス追跡終了(ENDPFRTRC)コマンドを使用して停止し、データをデータベース・ファイルに書き込むことができます。

制約事項:

- このコマンドは共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
- 次のユーザー・プロファイルはコマンドを使用するための私用認可を受けています。
 - QSRV

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SIZE	追跡テーブル・サイズ	単一値: * CALC , *MAX その他の値: 要素リスト	オプションル, 定位置 1
	要素 1: 単位数	1-998000	
	要素 2: 計測単位	* KB , *MB	
OMTTRCPNT	追跡ポイントの省略	* NONE , *RSCMG	オプションル
JOBTYPE	ジョブ・タイプ	単一値: *NONE, *ALL その他の値 (最大 12 回の繰り返し): * DFT , *ASJ, *BCH, *EVK, *INT, *MRT, *RDR, *SBS, *SYS, *WTR, *PDJ, *PJ, *BCI	オプションル
JOBTRCIV	ジョブ追跡間隔	0.1-9.9, 0.5	オプションル

[トップ](#)

追跡テーブル・サイズ (SIZE)

追跡テーブルのサイズを指定します。

注: このパラメーターに示された記憶域は、システム補助記憶域プール(ASP 1)から直ちに割り振られません。追跡テーブル・サイズの設定に関する追加情報については、内部追跡(TRCINT)コマンドのSIZEパラメーターを参照してください。

16メガバイトより小さいサイズの指定は推奨されません。

単一値

***CALC**

最大追跡テーブル・サイズは、システムのプロセッサ・グループに基づいて決定されます。

***MAX** 追跡テーブルは最大サイズの258048メガバイトに設定されます。

要素1: 単位数

追跡テーブルのサイズを指定してください。

1-998000

追跡テーブルのサイズをキロバイトまたはメガバイトで指定してください。

要素2: 計測単位

このパラメーターの最初の要素に指定された値をキロバイト数またはメガバイト数のいずれで扱うかを指定します。

***KB** 追跡テーブル・サイズはキロバイトで指定されます。有効な値の範囲は128 - 998000です。

***MB** 追跡テーブル・サイズはメガバイトで指定されます。有効な値の範囲は1 - 258048です。

[トップ](#)

追跡ポイントの省略 (OMTTRCPNT)

追跡レコードが除外される追跡ポイントを指定します。

***NONE**

追跡ポイントは除外されません。

***RSCMGT**

資源管理追跡ポイント(競合データの獲得/ロック)は追跡から除外されます。

[トップ](#)

ジョブ・タイプ (JOBTYPE)

バッチ・ジョブ追跡報告書で使用するために追跡データが収集されるジョブのタイプを指定します。

注: 値*DFTには値*ASJ, *BCH, *EVK, *MRT, *PDJ, *PJ,および*BCIが含まれます。値*BCHには値*EVK, *MRT, *PDJ, *PJ,および*BCIが含まれます。

単一値

***NONE**

ジョブは追跡されません。

***ALL** すべてのジョブが追跡されます。

その他の値（繰り返し12回まで）

- ***DFT** バッチおよび自動開始ジョブが追跡されます。
- ***ASJ** 自動開始ジョブが追跡されます。
- ***BCH** バッチ・ジョブが追跡されます。
- ***EVK** プロシージャ開始要求によって開始されたジョブが追跡されます。
- ***INT** 対話式ジョブが追跡されます。
- ***MRT** 複数要求元端末ジョブが追跡されます。
- ***RDR** 読み取りプログラム・ジョブが追跡されます。
- ***SBS** サブシステム・モニター・ジョブが追跡されます。
- ***SYS** システム・ジョブが追跡されます。
- ***WRT** 書き出しプログラム・ジョブが追跡されます。
- ***PDJ** 印刷ドライバー・ジョブが追跡されます。
- ***PJ** 事前開始ジョブが追跡されます。
- ***BCI** バッチ即時ジョブが追跡されます。

[トップ](#)

ジョブ追跡間隔 (JOBTRCITV)

ジョブ追跡データの各収集間に使用される時間間隔(CPUの秒数) を指定します。

0.5 タイム・スライスの間隔値0.5 CPU秒が使用されます。

0.1-9.9

使用される追跡間隔をCPUの秒数で指定します。

[トップ](#)

STRPFRTRCの例

STRPFRTRC SIZE(*CALC)

このコマンドは、パフォーマンス追跡データの収集を開始します。追跡テーブル・サイズは、計算された最小値に調整することができます。この例は、STRPFRMON TRACE(*ALL) DMPTRC(*NO)と同じ追跡テーブル・サイズおよびデータとなります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： STRPFRTRC

***ESCAPE**メッセージ

CPF0A2A

パフォーマンス追跡はすでに開始されている。

他のメッセージについては、TRCINTコマンドも参照してください。

[トップ](#)

プログラム・エクスポート・リストの開始 (STRPGMEXP)

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム・エクスポート・リストの開始(STRPGMEXP)バインダー定義ステートメントは、サービス・プログラム・エクスポート・ブロック中のエクスポートのリストを開始します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PGMLVL	プログラム・レベル	<u>*CURRENT</u> , *PRV	オプションル, 位置 1
LVLCHK	インターフェース識別値レベル検査	<u>*YES</u> , *NO	オプションル, 位置 2
SIGNATURE	インターフェース識別値	文字値, <u>*GEN</u>	オプションル, 位置 3

[トップ](#)

プログラム・レベル (PGMLVL)

このエクスポート・ブロックのサービス・プログラム・レベルを指定します。

*CURRENT

このサービス・プログラム・エクスポート・ブロックには、現行サービス・プログラムのエクスポートが入っています。

***PRV** このサービス・プログラム・エクスポート・ブロックには、前のバージョンのサービス・プログラムのエクスポートが入っています。

[トップ](#)

インターフェース識別値レベル検査 (LVLCHK)

エクスポート・ブロックでレベル・チェックを実行するかどうかを指定します。

***YES** サービス・プログラム・エクスポート・ブロックは、ゼロ以外の署名を生成することによってレベル・チェックが行なわれます。

***NO** サービス・プログラム・エクスポート・ブロックはレベル・チェックが行なわれません。ゼロの署名が生成されます。

[トップ](#)

インターフェース識別値 (SIGNATURE)

エクスポート・ブロックの署名を指定します。

***GEN** インターフェース識別値レベル検査 (LVLCHK)パラメーターに*YESを指定した場合に、システムは、エクスポート・ブロックについてゼロ以外の署名を生成します。LVLCHKパラメーターに*NOを指定した場合には、この値が必要であり、システムはエクスポート・ブロックについてゼロの署名を生成します。

16進数文字値

エクスポート・ブロックの署名値は、指定の16進数字に設定され、システムによっては生成されるわけではありません。指定された値の長さが16進数字の32桁より小さい場合には、システムは32桁より左側に16進数のゼロを埋め込みます。指定された値の長さが16進数の32桁より大きい場合には、システムは16進数が32桁になるまで右側を切り捨てます。

文字値 エクスポート・ブロックの署名値は、指定の署名値のEBCDIC文字コードに設定され、システムによっては生成されません。署名値の長さが16文字より小さい場合には、システムは16文字まで右側にスペースを埋め込みます。署名値の長さが16文字より大きい場合には、システムは16文字の右側を切り捨てます。

[トップ](#)

STRPGMEXPの例

```
STRPGMEXP  PGMLVL(*CURRENT)  LVLCHK(*YES)  SIGNATURE(*GEN)
```

このバインダー定義ステートメントは、サービス・プログラム用にエクスポートされる変数またはプロシージャのリストの先頭をマークします。このサービス・プログラム・エクスポート・ブロックには、現行サービス・プログラムのエクスポートが入っています。レベル検査は、オペレーティング・システムによって生成された署名を使用して実行されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： STRPGMEXP

なし

[トップ](#)

プログラマー・メニュー開始 (STRPGMMNU)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラマー・メニュー開始(STRPGMMNU)コマンドは、プログラマー・メニューを表示します。このコマンドは、CALL QPGMMENUの機能の代わりに使用され、プログラマー・メニューの関連フィールドに現れるデータを指定および制御するためのパラメーターを渡すことができます

注:

- オプション3が選択された時には、ジョブを投入する代わりにユーザー出口プログラムを呼び出すことができます。
- 最初の4つのパラメーターは、初めてメニューが表示された時に現れる、省略時の値を制御するものです。

プログラマー・メニューの使用法に関する詳細は、CLプログラミング (SD88-5038)にあります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SRCFILE	ソース・ファイル	名前, <u>*DFT</u>	オプションル, 位置 1
SRCLIB	ソース・ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	オプションル, 位置 2
OBJLIB	目的ライブラリー	名前, <u>*DFT</u> , *CURLIB	オプションル, 位置 3
JOBID	ジョブ記述	名前, <u>*USRPRF</u>	オプションル, 位置 4
ALWUSRCHG	変更可能	<u>*YES</u> , *NO	オプションル
EXITPGM	オプション 3(プログラム終了) 修飾子 1: オプション 3(プログラム終了) 修飾子 2: ライブラリー	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 修飾オブジェクト名 名前 名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	オプションル
DLTOPT	削除オプション	<u>*DLT</u> , *PROMPT, *NODLT	オプションル

トップ

ソース・ファイル (SRCFILE)

更新するソース・ファイル・メンバーが入っているか、新規ソース・ファイル・メンバーの追加先である既存ソース・ファイルを指定します。

***DFT** これは、メニューに指定されているタイプの省略時の値です。このフィールドは、画面に表示される時点では、空白です。

名前 更新するソース・ファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

ソース・ライブラリー (SRCLIB)

ソース・ファイルが検索されるライブラリーを指定します。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ソース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

目的ライブラリー (OBJLIB)

オブジェクトを入れるライブラリーを指定します。

***DFT** このフィールドには空白が表示されます。使用されるライブラリーは、ユーザーが選択したメニュー・オプションによって決まります。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーは、オブジェクトを入れるライブラリーです。

名前 作成されたオブジェクトを入れるライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ記述 (JOBID)

投入しようとするジョブで使用されるジョブ記述を指定します。

***USRPRF**

STRPGMMNUコマンドを実行中のユーザーのユーザー・プロファイルに定義されたジョブ記述がジョブに使用されます。

名前 ジョブで使用するジョブ記述の名前を指定してください。このジョブ記述はジョブで使用されるライブラリー・リストによって検索されます。

[トップ](#)

変更可能 (ALWUSRCHG)

このコマンドの中の前のパラメーターで指定したメニュー表示フィールドを、ユーザーが変更できるかどうかを指定します。

***YES** 画面上の値を変更することができます。

***NO** 表示フィールドを変更することはできません。

トップ

オプション 3(プログラム終了) (EXITPGM)

メニュー・オプション3を選択している場合、バッチ・ジョブを投入する代わりに出口プログラムとして呼び出されるユーザー作成プログラムを指定します。出口プログラムは呼び出されると、プログラマー・メニューによって送られるパラメーターを受け取ります。EXITPGMパラメーターの詳細は、CLプログラミング (SD88-5038)にあります。

単一値

***NONE**

ユーザー作成プログラムは呼び出されません。バッチ・ジョブが投入されます。***NONE**を指定する場合は、***DLT**を削除オプション (**DLTOPT**)パラメーターに指定しなければなりません。

修飾子1: オプション 3(プログラム終了)

名前 バッチ・ジョブとして作成コマンドを投入する代わりに、オプション3が選択された時に呼び出されるプログラムの名前を指定してください。このパラメーターに値が指定されている場合には、オプション3のメニューに表示されるテキストには、エグジット・プログラムの名前およびライブラリーが示されます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、**QGPL**が使用されます。

名前 プログラムが入っているライブラリーを指定してください。

トップ

削除オプション (DLTOPT)

次の場合の処置を指定します。

- プログラム名が **オプション 3(プログラム終了) (EXITPGM)**パラメーターに指定されている場合。
- プログラマー・メニューのオプション3が選択された場合。
- 作成する名前およびタイプのオブジェクトが、メニューで指定されたライブラリー中にすでに存在している場合。

指定された値にかかわらず、システムは、オブジェクトが存在しているかどうかを指定するパラメーター (プログラマー・メニューから渡されるパラメーターの1つ) を出口プログラムに渡します。

DLT** この値は、EXITPGMパラメーターにNONE**を指定した場合に指定しなければなりません。出口プログラムがEXITPGMパラメーターに指定されていて、オプション3で作成するように指定されたオブジェクトが存在していて、さらに実行キーが押された場合には、「続行するためにはF11キー

を押してください」というメッセージが表示されます。F11キーが押されると、システムは、出口プログラムによって指定されたプログラムを呼び出す前に、そのオブジェクトを削除または置き換えます。出口プログラムが指定されていない場合は、これが通常のプログラマー・メニュー機能です。

注:

1. *DLT値が指定されると、ジョブが投入される前、またはユーザー出口プログラムが呼び出される前に、オブジェクトが削除または置き換えられます。
2. ソース仕様タイプが次の1つである場合には、オブジェクトは削除ではなく置き換えられます（置き換えではなく削除するには出口プログラムを使用する必要があります）。

BAS	C	CBL
CBL36	CLP	DSPF
DSPF36	FTN	ICFF
MNU36	MSGF36	PAS
PLI	PRTF	RPG
RPG36	RPT36	

***PROMPT**

システムはオブジェクトを削除も置き換えもしませんが、オブジェクトの削除の承諾を求めてきます。オブジェクトが存在していて、実行キーが押されると、メッセージが表示されます。F11キーを押して続行しますが、システムはオブジェクトを削除しません。ユーザーがオブジェクトの削除または置き換えを確認しますが、それでもまだ削除は出口プログラムによって制御されます。

***NODLT**

オブジェクトの存在とは関係なく、ユーザー出口プログラムが呼び出されます。

表 1. 図: テーブル1. 出口プログラムの呼び出し時にシステムが実行する処置

DLTOBJ 指定	F11 必要	削除オ ブジェ クト	出口プロ グラムに 渡される 値
オプション3が 選択されていた 場合に オブジェクトが 終了すると			
*DLT	はい	はい	1
*PROMPT	はい	いいえ	0
*NODLT	いいえ	いいえ	0
オプション3が 選択されていた 場合に オブジェクトが 終了しないと			
*DLT	いいえ	---	2
*PROMPT	いいえ	---	2
*NODLT	いいえ	---	2

トップ

例

例1:プログラマー・メニューの表示

```
STRPGMMNU
```

このコマンドは、すべてのパラメーターに対する省略時の値をもつ「プログラマー・メニュー」を表示します。これはCALL QPGMMENUと入力するのと同じ結果になります。

例2:値の変更の防止

```
STRPGMMNU  SRCFILE(YOURFILE)  SRCLIB(YOURLIB)  OBJLIB(YOURLIB)
             JOB(YOURJOB)    ALWUSRCHG(*NO)
```

このコマンドは、メニュー上の値がコマンドに指定された値から変更されることを防ぎます。

例3:出口プログラムの呼び出し

```
STRPGMMNU  EXITPGM(OPT3PGM)  DLTOPT(*PROMPT)
```

このコマンドは、オプション3が指定されている場合に、バッチ・ジョブを投入する代わりにユーザー出口プログラムOPT3PGMを呼び出します。オブジェクトがすでに存在している場合は、DLTOPT(*PROMPT)はユーザーがF11キーを押すことを必要としますが、そのオブジェクトは削除されません。

例4:パラメーターの受け取り

制御言語プログラムの以下の部分は、パラメーターをユーザー出口プログラムによって受け取る方法の例です。指定されるタイプがリストされたタイプの1つであると、そのオブジェクトは削除されません。

REPLACE(*YES)が指定された作成コマンドが出口プログラムに渡されます。出口プログラムに渡される値は0です。

```
PGM  PARM(&OPTION &PARM &TYPE &PARM2 &SRCFILE +
      &SRCLIB &OBJLIB &JOB &RQSLEN &RQSDTA512 +
      &F4 &F11 &EXIST)
/*以下の値は、「プログラマー・メニュー」に*/
/*表示されるのと同様に、正確に渡されます。*/
DCL  VAR(&OPTION)  TYPE(*CHAR)  LEN(2)
DCL  VAR(&PARM)    TYPE(*CHAR)  LEN(10)
DCL  VAR(&TYPE)    TYPE(*CHAR)  LEN(10)
DCL  VAR(&PARM2)   TYPE(*CHAR)  LEN(21)
DCL  VAR(&SRCFILE) TYPE(*CHAR)  LEN(10)
DCL  VAR(&SRCLIB)  TYPE(*CHAR)  LEN(10)
DCL  VAR(&OBJLIB)  TYPE(*CHAR)  LEN(10)
DCL  VAR(&JOB)     TYPE(*CHAR)  LEN(10)
/*以下の値は上のフィールドおよび機能キーに*/
/*入力された情報からQPGMMENUによって*/
/*得られます。*/
/*要求データのバイト数*/
DCL  VAR(&RQSLEN)  TYPE(*DEC)  LEN(3 0)
/* SBMJOBコマンドのRRQSDTAパラメーターのデータ*/
DCL  VAR(&RQSDTA512) TYPE(*CHAR) LEN(512)
/* F4が押されると'1',そうでなければ'0'。*/
DCL  VAR(&F4)      TYPE(*CHAR)  LEN(1)
/* F11押されると'1',そうでなければ'0'。*/
DCL  VAR(&F11)     TYPE(*CHAR)  LEN(1)
/* オブジェクト存在- '0' オブジェクト削除済み- '1' オブジェクトなし-'2'*/
DCL  VAR(&EXIST)   TYPE(*CHAR)  LEN(1)
```

追加情報は、EXITPGMパラメーターが指定されたSTRPGMMNUコマンドの例と一緒に、INFORMATION CENTERの**CLプログラミング・ブック**で見つけることができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

プログラム・プロファイリングの開始 (STRPGMPRF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム・プロファイル作成開始(STRPGMPRF)コマンドは、プログラム変更(CHGPGM)またはサービス・プログラム変更(CHGSRVPGM)コマンドでPRFDTA(*COL)を指定するか、コンパイラーによってモジュールが作成された時か、モジュール変更(CHGMOD) CLコマンドでPRFDTA(*COL)を指定するかしてプロファイル・データの収集が可能になっているILEプログラムまたはサービス・プログラムについて、そのプロファイル情報の収集を開始します。このオプションでコンパイルまたは変更され、活動状態になっているプログラムはすべて、プログラム・プロファイル作成終了(ENDPGMPRF)コマンドが出されるまで、更新されたプロファイル情報をもつことになります。

プロファイル情報が既存のプロファイル情報に追加されます。これを望まない場合には、CHGPGMまたはCHGSRVPGMコマンドでPRFDTA(*CLR)を指定することによって、プロファイル・データを消去することができます。

制約事項:

- このコマンドは、共通(*EXCLUDE)権限なし、およびコマンドに対する使用(*USE)権限をもつQPGMRユーザー・プロファイル付きで出荷されます。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

STRPGMPRFの例

STRPGMPRF

このコマンドは、プログラム・プロファイル情報の収集を開始します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: STRPGMPRF

*ESCAPEメッセージ

CPF5CAA

プログラムのプロファイル作成中に予期しないエラーが起こった。

[トップ](#)

事前開始ジョブの開始 (STRPJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

事前開始ジョブ開始(STRPJ)コマンドは、この事前開始ジョブ項目に現在活動状態の事前開始ジョブがない時に活動サブシステム中で事前開始ジョブ項目のジョブを開始します。

このコマンドが有効なのは、ENDPJコマンドが完了した後か、あるいはすべての事前開始ジョブがエラーのためにシステムによって終了されたか、またはADDPJEコマンドにSTRJOBS(*NO)が指定されているために、サブシステムの開始中はすべての事前開始ジョブが決して開始されない場合です。開始されるジョブの数は、事前開始ジョブ項目のINLJOBS値によって決まります。

制約事項:

- このコマンドを使用するためには、以下の権限が必要です。
 - サブシステム記述に対する使用(*USE)権限、およびそのサブシステム記述を含むライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
 - 指定したプログラムに対する使用(*USE)権限、およびそのプログラムを含むライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SBS	サブシステム	名前	必須, 定位置 1
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

[トップ](#)

サブシステム (SBS)

事前開始ジョブ項目が入っている活動サブシステムの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 事前開始ジョブ項目が入っている活動サブシステムの名前を指定してください。

[トップ](#)

プログラム (PGM)

事前開始ジョブ項目を識別するプログラムの名前を指定します。このプログラム名は、入力される要求と突き合わせるために使用されます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: プログラム

名前 事前開始ジョブ項目を識別するプログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 プログラムのライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

STRPJの例

STRPJ SBS(SBS1) PGM(PJLIB/PJPGM)

このコマンドは、サブシステムSBS1内で、事前開始ジョブ項目PJPGMの事前開始ジョブを開始します。このコマンドが出された時、サブシステムSBS1が活動していなければなりません。開始されるジョブの数は、事前開始ジョブ項目PJPGMのINLJOBS値に指定された数です。サブシステムはライブラリーPJLIB内のプログラムPJPGMを開始します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: STRPJ

*ESCAPE メッセージ

CPF0921

事前開始ジョブ開始コマンドは現在許可されない。

CPF1226

事前開始ジョブの開始が正常に実行されなかった。

CPF1227

コマンドの使用権限が認可されていない。

CPF1317

ジョブ&3/&2/&1に対して、サブシステムから応答がない。

CPF1351

ジョブ&3/&2/&1のサブシステムで機能チェックが起こった。

CPF1834

プログラム&1の事前開始ジョブ項目が&2に存在していない。

CPF1835

サブシステム記述が認可されていない。

[トップ](#)

印刷装置エミュレーション開始 (STRPRTEML)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

印刷装置エミュレーション開始(STRPRTEML)コマンドは、2進データ同期通信(BS C)またはシステム・ネットワーク体系(SNA)のエミュレーション印刷装置および印刷装置ファイルを使用している3270印刷装置エミュレーションを開始します。ホスト・システム(SYSTEM/370タイプ)の情報をISERIESシステムで印刷するためには、STRPRTEML コマンドを使用します。これは、ユーザーがISERIESシステムで作業していて、情報がSYSTEM/370タイプのシステムにある時に使用します。

詳細は3270 DEVICE EMULATION SUPPORT (SC41-5408)にあります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
EMLCTL	エミュレーション制御装置または	名前	オプション、位置 1
EMLDEV	エミュレーション装置または	名前	オプション、位置 2
EMLLOC	エミュレーション・ロケーション	通信名	オプション、位置 3
PRTDEV	印刷装置	名前	オプション
JOB	ジョブ名	名前, *EMLDEV	オプション
ENDBKTEJT	ブラケット・イジェクト終了	*NO, *YES	オプション
PRTFILE	印刷出力ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 印刷出力ファイル	名前, QPEMPRTF	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TIMOUTEJT	イジェクト待ちタイムアウト	単一値: *NONE, *IMMED その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 分	0-99	
	要素 2: 秒数	0-59, 0	
DFRPRTOU	スプール出力の印刷据え置き	*PRTFILE, *YES, *NO	オプション
SPOOL	スプール出力	*PRTFILE, *YES, *NO	オプション
OPNPRTF	印刷装置ファイルのオープン	*IMMED, *RCVDTA	オプション
NUMCOL	印刷桁数/行	1-378, *PRTFILE	オプション
NUMLIN	1 ページ当たりの行数	1-255, *PRTFILE	オプション
LPI	行/インチ	*PRTFILE, 6, 3, 4, 7.5, 7.5, 8, 9	オプション
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *DSPDEV, *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
CHRSET	言語文字セット	*SYSVAL , AGB, AGE, AGI, AGM, ALI, ALM, BGB, BGE, BLI, BLM, BRB, BRE, CAB, CAE, CAI, CAM, CLB, CLE, CYB, CSB, CSE, DMB, DMI, DME, DMM, ESB, FAB, FAI, FAE, FAM, FNB, FNI, FQB, FQI, FNE, FNM, ICE, GKB, GNB, GNE, HIB, HNB, HNE, ICB, ICI, ICM, INB, INI, IRB, ITB, ITE, ITI, ITM, JEB, JEI, JKB, JPB, JPE, JUB, KAB, KOB, LTB, LAE, LVB, MKB, MKE, NCB, NCE, NEB, NEI, NEE, NEM, NWB, NWE, NWI, NWM, PKE, PLB, PLE, PRB, PRI, PRE, PRM, RCB, RMB, RME, ROB, ROE, RUB, RUE, SFI, SFM, SGM, SGI, SKB, SKE, SPB, SPE, SPI, SPM, SQB, SQE, SSB, SSI, SWB, SWI, SSE, SSM, SWE, SWM, TAB, THB, THE, TKB, TKE, TRB, TRE, UAE, UKB, UKI, USB, USI, UKE, UKM, USE, USM, VNE, YGI, YGM, *TRNTBL	オプション
SBMJOB	ジョブ投入	*YES , *NO	オプション
JOB	ジョブ記述	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, *QBATCH	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
TRNTBLOUT	出力変換テーブル	単一値: *CHRSET その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力変換テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
JOBQ	ジョブ待ち行列	単一値: *JOB その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
ENDCOND	エミュレーションの終了条件	単一値: *NONE その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *DACTLU, *ENDBKT, *UNBIND	オプション
FORMFEED	確認された用紙送り	*YES , *NO	オプション
EMLCFG	構成項目	名前, QEMDFTCFG, *NONE	オプション

トップ

エミュレーション制御装置 (EMLCTL)

3270印刷装置エミュレーション装置記述が接続されているBSC制御装置記述またはSNA制御装置記述の名前を指定します。このパラメーターが指定された時には、印刷装置エミュレーション・ジョブは、この制御装置記述に接続された3270印刷装置エミュレーションを使用します。要求元は、制御装置および少なくとも1つの装置に対して権限をもっている必要があります、装置は使用可能でなければなりません。

このパラメーター、エミュレーション装置 (EMLDEV)パラメーター、または エミュレーション・ロケーション (EMLLOC)パラメーターのいずれかが必要です。

トップ

エミュレーション装置 (EMLDEV)

タイプ3270印刷装置エミュレーションを実行するために印刷装置エミュレーション・ジョブによって使用されるBSCまたはSNA印刷装置エミュレーション装置(EMLDEV(3284, 3286, 3287, 3288,または3289))の名前を指定します。ユーザーはこの装置に対して認可されていなければならず、またこの装置が使用可能になっていなければなりません。

トップ

エミュレーション・ロケーション (EMLLOC)

3270印刷装置エミュレーション装置のロケーションを記述するエミュレーションリモート・ロケーション名を指定します。この名前は装置記述の構成時に定義され、通信が行なわれるリモート・ロケーションを示します。このパラメーターを指定した場合には、使用可能な印刷装置エミュレーション装置が指定されたロケーションから選択されます。指定されたロケーションには少なくとも1台の印刷装置エミュレーション装置が使用可能である必要があり、エミュレーションを実行するジョブが装置の使用を認可されていなければなりません。

このパラメーター、**エミュレーション制御装置 (EMLCTL)**パラメーター、または**エミュレーション装置 (EMLDEV)**パラメーターのいずれかが必要です。

トップ

印刷装置 (PRTDEV)

出力を印刷するためにこの印刷装置ファイルで使用される印刷装置の名前を指定します。印刷装置データがスプールされる場合には、このパラメーターは無視されます。出力がスプールされないで、ジョブの開始時に印刷装置が使用されている場合には、エミュレーション・セッションは終了します。

注: 印刷装置名を指定しない場合には、出力は印刷装置ファイル作成(CRTPRTF)コマンドの**装置 (DEV)**パラメーターに指定された印刷装置に送られます。ファイル記述表示 (DSPFD)コマンドを使用して、この印刷装置を表示することができます。

トップ

ジョブ名 (JOB)

印刷装置エミュレーション・ジョブのジョブ名を指定します。EMLDEVパラメーターが指定されていなくて、バッチ・ジョブが投入された (**ジョブ投入 (SBMJOB)**パラメーターに*YESが指定されている) 場合には、ジョブ名を指定しなければなりません。このパラメーターは、SBMJOBパラメーターに*NOを指定した時は無視されます。

***EMLDEV**

ジョブ名は印刷装置エミュレーション装置名と同じです。

ジョブ名

この印刷装置エミュレーション・ジョブの名前を指定してください。

トップ

ブラケット・イジェクト終了 (ENDBKTEJT)

ホスト・システムからSNAブラケット終了(EB)が受信された時にSNA印刷装置エミュレーションでエミュレーション出力を強制的に書き出すかどうかを指定します。エミュレーション出力は、PRTFILEパラメーターに指定されたエミュレーション印刷装置ファイルをクローズしてから、再オープンすることによって強制的に書き出されます。エミュレーション印刷装置出力が拒否された時には、ページ・スキップが実行されます。BSC印刷装置エミュレーションの場合には、このパラメーターに省略時の値の*NOが使用されます。

- *NO** SNA印刷装置エミュレーションが終了ブラケットを受け取った場合に、エミュレーション出力を強制的に行なわせません。
- *YES** SNA印刷装置エミュレーションが終了ブラケットを受け取った場合に、エミュレーション出力を強制的に行なわせます。これは、オープンしている印刷装置ファイルにホスト・システム・データが含まれている場合だけ行なわれます。

トップ

印刷出力ファイル (PRTFILE)

ホスト・システムから受け取ったデータを印刷する印刷装置ファイルを指定します。印刷装置ファイルは、スプールすることも、スプールしないことも可能です。

QPEMPRTF

印刷装置ファイルとして、3270エミュレーションと一緒に送られた標準印刷装置ファイル (SPOOL(*YESが指定されている) が使用されます。

印刷装置ファイル名

ユーザー定義印刷装置ファイルの名前およびライブラリーを指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

- *LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。
- *CURLIB**

印刷装置ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

印刷装置ファイルが入っているライブラリーを指定します。

トップ

イジェクト待ちタイムアウト (TIMOUTEJT)

ホスト・システムのデータを待機中にタイムアウトが起こった場合に、印刷装置エミュレーションがエミュレーション出力を強制的に送り出すかどうかを指定します。オープンされた印刷装置ファイルにホスト・システム・データが入っている場合にかぎり、エミュレーション出力は強制的に送り出されます。待機の間隔は、分または秒数で指定することができます。分数と秒数の両方で値を指定した場合には、それらの値が1つにまとめて追加されます。

注: エミュレーション印刷装置出力が排出された場合には、ページ排出も実行されます。

***NONE**

指定されたタイムアウト期間に従ってエミュレーション出力を強制的に行なわせることはありません。

***IMMED**

エミュレーション出力がただちに強制出力されます。

分-秒 タイムアウト待機間隔を分数または秒数（あるいはその両方）で指定してください。

分 有効な値の範囲は0-99です。

秒 有効な値の範囲は0-59です。

トップ

スプール出力の印刷据え置き (DFRPRTOUT)

スプール出力をただちに印刷するか、または遅延するかを指定します。このパラメーターは、スプール出力 (SPOOLパラメーター)に*NOを指定した時は無視されます。

***PRTFILE**

印刷装置ファイルのSCHEDULE値がスプール出力の印刷方法を制御します。

***YES** スプール出力は、スプール・ファイルがクローズされた時に印刷されます。

***NO** スプール・ファイルがクローズされる前に、スプール出力を印刷することができます。スプール・ファイルがクローズされるまで、印刷出力に、ホスト・システムによって送られたすべてのデータが入っているわけではありません。印刷装置がスプールを使用していない場合には、このパラメーターは無視されます。

注: 印刷装置が3270装置エミュレーションからの出力の印刷を開始すると、印刷装置を共用している他のジョブからのスプール出力は現在印刷中のスプール・ファイルが完了するまで印刷されません。

トップ

スプール出力 (SPOOL)

印刷装置ファイルの出力データをスプールするかどうかを指定します。このパラメーターに*NOを指定した場合には、出力は印刷装置 (PRTDEV)パラメーターに指定された印刷装置に送られます。出力がスプールされる場合には、出力はPRTFILEパラメーターで指定された印刷装置ファイルに対する印刷装置ファイル作成(CRTPRTF)コマンドのスプール出力待ち行列 (OUTQ)パラメーターに指定された出力待ち行列に送られます。ファイル記述表示(DSPFD)コマンドを使用し、印刷装置ファイル名を指定して、出力待ち行列の値を表示することができます。

注: OUTQパラメーターに*JOBが指定された場合には、出力はJOBIDパラメーターで指定されたジョブ記述のOUTQパラメーターに指定された出力待ち行列に送られます。ジョブ記述表示(DSPJOBID)コマンドを使用し、ジョブ記述名を指定して、この値を表示することができます。

***PRTFILE**

印刷装置ファイル作成(CRTPRTF)コマンドのスプール出力 (SPOOL)パラメーターに指定された値は、スプーリングが実行されるかどうかを決定します。

***YES** データはスプールされます。

***NO** データをスプール処理しません。これは装置に直接送信され、出力が使用可能になるにつれて印刷されます。

[トップ](#)

印刷装置ファイルのオープン (OPNPRTF)

SNA 3270印刷装置エミュレーション・セッション中に印刷装置ファイルを開く時点を設定します。印刷装置データがスプールされなかった場合には、印刷装置ファイルのオープン時に印刷装置がユーザーのジョブに割り振られます。印刷装置データがスプールされた場合には、DFRPRTOUTパラメーターの値によって印刷装置がオープンされた後に、スプール書き出しプログラムがユーザーのジョブに割り振られます。

BSC 3270印刷装置エミュレーションに指定された場合には、このパラメーターを使用することはできません。

***IMMED**

3270印刷装置エミュレーション・セッションの開始の直後に、印刷装置ファイルがオープンされます。

***RCVDTA**

ホスト・システムから最初の印刷データを受信した後で、印刷装置ファイルがオープンされます。

[トップ](#)

印刷桁数/行 (NUMCOL)

印刷出力を作成する場合の1行の桁数を指定します。

***PRTFILE**

印刷装置ファイルPAGESIZE (幅) の値には、1行当たりの桁数が含まれます。この値は、オープン印刷装置ファイル(OPNPRTF)パラメーターで*IMMEDを指定したか、あるいはOPNPRTFパラメーターで*RCVDTAを指定し、最大印刷桁数(MPP)の値がホスト・システムから送られていない場合に使用されます。そうでない場合には、ホスト・システムから送られたMPPの値が使用されます。

桁数 印刷出力の1行当たりの桁数を指定してください。有効な値の範囲は1-378です。

[トップ](#)

1 ページ当たりの行数 (NUMLIN)

印刷出力の作成時に1ページ当たりの行数を設定します。

***PRTFILE**

印刷装置ファイルPAGESIZE (長さ) の値には、1ページ当たりの行数が含まれます。この値は、オープン印刷装置ファイル(OPNPRTF)パラメーターで*IMMEDを指定したか、あるいはOPNPRTFパラメーターで*RCVDTAを指定し、最大ページの長さ(MPL) の値がホスト・システムから送られていない場合に使用されます。そうでない場合には、ホスト・システムから送られたMPLの値が使用されます。

行数 印刷出力の1ページ当たりの行数を指定してください。有効な値の範囲は1-255です。

[トップ](#)

行/インチ (LPI)

印刷出力の作成時に1インチ当たりの行数を指定します。

***PRTFILE**

印刷装置ファイルLPIの値には、1インチ当たりの行数が含まれます。この値は、オープン印刷装置ファイル(OPNPRTF)パラメーターで*IMMEDを指定したか、あるいはOPNPRTFパラメーターで*RCVDTAを指定し、行密度設定(SDL)の値がホスト・システムから送られていない場合に使用されます。そうでない場合には、ホスト・システムから送られたSDLの値が使用されます。

1インチ当たりの行数

印刷出力で1インチ当たりの行数を指定してください。有効な値は、3, 4, 6, 7.5, 8, および9です。2バイト文字セット(DBCS)印刷装置の場合にだけ、値の3, 7.5, および7,5が有効です。

[トップ](#)

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

この装置に対する操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

***DSPDEV**

現行の表示装置メッセージ待ち行列を使用します。

***NONE**

印刷装置エミュレーション・ジョブのジョブ・ログ以内には、メッセージをメッセージ待ち行列に送りません。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

メッセージ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

メッセージ待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

メッセージ待ち行列名

印刷装置エミュレーション・ジョブの実行中に送られたメッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前およびライブラリーを指定します。

[トップ](#)

言語文字セット (CHRSET)

エミュレート中の印刷装置によって使用される特定の完全な文字識別コード (CHRID -文字セットとコード・ページから構成される) を表す3文字の国別または地域キーボード言語識別コードを指定します。

***SYSVAL**

現行QKBDTYPEシステム値が使用されます。

国別キーボード識別コード

使用する国別または地域キーボード言語識別コードを指定してください。

***TRNTBL**

ユーザー定義の変換テーブルを使用することができます。出力変換テーブル (**TRNTBLOUT**)パラメーターによって指定された変換テーブルに、文字変換が定義されます。QKBDTYPEシステム値と関連したCHRID がエミュレート中の印刷装置によって使用されます。

[トップ](#)

ジョブ投入 (SBMJOB)

印刷装置エミュレーションを分離ジョブとして実行しなければならないか、あるいはこのジョブの一部として実行しなければならないかを指定します。

***YES** 印刷装置エミュレーションを実行するために特定のジョブが投入されます。ジョブ属性は、**ジョブ記述 (JOBID)**パラメーターによって指定されたジョブ記述から判別されます。ジョブはユーザー・プロファイルを使用します。

***NO** 印刷装置エミュレーションを現行ジョブの中で行ないます。

[トップ](#)

ジョブ記述 (JOBID)

3270印刷装置エミュレーションに投入されているジョブのジョブ記述を指定します。このパラメーターは、ジョブ投入 (**SBMJOB**)に***NO**を指定した時は無視されます。

QBATCH

ジョブのジョブ記述QBATCHが使用されます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブ記述名を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジョブ記述名を見つけるライブラリーを指定します。

ジョブ記述名

ジョブに関連したジョブ記述の名前およびライブラリーを指定します。

[トップ](#)

出力変換テーブル (TRNTBLOUT)

ホスト・システムから3270エミュレーションに送信された文字を変換するために発信変換テーブルが使用されることを指定します。

*CHRSET

言語文字セット (CHRSET)パラメーターに指定された文字セットを使用してデータがホスト・システムから送信される時に変換が行なわれることを指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

変換テーブルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

変換テーブルを見つけるライブラリーを指定してください。

テーブル名

出力変換に使用されるテーブルの名前およびライブラリーを指定します。

[トップ](#)

ジョブ待ち行列 (JOBQ)

この3270印刷装置エミュレーション・ジョブが入っているジョブ待ち行列の名前を指定します。このパラメーターは、ジョブ投入 (SBMJOB)に*NOを指定した時は無視されます。

*JOBQ

投入済みジョブが、(JOBQ)パラメーターに指定されたジョブ記述と関連したジョブ待ち行列に入れます。

ジョブ待ち行列名

投入済みジョブを入れるジョブ待ち行列の名前およびライブラリーを指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブ待ち行列を見つけるためには、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジョブ待ち行列を見つけるライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

エミュレーションの終了条件 (ENDCOND)

SNA 3270印刷装置エミュレーション・セッションを終了できる追加の方法を指定します。

BSC 3270印刷装置エミュレーションに指定された場合には、このパラメーターを使用することはできません。

***NONE**

3270印刷装置エミュレーションを終了する追加の方法を要求しません。

***DACTLU**

ホスト・システムからSNA DACTLUを受信した場合に、3270印刷装置エミュレーション・セッションが終了します。

***ENDBKT**

ホスト・システムからSNA終了ブラケットを受信した場合に、3270印刷装置エミュレーション・セッションが終了します。この終了条件を選択する前に、次の事項を検討してください。

- セッションの期間中に1つのホスト・システム・ファイルを印刷する必要がある時にだけ、この終了条件を使用しなければなりません。最初のファイルの印刷後に終了ブラケットが起こることがあり、2番目のファイルを印刷する前に3270セッションは終了します。

***UNBIND**

ホスト・システムからSNA UNBINDを受信した場合には、3270印刷装置エミュレーション・セッションは終了します。この終了条件を選択する前に、次の事項を検討してください。

- セッションの期間中に1つのホスト・システム・ファイルを印刷する必要がある時にだけ、この終了条件を使用しなければなりません。最初のファイルの印刷後にUNBINDが起こることがあり、2番目のファイルを印刷する前に3270セッションは終了します。

トップ

確認された用紙送り (FORMFEED)

3270情報表示システム・データ・ストリーム互換性(DSC) LU3印刷装置の場合に、最初の印刷行の最初の文字位置にある用紙送り命令を承認するかどうかを指定します。

SNA文字ストリング(SCS) LU1印刷装置の場合には、このパラメーターは無視されます。

***YES** 用紙送り命令は承認されます。印刷位置は新しいページに進みます。

***NO** 用紙送り命令は無視されます。印刷位置は新しいページに進みません。

トップ

構成項目 (EMLCFGE)

構成項目をこのセッションに使用するかどうかを指定します。構成項目は3270エミュレーション構成オプションを指示します。構成項目はエミュレーション構成項目追加(ADDEMLCFGE)コマンドによって作成されます。

***NONE**

構成項目の名前が指定されていず、構成項目の省略時の値が使用されます。

QEMDFTCFGE

省略時の構成項目QEMDFTCFGEが使用されます。この項目は構成項目の省略時の値と一緒に出荷され、エミュレーション構成項目変更(CHGEMLCFGE)コマンドによって更新することができます。

構成項目名

使用する構成項目の名前を指定してください。指定された構成項目が構成ファイルに存在していない場合には、構成項目の省略時の値が使用されます。

[トップ](#)

STRPRTEMLの例

例1:標準エミュレーション印刷装置ファイルへのデータの印刷

```
STRPRTEML EMLDEV(HOSTPRT4)
```

このコマンドは、HOSTPRT4装置からデータを受け入れることによってバッチ・ジョブを開始し、このデータを標準エミュレーション印刷装置ファイル(QPEMPRTF)に印刷します。このジョブはHOSTPRT4と名付けられ、ジョブが取り消されるまで実行されます。メッセージは現行ワークステーション待ち行列に送られません。

例2:現行ジョブでの印刷装置のエミュレート

```
STRPRTEML EMLDEV(HOSTPRT5) SBMJOB(*NO)
```

このコマンドは、HOSTPRT5装置からデータを受け入れ、このデータを標準エミュレーション印刷装置ファイル(QPEMPRTF)に書き出すことによって、現行ジョブで印刷装置エミュレーションを実行します。この要求は、印刷装置エミュレーション終了(ENDPRTEML)コマンドを通して終了されるか、あるいはジョブが取り消されるまで活動状態のままとなります。

例3:出力の即時印刷

```
STRPRTEML EMLCTL(EMLCTL1) TIMOUTEJT(10)
           DFRPRTOUT(*NO) NUMLIN(96)
```

このコマンドは、装置からデータを受け入れ、そのデータを印刷装置ファイルQPEMPRTF中で印刷することによって、バッチ・ジョブを開始します。10分でタイムアウトが起こった場合には、印刷装置エミュレーションはエミュレーション出力を強制終了します。出力は即時に印刷されます。ページ当たりの最大行数は96です。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： STRPRTEML

*ESCAPEメッセージ

CPF85EB

3270エミュレーション・セッションが終了した。

CPF85ED

ENDCOND(*NONE)以外の値はサポートされていない。

CPF85EE

OPNPRTFパラメーターの*RCVDTAはサポートされていない。

CPF8510

装置&1で内部エラーが起こった。

CPF8511

装置&2のエラーによりエミュレーションが終了した。

CPF8512

装置&2が保留されているので、エミュレーションが終了した。

CPF8513

装置&2のエラーによりエミュレーションが終了した。

CPF8514

装置&1でエラー回復処置が停止した。

CPF8515

ホストが3270エミュレーション・セッションを終了した。

CPF8516

ホストと装置&2との間で一致していない。

CPF8517

許されるフィールドの最大数より多くを受け取った。

CPF8518

システムの内部的な障害のためにエミュレーションが終了した。

CPF8519

3270エミュレーションで機能チェックが起こった。

CPF8561

印刷装置エミュレーションは開始されていない。

CPF8564

印刷装置エミュレーション・ジョブ&3/&2/&1が終了した。

CPF8570

3270印刷装置データ・ストリームの変換が正常に実行されなかった。

CPF8579

ライブラリー&2の印刷装置ファイル&1をオープンすることができない。

CPF8580

ファイル&1が印刷装置ファイルではないか、あるいは一時変更されている。

CPF8582

ライブラリー&2の印刷装置ファイル&1を再びオープンすることができない。

CPF8583

印刷装置エミュレーションが必要なファイルをオープンすることができない。

[トップ](#)

印刷装置書出プログラム開始 (STRPRTWTR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

印刷装置書き出しプログラム開始(STRPRTWTR)コマンドは、指定された印刷装置に対してスプール書き出しプログラムを開始します。システム・ジョブである書き出しプログラムは、出力待ち行列からスプール・ファイルを取り出して印刷装置上で出力を作成します（書き出します）。このコマンドでは、印刷装置の名前、使用する出力待ち行列とメッセージ待ち行列の名前、および書き出しプログラムの名前を指定します。

同時に複数の書き出しプログラムを活動状態にすることができ（スプーリング・サブシステム記述で決められる）、同じ出力待ち行列に対して最大10個の書き出しプログラムを活動状態にすることができます。各書き出しプログラムは固有の書き出しプログラム名および独自の装置を持っていなければならない、1つの出力待ち行列に対して1つのタイプの書き出しプログラム（印刷、リモート、またはディスク）を活動状態にすることができます。開始された書き出しプログラムは、出力を活発に書き出したり、あるいは出力待ち行列にファイル項目が入れられるのを待機することができます。書き出しプログラム変更(CHGWTR)コマンド、書き出しプログラム保留(HLDWTR)コマンド、あるいは書き出しプログラム終了(ENDWTR)コマンドを使用することにより、書き出しプログラムを変更、保留、または取り消すことができます。各書き出しプログラムはそれを開始したジョブとは独立して実行するので、書き出しプログラムの開始後、システムで他の作業を続行することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	印刷装置	名前, *ALL, *SYSVAL	必須, 定位置 1
OUTQ	出力待ち行列	単一値: *DEV その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MSGQ	書出プログラムMSG用待ち行列	単一値: *DEV , *REQUESTER その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 4
	修飾子 1: 書出プログラムMSG用待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FORMTYPE	用紙タイプ・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 用紙タイプ	文字値, *ALL , *STD, *FORMS	
	要素 2: メッセージ・オプション	*INQMSG , *MSG, *NOMSG, *INFOMSG	
FILESEP	ファイル区切り	0-9, *FILE	オプション
SEPDRAWER	分離ページの用紙入れ	1-255, *DEV , *FILE	オプション
WTR	書き出しプログラム	名前, *DEV	オプション, 定位置 3

キーワード	記述	選択項目	注
AUTOEND	自動終了オプション	要素リスト	オプションナル、定位置 5
	要素 1: 書き出しプログラムの自動終了	*NO, *YES	
	要素 2: 終了条件	*NORDYF, *FILEEND	
ALWDRTPRT	直接印刷可能	*NO, *YES	オプションナル
ALIGN	ページの位置合わせ	*FILE, *WTR, *FIRST	オプションナル
INIT	印刷装置の初期設定	*WTR, *FIRST, *ALL	オプションナル
FILE	スプール・ファイル	名前, *NONE, *LAST	オプションナル
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプションナル
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
SPLNBR	スプール・ファイル番号	1-999999, *ONLY, *LAST, *ANY	オプションナル
JOBSYSNAME	ジョブ・システム名	名前, *ONLY, *CURRENT, *ANY	オプションナル
CRTDATE	作成されたスプール・ファイル	単一値: *ONLY, *LAST その他の値: 要素リスト	オプションナル
	要素 1: 作成日	日付	
	要素 2: 作成時刻	時刻, *ONLY, *LAST	
PAGE	開始ページ	整数, *BEGIN	オプションナル

トップ

印刷装置 (DEV)

スプール・ファイルの印刷に使用する印刷装置の名前を指定します。装置は、書き出しプログラムを開始する前に使用可能でなければなりません。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** システムで構成されたすべての印刷装置に印刷装置書き出しプログラムを開始します。

*SYSVAL

システムの省略時の印刷装置に印刷装置書き出しプログラムを開始します。

印刷装置名

開始されている印刷装置を識別する名前を指定します。

トップ

出力待ち行列 (OUTQ)

これは必須パラメーターです。

書き出しプログラムが処理するスプール・ファイルの出力待ち行列の名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***DEV** 印刷装置プロンプト(DEVパラメーター) に指定された印刷装置と関連した省略時の出力待ち行列を使用します。

出力待ち行列名

書き出しプログラムが処理するスプール・ファイルの出力待ち行列の名前を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

出力待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

出力待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

トップ

書出プログラムMSG用待ち行列 (MSGQ)

このユーザーによって使用されるメッセージ待ち行列を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*DEVD

メッセージは、印刷装置の装置記述で指定されているメッセージ待ち行列に送られます。

*REQUESTER

メッセージは、処理を開始したユーザーのワークステーションのワークステーション・メッセージ待ち行列に送られます。この値をバッチ・ジョブに指定する場合には、*DEVDを使用します。

メッセージ待ち行列名

書き出しプログラム・メッセージを送信する必要があるメッセージ待ち行列の名前を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

メッセージ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

メッセージ待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

トップ

用紙タイプ・オプション (FORMTYPE)

印刷のために選択する用紙タイプを指定します。このパラメーターは、この時点でこの用紙タイプのファイルだけが処理されることを指定します。他のすべてのファイルは使用可能なファイルとして出力待ち行列に残されます。書き出しプログラムの開始後に、印刷する用紙のタイプを変更したい場合には、書き出しプログラム変更(CHGWTR)コマンドを使用してください。

注: 印刷されるスプール・ファイルの用紙タイプが装置で印刷された最後のスプール・ファイルの用紙タイプと異なっている時には、用紙装てんメッセージが出されます。最後に印刷された用紙タイプは最後に出されたSTRPRTWTR, CHGWTR,またはVRYCFG以降のものが保持されます。

次の例を考慮してください。

1. 印刷装置PRT01で最後に印刷されたスプール・ファイルの用紙タイプは*STDです。
2. ユーザーは、次のコマンドを使用してPRT01の用紙タイプをXYZに変更します。
CHGWTR PRT01 FORMTYPE(XYZ)
3. 用紙タイプXYZのスプール・ファイルはPRT01で印刷されません。
4. その後ユーザーは、用紙タイプ*STDのスプール・ファイルをPRT01に送ります。PRT01で最後に印刷されたスプール・ファイルの用紙タイプは印刷中のスプール・ファイルの用紙タイプと同じであるので、介在するCHGWTRコマンドにもかかわらず、用紙装てんメッセージが出されません。

用紙タイプXYZのスプール・ファイルが実際にPRT01で印刷される場合には、用紙装てんメッセージが出されることとなります。

要素1:用紙指定タイプ

***ALL** 用紙タイプにかかわらず出力待ち行列上の使用可能なすべてのファイルが処理されます。

***FORMS**

出力待ち行列上で同じ用紙タイプの使用可能なすべてのファイルは、書き出しプログラムが次の用紙タイプに進む前に1グループとして処理されます。書き出しプログラムは、まず待ち行列上で最初に使用可能なファイルを選択します。最初のファイルが完了すると、同じ用紙タイプのすべてのファイルが処理されます。書き出しプログラムは、次にもう一度待ち行列上の最初の使用可能なファイルを選択し、その用紙タイプについて処理を反復します。

***STD** 書き出しプログラムは、用紙タイプ*STDのスプール・ファイルを処理します。

用紙タイプ

処理したいスプール・ファイルの用紙のタイプを指定してください。

要素2:メッセージ送信オプション

***INQMSG**

スプール・ファイルの用紙タイプが印刷装置の用紙タイプと異なっている時には、照会メッセージがメッセージ待ち行列に送られます。

***INFOMSG**

この用紙タイプを必要とするスプール・ファイルが出力待ち行列に残っていない時には、通知メッセージがメッセージ待ち行列に送られます。

***MSG** スプール・ファイルの用紙タイプが印刷装置の用紙タイプと異なっている時には、照会メッセージがメッセージ待ち行列に送られ、この用紙タイプを必要とするスプール・ファイルが出力待ち行列に残っていない時には、通知メッセージが送られます。

***NOMSG**

照会メッセージも、通知メッセージもメッセージ待ち行列に送られません。

トップ

ファイル区切り (FILESEP)

各ファイルの前に印刷されるファイル分離ページの数を知御する方法を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***FILE** 各個別のファイルに指定された区切りの数が使用されます。

区切りの数

印刷する分離ページの数 (0-9の範囲) を指定してください。新しい用紙タイプが印刷装置に入れられたことを示す用紙タイプ変更メッセージに応答する時はいつでも、書き出しプログラムは、新しい用紙タイプで印刷する必要があるファイル分離ページ数を尋ねるメッセージを出します。

[トップ](#)

分離ページ用の紙入れ (SEPDRAWER)

ジョブおよびファイル区切りの印刷のために選択する用紙入れを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*DEVD

印刷装置の装置記述に記憶された値が使用されます。

***FILE** 分離ページはスプール・ファイルと同じ用紙入れから印刷されます。

- 1 分離ページは用紙入れ1から印刷されます。
- 2 分離ページは用紙入れ2から印刷されます。
- 3 分離ページは用紙入れ3から印刷されます。

分離ページ用紙入れ

分離ページを印刷する用紙入れを指示する1-255の範囲の値を指定してください。

注: 一部の印刷装置の場合には、SEPDRAWER(3)は封筒引き出しを暗黙のうちに指定します。

[トップ](#)

書き出しプログラム (WTR)

開始するスプール書き出しプログラムの名前を指定します。各書き出しプログラム名は固有でなければなりません。

考えられる値は、次の通りです。

***DEV** 書き出しプログラムの名前は、印刷装置プロンプト(DEVパラメーター)に指定された印刷装置の名前と同じです。

書き出しプログラム名

開始する書き出しプログラムを識別する名前を指定してください。

[トップ](#)

自動終了オプション (AUTOEND)

書き出しプログラムを自動的に終了するかどうかを指定します。

終了させるかどうかについて、指定できる値は次の通りです。

- *NO** 出力待ち行列から最後に使用可能なファイルが取り出されても、書き出しプログラムは終了しません。別のスプール・ファイルの項目が待ち行列に入れられるのを待機します。
- *YES** 書き出しプログラムは、このパラメーターの2番目の部分で指定された状態に達した後に、自動的に終了します。

終了する時期について考えられる値は、次の通りです。

*NORDYF

書き出しプログラムは、実行可能なファイルがなくなった（出力待ち行列から使用可能なすべてのファイルが除去された）時点で自動的に終了します。

*FILEEND

書き出しプログラムは、1つのスプール・ファイルの処理を完了した後で停止します。

[トップ](#)

直接印刷可能 (ALWDRTPRN)

印刷装置に直接印刷するファイルの印刷装置書き出しプログラムを可能にするかどうか指定します。ファイルの直接印刷は印刷装置に印刷装置ファイルのSPOOL(*NO)を指定することによって作成されます。直接印刷が許可されており、印刷装置が使用可能な場合には、非スプールの印刷ファイルがすぐに印刷されます。印刷装置が使用中の場合には、非スプール印刷ファイルは印刷装置が使用可能になるまで待機します。最大の待ち時間は印刷装置ファイルのWAITFILEパラメーターに指定した時間の長さであり、その後ではジョブは自動的に取り消されます。ユーザーはジョブ終了(ENDJOB)コマンドによって非スプール印刷装置ファイルだけを取り消すことができます。

考えられる値は、次の通りです。

- *NO** 印刷装置では装置に印刷する非スプール印刷装置ファイルは許可されません。
- *YES** 印刷装置は、スプールおよび非スプール出力を印刷するために使用することができます。WAITFILEパラメーターの値を設定するためには、印刷ファイルの作成、変更、または一時変更 (CRTPRN、CHGPRN、またはOVRPRN) コマンドを参照してください。

注: WAITFILEパラメーターに指定されている値が30秒より少ないかどうかにかかわらず、非スプール・ファイルは最大30秒まで待機します。

[トップ](#)

ページの位置合わせ (ALIGN)

用紙位置合わせの制御方法を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

- *WTR** 書き出しプログラムは印刷される出力を記憶して、用紙の位置合わせが必要であると判別した時には、用紙位置合わせメッセージを出します。

***FILE** *YESがページの位置合わせプロンプト(ALIGNパラメーター) に指定されたすべてのファイルに対して、用紙位置合わせメッセージが出されます。書き出しプログラムによって提供される自動用紙位置合わせ制御機能が必要な結果が得られない時には、このオプションを選択する必要があります。

***FIRST**

最初に印刷されるファイルの場合にだけ用紙位置合わせメッセージが出されます。印刷装置で後続のエラーが起こっても、用紙位置合わせメッセージは出されません。

トップ

印刷装置の初期設定 (INIT)

印刷装置を初期設定する頻度を指定します。

注: 印刷装置記述でTRANSFORM(*YES)またはユーザー・データ変換プログラムが指定されていると、このパラメーターは無視されます。

考えられる値は、次の通りです。

***WTR** 書き出しプログラムは、必要な時に印刷装置を初期設定します。

***FIRST**

書き出しプログラムが印刷装置を初期設定するのは、最初のファイルを印刷する前、または入出力装置エラーが起こった後だけです。

***ALL** 書き出しプログラムは、各ファイルおよびファイルの各コピーを印刷する前に印刷装置を初期設定します。

トップ

スプール・ファイル (FILE)

印刷装置で印刷する最初の（または唯一の）スプール・ファイルの名前を指定します。出力待ち行列に複数の使用可能なファイルがある場合には、次に作成されるファイルは優先順位が最高の最初に使用可能なファイルです。

考えられる値は、次の通りです。

***NONE**

スプール・ファイル名は指定されません。出力待ち行列で最初に使用可能なスプール・ファイルが最初に処理されます。

スプール・ファイル名

印刷装置に書き出される最初の（または唯一の）ファイルであるスプール・ファイルの名前を指定してください。

***LAST** 書き出しプログラムの終了時に印刷中であったスプール・ファイルは、書き出しプログラムが再始動されると開始されます。

トップ

ジョブ名 (JOB)

スプール・ファイルを作成したジョブの名前を指定します。このパラメーターが有効なのは、スプール・ファイル名がスプール・ファイルプロンプト(FILEパラメーター) に指定された場合だけです。

* この印刷装置書き出しプログラム開始(STRPRTWTR)コマンドが出されたジョブは、そのスプール・ファイルを作成したジョブです。

ユーザー名

そのもとでジョブが実行されるユーザー・プロファイルを識別するユーザー名を指定してください。

ジョブ番号

システム割り当てジョブ番号を指定してください。

ジョブ名

スプール・ファイルを作成したジョブの名前を指定してください。ジョブ修飾子を指定しない場合には、ジョブの単純名でシステムに現在あるすべてのジョブが検索されます。

[トップ](#)

スプール・ファイル番号 (SPLNBR)

最初に処理されるスプール・ファイルの番号を指定します。このパラメーターが有効なのは、スプール・ファイル名がスプール・ファイルプロンプト(FILEパラメーター) に指定された場合だけです。

考えられる値は、次の通りです。

*ONLY

ジョブ内の1つのスプール・ファイルだけが指定されたファイル名をもっています。したがって、スプール・ファイルの番号は不要です。

*LAST 指定されたファイル名で最高の番号が付いているスプール・ファイルが使用されます。

*ANY 使用するスプール・ファイルを決定するのに、スプール・ファイル番号は使用されません。スプール・ファイルの選択時に、スプール・ファイル番号よりジョブ・システム名パラメーターまたはスプール・ファイル作成日時パラメーターが優先されるようにする時には、この値を使用してください。

スプール・ファイル番号

指定された出力待ち行列のジョブで、最初に処理したい指定のファイルの番号を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ・システム名 (JOBSYSNAME)

スプール・ファイルを作成したジョブ(JOBパラメーター) が実行されたシステムの名前を指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、およびスプール・ファイル番号のパラメーター要件が一致した後に考慮されます。

*ONLY

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびスプール・ファイル作成日時を持つスプール・ファイルは、1つです。

***CURRENT**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、および作成日時を持つ現行システム上で作成されたスプール・ファイルが使用されます。

***ANY** 使用するスプール・ファイルを決定するのに、ジョブ・システム名は使用されません。スプール・ファイルの選択時に、ジョブ・システム名よりスプール・ファイル作成日時パラメーターが優先されるようにする時には、この値を使用してください。

ジョブ・システム名

スプール・ファイルを作成したジョブが実行されたシステムの名前を指定します。

トップ

作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)

スプール・ファイルが作成された日時を指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名のパラメーター要件が一致した後に考慮されます。

可能な単一値は次の通りです。

***ONLY**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名を持つスプール・ファイルは、1つです。

***LAST** 指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名の最後の作成日時を持つスプール・ファイルが使用されます。

可能な作成日の値は次の通りです。

スプール・ファイル作成日

スプール・ファイルが作成された日付を指定します。

指定できる作成時刻の値は次の通りです。

***ONLY**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、およびスプール・ファイル作成日を持つスプール・ファイルは、1つです。

***LAST** 指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、およびスプール・ファイル作成日の最後の作成時刻を持つスプール・ファイルが使用されます。

スプール・ファイル作成時刻

スプール・ファイルが作成された時刻を指定します。

トップ

開始ページ (PAGE)

最初のファイルから印刷する最初のページのページ番号を指定します。このパラメーターが有効なのは、スプール・ファイル名がスプール・ファイルプロンプト(FILEパラメーター) に指定された場合だけです。

考えられる値は、次の通りです。

*BEGIN

スプール・ファイルの再始動ページが最初に印刷するページです。

注: この値がスプール・ファイル属性変更(CHGSPLFA)コマンドを使用して変更されなかった場合には、この値が*BEGINである時と同じ方法でファイルを印刷します。

ページ番号

印刷の最初のページの番号を指定します。この番号は、有効なファイルのページの範囲内でなければなりません。

トップ

STRPRTWTRの例

```
STRPRTWTR  DEV(QSYSPRT)  OUTQ(QPRINTS)  WTR(TOM)
```

このコマンドは、TOMという名前のスプーリング書き出しプログラムを開始します。この書き出しプログラムは、QPRINTSという名前の出力待ち行列から出力データを取り出し、その出力データをQSYSPRTという名前の印刷装置で印刷します。書き出しプログラム・メッセージがシステム操作員のメッセージ待ち行列に送られ、待ち行列が空になっている場合には、書き出しプログラムは追加の出力データを待機します。

トップ

エラー・メッセージ: STRPRTWTR

*ESCAPE メッセージ

CPF0906

名前&3/&2/&1の重複ジョブが見つかった。

CPF1338

SBMJOBコマンドでエラーが起こった。

CPF1764

装置&1に対して、書き出しプログラムはすでに開始されている。

CPF1842

システム値&1をアクセスすることができない。

CPF2115

&2のタイプ*&3のオブジェクト&1に損傷がある。

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF3303

ファイル&1はジョブ&5/&4/&3に見つからなかった。

CPF3305

ライブラリー&2の出力待ち行列&1は、別の書き出しプログラムに割り当てられている。

CPF3309

&1という名前のファイルは活動状態でない。

CPF3310

書き出しプログラム&1はすでに開始されている。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3340

指定された名前のファイルが、ジョブ&5/&4/&3で複数個見つかった。

CPF3342

ジョブ&5/&4/&3は見つからなかった。

CPF3343

重複したジョブ名が見つかった。

CPF3347

装置&1が見つからない。

CPF3357

ライブラリー&2に出力待ち行列&1が見つからない。

CPF3362

QTEMPのオブジェクトは、パラメーター値には正しくない。

CPF3363

ライブラリー&2のメッセージ待ち行列&1が見つからなかった。

CPF3369

装置&1は印刷装置ではない。

CPF336B

ライブラリー&2のドライバー出口プログラム&1が見つからないか、認可されていない。

CPF3418

ジョブに重複したファイル&1番号&2が見つかった。

CPF346A

ライブラリー&2の変形出口プログラム&1が見つからないか、ユーザーが認可されていない。

CPF346B

ライブラリー&2のドライバー出口プログラム&1が見つからないか、ユーザーが認可されていない。

CPF3463

装置&1の出力待ち行列が見つからなかった。

CPF3464

ライブラリー&2の出力待ち行列&1に対する権限がない。

CPF3478

ファイル&1はライブラリー&7の出力待ち行列&6のジョブ&5/&4/&3に見つからなかった。

トップ

QUERY管理機能プロシージャ開始 (STRQMPRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

QUERY管理プロシージャ開始(STRQMPRC)コマンドによって、ソース・ファイルにメンバーとして保管されたQUERY管理プロシージャを実行することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SRCMBR	ソース・メンバー	名前	必須, 定位置 1
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QQMPRCSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
RDB	リレーショナル・データベース	単純名, *NONE , *CURRENT	オプション
RDBCNMTH	接続方式	*DUW , *RUW	オプション
USER	ユーザー	名前, *CURRENT	オプション
PASSWORD	パスワード	文字値, *NONE	オプション
NAMING	命名規則	*SYS , *SQL, *SAA	オプション
ALWQRYDFN	QRYDFNからの情報使用可能	*NO , *YES, *ONLY	オプション
CMDSRCFILE	コマンド・ソース・ファイル	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: コマンド・ソース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
CMDSRCMBR	ソース・メンバー	名前, *FIRST	オプション
ALWDSPLAY	表示画面	*YES , *NO	オプション

[トップ](#)

ソース・メンバー(SRCMBR)

実行するQUERY管理機能のプロシージャが入っているソース・ファイルのメンバーの名前を指定します。メンバーの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

ソース・ファイル (SRCFILE)

実行するQUERY管理機能のプロシーチャーが入っているソース・ファイルの修飾名を指定します。

これは必須パラメーターです。

指定できるソース・ファイルの値は次の通りです。

QQMPRCSRC

IBM提供のソース・ファイル名QQMPRCSRCを持つファイルが使用されます。

ソース・ファイル名

ソース・ファイルの名前を指定してください。

ソース・ファイルの名前は次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

リレーショナル・データベース (RDB)

このコマンドの処理時にアクセスされる関係データベースの名前を指定します。

***NONE**

ローカル・データベースがアクセスされます。ユーザーがリモート・データベースに接続している場合には、その接続はローカルにリセットされ、このコマンドの完了までローカルのままとまります。

***CURRENT**

ユーザーが現在接続されているリレーショナル・データベースがアクセスされます。

リレーショナル・データベース名

アクセスされるリレーショナル・データベースの名前を指定します。データベースには、リレーショナル・データベース・ディレクトリーの項目が入っていなければなりません。

[トップ](#)

接続方式 (RDBCNNMTH)

使用する接続方法を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***DUW** 複数のリレーショナル・データベースに接続することができます。追加のリレーショナル・データベースへの連続したCONNECTステートメントがあっても、前の接続が切断されることはありません。

***RUW** リレーショナル・データベースへの1つの接続だけを使用することができます。連続したCONNECTステートメントの結果として、新しい接続が確立される前に、前の接続が切断されます。

[トップ](#)

ユーザー (USER)

会話を開始した時にリモート・システムに送られるユーザー名を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***CURRENT**

現行ジョブと関連したユーザー名が使用されます。

ユーザー名

アプリケーション・リクエスター・ジョブに使用されるユーザー名を指定してください。

[トップ](#)

パスワード (PASSWORD)

リモート・システムで使用されるパスワードを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***NONE**

パスワードは送られません。この値が指定された場合には、USERパラメーターに指定されたユーザー名は無効です。

パスワード

USERパラメーターに指定されたユーザー名のパスワードを指定してください。

[トップ](#)

命名規則 (NAMING)

オブジェクトの命名に使用される命名規則を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SYS** システムの命名規則（ライブラリー名／オブジェクト名）が使用されます。

***SQL** SQLの命名規則（データベース名、オブジェクト名）が使用されます。NAMING(*SQL)が指定された場合には、このコマンドの他のパラメーターに指定されたオブジェクトを見つけるための省略時の値としてCMDSRCFILE(*LIBL)を指定したり使用することはできません。

***SAA** SQLの命名規則（データベース名、オブジェクト名）が使用されます。NAMING(*SAA)が指定された場合には、このコマンドの他のパラメーターで指定されたオブジェクトを見つけるために、省略時の値としてCMDSRCFILE(*LIBL)を指定したり使用することはできません。

[トップ](#)

QRYDFNからの情報使用可能 (ALWQRYDFN)

指定されたオブジェクト名を使用してQUERY管理機能プログラム(QMQRY)またはQUERY管理機能書式(QMFORM)オブジェクトを見つけることができない時に、QUERYまたは書式情報をQUERY定義(QRYDFN)オブジェクトから取り出すかどうかを指定します。この方法で得られた情報は、プロシージャ内のコマンド・プログラミング・インターフェース(CPI)コマンドが完了した時に破棄されます。QUERY管理機能オブジェクトは作成されません。

考えられる値は、次の通りです。

***NO** 情報はQRYDFNオブジェクトから取り出されません。

***YES** 指定されたQMQRYまたはQMFORMオブジェクトが見つからない時に、QRYDFNオブジェクトから情報が取り出されます。

***ONLY**

情報をQRYDFNオブジェクトからのみ派生することができます。QUERY管理機能オブジェクトは無視されます。

トップ

コマンド・ソース・ファイル (CMDSRCFILE)

QUERY管理機能がコマンド・プロシージャを実行するために使用するコマンド・ソース・ファイルの名前およびライブラリーを指定します。コマンド・プロシージャに入れることができるのは、'DSQ'値で始まるアプリケーションの変数とQUERY管理機能の変数を設定できるQUERY管理機能設定コマンドだけです。

サポートされているDSQ変数は次の通りです。

- DSQCMTLV
- DSQCONFIRM
- DSQOAUTH
- DSQSDBNM
- DSQSRUN

使用できるコマンド・ソース・ファイルの値は次の通りです。

***NONE**

コマンド・ソース・ファイルは使用されません。CMDSRCMBRパラメーターは無視されます。

コマンド・ソース・ファイル名

コマンド・ソース・ファイルの名前を指定します。

コマンド・ソース・ファイルの名前は、次のライブラリー値のいずれかによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

ソース・メンバー (CMDSRCMBR)

QUERY管理機能がコマンド・プロシージャーを実行するために使用するコマンド・ソース・メンバーの名前を指定します。コマンド・プロシージャーに入れることができるのは、'DSQ'値で始まる変数を設定するQUERY管理機能設定コマンドだけです。

考えられる値は、次の通りです。

*FIRST

最初のメンバーが使用されます。

コマンド・ソース・メンバー名

コマンド・ソース・メンバーの名前を指定してください。

トップ

表示画面 (ALWDSPLAY)

使用する画面モードを指定します。QUERY管理セッションは、ALWDSPLAY(*YES)が指定されている場合には対話モードに設定されます。ALWDSPLAY(*NO)が指定されている場合にはバッチ・モードに設定されます。バッチ環境でこのコマンドを実行する場合には、モードは自動的にバッチに設定されます。

考えられる値は、次の通りです。

*YES 対話式セッションでの使用時に画面が表示されます。このモードによって、プロシージャーのQUERY管理コマンドと対話することができます。

*NO 画面は表示されません。

トップ

STRQMPCRの例

例1: QUERY管理機能プロシージャーを実行

```
STRQMPCR SRCMBR(MYPROC) SRCFILE(RPTLIB/PROCFILE)
```

このコマンドは、RPTLIBライブラリーのソース・ファイル（名前PROCFILE)のメンバー（名前MYPROC)として保管されたQUERY管理機能プロシージャーを開始します。

例2: QRYDFNオブジェクトから情報を入手

```
STRQMPCR SRCMBR(MYPROC) SRCFILE(PROCFILE)  
ALWQRYDFN(*YES) ALWDSPLAY(*NO)
```

このコマンドは、ジョブのライブラリー・リストの最初のファイル（名前PROCFILE)のメンバー（名前MYPROC)として保管されたQUERY管理機能プロシージャーを開始します。QUERYおよび書式情報は、プロシージャー・ステートメントの処理時に、必要によりQRYDFNオブジェクトから取り出すことができま

す。報告書は表示されませんが、ユーザーが印刷要求を指定すれば、印刷することができます。ユーザーが確認を要求しない場合には、オブジェクトは確認なしで置き換えられます。プロシージャーは、設定されていないグローバル変数が処理で位置指定された場合、あるいはすでに存在するオブジェクトの置き換え前に確認が良きされていた場合には、なにかのエラーで終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： STRQMPPRC

*ESCAPE メッセージ

QWM2701

&1コマンドが正しく実行されなかった。

QWM2703

&1コマンドは終了した。

QWM2707

SQL命名規則が適用されるときには*LIBLを使用できない。

QWM2709

リレーショナル・データベース値に対してユーザーまたはパスワードが正しくない。

QWM2710

パスワード値*NONEに対して正しいのはユーザー値*CURRENTだけである。

QWM2712

ユーザー名の文字が正しくない。

[トップ](#)

QUERY管理機能プログラム開始 (STRQMQR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

QUERY管理機能プログラム開始(STRQMQR)コマンドは、QUERYを実行するために使用されます。

このコマンドを使用するためには、処理するQUERYを最初に識別しなければなりません。QUERYは、QMQRオブジェクト中の単一の構造化照会言語(SQL)ステートメントです。SQLステートメントは、QMQRオブジェクトが存在しない場合にはQUERY 定義(QRYDFN)オブジェクトから取り出すこともできます。

出力は、画面上に表示したり、印刷したり、あるいはデータベース・ファイルに保管することができます。

QUERY内部のSQLステートメントが応答セットを作成しない場合には、報告書または出力ファイルは作成されません。これは、QUERY内部のSQLステートメントが正しくないかまたはSQLステートメントがSELECT文節でない場合に起こります。

QUERYに置換変数が入っている場合には、SETVARパラメーターを使用してQUERY用の変数を設定することができます。プロンプトが使用可能な場合には、QUERY管理機能は設定されていないそれぞれの変数に値を指定するように求めます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
QMQR	QUERY管理機能プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: QUERY管理機能プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション, 定位置 2
QMFORM	QUERY管理機能報告書書式	単一値: *SYSDFT, *QMQR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: QUERY管理機能報告書書式	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB, *LIBL	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: メンバー	*FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	

キーワード	記述	選択項目	注
DATETIME	日付および時刻	*YES , *NO	オプション
PAGNBR	ページ番号	*YES , *NO	オプション
RDB	リレーショナル・データベース	単純名, *NONE , *CURRENT	オプション
RDBCNNMTH	接続方式	*DUW , *RUW	オプション
USER	ユーザー	名前, *CURRENT	オプション
PASSWORD	パスワード	文字値, *NONE	オプション
NAMING	命名規則	*SYS , *SQL, *SAA	オプション
ALWQRYDFN	QRYDFNからの情報使用可能	*NO , *YES, *ONLY	オプション
SETVAR	集合変数	値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 変数名	文字値	
	要素 2: 変数値	文字値	

トップ

QUERY管理機能プログラム (QMQR)

実行するQUERY管理機能プログラム(QMQR)の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

QUERY名

実行するQUERYの名前を指定します。

QUERYの名前は、次のライブラリー値のいずれかによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

QUERYが入っているライブラリーの名前を指定します。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求元ワークステーションに表示するか、ジョブのプール出力で印刷するか、あるいはデータベース・ファイルに送るかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*
- QUERYによって作成された出力は、指定された報告書書式で様式設定されて、コマンドを実行するワークステーションに対話モードで送られます。コマンドがバッチ・モードで実行される場合には、出力は、QUERY管理機能が使用している省略時の印刷装置に送られます。

*PRINT

QUERYによって作成された出力は、指定されたQUERY管理機能の書式で様式設定されて、QUERY管理機能が使用している省略時の印刷装置に送られます。

*OUTFILE

QUERYによって作成された出力は、データベース・ファイル（テーブル）に書き出されてコレクションに挿入されます。

[トップ](#)

QUERY管理機能報告書書式 (QMFORM)

応答セットに適用して印刷出力または表示出力の様式を設定するQUERY管理機能報告書の書式を指定します。

使用できる**報告書書式**の値は次の通りです。

*SYSDFT

印刷または表示される報告書に対して省略時の報告書書式が作成され使用されます。

*QMQR

報告書書式を見つけるために、**QUERY管理機能プログラムプロンプト**（QMQR パラメーター）に指定された値が使用されます。

報告書書式名

報告書書式の名前を指定します。

報告書の書式の名前は、次のライブラリー値のいずれかによって修飾することができます。

***LIBL** 報告書書式を見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

QUERYの出力を受け取るデータベース・ファイルを指定します。指定されたファイルが存在しない場合には、システムはコレクション中のテーブルとして指定されたライブラリー内にこれを作成します。この機能によってファイルが作成される場合には、特定の権限を持たないユーザーの権限は*EXCLUDEになります。

データベース・ファイル名

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイルの名前を指定してください。

データベース・ファイルの名前は、次の1つのライブラリー値によって修飾できます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力が送られる先のデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

***FIRST**

ファイルの最初のメンバーが出力を受け取ります。

取られる処置に使用できる値は次の通りです。

***REPLACE**

ファイルは、新しいレコードが挿入される前に消去されます。

***ADD** 新しいレコードは、既存のレコードの後に追加されます。

[トップ](#)

日付および時刻 (DATETIME)

システム日付および時刻を各ページの終わりに印刷するかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***YES** それぞれのページの下部に、システム日付および時刻が印刷されます。

***NO** それぞれのページの下部に、システム日付および時刻は印刷されません。

[トップ](#)

ページ番号 (PAGNBR)

ページ番号を各ページの終わりに印刷するかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***YES** それぞれのページの下部にページ番号が印刷されます。

***NO** ページ番号は印刷されません。

[トップ](#)

リレーショナル・データベース (RDB)

このコマンドの処理時にアクセスされるリレーショナル・データベースの名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***NONE**

ローカル・データベースがアクセスされます。リモート・データベースに接続されている場合には、接続は、ローカルにリセットされ、このコマンドの完了までローカルのままです。接続管理方式が*DUWの場合には、リモート接続は休止状態のままとなります。

***CURRENT**

現在接続されているリレーショナル・データベースがアクセスされます。

*RUW接続管理では、ユーザーがリモート・データベースに接続されている場合には、OUTPUTパラメーターに*OUTFILEを指定することはできません。

*DUW接続管理では、ユーザーがリモート・データベースに接続されていて、OUTPUT(*OUTFILE)が指定された場合には、*OUTFILE処理で接続はローカルにセットされ、STRQMQRVコマンドを完了した時にリモート接続が復元されます。

リレーショナル・データベース名

アクセスされるリレーショナル・データベースの名前を指定します。指定するデータベースには、リレーショナル・データベース・ディレクトリーの項目が入っていなければなりません。

*RUW接続管理では、指定されたりレーショナル・データベースがリモート・データベースで、OUTPUT(*OUTFILE)が指定された場合には、*OUTFILE処理で接続はローカルにセットされ、STRQMQRVコマンドを完了した時にもローカルのままとなります。

*DUW接続管理では、リレーショナル・データベースおよびOUTPUT(*OUTFILE)が指定された場合には、*OUTFILE処理で接続はローカルにセットされ、STRQMQRVコマンドを完了した時にリモート接続が復元されます。

[トップ](#)

接続方式 (RDBCNNMTH)

使用する接続方法を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***DUW** 複数のリレーショナル・データベースに接続することができます。追加のリレーショナル・データベースへの連続したCONNECTステートメントがあっても、前の接続が切断される結果とはなりません。

***RUW** リレーショナル・データベースへの1つの接続だけを使用することができます。連続したCONNECTステートメントの結果として、新しい接続が確立される前に、前の接続が切断されます。

[トップ](#)

ユーザー (USER)

会話を開始した時にリモート・システムに送られるユーザー名を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***CURRENT**

現行ジョブと関連したユーザー名が使用されます。

ユーザー名

アプリケーション・リクエスター・ジョブに使用されるユーザー名を指定してください。

[トップ](#)

パスワード (PASSWORD)

リモート・システムで使用されるパスワードを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***NONE**

パスワードは送られません。この値が指定された場合には、USERパラメーターに指定されたユーザー名は無効です。

パスワード

USERパラメーターに指定されたユーザー名のパスワードを指定してください。

[トップ](#)

命名規則 (NAMING)

オブジェクトの命名に使用される命名規則を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SYS** システムの命名規則（ライブラリー名／オブジェクト名）が使用されます。

***SQL** SQLの命名規則（データベース名、オブジェクト名）が使用されます。NAMING(*SQL)が指定された場合には、このコマンドの他のパラメーターに指定されたオブジェクトを見つけるための省略時の値として*LIBLの値を指定したり使用することはできません。

***SAA** SQLの命名規則（データベース名、オブジェクト名）が使用されます。NAMING(*SAA)が指定された場合には、このコマンドの他のパラメーターで指定されたオブジェクトを見つけるために、省略時の値として*LIBL値を指定したり使用することはできません。

[トップ](#)

QRYDFNからの情報使用可能 (ALWQRYDFN)

指定されたオブジェクト名を使用してQUERY管理機能プログラム(QMQRY)またはQUERY管理機能書式(QMFORM)オブジェクトを見つけることができない時に、QUERYまたは書式情報をQUERY定義(QRYDFN)オブジェクトから取り出すかどうかを指定します。この方法で得られた情報は、コマンドが完了した時に破棄されます。QUERY 管理機能オブジェクトは作成されません。

考えられる値は、次の通りです。

***NO** 情報はQRYDFNオブジェクトから取り出されません。

***YES** 指定されたQMQRYまたはQMFORMオブジェクト名が見つからない時に、QRYDFN オブジェクトから情報が取り出されます。

*ONLY

情報はQRYDFNオブジェクトからのみ取り出されます。QUERY管理機能オブジェクトは無視されます。

[トップ](#)

集合変数 (SETVAR)

QUERYが実行される前にQUERY管理機能によって設定される変数を指定します。最大50個の変数を設定することができます。

変数名 変数名を指定してください。有効な変数の範囲は1-30文字です。変数名の中の小文字はコマンド処理プログラムに渡される時に大文字に変更されるので、このパラメーターを使用して大文字と小文字が混ざった変数の値を設定することはできません。

変数値 変数の値を指定してください。有効な値の範囲は0-55文字です。値をアポストロフィで囲むと、値がコマンド処理プログラムに渡される時に、アポストロフィが除去されて値の中の二重アポストロフィは単一アポストロフィに圧縮されます。

[トップ](#)

STRQMQRの例

例1: QUERY出力を表示

```
STRQMQR  QMQR(MYLIB/MYQR)  QMFORM(FORM1)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBにあるQUERY管理機能プログラムQUERY MYQRを実行します。ライブラリー・リストで書式FORM1が検索されますが、これは出力を表示装置に送るのに使用されます。

例2: QMQRまたはQRYDFNのいずれかから情報を入手

```
STRQMQR  QMQR(MYLIB/MYQR)  QMFORM(FORM1)  ALWQRYDFN(*YES)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBにあるQUERY管理機能プログラムQUERY (QMQR)のMYQRを実行します。QMQRオブジェクトMYQRがライブラリーMYLIBに見つからない場合には、ライブラリーMYLIBにあるQUERY定義(QRYDFN) MYQRから情報が入手されます。ライブラリー・リストでQUERY管理機能書式FORM1が検索されますが、この情報は出力のフォーマット設定に使用されます。ライブラリー・リストにQMFORMオブジェクトFORM1が見つからない場合には、ライブラリー・リストでQRYDFN FORM1が検索され、表示装置に示す出力のフォーマット設定にその情報が使用されます。

例3: QUERY出力を印刷

```
STRQMQR  QMQR(MYLIB/QUERY1)  OUTTYPE(*PRINTER)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBにあるQUERY QUERY1を実行します。この報告書は、フォーマット設定されて、このQUERYセッションと関連した印刷装置ファイルに指定された印刷装置で印刷されます。

例4: 既存ファイルに出力を送信

```
STRQMQR  QMQR(*CURLIB/MYQR)
          OUTPUT(*OUTFILE)  OUTFILE(MYTAB)  OUTMBR(*FIRST *ADD)
```


このコマンドは、ユーザーのジョブの現行ライブラリーにあるQUERY（名前MYQRY）を実行します。選択されたデータ・レコードは、コレクションMYCOL中に前に作成されたテーブル（名前MYTAB）に追加されます。

例5:置換変数を含むQUERYを実行

```
STRQMQR  QMQR(MYQUERY)
          SETVAR((VAR1 'SELECT * FROM MYTABLE')
                (VAR2 'WHERE SALARY > 15000'))
```

このコマンドは、QUERY MYQUERYを実行しますが、これには置換変数&VAR1および&VAR2だけが含まれています。これらの2つの変数には、構造化照会言語(SQL)ステートメント全体が入っています。

例6:変数を変更

```
STRQMQR  QMQR(QRYNAME) SETVAR((LASTNAME '''SMITH'''))
```

このコマンドは、QUERY QRYNAMEを実行し、変数LASTNAMEを値'SMITH'に設定します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： STRQMQR

*ESCAPE メッセージ

QWM2701

&1コマンドが正しく実行されなかった。

QWM2703

&1コマンドは終了した。

QWM2707

SQL命名規則が適用されるときには*LIBLを使用できない。

QWM2709

リレーショナル・データベース値に対してユーザーまたはパスワードが正しくない。

QWM2710

パスワード値*NONEに対して正しいのはユーザー値*CURRENTだけである。

QWM2712

ユーザー名の文字が正しくない。

[トップ](#)

QUERY開始 (STRQRY)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

QUERY開始(STRQRY)コマンドは、QUERY FOR ISERIESメイン・メニューを表示します。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

STRQRYの例

STRQRY

このコマンドは、メインQUERYユーティリティ・メニューを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: STRQRY

なし

[トップ](#)

QSHの開始 (STRQSH)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

QSHとして知られるQSH開始(STRQSH)コマンドは、**QSH**シェル解釈プログラムを開始します。

対話式ジョブで実行すると、STRQSHは対話式シェル・セッションを開始します。そのジョブでシェル・セッションがまだ活動状態になっていない場合には、次のことが実行されます。

1. 新しいシェル・セッションが開始され、端末ウィンドウが表示されます。
2. **QSH**がファイル /ETC/PROFILE (存在している場合) からのコマンドを実行します。
3. **QSH**がユーザーのホーム・ディレクトリー中のファイル .PROFILE (存在している場合) からのコマンドを実行します。
4. **QSH**がENV変数の拡張部分で指定されたファイル (存在している場合) からのコマンドを実行します。

対話式ジョブでシェル・セッションがすでに活動状態になっている場合には、既存のセッションに再接続されます。端末ウィンドウから、シェル・コマンドを入力し、そのコマンドからの出力を表示することができます。

端末ウィンドウの使用法

端末ウィンドウには、次の2つの部分があります。

- コマンドを入力するための入力行、および
- 入力されたコマンドのエコーおよびそのコマンドによって生成された出力が入る出力域。

端末ウィンドウでは、次の機能キーがサポートされています。

F3 (終了)

端末ウィンドウをクローズしQSHセッションを終了します。

F5 (最新表示)

出力域を最新表示します。

F6 (印刷)

出力域をスプール・ファイルに印刷します。

F7 (上)

出力域を上を1ページ分ロールします。

F8 (下)

出力域を下を1ページ分ロールします。

F9 (コマンドの複写)

前のコマンドを検索します。このキーを複数回押して、任意の前のコマンドを検索することができます。たとえば、入力した最後のコマンドの前のコマンドを検索するためには、このキーを2回押します。また、特定のコマンドにカーソルを位置づけてこのキーを押すことによって、そのコマンドを選択して実行することができます。2バイトCCSIDで対話式ジョブが実行されている時には、このキーは使用できません。

F11（行折返しの切替え）

出力域の行の折返し／切捨てモードを切り替えます。行折返しモードでは、端末ウィンドウの幅よりも長い行は次の行に折り返されます。切捨てモードでは、端末ウィンドウの幅を越える行の部分は表示されません。

F12（切断）

QSHセッションから切り離します。このキーは、端末ウィンドウをクローズするだけでQSHセッションを終了するわけではありません。切断されたQSHセッションは、STRQSHコマンドを再び実行することによって再表示することができます。

F13（消去）

出力域を消去します。

F17（最上部）

出力域の最上部を表示します。

F18（最下部）

出力域の最下部を表示します。

F19（左）

出力域を左にシフトします。

F20（右）

出力域を右にシフトします。

F21（CLコマンド入力）

CLコマンドを入力できるコマンド入力ウィンドウを表示します。

また、現在実行中のコマンドを中断するためには、システム要求の2を使用することができます。

エラー・メッセージ： STRQSH

*ESCAPE メッセージ

QSH0002

QSHセッションでエラーが見つかりました。理由コードは&1,エラー番号は&2です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CMD	コマンド	文字値, *NONE	オプション

[トップ](#)

コマンド (CMD)

実行したいシェル・コマンドを指定します。

使用できる値は、次の通りです。

***NONE:**

コマンドを指定しないで，対話式セッションが開始されます。

コマンド

実行するシェル・コマンド。コマンドの長さは最大5000バイトとすることができます。空白または他の特殊文字を使用する場合には，コマンドをアポストロフィ(')で囲まなければなりません。アポストロフィを指定したい場合には，2つのアポストロフィ('')を使用する必要があります。

注：小文字を指定した時には，そのケースが保存されます。

トップ

例

なし

トップ

エラー・メッセージ： STRQSH

***ESCAPE** メッセージ

QSH0002

QSHセッションでエラーが見つかりました。理由コードは&1,エラー番号は&2です。

トップ

質問・回答開始 (STRQST)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

質問・回答開始(STRQST)コマンドは、質問・回答(Q&A)メイン・メニューを表示します。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「システム操作の基本」情報で入手することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
QSTDB	Q/Aデータベース	名前, <u>*SELECT</u>	オプション、位置 1
LIB	Q/Aデータベースが存在するライブラリー	名前, <u>*QSTLIB</u>	オプション、位置 2

[トップ](#)

Q/Aデータベース (QSTDB)

処理する質問・回答(Q&A)データベースを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*SELECT

Q&Aデータベースを指定するように要求されています。システム上に1つのQ&Aデータベースしか存在していない場合には、それが省略時の値になります。

質問データベース

処理するQ&Aデータベースの名前を指定してください。

[トップ](#)

Q/Aデータベースが存在するライブラリー (LIB)

Q&Aデータベースが入っているライブラリーの名前を指定します。

Q&Aデータベースの名前は、次の1つのライブラリー値によって修飾することができます。

***QSTLIB**

指定されたQ&Aデータベースが入っているライブラリーが検索されます。QSTDB パラメーターに *SELECTを指定した場合には、ユーザーに認可されたすべてのライブラリーの中の任意のQ&Aデータベースを選択することができます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。QSTDBパラメーターに*SELECTを指定した場合には、ユーザーに認可されたライブラリーの中の任意のQ&Aデータベースを選択することができます。

[トップ](#)

STRQSTの例

STRQST

このコマンドは、質問・回答(Q&A)メインメニューを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： STRQST

なし

[トップ](#)

REXXプロシージャー開始 (STRREXPRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

REXXプロシージャー開始(STRREXPRC)コマンドでは、解釈するライブラリー、ファイル、およびソース・メンバーを明示的に指定して、インタープリターを呼び出します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SRCMBR	ソース・メンバー	名前	必須, 定位置 1
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QREXSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
PARM	パラメーター	文字値, *NONE	オプション
CMDENV	コマンド環境	単一値: *COMMAND , *CPICOMM , *EXECSQL その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: コマンド環境	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
EXITPGM	終了プログラム	単一値: *NONE その他の値 (最大 8 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: プログラム	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
	要素 2: 出口コード	2, 3, 4, 5, 7, 8, 9, 10	

[トップ](#)

ソース・メンバー(SRCMBR)

開始するREXXプロシージャーが入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

ソース・ファイル (SRCFILE)

開始するREXXプロシージャーが含まれるソース・ファイルを指定します。

指定できるソース・ファイルの値は次の通りです。

QREXSRC

IBM提供のソース・ファイルQREXSRCには、REXXプロシージャが入っています。

ソース・ファイル名

実行するREXXプロシージャが入っているソース・ファイルの名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** プログラムを見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

プログラムを見つけるために現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ライブラリー名を指定します。

[トップ](#)

パラメーター (PARM)

REXXプロシージャを開始する時にそれに渡されるプロシージャ・パラメーター値を示します。これらの値は、REXXプロシージャの中の引数(ARG)命令を介してアクセスされます。

考えられる値は、次の通りです。

***NONE**

REXXプロシージャ用のプロシージャ・パラメーターはありません。ARG命令は、ヌル・ストリングを戻します。

プロシージャ・パラメーター

REXXプロシージャに渡すプロシージャ・パラメーター値を指定してください。最大3000文字が使用可能です。

[トップ](#)

コマンド環境 (CMDENV)

REXXプロシージャに挿入されたコマンドを処理する初期コマンド環境プログラムを示します。REXXインタープリターは、REXXプロシージャの中にコマンドがあった時には常にこの環境を呼び出します。

考えられる値は、次の通りです。

***COMMAND**

AS/400制御言語(CL)コマンド環境が使用されます。

***CPICOMM**

通信コマンド環境用の共通プログラミング・インターフェース(CPI)が使用されます。

***EXECSQL**

構造化照会言語(SQL)コマンド環境が使用されます。EXECSQLは、REXXプロシージャに組み入れられるCLコマンドに使用されるコマンド環境です。

プログラム名

REXXプロシージャーに挿入されたコマンドを処理するプログラムの名前を指定してください。
考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** プログラムを見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

*CURLIB

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

終了プログラム (EXITPGM)

インタープリターの呼び出し時に使用する出口プログラムを指定します。プログラムおよび出口コードの対を、最大8つまで指定することができます。

注: 複数のシステム出口コードが指定された場合には、最後に指定されたものが使用されます。

考えられる値は、次の通りです。

*NONE

この呼び出しにはエグジット・プログラムはありません。

プログラム名

プログラム名を指定してください。プログラム名は最大8つまで指定することができます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** プログラムを見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

*CURLIB

プログラムを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

エグジット・コード

次のエグジット・コードを指定してください。最大8つのエグジット・コードを指定することができます。

エグジット・コード

説明

- 2 外部関数またはサブルーチンがREXXプログラムによって呼び出された時には、常に関連したプログラムが呼び出されます。次に、エグジット・プログラムが、要求されたルーチンを見つけて呼び出すことを担当します。
- 3 インタープリターがコマンドを呼び出そうとしている時には、常に関連したプログラムが

呼び出されます。コマンド・ストリングおよび現行の環境名が指定されていれば、エグジット・プログラムが、そのコマンドを見つけて呼び出すことを担当します。

- 4 REXX命令または関数がREXX外部データ待ち行列に対する操作を試みた時には、常に関連したプログラムが呼び出されます。
- 5 セッション入出力操作が試みられた時には、常に関連したプログラムが呼び出されます。
- 7 REXXプロシージャの各文節の実行後に、これを停止すべきかどうかを決めるために、関連プログラムが呼び出されます。
- 8 REXXプログラムの各文節の実行後に、追跡をオンまたはオフに変えるべきかどうかを確認するために、関連したプログラムが呼び出されます。
- 9 REXXプロシージャ（外部関数およびサブルーチンとして呼び出されるREXXプロシージャを含む）の最初の命令を解釈する前に、関連したプログラムが呼び出されます。
- 10 REXXプロシージャ（外部関数およびサブルーチンとして呼び出されるREXXプロシージャを含む）の最後の命令を解釈した後に、関連したプログラムが呼び出されます。

[トップ](#)

STRREXPRCの例

STRREXPRC SRCMBR(ABC)

このコマンドは、REXXインタープリターを呼び出して、ライブラリー・リスト(*LIBL)中の最初のQREXSRCソース・ファイルの名前ABCのソース・メンバーを実行するように指示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： STRREXPRC

***ESCAPE** メッセージ

CPF7CFB

REXX出口プログラムの処理中に、エラーが起こった。

CPF7CFD

REXXプロシージャ&1の実行中に、エラーが起こった。

CPF7CFF

REXXプロシージャ&1が終了した。戻りコードは&4です。

CPF7CF2

REXXプロシージャ&1が見つからない。

CPF7CF3

ソース・ファイル&2は認可されていない。

CPF7CF4

REXXプロシージャ&1を割り振ることができない。

CPF7CF6

REXXソース・ファイル&2を割り振ることができない。

CPF7CF7

REXX外部データ待ち行列に損傷がある。

[トップ](#)

リモート・サポートの開始 (STRRMTSPT)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

リモート・サポート開始(STRRMTSPT)コマンドは、リモート・サポートに必要なすべての構成オブジェクトを作成し、オンに構成変更します。リモート・サポートによって、IBMサービス組織はユーザー・システムにアクセスすることができます。使用できるリモート・サポート・オプションは次の通りです:

- リモート・ワークステーション
- 仮想装置
- システム・ネットワーク体系(SNA)接続を通じた仮想装置
- インターネット・プロトコル(IP)を使用するPOINT-TO-POINTプロトコル(PPP)接続を通じた仮想装置
- インターネット・プロトコル(IP)を使用する仮想プライベート・ネットワーク(VPN)接続を通じた仮想装置

各リモート・サポート・オプションは、接続に必要な各種のコマンド・パラメーターを持っています。既存のリモート・サポート構成オブジェクトが見つかった場合には、それらは削除されてから、再作成されます。構成オブジェクトは、作成されると、オンに構成変更されます。サポート担当者がユーザーのシステムにサインオンする前に、ユーザーIDとパスワードを提供しなければなりません。

制約事項:

1. DEVCLS(*RMT)を使用する時は、サポート組織によって使用されるリモート・ワークステーションは、DSPTYPEおよびDSPMODELパラメーターにリストされているものの1つでなければなりません。サポート組織の構成が一致しない場合には、サポート担当者とは協力して、システムに正しい構成オブジェクトを作成しなければなりません。
2. DEVCLS(*VRT)またはDEVCLS(*IPS)を使用する時は、QUSERユーザー・プロファイルが使用不可になってはいけません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEVCLS	装置クラス	*RMT, *VRT, *IPS, *PPP, *VPN	必須, 定位置 1
DSPTYPE	表示装置タイプ	3179, 3180, 3196, 3197, 5251, 5291, 5292	オプション, 定位置 2
DSPMODEL	表示装置型式	1, 2, 11, A1, A2, B1, B2, C1, C2, D1, D2, W1, W2, 0001, 0002, 0011	オプション, 定位置 3
STNADR	端末アドレス	X'01'-X'FE', FE	オプション, 定位置 4
USRPRF	ユーザー・プロファイル	文字値, QPGMR	オプション, 定位置 5
RSRCNAME	資源名	文字値, *DFT	オプション, 定位置 6

キーワード	記述	選択項目	注
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名, QREMOTE	オプションル, 定位置 7
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	通信名, QLOCAL , *NETATR	オプションル, 定位置 8
RMTNETID	リモート・ネットワーク 識別コード	通信名, *NETATR, *NONE	オプションル
MAXLENRU	要求単位の最大長	241-32767, 32767 , *SAME, *CALC	オプションル
DTACPR	データ圧縮	*SAME, *NETATR, *NONE, *ALLOW, *REQUEST , *REQUIRE	オプションル
INDTACPR	インバウンド・データの圧縮	*SAME, *RLE, *LZ9, *LZ10, *LZ12 , *NONE	オプションル
OUTDTACPR	アウトバウンド・データの圧縮	*SAME, *RLE, *LZ9, *LZ10, *LZ12 , *NONE	オプションル
MODEM	モデム	文字値, *RSRCNAME , *RMTPPP, *SELECT	オプションル
MDMRMTSYS	モデム・リモート・システム	文字値	オプションル

トップ

装置クラス (DEVCLS)

この表示装置の装置クラスを指定します。指定された値に応じて、各種の構成オブジェクトが作成されます。

これは必須パラメーターです。

- *RMT** この装置クラスは、リモート・ワークステーションに接続される装置用です。このオプション用に作成された構成オブジェクトには、回線記述、制御装置記述、表示装置記述、および印刷装置記述があります。
- *VRT** この装置クラスは仮想装置用です。このオプション用に作成された構成オブジェクトには、回線記述、制御装置記述、装置記述、仮想制御記述、および仮想表示装置記述があります。
- *IPS** この装置クラスは仮想装置用のもので、この接続でSNAセッションを通じインターネット・プロトコル(IP)もサポートします。このオプション用に作成された構成オブジェクトには、回線記述、制御装置記述、装置記述、仮想制御記述、および仮想表示装置記述があります。
- *PPP** この装置クラスは、POINT-TO-POINT (PPP)接続を通じたIPをサポートします。このオプション用に作成された構成オブジェクトには、回線記述、制御装置記述、装置記述、およびPPPプロファイルがあります。DEVCLS(*PPP)では、サーバー機密保護データを保存するために、QRETSVRSECシステム値を'1'に設定する必要があります。これによって、サービス組織が接続しようとしている時に追加認証を実行できます。
- *VPN** この装置クラスは、仮想プライベート・ネットワーク(VPN)接続を通じたIPをサポートします。システムにVPN構成をセットアップするために、STRRMTSPTコマンドを実行する前にユニバーサル・コネクション・ウィザードを実行しなければなりません。STRRMTSPTコマンドを入力すると、11個の英数字が画面に表示されます。完全な接続を確立するために、これらの文字をカスタマー・サポート担当者に通知しなければなりません。このオプションでは構成オブジェクトは作成されません。

トップ

表示装置タイプ (DSPTYPE)

リモート・サポート用に使用されるワークステーション表示装置タイプを指定します。DEVCLSに値*RMT,*VRT,または*IPSが指定されている場合は、このパラメーターに値を指定しなければなりません。

有効な表示装置タイプ値は次の通りです。

- 3179
- 3180
- 3196
- 3197
- 5251
- 5291
- 5292

[トップ](#)

表示装置型式 (DSPMODEL)

この記述の装置の型式番号を指定します。DEVCLSに値*RMT,*VRT,または*IPSが指定されている場合は、このパラメーターに値を指定しなければなりません。

各装置タイプの装置型式の有効な値は次の通りです。

タイプ 型式

3179	2
3180	2
3196	A1, A2, B1,またはB2
3197	C1, C2, D1, D2, W1,またはW2
5251	11
5291	1または2
5292	1または2

[トップ](#)

アドレス (STNADR)

DEVCLSパラメーターに指定された値に応じて、このパラメーターは、端末アドレスまたはローカルIPアドレス修飾子のいずれかに使用されるアドレスを指定します。DEVCLSが*PPPまたは*VPNでない場合には、このパラメーターは端末アドレスを指定します。端末アドレスは、リモート・システムがローカル・システムを識別するための16進数アドレスです。この16進数アドレスは、このシステムに割り当てられたポーリング・アドレスです。

DEVCLSが*IPS,*PPP,または*VPNである場合は、このパラメーターはローカルIPアドレス修飾子として使用されます。これは、使用されるローカルIPアドレスの最後のバイトの値を指定します。

FE 16進値のFEは、ローカル・システム・アドレスです。

アドレス

01 - FEの16進数値を指定してください。

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

IBM サービス技術員がユーザーのシステムにサインオンするために使用するユーザー・プロファイルの名前を指定します。このプロファイルは、リモート・サポートを開始する時にシステムによって作成されるオブジェクトの所有者によって作成されます。ユーザー・プロファイルはすでにシステム上に存在していなければなりません。

QPGMR

省略時のシステム提供ユーザー・プロファイルQPGMRは、ユーザーのシステムにサインオンするために使用されます。

ユーザー・プロファイル名

リモート・システムにサインオンするために使用される既存のユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

資源名 (RSRCNAME)

ISERIESエレクトロニック支援にアクセスするために使用される資源の名前を指定します。このパラメーターはDEVCLS(*VPN)には使用されません。

*DFT

- DEVCLS(*PPP)の場合：
 - 2771または2793内蔵モデムによって使用される資源を探します。1つの2771または2793しか定義されていない場合には、その資源がこのPPP回線用に使用されます。複数の2771または2793を定義することもできますが、1つしか定義されていない場合は、1つの2771または2793資源しか計算できないことに注意してください。
 - 2771または2793モデム資源を使用できない場合は、使用できる資源がエレクトロニック支援(ECS)によって定義されていないかどうか調べてください。ECS資源が使用可能な場合には、その資源がこのPPP回線用に使用されます。
 - 単一の2771または2793内蔵モデムとECS資源のどちらも使用できない場合には、資源は計算できず、明示的に指定しなければなりません。
- その他のすべてのDEVCLS値の場合(*VPNを除く)：エレクトロニック支援にアクセスするために出荷された省略時ポートと関連する資源名が使用されます。これは、バス上の最初の多機能IOP(入出力プロセッサ)のカード位置BのI/O(入出力)アダプター上の最初のポートです。このポートがシステムに存在していない場合には、資源名CMN01が使用されます。

資源名 エレクトロニック支援にアクセスするために使用される資源の名前を指定してください。

[トップ](#)

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

このオブジェクトが通信するシステムのリモート・ロケーション名を指定します。このパラメーターは、DEVCLSが*VRTまたは*IPSの時に使用します。

QREMOTE

省略時のシステム提供リモート・サポート・ロケーション名。

リモート・ロケーション名

リモート・サポート・ロケーションの名前を指定する。

[トップ](#)

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

リモート装置に対してローカル・システムを識別する固有のロケーション名を指定します。この名前は、リモート・ロケーションプロンプト(RMTLOCNAMEパラメーター)に指定した名前と同じにすることはできません。ローカル・ロケーションプロンプト(LCLLOCNAMEパラメーター)およびリモート・ロケーションプロンプト(RMTLOCNAMEパラメーター)に指定する名前の組み合わせは、同じ制御装置に接続された各装置ごとに固有としなければなりません。このパラメーターは、DEVCLSパラメーターが値*VRTまたは*IPSを持っている時に使用します。

QLOCAL

省略時のシステム提供ローカル・ロケーション名が使用されます。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性で指定されたLCLLOCNAME値が使用されます。

ローカル・ロケーション名

リモート装置に対してローカル・システムを識別するために使用するロケーション名を指定してください。

[トップ](#)

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

リモート・システムが常駐するリモート・ネットワークの名前を指定します。このパラメーターは、DEVCLSパラメーターが値*VRTまたは*IPSを持っている時に使用します。

***NONE**

リモート・ネットワーク名は使用されません。

リモート・ネットワーク名

リモート・ネットワーク名を指定します。

[トップ](#)

要求単位の最大長 (MAXLENRU)

使用できる要求単位(RU)の最大長を指定します。このパラメーターは、DEVCLSパラメーターが値*VRTまたは*IPSを持っている時に使用します。

32767 最大要求単位の長さは32767バイトです。

*CALC

システムは使用する最大値を計算します。

要求単位の最大長

着信要求単位の最大長として241-32767バイトの範囲の値を指定してください。

回線タイプに基づいた一部の共通値は次の通りです:

- SDLC回線: 256, 512, 1024, 2048
- トークンリング・ネットワーク回線: 256, 512, 1024, 1985
- X.25 (QLLC)回線: 247, 503, 1015
- X.25 (ELLC)回線: 241, 497, 1009

最大RU長を設定する場合の詳細については、AS/400通信構成 (SD88-5011)ブックを参照してください。

[トップ](#)

データ圧縮 (DTACPR)

データ圧縮を使用するかどうかを指定します。

*REQUEST

データ圧縮は、ローカル・システムによるセッションで要求されます。しかし、この要求は、リモート・システムによって拒否されるか、あるいはより低い圧縮レベルに変更される場合があります。データ圧縮は、それがリモート・システムによって要求された場合に、セッションで使用することができます。インバウンドおよびアウトバウンド・データで要求される圧縮レベルは、**インバウンド・データの圧縮**および**アウトバウンド・データの圧縮**プロンプト(INDTACPRおよびOUTDTACPRパラメーター)に指定されたレベルです。

リモート・システムによってデータ圧縮が要求された場合には、セッションによって使用されるデータ圧縮レベルは、**インバウンド・データの圧縮**および**アウトバウンド・データの圧縮**プロンプト(INDTACPRおよびOUTDTACPRパラメーター)に指定されたレベルです。

*NONE

セッションで圧縮を使用することはできません。

*ALLOW

リモート・システムによって要求された場合には、ローカル・システムでセッション時にデータ圧縮を使用することができます。ローカル・システムは圧縮を要求しません。

リモート・システムによってデータ圧縮が要求された場合には、セッションによって使用されるデータ圧縮レベルは、**インバウンド・データの圧縮**および**アウトバウンド・データの圧縮**プロンプト(INDTACPRおよびOUTDTACPRパラメーター)に指定されたレベルです。

*REQUIRE

セッションでデータ圧縮が必要です。リモート・システムがローカル・システムに必要な正確なレベルの圧縮を受け入れない場合には、セッションは確立されません。

ローカル・システムに必要なデータ圧縮レベルは、**インバウンド・データの圧縮**および**アウトバウンド・データの圧縮**プロンプト(INDTACPRおよびOUTDTACPRパラメーター)に指定されたレベルです。

[トップ](#)

インバウンド・データの圧縮 (INDTACPR)

インバウンド・データの圧縮に必要なレベルを指定します。データ圧縮プロンプト (DTACPRパラメーター) に*NONEが指定されている場合には、データ圧縮は起こりません。最適のディクショナリー基本圧縮は動的圧縮アルゴリズムであり、LEMPERL-ZIVと類似して、前に表示されたストリングを9ビット、10ビット、および12ビット・コードに圧縮します。このアルゴリズムは次のパラメーターではLZとなっています。

- *LZ12 データ・ストリーム中の反復サブストリングに対して、12ビット・コードのLZ アルゴリズムが使用されます。これらのコードは、送信者と受信者の間をデータが流れるにつれて作成される、共通ディクショナリー中の項目を参照します。LZアルゴリズムには記憶域と追加の処理時間が必要です。LZ12はLZアルゴリズムの最大記憶域と処理時間を必要としますが、LZ12が行うデータ・ストリームの圧縮は最大になります。
- *RLE ラン・レングス・エンコード(RLE)アルゴリズムが使用されます。RLEはデータ・ストリーム中の同じ文字の繰り返しの代わりに1バイトまたは2バイトの文字列を使用します。このアルゴリズムは記憶域を必要とせず、また他のオプションより処理時間が少なく済みます。
- *LZ9 データ・ストリーム中の反復サブストリングに対して、9ビット・コードのLZアルゴリズムが使用されます。これらのコードは、送信者と受信者の間をデータが流れるにつれて作成される、共通ディクショナリー中の項目を参照します。LZアルゴリズムには記憶域と追加の処理時間が必要です。LZ9はLZアルゴリズムの最小記憶域と処理時間を必要としますが、LZ9が行うデータ・ストリームの圧縮は最小になります。
- *LZ10 データ・ストリーム中の反復サブストリングに対して、10ビット・コードのLZ アルゴリズムが使用されます。これらのコードは、送信者と受信者の間をデータが流れるにつれて作成される、共通ディクショナリー中の項目を参照します。LZアルゴリズムには記憶域と追加の処理時間が必要です。LZ10テーブル・アルゴリズムはLZ9より多くの記憶域と処理時間を必要としますが、LZ12よりは少なく済みます。LZ10 はLZ9より多くデータ・ストリームを圧縮しますが、LZ12よりは少なく済みます。

トップ

アウトバウンド・データの圧縮 (OUTDTACPR)

アウトバウンド・データの圧縮に必要なレベルを指定します。データ圧縮プロンプト (DTACPRパラメーター) に*NONEが指定されている場合には、データ圧縮は起こりません。

- *LZ12 データ・ストリーム中の反復サブストリングに対して、12ビット・コードのLZ アルゴリズムが使用されます。これらのコードは、送信者と受信者の間をデータが流れるにつれて作成される、共通ディクショナリー中の項目を参照します。LZアルゴリズムには記憶域と追加の処理時間が必要です。LZ12はLZアルゴリズムの最大記憶域と処理時間を必要としますが、LZ12が行うデータ・ストリームの圧縮は最大になります。
- *RLE ラン・レングス・エンコード(RLE)アルゴリズムが使用されます。RLEはデータ・ストリーム中の同じ文字の繰り返しの代わりに1バイトまたは2バイトの文字列を使用します。このアルゴリズムは記憶域を必要とせず、また他のオプションより処理時間が少なく済みます。
- *LZ9 データ・ストリーム中の反復サブストリングに対して、9ビット・コードのLZアルゴリズムが使用されます。これらのコードは、送信者と受信者の間をデータが流れるにつれて作成される、共通ディクショナリー中の項目を参照します。LZアルゴリズムには記憶域と追加の処理時間が必要です。LZ9はLZアルゴリズムの最小記憶域と処理時間を必要としますが、LZ9が行うデータ・ストリームの圧縮は最小になります。

***LZ10** データ・ストリーム中の反復サブストリングに対して、10ビット・コードのLZ アルゴリズムが使用されます。これらのコードは、送信者と受信者の間をデータが流れるにつれて作成される、共通ディクショナリー中の項目を参照します。LZアルゴリズムには記憶域と追加の処理時間が必要です。LZ10テーブル・アルゴリズムはLZ9より多くの記憶域と処理時間を必要としますが、LZ12よりは少なく済みます。LZ10 はLZ9より多くデータ・ストリームを圧縮しますが、LZ12よりは少なく済みます。

トップ

モデム (MODEM)

POINT-TO-POINTプロトコル(PPP)プロファイルで使用するモデム記述を指定します。

***RSRCNAME**

モデム記述は、RSRCNAMEパラメーターに定義されている値を基にして判別されます。

- 資源が2771内蔵モデムを使用するように定義されている場合は、「2771内部モデム」記述が使用されます。
- 資源が2772内蔵モデムを使用するように定義されている場合は、「2772内部モデム」記述が使用されます。
- 資源が2793内蔵モデムを使用するように定義されている場合は、「2793内部モデム」記述が使用されます。
- 資源が2805内蔵モデムを使用するように定義されている場合は、「2805内部モデム」記述が使用されます。
- ECS資源が選択されている場合は、「IBM 7852-400」モデム記述が使用されます。
- その他の場合は、資源に事前定義済みのモデム記述がない場合には、MODEM(*RSRCNAME)は使用できず、モデム記述を明示的に定義しなければなりません。

***RMTPPP**

別の区画またはシステム上のモデムが使用されることを指示します。そのモデムが置かれている場所のインターネット・アドレスまたはホスト名を**モデム・リモート・システム (MDMRMTSYS)**パラメーターに指定しなければなりません。

***SELECT**

使用するモデムを選択できるモデム記述のリストが表示されます。このオプションが有効なのは、STRRMTSPT CLコマンドを対話モードで実行中の場合だけで、それ以外の場合は、エラーが起きます。対話式に実行する場合は、使用するモデムを適切に選択できるようにするために、*SELECT値を使用することをお勧めします。

'モデム識別'

使用するモデムの名前を指定してください。モデム名では大文字小文字が区別されるので、システムに定義されたモデムと正確に一致している必要があることに注意してください。

'総称*モデム識別'

使用したいモデムの総称名を指定してください。総称モデム名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば、'ABC*')です。総称名を指定すると、その総称名と一致している最初のモデム名(FIRST)が使用されることとなります。モデム名ストリングには、あいまいさを回避するためにできるだけ多くの文字数を含めることをお勧めします。総称(接頭部)名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なモデム名と見なします。選択される実際のモデム名は、ジョブ・ログ中のメッセージで通知されます。

モデム・リモート・システム (MDMRMTSYS)

リモート・サポートに使用するモデムが置かれているシステムまたは区画のインターネット・プロトコル (IPV4) アドレスまたはホスト名を指定します。

注: このパラメーターは、**モデム (MODEM)** パラメーターに *RMTPPP を指定した場合に必要です。MODEM パラメーターが *RMTPPP 以外の値であった場合には、このパラメーターは指定できません。

文字値 モデムが置かれているリモート・システムまたは区画の IP アドレスまたはホスト名を指定します。

トップ

STRRMTSPTの例

例1: PPPを使用したリモート・サポートの開始

```
STRRMTSPT  DEVCLS(*PPP)  STNADR(FA)
```

このコマンドは、PPP 応答プロファイルおよび関連する構成オブジェクトを作成し、開始します。割り当てられるローカル・インターネット・アドレスは 169.254.2.250 です。

例2: 仮想装置に対するリモート・サポートの開始

```
STRRMTSPT  DEVCLS(*VRT)  DSPTYPE(5251)
           DSPMODEL(11)  STNADR(FE)
```

このコマンドは、端末アドレス FE にある 5251 型式 11 表示装置を作成し、オンに構成変更します。

例3: VPNを使用したリモート・サポートの開始

```
STRRMTSPT  DEVCLS(*VPN)
```

このコマンドは、仮想プライベート・ネットワーク (VPN) 接続を通じたリモート・サポートを開始します。このコマンドを実行する前に、ユニバーサル・コネクション・ウィザードを実行し、エレクトロニック支援 (ECS) のための VPN または接続のマルチホップ・タイプ (ローカルまたはリモート) を指定する必要があります。

例4: リモート・モデムおよび PPP を使用したリモート・サポートの開始

```
STRRMTSPT  DEVCLS(*PPP)  STNADR(FE)  MODEM(*RMTPPP)
           MDMRMTSYS('10.1.1.2')
```

このコマンドは、L2TP リモート 応答プロファイルおよび関連する構成オブジェクトを作成し、開始します。このコマンドを実行する前に、使用するモデムが入っているインターネット・アドレス 10.1.1.2 のシステムまたは区画で、ユニバーサル・コネクション・ウィザードを実行する必要があります。ユニバーサル・コネクション・ウィザードの実行時には、そのモデムが他のものへの接続を提供する必要があることと、接続タイプは AT&T であることを指定する必要があります。これに代わる方法として、モデムが入っているシステムまたは区画でリモート・アクセス・サービス新規プロファイル GUI を使用して L2TP 終端装置プロファイルを作成し、発信呼び出しがサポートされることを指定します。

エラー・メッセージ： STRRMTSPT

*ESCAPE メッセージ

CPF1394

CPF1394ユーザー・プロファイル&1はサインオンすることができない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

TCP83A7

QRETSVRSEC=0。&2のリモート・サービス・パスワードを保管できない。

リモート書き出しプログラムの開始 (STRRMTWTR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

リモート書き出しプログラム開始(STRRMTWTR)コマンドは、出力待ち行列からリモート・システムにスプール・ファイルを送るスプール書き出しプログラムを開始します。システム・ジョブである書き出しプログラムは、出力待ち行列からスプール・ファイルを取り出して、SNADSまたはTCP/IPを使用してそれをリモート・システムに送ります。

スプール・ファイルが正常にリモート・システムに送られると、そのスプール・ファイルはSAVEスプール・ファイル属性によって指定された通りに削除または保管されます。

同時に複数の書き出しプログラムを活動状態にすることができ（スプーリング・サブシステム記述で決められる）、同じ出力待ち行列に対して最大10個の書き出しプログラムを活動状態にすることができます。各書き出しプログラムは固有の書き出しプログラム名を持っていなければならない、また1つの出力待ち行列に対して活動状態にできる書き出しプログラムのタイプ（印刷、リモート、またはディスクット）は1つだけです。開始された書き出しプログラムは、実際に出力を送り始めるか、あるいはファイルが出力待ち行列に置かれるのを待機することがあります。任意指定で、出力待ち行列のすべてのファイルの処理を終えると、書き出しプログラムを自動的に終了させることができます。書き出しプログラムを変更、保留、または取り消すこともできます。

各ジョブは独立して実行されるので、書き出しプログラムを開始した後で別の作業を続けることができます。書き出しプログラムは、STRRMTWTRコマンドを出したユーザーによって所有されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTQ	出力待ち行列	単一値: *ALL その他の値: 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MSGQ	書出プログラムMSG用待ち行列	単一値: *OUTQ, *REQUESTER その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 3
	修飾子 1: 書出プログラムMSG用待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FORMTYPE	用紙タイプ・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 用紙タイプ	文字値, *ALL, *STD, *FORMS	
	要素 2: メッセージ・オプション	*NOMSG, *INQMSG, *MSG, *INFOMSG	
WTR	書き出しプログラム	名前, *OUTQ, *SYSGEN	オプション, 定位置 2

キーワード	記述	選択項目	注
AUTOEND	自動終了オプション	要素リスト	オプションナル、位置 4
	要素 1: 書き出しプログラムの自動終了	*NO, *YES	
	要素 2: 終了条件	*NORDYF, *FILEEND	

トップ

出力待ち行列 (OUTQ)

出力待ち行列の修飾名を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** リモート・システムが指定されているシステムのすべての出力待ち行列に対してリモート書き出しプログラムを開始します。出力待ち行列ですでに別のタイプの書き出しプログラムが開始されている場合には、書き出しプログラムは開始されません。出力待ち行列中の「自動始動する書き出しプログラム」の数属性は、特定の待ち行列に対して開始される書き出しプログラムの数を決定します。これは、1つの出力待ち行列からリモート・システムにスプール出力を送っているリモート書き出しプログラム・ジョブの数を決定します。

ユーザー定義の値は、次の1つのライブラリー値で修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

指定できるユーザー定義の値は、次の通りです。

出力待ち行列名

書き出しプログラムが出力ファイルを処理する出力待ち行列の名前を指定してください。

トップ

書出プログラムMSG用待ち行列 (MSGQ)

書き出しプログラムによって作成されたメッセージが送られるメッセージ待ち行列の修飾名を指定します。

*OUTQ

メッセージは、OUTQパラメーターに指定された出力待ち行列のメッセージ待ち行列に送られます。

*REQUESTER

メッセージは、書き出しプログラムを開始したユーザーのワークステーションのワークステーション・メッセージ待ち行列に送られます。この値がバッチ・ジョブに対して指定された場合には、*OUTQが使用されます。

ユーザー定義の値は、次の1つのライブラリー値で修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

指定できるユーザー定義の値は、次の通りです。

メッセージ待ち行列名

書き出しプログラムによって作成されたメッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

[トップ](#)

用紙タイプ・オプション (FORMTYPE)

用紙タイプの名前を指定します。書き出しプログラムはこの値を使用して、リモート・システムに送信するスプール・ファイルを指定の出力待ち行列から選択します。

注: スプール・ファイルの用紙タイプは、スプール・ファイルが作成された装置ファイルに指定されています。

用紙指定のタイプに使用できる値は、次の通りです。

***ALL** すべての用紙タイプが書き出しプログラムによって処理されます。

***FORMS**

書き出しプログラムは最初に、出力待ち行列で使用可能な最初のスプール・ファイルを選択します。最初のスプール・ファイルが完了した後で、同じ用紙タイプを持つすべてのスプール・ファイルが処理されます。その後で、書き出しプログラムは出力待ち行列で使用可能な最初のスプール・ファイルを選択し、その用紙タイプの処理を反復します。

***STD** 標準用紙タイプを指定されたスプール・ファイルだけが選択されます。

用紙タイプ

作成中のスプール・ファイルの用紙タイプ。

使用可能なメッセージ送信オプションの値は次の通りです。

***NOMSG**

照会メッセージも、通知メッセージもメッセージ待ち行列に送られません。

***INQMSG**

スプール・ファイルが最後に送られた用紙タイプと異なる用紙タイプを持っている時には、メッセージ待ち行列に照会メッセージが送られます。

***INFOMSG**

この用紙タイプを必要とするスプール・ファイルが出力待ち行列に残っていない時には、通知メッセージがメッセージ待ち行列に送られます。

***MSG** スプール・ファイルがリモート装置の用紙タイプと異なる用紙タイプを持っている時にはメッセー

ジ待ち行列に照会メッセージが送られ、出力待ち行列上にこの用紙タイプを必要とするスプール・ファイルが残っていない時には通知メッセージが送られます。

[トップ](#)

書き出しプログラム (WTR)

開始するスプール書き出しプログラムの名前を指定します。各書き出しプログラム名は固有でなければなりません。

考えられる値は、次の通りです。

***OUTQ**

書き出しプログラムの名前は、OUTQパラメーターに指定された出力待ち行列の名前と同じです。OUTQ(*ALL)が指定され、開始する複数の書き出しプログラムがあった場合には、追加の各書き出しプログラムの名前は、出力待ち行列の最初の9文字からとられ、その後1つの数字が続きます。この最後の数字は、2番目の書き出しプログラムの2から、3番目の書き出しプログラムの3、および連続して10番目の書き出しプログラムの0まで順に割り当てられます。

***SYSGEN**

'RMTW000001'で始まり、連続した各書き出しプログラムの数字部分を増やして、書き出しプログラム名がシステムによって生成されます。

書き出しプログラム名

開始する書き出しプログラムを識別する名前を指定してください。

[トップ](#)

自動終了オプション (AUTOEND)

書き出しプログラムを自動的に終了するかどうかを指定します。

要素1：書き出しプログラム停止オプション

***NO** 出力待ち行列から使用可能な最後のファイルが除去されても、書き出しプログラムは終了しません。別のスプール・ファイル項目が待ち行列に置かれるのを待機します。これは単一値です（要素2は指定されません）。

***YES** 書き出しプログラムは、このパラメーターの2番目の要素で指定された条件に達した後で自動的に終了します。

要素2：書き出しプログラムが停止する条件

***NORDYF**

書き出しプログラムは、実行可能なファイルがなくなった（出力待ち行列から使用可能なすべてのファイルが除去された）時点で自動的に終了します。

***FILEEND**

書き出しプログラムは、1つのスプール・ファイルの処理を終えた後に終了します。

[トップ](#)

STRRMTWTRの例

STRRMTWTR OUTQ(RMTOUTQ) WTR(TOM)

このコマンドは、TOMという名前のスプーリング書き出しプログラムを開始します。この書き出しプログラムは、RMTOUTQという名前の出力待ち行列から出力データを取り出し、その出力データを出力待ち行列RMTOUTQに指定されたりモート・システムおよび印刷装置待ち行列に送ります。書き出しプログラム・メッセージがシステム操作員のメッセージ待ち行列に送られ、待ち行列が空になっている場合には、書き出しプログラムは追加の出力データを待機します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： STRRMTWTR

*ESCAPE メッセージ

CPF330A

出力待ち行列&1でRMTSYSが*NONEとして指定された。

CPF3305

ライブラリー&2の出力待ち行列&1は、別の書き出しプログラムに割り当てられている。

CPF3310

書き出しプログラム&1はすでに開始されている。

CPF3357

ライブラリー&2に出力待ち行列&1が見つからない。

CPF3362

QTEMPのオブジェクトは、パラメーター値には正しくない。

CPF3363

ライブラリー&2のメッセージ待ち行列&1が見つからなかった。

[トップ](#)

S/36セッションの開始 (STRS36)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム/36開始(STRS36)コマンドは、システム/36環境セッションを開始します（まだ活動状態になっていない場合）。システム/36環境が活動状態である場合でも、このコマンドによってユーザーは、メニューを表示するか、あるいはメニューの表示の前にプログラムまたはプロシージャーを実行することができます。

コマンドを終了した時に、このコマンドを出したところから、システム/36環境を活動状態または非活動状態に戻します。

制約事項:システム/36プロシージャーがすでに処理中の場合には、このコマンドを使用することはできません。このコマンドは、プロシージャーまたはプロシージャーによって開始されるプログラムの中に入れることはできません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MENU	メニュー	名前, <u>*SAME</u>	オプションル, 定位置 1
CURLIB	現行ライブラリー	名前, <u>*SAME</u>	オプションル, 定位置 2
PRC	プロシージャーかプログラム	名前, <u>*NONE</u>	オプションル, 定位置 3
FRCMNU	強制メニュー	<u>*NO</u> , *YES	オプションル

トップ

メニュー (MENU)

システム/36環境が開始された時に表示される最初のメニューを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*SAME

ジョブに指定されたメニューは変更されません。ジョブにメニューが指定されない場合には、ユーザー・プロファイルに指定された初期メニューが表示されます。

メニュー名

システム/36環境が開始された時に最初に表示されるメニューの名前を指定してください。

トップ

現行ライブラリー (CURLIB)

システム/36環境で使用する現行ライブラリーを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

現行ライブラリーは変更されません。現行ライブラリーが*CRTDFTであり、*SAMEが指定された場合には、現行ライブラリーは#LIBRARYにセットされます。

ライブラリー名

システム/36環境で現行ライブラリーとして使用したいライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

プロシージャかプログラム (PRC)

メニューの表示の前に実行するプロシージャまたはプログラムの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

プロシージャまたはプログラムは実行されません。

プロシージャ名

実行するプロシージャまたはプログラムの名前を指定してください。

[トップ](#)

強制メニュー (FRCMNU)

活動状態のシステム/36環境でメニューを表示するかどうか、およびこのコマンドが実行する機能を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NO** このコマンドを出す時にシステム/36環境が活動状態の場合には、指定されたメニューは表示されません。このコマンドは何も実行しないで、ユーザーはこのコマンドを出した時点に戻ります。

***YES** このコマンドを出す時にシステム/36環境が活動状態の場合でも、指定されたメニューが表示されません。現行ライブラリーがセットされて、プログラムまたはプロシージャはこのコマンドに指定された通りに実行されます。

[トップ](#)

STRS36の例

```
STRS36 MENU(USER) CURLIB(MYLIB) PRC(INITPROC)
```

このコマンドは、SYSTEM/36環境セッションを開始します。このコマンドは、以下を行いません。

- USERメニューを表示する
- 現行ライブラリーをMYLIBに変更する

- USERメニューを表示する前にプロシージャーINITPROCを実行する

[トップ](#)

エラー・メッセージ： STRS36

*ESCAPEメッセージ

CPF3709

テープ装置は同じ密度をサポートしていない。

CPF3738

保管または復元に使用した装置&1に損傷がある。

CPF3767

装置&1が見つからない。

[トップ](#)

S/36プロシージャの開始 (STRS36PRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム/36プロシージャ開始(STRS36PRC)コマンドは、システム/36プロシージャを開始します。これは、システム/36環境が活動状態であるかどうかに関係なく有効ですが、システム/36プロシージャがすでに実行中である場合には無効です。このコマンドは、プロシージャ中にも、あるいはプロシージャによって呼び出されるプログラム中にも入れることはできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PRC	プロシージャ	名前	必須, 定位置 1
CURLIB	現行ライブラリー	名前, *SAME	オプション, 定位置 2
PARM	プロシージャ・パラメーター	文字値	オプション, 定位置 3

[トップ](#)

プロシージャ (PRC)

実行するシステム/36プロシージャの名前を指定します。このプロシージャはソース物理ファイル QS36PRCのメンバーです。QS36PRCを検出するためのライブラリー検索順序は次の通りです。

1. 現行ライブラリー(*CURLIB)
2. #LIBRARY
3. ジョブ・ライブラリー・リスト(*LIBL)

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

現行ライブラリー (CURLIB)

システム/36プロシージャを実行するために使用する現行ライブラリーを指定します。

***SAME**

現行ライブラリーは変更されません。現行ライブラリーが*CRTDFTであり、*SAMEが指定された場合には、現行ライブラリーは#LIBRARYにセットされます。

ライブラリー名

システム/36プロシージャの実行中に、現行ライブラリーに対して使用したいライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

プロシージャ・パラメーター (PARM)

プロシージャのプロシージャ・パラメーターを指定します。プロシージャ・パラメーターによって、プロシージャに情報を渡すことができます。パラメーターが指定されない場合には、パラメーターはプロシージャに渡されません。

[トップ](#)

STRS36PRCの例

例1:現行ライブラリーの変更

```
STRS36PRC  PRC(PROC1)  CURLIB(MYLIB)
```

このコマンドは、現行ライブラリーをMYLIBに変更し、プロシージャPROC1を実行します。

例2:システムで使用するファイルのリスト

```
STRS36PRC  PRC(CATALOG)  PARM('ALL,F1')
```

このコマンドは、SYSTEM/36環境で使用するすべてのファイルをリストします。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： STRS36PRC

*ESCAPEメッセージ

SSP0010

システム/36ジョブが異常終了した。

[トップ](#)

サブシステム開始 (STRSBS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サブシステム開始 (STRSBS)コマンドは、コマンドに指定されたサブシステム記述を使用してサブシステムを開始します。サブシステムが開始されると、システムは、サブシステム記述に指定された必要で、しかも使用可能な資源（記憶域、ワークステーション、およびジョブ待ち行列）を割り振ります。

記憶域の割り振り：記憶域は、サブシステム記述に指定された記憶域プールの定義に従って、番号の小さい記憶域プールの定義から順にサブシステムに割り振られます。システム上の記憶域プールの最大数に達したため、あるいは使用可能な記憶域が不十分であったためにすべてのプール定義を割り振ることができない場合には、プールを割り振ることができなかったことを示すメッセージがシステム操作員に送られます。記憶域が後で使用可能になったり、あるいは活動記憶域プールの数が少なくなった場合に、使用可能な資源がサブシステムに自動的に割り振られ、満たされていなかった要件が満たされます。通常は割り振られていない記憶域プールで実行されるすべてのジョブは、共用記憶域プール*BASEで実行されます。

ワークステーションの割り振り：ワークステーションは、サブシステム記述内のワークステーション項目に従ってサブシステムに割り振られます。その名前（または、名前によって指定されていなければタイプ）がサブシステム記述の1つのワークステーション項目の1つに含まれ、その項目にAT(*SIGNON)の指定された各ワークステーションが現在別のサブシステムへサインオンされていなければ、それらがこのサブシステムに割り振られます。割り振られる各ワークステーションについてサインオン・プロンプトが表示されます。すでに別のサブシステムでサインオンされているワークステーションは、サインオンの可能なサブシステムが終了するか、あるいはユーザーがジョブをこのシステムに転送するまで、そのサブシステムに割り振られたままとなります。

複数のサブシステムのワークステーション項目に同じワークステーションが指定されていた場合には、開始された時に各サブシステムでそのワークステーションの割り振りが試みられます。ワークステーションが前に開始された1つのサブシステムに割り振られている間にユーザーがサインオンしなければ、後続の各サブシステムでそのワークステーションが割り振られます。サインオンされたワークステーションがサインオフされた場合には、そのワークステーションを指定した別のサブシステムが開始されるまで、ワークステーションは同じサブシステムに割り振られたままとなります。しかし、ワークステーションがオフラインに構成変更され、複数の活動サブシステムでそのワークステーションが指定されている場合には、ワークステーションがオンラインに構成変更された時にそのワークステーションが割り振られる先のサブシステムは予測できません。

ジョブ待ち行列の割り振り：ジョブ待ち行列がサブシステム記述の作業項目に指定されている場合には、そのジョブ待ち行列がサブシステムに割り振られます。このジョブ待ち行列が存在していないか、あるいはそれがすでに活動サブシステムに割り振られていた場合には、ジョブ待ち行列はサブシステムに割り振られず、メッセージがシステム操作員に送られます。ジョブ待ち行列が後で使用可能になると、それがサブシステムに自動的に割り振られます。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - サブシステム記述に対する使用(*USE)権限、およびそのサブシステム記述が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。

- ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SBSD	サブシステム記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サブシステム記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

トップ

サブシステム記述 (SBSD)

開始する操作環境（サブシステム）を定義するサブシステム記述の名前およびライブラリーを指定します。

サブシステム記述が別のライブラリーに入っている場合でも、サブシステム記述の名前は、現在活動状態になっているサブシステムの名前と同じにすることはできません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: サブシステム記述

名前 開始するサブシステムを定義するサブシステム記述の名前を指定してください。

注: IBM提供のQLPINSTALLという名前のオブジェクトはサブシステム記述名には使用できません。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 サブシステム記述が入っているライブラリーを指定してください。

注: ライブラリーQTEMPはライブラリー名には使用できません。

トップ

STRSBSの例

例1: バッチ・サブシステムの開始

```
STRSBS  SBSB(QBATCH)
```

このコマンドは、QBATCHという名前のバッチ・サブシステムを開始します。

例2: ユーザー・サブシステムの開始

このコマンドは、QGPLライブラリーのTELLERサブシステム記述と関連したサブシステムを開始します。
サブシステム名はTELLERです。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： STRSBS

*ESCAPE メッセージ

CPF1001

システム応答の待機時間が満了した。

CPF1004

サブシステムの開始中に、機能チェックが起こった。

CPF1010

サブシステム名&1が活動している。

CPF1011

ライブラリー&2のSBSD &1でサブシステム開始が正常に行なわれなかった。

CPF1012

サブシステムを開始する権限がない。

CPF1013

ライブラリー&2にサブシステム&1が見つからない。

CPF1014

サブシステム&1が開始されなかった。

CPF1031

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF1038

コマンドを使用する権限がない。

CPF1049

ライブラリー&2のサブシステム&1を割り振ることができない。

CPF1050

サブシステムを開始するための記憶域が不十分である。

CPF1057

ライブラリー&2のサブシステム&1が損傷している。

CPF1067

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF1080

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF1086

&2のサブシステム&1がユーザーのジョブに割り振られた。

CPF1099

システムが終了中のために、サブシステムは開始されなかった。

CPF3D87

QSYSのシステム・プログラムQLPCTLINを使用しようとした。

[トップ](#)

検索見出しの開始 (STRSCHIDX)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

検索見出し開始(STRSCHIDX)コマンドによって、ヘルプ・キーまたはF11キーを使用しなくても検索見出しをアクセスすることができます。

制約事項:

- 検索見出しに対する使用(*USE)権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SCHIDX	検索見出し	単一値: *USER その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション、位置 1
	修飾子 1: 検索見出し	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL	

トップ

検索見出し (SCHIDX)

見出し項目を表示する検索見出しを指定します。

これは必須パラメーターです。

単一値

***USER**

ユーザーが保管した検索見出し名が使用されます。保管された名前がない場合には、空のリストメッセージを示した検索見出し画面が表示されます。

修飾子1: 検索見出し

名前 検索見出しの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

検索見出しを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 検索見出しが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

STRSCHIDXの例

STRSCHIDX

このコマンドは、ユーザーが保管した検索見出し名をアクセスします。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： STRSCHIDX

***ESCAPE** メッセージ

CPF6E66

要求されたヘルプ情報は使用可能でない。

[トップ](#)

サポート・ネットワーク開始 (STRSPTN)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (*BATCH)
- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サポート・ネットワーク開始(STRSPTN)コマンドによって、リモート保守サポート・ネットワークを通して、アプリケーション・セッションを指定された宛先アプリケーションに確立することができます。

このコマンドは、独自のプログラムをリモート・サポート・システムの1つとのインターフェースに書き出したお客様のために提供されているものです。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
ACCOUNT	会計	文字値	必須, 定位置 1
SPTUSRID	ユーザー識別コード	文字値	必須, 定位置 2
SPTPWD	パスワード	文字値	必須, 定位置 3
FEDEV	装置記述	名前	必須, 定位置 4
DESTAPP	宛先適用業務	文字値	必須, 定位置 5

[トップ](#)

会計 (ACCOUNT)

保守サポート・ネットワークで登録されている会計番号を指定してください。組織のアカウントIDはサポート・ネットワークに登録されていなければなりません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

ユーザー識別コード (SPTUSRID)

指定された会計番号におけるネットワーク・ユーザー識別コードを指定します。ユーザー識別コードは、保守サポート・ネットワークに登録されていなければなりません。

これは必須パラメーターです。

パスワード (SPTPWD)

指定されたユーザー識別コードのネットワーク・パスワードを指定します。パスワードはサポート・ネットワークに登録されていなければなりません。

注: 保守サポート・ネットワーク・パスワードは期限切れにできます。ユーザーはその後に技術情報処理 (WRKPRDINF) コマンドを使用して対話式にパスワードを変更する必要があります。

これは必須パラメーターです。

トップ

装置記述 (FEADEV)

フロントエンド・アプリケーション (FEA) 装置記述を指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

宛先適用業務 (DESTAPP)

宛先アプリケーションの名前を指定します。宛先アプリケーションは、ネットワークによって提供されます。

これは必須パラメーターです。

トップ

STRSPTNの例

```
STRSPTN  ACCOUNT(11420880) SPTNUSRID(ACME) SPTNPWD(11111)
          FEADEV(QTIFEA)  DESTAPP(AAAAAA)
```

このコマンドは、会計11420880のパスワード11111の下で操作するユーザーID ACMEのために、リモート・サポート・ネットワークを通じた通信パスを確立します。このパスによって、アプリケーションAAAAAAにアクセスすることができます。

トップ

エラー・メッセージ: STRSPTN

なし

トップ

サービス・エージェントの開始 (STRSRVAGT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス・エージェントの開始(STRSRVAGT)コマンドによって、ユーザーは、サービス・エージェントの特徴の適用を開始できます。開始される特徴は、**タイプ(TYPE)**パラメーターで指定します。

制約事項:

- サービス構成を作成するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限とともにPPP回線記述作成(CRTLINPPP)コマンドに対する使用(*USE)権限が必要です。
- TYPE(*SBSJOB)を指定してこのコマンドを実行するには、ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	タイプ	*ACTIVATE, *ACTPWD, *MASTERPWD, *SBSJOB	オプション、位置 1
ACTPWD	活動化パスワード	文字値	オプション
MSTPWD	マスター・パスワード	文字値	オプション

[トップ](#)

タイプ(TYPE)

適用を開始されるサービス・エージェントの特徴を指定します。

これは必須パラメーターです。

*SBSJOB

通常QSYSWRKサブシステムで実行するすべてのサービス・エージェント・モニター・ジョブがそのサブシステムで開始されます。QSYSWRKサブシステムが存在していないか、開始されていない場合には、このオプションは何の効果もありません。

*ACTPWD

活動化パスワードは、サービス・エージェントの活動化の一部として入力できます。

*ACTIVATE

サービス・エージェントが活動化されます。このオプションは、バッチ・プログラムでのみ使用できます。サービス・エージェントが活動化されるシステムまたは論理区画が多く、このためのプログラムを配布したいユーザーにとって役に立ちます。

このオプションが正常に実行されるには、ECSまたはサービス・エージェントのサービス構成を作成しなければなりません。これは、サービス構成の作成(CRTSRVCFG)コマンドを使用して行うことができます。

***MASTERPWD**

マスター・パスワードを入力できます。

[トップ](#)

活動化パスワード(ACTPWD)

活動化パスワードの現在値を指定します。システムのネットワークまたは論理区画についてハードウェア障害報告機能を活動化するには、このパスワードを入力しなければなりません。インベントリー収集機能を活動化する場合、あるいはローカル・システムまたは論理区画についてだけハードウェア障害報告機能を活動化する場合には、活動化パスワードは必要ありません。

パスワードは、入力しても表示されません。

注: TYPE(*ACTPWD)を指定した場合には、このパラメーターは必須パラメーターです。

文字値 活動化パスワードを指定してください。

[トップ](#)

マスター・パスワード(MSTPWD)

マスター・パスワードの現在値を指定します。これは元のマスター・パスワードである場合も、すでに作成されている追加値である場合もあります。

注: TYPE(*MASTERPWD)を指定した場合には、このパラメーターは必須パラメーターです。

文字値 マスター・パスワードを指定してください。

[トップ](#)

STRSRVAGTの例

STRSRVAGT TYPE(*ACTIVATE)

このコマンドは、サービス・エージェントを活動化します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: STRSRVAGT

***ESCAPE** メッセージ

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

サービス・ジョブ開始 (STRSRVJOB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス・ジョブ開始(STRSRVJOB)コマンドは、他のサービス・コマンドを入力して指定されたジョブにサービスできるように、指定されたジョブ（このコマンドを出したジョブではない）のリモート・サービス操作を開始します。サービス操作が終了するまで、そのジョブでダンプ、デバッグ、および追跡コマンドを実行することができます。サービス・ジョブ終了(ENDSRVJOB)コマンドが実行されるまで、サービス操作は続行します。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、QPGMR, QSYSOPR, QSRV,またはQSRVBASとしてサインオンするか、あるいはサービスされるジョブのユーザー・プロファイルに対して使用(*USE)権限がなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ名	修飾ジョブ名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
DUPJOB OPT	重複ジョブ・オプション	* SELECT , *MSG	オプション

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

サービスされるジョブを指定します。ジョブ番号を指定しないと、システム内に現在あるすべてのジョブで単純ジョブ名が検索されます。指定された名前の重複が見つかった場合はメッセージがユーザーに送られ、ユーザー名およびジョブ番号を指定しなければなりません。このコマンドを入力するジョブの名前を、ジョブ名として指定してはなりません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジョブ名

名前 ジョブの名前を指定します。

修飾子2: ユーザー

名前 そのもとでジョブが実行されたユーザー・プロファイルを識別するユーザー名を指定してください。

修飾子3: 番号

000000-999999

サービスされるジョブのシステム割り当てジョブ番号を指定します。

[トップ](#)

重複ジョブ・オプション (DUPJOB OPT)

このコマンドで重複ジョブが見つかった時に取られる処置を指定します。

*SELECT

対話式セッションで重複ジョブが見つかった時には、選択画面が表示されます。そうでない場合には、エスケープ・メッセージが出されます。

***MSG** 重複ジョブが見つかった時には、エスケープ・メッセージが出されます。

[トップ](#)

STRSRVJOBの例

STRSRVJOB JOB(ABCD)

このコマンドは、このジョブに入力された追跡、デバッグ、またはダンプ・コマンドがジョブABCDに適用されるように、リモート・サービス操作を開始します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: STRSRVJOB

*ESCAPE メッセージ

CPF3501

ジョブはすでにサービス中、追跡中、またはデバッグ中である。

CPF3520

ジョブが見つからない。

CPF3524

指定した名前のジョブが複数個見つかった。

CPF3531

ジョブを保守することができなかった。

CPF3536

ジョブが完了しているのでジョブを保守することができない。

CPF3549

ジョブ&1/&2/&3をサービスすることができない。

CPF3676

指定したジョブの保守は認可されていない。

CPF3909

サービス・コマンドが処理されないことになる。

CPF3918

保守要求が取り消された。

CPF3938

すでに別のジョブを保守中である。

[トップ](#)

システム保守ツール開始 (STRSST)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム保守ツール開始(STRSST)コマンドは、システム保守ツール(SST)メニューを表示します。

注: 保守ツールの不適切な使用はサーバーを損傷する可能性があります。

次を行うことができます。

- サービス機能の開始
- 活動サービス機能の処理
- ディスク装置の構成およびデータの処理
- ディスケット・データ回復の処理
- システム区画の処理
- システム容量の処理
- システム機密保護の処理
- 保守ツール・ユーザーIDの処理

制約事項:このコマンドを使用するには、*SERVICE特殊権限が必要です。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

STRSSTの例

STRSST

このコマンドは、「システム保守ツール開始」メニューを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: STRSST

*ESCAPE メッセージ

CPC7210

システム保守ツールが機能チェックを検出した。注意:診断モードの装置はどれもリセットされません。

CPC7211

システム保守ツールが機能チェックを検出した。メッセージCPF5263を参照してください。

CPF225C

要求している保守ツールIDは正しくありません。

CPF225D

要求している保守ツールIDパスワードは正しくありません。

CPF366B

パスワードが有効期限切れです。

CPF366C

保守ツールのユーザーIDが使用不可になっています。

CPF7205

保守機能はすでに開始されている。

CPF7215

システム保守ツールがこの処理ですでに活動中である。

CPF7222

機能は処理されなかった。システム保守ツールは終了処理中です。

CPF7238

&1を開始することができない。

CPF7242

システム保守ツールは認可されていない。

CPF7243

前の要求が完了していない。

CPF305

省略時のパスワードを使用してSSTにサインオンした時には、保守ツール・ユーザーIDの処理は使用できません。

CPF306

保守ツール・ユーザーIDに&1を開始するための必要な機能特権がありません。

[トップ](#)

TCP/IPの開始 (STRTCP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IP開始(STRTCP)コマンドは、TCP/IP処理を開始して活動化し、TCP/IPインターフェースを開始し、TCP/IPサーバー・ジョブを開始し、そしてTCP/IP POINT-TO-POINT (PTP)プロファイルを開始します。STRTCPコマンドを出した後でなければ、TCP/IP処理をISERIES上で実行することはできません。この処理にはSIMPLE NETWORK MANAGEMENT PROTOCOL (SNMP)エージェント処理も含まれています。

開始されるTCP/IPインターフェースは、TCP/IPインターフェース追加(ADDTCPIFC)コマンド、TCP/IPインターフェース変更(CHGTCPIFC)コマンド、またはISERIESナビゲーターを使用して、AUTOSTARTパラメーターを*YESの値に設定したインターフェースです。

STRTCPパラメーターを*YESの値に設定したIPL属性変更(CHGIPLA)コマンドを使用して、IPLの完了時にSTRTCPコマンドを自動的に投入することができます。

開始できるTCP/IPアプリケーション・サーバー・ジョブは次の通りです。

- SIMPLE NETWORK MANAGEMENT PROTOCOL (SNMP)エージェント
- ルーター・デーモン(ROUTED)
- ブートストラップ・プロトコル(BOOTP)
- トリビアル・ファイル転送プロトコル(TFTP)
- ドメイン・ネーム・サーバー(DNS)
- 動的ホスト構成プロトコル(DHCP)
- 分散データ管理(DDM)
- 仮想端末サポート(TELNET)
- ファイル転送プロトコル(FTP)
- SIMPLE MAIL TRANSFER PROTOCOL (SMTP)
- ライン・プリンター・デーモン(LPD)
- HTTP
- POST OFFICE PROTOCOL (POP)
- リモート実行(REXEC)
- ディレクトリー・サービス(DIRSRV)
- ネットワーク・ステーション・ログイン・デーモン(NSLD)
- インターネット・デーモン(INETD)
- マネージメント・セントラル(MGTC)
- オンデマンド(ONDM)
- NETSERVER (NETSVR)
- データ・リンク・ファイル・マネージャー(DLFM)
- 仮想プライベート・ネットワーク(VPN)
- 拡張動的リモートSQL (EDRSQL)

- IBMホスト・オンデマンド(HOD)
- オンデマンド・プラットフォーム認証(ODPA)
- SIMPLE NETWORK TIME PROTOCOL (NTP)
- QUALITY OF SERVICE (QOS)
- TRIGGERED CACHE MANAGER (TCM)
- DOMINO
- WEBFACING
- COMMON INFORMATION MODELオブジェクト・マネージャー(CIMOM)

TCP/IP開始コマンドがTCP/IPアプリケーション・ジョブを開始するのは、このコマンドが出された時にアプリケーション構成のAUTOSTART属性が*YESに設定されている場合だけです。次の条件のいずれかが真の場合には、QSYSWRKサブシステム中のTCP/IPアプリケーション・ジョブは開始されません。

- TCP/IPライセンス・プログラムが導入されていない。
- すべてのTCP/IPアプリケーションのAUTOSTART構成の属性値がすべて*NOになっている。
- STRTCPコマンドにSTRSVR(*NO)が指定されている。下のSTRSVRパラメーターの説明を参照してください。

TCP/IP開始コマンドが出された時にアプリケーションが自動始動されるように、アプリケーションの構成を変更するためには、下にリストされたコマンドまたはインターフェースを使用してください。

- SNMPエージェントの場合には、AUTOSTART(*YES)を指定したSNMP属性変更(CHGSNMPA)コマンドを使用してください
- ROUTEDサーバーの場合には、AUTOSTART(*YES)を指定したROUTED属性変更(CHGRTDA)コマンドを使用してください
- BOOTPサーバーでは、AUTOSTART(*YES)を指定したBOOTP属性変更(CHGBPA)コマンドを使用してください
- TFTPサーバーでは、AUTOSTART(*YES)を指定したTFTP属性変更(CHGTFTP)コマンドを使用してください
- DNSサーバーでは、AUTOSTART(*YES)を指定したDNS属性変更(CHGDNSA)コマンドを使用してください
- DHCPサーバーでは、AUTOSTART(*YES)を指定したDHCP属性変更(CHGDHCPA)コマンドを使用してください
- DDMサーバーでは、AUTOSTART(*YES)を指定したDDM属性変更(CHGDDMTCPA)コマンドを使用してください
- TELNETアプリケーションの場合には、AUTOSTART(*YES)を指定したTELNET属性変更(CHGTELNA)コマンドを使用してください
- FTPアプリケーションの場合には、AUTOSTART(*YES)を指定したFTP属性変更(CHGFTP)コマンドを使用してください
- SMTPアプリケーションの場合には、AUTOSTART(*YES)を指定したSMTP属性変更(CHGSMTPA)コマンドを使用してください
- LPDアプリケーションの場合には、AUTOSTART(*YES)を指定したLPD属性変更(CHGLPDA)コマンドを使用してください
- HTTPサーバー・アプリケーションの場合は、AUTOSTART(*YES)を指定したHTTP属性変更(CHGHTTPA)コマンドを使用してください

- POST OFFICE PROTOCOL (POP)バージョン3メール・サーバーの場合には、AUTOSTART(*YES)を指定したPOPメール・サーバー属性変更(CHGPOPA)コマンドを使用してください
- REXECサーバー・アプリケーションでは、AUTOSTART(*YES)を指定したREXEC属性変更(CHGRXCA)コマンドを使用してください
- ISERIESナビゲーターを使用してDIRSVRサーバー属性(AUTOSTARTパラメーターを含む)を変更します。
- ISERIESナビゲーターを使用してNSLDデーモン属性(AUTOSTARTパラメーターを含む)を変更します。
- ISERIESナビゲーターを使用してINETDデーモン属性(AUTOSTARTパラメーターを含む)を変更します。
- ISERIESナビゲーターを使用してMGTCデーモン属性(AUTOSTARTパラメーターを含む)を変更します。
- ISERIESナビゲーターを使用してONDMDサーバー属性(AUTOSTARTパラメーターを含む)を変更します。
- ISERIESナビゲーターを使用してNETSVR属性(AUTOSTARTパラメーターを含む)を変更します。
- ISERIESナビゲーターを使用してDLFMサーバー属性(AUTOSTARTパラメーターを含む)を変更します。
- ISERIESナビゲーターを使用してEDRSQSQLサーバー属性(AUTOSTARTパラメーターを含む)を変更します。
- ISERIESナビゲーターを使用してHODサーバー属性(AUTOSTARTパラメーターを含む)を変更します。
- ISERIESナビゲーターを使用してODPAサーバー属性(AUTOSTARTパラメーターを含む)を変更します。
- ISERIESナビゲーターを使用してNTPサーバー属性(AUTOSTARTパラメーターを含む)を変更します。
- ISERIESナビゲーターを使用してQOSサーバー属性(AUTOSTARTパラメーターを含む)を変更します。
- ISERIESナビゲーターを使用してTCMサーバー属性(AUTOSTARTパラメーターを含む)を変更します。
- ISERIESナビゲーターを使用してDOMINOサーバー属性(AUTOSTARTパラメーターを含む)を変更します。
- ISERIESナビゲーターを使用してWEBFACINGサーバー属性(AUTOSTARTパラメーターを含む)を変更します。
- ISERIESナビゲーターを使用してCIMOMサーバー属性(AUTOSTARTパラメーターを含む)を変更します。

STRTCPコマンドが出されると、QSYSWRKネットワーク中のQTCPIPジョブが開始されます。QTCPIPジョブは、TCP/IPインターフェースを活動化および非活動化するために使用されます。

注: SNAネットワークを通して実行されるソケット・アプリケーションを使用するために、TCP/IP 開始 (STRTCP) CLコマンドを出す必要はありません。

警告: X.25インターフェースを開始する前に、パーマメント・バーチャル・サーキット(PVC)を使用する非DDN X.25インターフェースのリモート・システム情報(RSI)が構成されていることを確認してください。これを行うためには、TCP/IPリモート・システム情報追加 (ADDTCPRSI)コマンドを使用してください。

X.25ネットワーク上のリモート・システムからの着信データは、インターフェースが開始される前にPVCのRSI項目がX.25インターフェース上に構成されていなければ、処理されません。

制約事項:

- このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。このコマンドは、TCP/IPサーバーの各タイプを処理するために別のプログラムを呼び出します。呼び出されるこのプログラムがスレッド・セーフの場合には、このコマンドはスレッド・セーフです。

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
STRSVR	適用業務サーバーの開始	*YES , *NO	オプション
STRIFC	TCP/IPインターフェースの開始	*YES , *NO	オプション
STRPTPRF	POINT-TO-POINT プロファイルの開始	*YES , *NO	オプション

トップ

適用業務サーバーの開始 (STRSVR)

TCP/IPアプリケーション・サーバーがTCP/IP開始(STRTCP)コマンドで開始されるかどうかを指定します。

***YES** STRTCPコマンドは、TCP/IPが活動化された時に構成属性AUTOSTART(*YES)のすべてのTCP/IPアプリケーション・サーバーを開始します。

***NO** STRTCPコマンドは、TCP/IPが活動化された時にどのTCP/IPアプリケーション・サーバーも開始しません。

注: ANYNETを使用しているTCP/IPアプリケーション・サーバーがすでに活動化されていて、TCP/IPも活動化したい時には、このパラメーターを使用することができます。STRTCP STRSVR(*NO)は、追加のTCP/IPサーバーを開始することなくTCP/IP処理を活動化します。

TCP/IPまたはANYNETがすでに活動化されている時には、TCP/IPサーバー開始(STRTCP)コマンドを使用して、追加のTCP/IPアプリケーション・サーバーを開始します。

トップ

TCP/IPインターフェースの開始 (STRIFC)

TCP/IPが活動化された時に、AUTOSTART(*YES)を指定したすべてのTCP/IPインターフェースを活動化するかどうかを指定します。

***YES** QTCPIPジョブがSTRTCPコマンドによって開始された時に、このジョブはAUTOSTART(*YES)の指定されたすべてのTCP/IPインターフェースを活動化しようとします。

***NO** AUTOSTART(*YES)インターフェース・パラメーターは無視されます。自動始動されるTCP/IPインターフェースはありません。

注: STRIFC(*NO)の指定は、TCP/IPインターフェースの活動化だけを禁止するものです。SNAを介したIPまたはIPXを介したIPなど、他のANYNETプロトコル用のインターフェースには影響しません。

トップ

POINT-TO-POINT プロファイルの開始 (STRTPPRF)

TCP/IPが活動化された時に、AUTOSTART(*YES)の構成属性を指定するすべてのPOINT-TO-POINTプロファイルを活動化するかどうかを指定します。

***YES** STRTCPコマンドの実行の一部として、POINT-TO-POINT TCP/IP開始(STRTCPPTP)コマンドも実行されます。STRTCPPTPコマンドは、AUTOSTART(*YES)の構成属性をもつすべてのPOINT-TO-POINTプロファイルを開始しようとします。

***NO** STRTCPPTPコマンドは実行されません。

[トップ](#)

STRTCPの例

例1: TCP/IPの開始

```
STRTCP
```

このコマンドはTCP/IP処理を初期設定して活動化し、TCP/IPインターフェースを開始し、TCP/IPサーバー・ジョブを開始します。

例2: TCP/IPおよびTCP/IPサーバーの開始

```
STRTCP STRSVR(*YES)
```

*YESがSTRSVRパラメーターの省略時の値なので、このコマンドを出した結果は例1と同じです。

例3: TCP/IPの開始およびTCP/IPサーバーの非開始

```
STRTCP STRSVR(*NO)
```

これは、TCP/IPアプリケーション・サーバー・ジョブのどれも開始しないで、TCP/IP処理を開始します。

例4: 制限状態のTCP/IPの開始

```
STRTCP STRSVR(*NO) STRIFC(*NO) STRTPPRF(*NO)
```

これは、システムが制限状態であっても、TCP/IP処理を開始します。TCP/IPアプリケーション・サーバーおよびIPインターフェースは開始されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: STRTCP

***ESCAPE** メッセージ

CPF9848

ライブラリー&2のファイル&1メンバー&3をオープンすることができない。

CPF9849

ライブラリー&2メンバー&3のファイル&1の処理中にエラー。

TCP1A04

&1は現在活動状態である。

TCP1A12

インターフェース・ジョブの投入中にエラーが起こった。

TCP1A14

TCP/IPサーバーの開始中にエラーが起こった。

TCP1A77

&1は正常に完了したが、エラーが起こった。

TCP1D03

&1メンバーのレコード長が正しくない。

TCP1D04

&2/&3のメンバー&1の処理でエラーが起こった。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

[トップ](#)

TCP/IPインターフェースの開始 (STRTCPIFC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IPインターフェース開始(STRTCPIFC)コマンドは、伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル(TCP/IP)インターフェースを開始します。必要な場合には、インターフェースと関連した回線がオンに構成変更されます。

このコマンドは次の場合に使用することができます。

- TCP/IPインターフェース追加(ADDTCPIFC)コマンドおよびTCP/IPインターフェース変更(CHGTCPIFC)コマンドにAUTOSTART(*NO)値を使用して指定されたインターフェースを開始する場合。
- 前にTCP/IPインターフェース終了(ENDTCPIFC)コマンドによって終了されたインターフェースを開始する場合。

経路は最もよく一致した最初のアルゴリズムを使用してインターフェースに結合されます。このアルゴリズムは、インターフェースの状況、および経路やインターフェースに指定されたTYPE OF SERVICE (TOS)に基づいています。インターフェースを開始する時には、要求されたTOSの経路の次のホップ・ゲートウェイに到達するためにそのインターフェースを使用することができるのであれば、非活動状態のインターフェースと関連した経路を開始されたインターフェースに移動することができます。

警告: X.25インターフェースを開始する前に、パーマメント・バーチャル・サーキット(PVC)を使用する非DDN X.25インターフェースのリモート・システム情報(RSI)が構成されていることを確認してください。これを行うためには、TCP/IPリモート・システム情報追加 (ADDTCPRSI)コマンドを使用してください。X.25ネットワーク上のリモート・システムからの着信データは、インターフェースが開始される前にPVCのRSI項目がX.25インターフェース上に構成されていなければ、処理されません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
INTNETADR	IPアドレス	文字値, *AUTOSTART	必須, 定位置 1

[トップ](#)

IPアドレス (INTNETADR)

開始するインターフェースを指定します。

文字値 前にADDTCPIFCコマンドを使用してTCP/IP構成に追加されたインターフェースのIPアドレスを指定します。インターネット・アドレスはNNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定されます。ここでNNNは0-255の範囲の10進数です。IPアドレスは、そのアドレスのネットワーク識別コード(ID)部分または

ホストID部分の値がすべて2進数の1またはすべて2進数の0 の場合には、正しくありません。コマンド入力行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

***AUTOSTART**

開始されるTCP/IPインターフェースは、TCP/IPインターフェース追加(ADDTCPIFC)またはTCP/IPインターフェース変更(CHGTCPIFC)コマンドを使用して、AUTOSTARTパラメーターを*YESの値に設定したインターフェースです。

[トップ](#)

STRTCPIFCの例

例1:インターフェースの開始

```
STRTCPIFC INTNETADR('9.5.11.125')
```

このコマンドによって、TCP/IPプロトコル・スタックは、IPアドレス9.5.11.125と関連付けられたインターフェースが活動化されます。

例2:別のインターフェースの開始

```
STRTCPIFC INTNETADR('156.93.81.7')
```

このコマンドによって、TCP/IPプロトコル・スタックは、IPアドレス156.93.81.7と関連付けられたインターフェースが活動化されます。

例3: AUTOSTART(*YES)インターフェースの開始

```
STRTCPIFC INTNETADR(*AUTOSTART)
```

このコマンドによって、TCP/IPプロトコル・スタックは、TCP/IPインターフェース追加(ADDTCPIFC)またはTCP/IPインターフェース変更(CHGTCPIFC)コマンドを使用して、AUTOSTARTパラメーターが*YESに設定されているインターフェースがすべて活動化されることになります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: STRTCPIFC

***ESCAPE** メッセージ

TCP1B01

&1インターフェースが開始されたかどうかを判別できない。

TCP1B02

&1インターフェースが開始されたかどうかを判別できない。

TCP1B05

&2インターフェースが開始されなかった。理由は&1です。

TCP1B10

&2インターフェースが開始されなかった。

TCP1B11

&1インターフェース、回線&2が開始されませんでした。活動状態のインターフェースの最大許容数は&7です。

TCP1B12

&1インターフェースが開始されなかった。&1インターフェースはすでに活動状態になっています。

TCP1B13

&1インターフェースが開始されなかった。&1のインターフェースはTCP/IP構成の中で定義されていません。

TCP1B14

&1インターフェースが開始されなかった。回線記述&2が見つかりません。

TCP1B15

回線記述&2は使用できない。内部エラーが見つかりました。

TCP1B16

&2インターフェースが開始されなかった。

TCP1B25

&1インターフェースが開始されなかった。

TCP1B26

&1インターフェースが開始されなかった

TCP1B27

*TDLC回線記述&2の&1インターフェースが開始されなかった。

TCP265F

INTNETADRパラメーターの値&2が正しくない。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

[トップ](#)

POINT-TO-POINT TCP/IPの開始 (STRTCPPTP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

POINT-TO-POINT TCP/IP開始(STRTCPPTP)コマンドを使用して、POINT-TO-POINT TCP/IPセッション・ジョブを開始します。セッション・ジョブは可能な2つのモードの1つで操作されます。

1. 返答モード(*ANS)セッションによって、リモート・システムはこのISERIES に接続し、POINT-TO-POINT TCP/IPセッションを確立することができます。
2. ダイアル呼び出しモード(*DIAL)セッションは、このISERIESにリモート・システムを接続させ、POINT-TO-POINT TCP/IPセッションを確立させるために使用されます。

注: このコマンドで回線タイプ*PPPのプロファイルを開始できます。*PPPプロファイルを構成するためには、ISERIESナビゲーターを使用しなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CFGPRF	プロファイルの構成	文字値, *AUTOSTART	必須, 定位置 1
OUTPUT	スクリプト・ダイアログ出力	*ERROR, *NONE, *PRINT	オプション
RESTART	再始動	*NO, *YES	オプション
SNDINQMSG	照会メッセージの送信	*NO, *YES	オプション
AUTODLTCFG	構成の自動削除	*NO, *YES	オプション

[トップ](#)

プロファイルの構成 (CFGPRF)

開始するPOINT-TO-POINT構成プロファイルを指定します。*AUTOSTARTは、この属性をもつすべてのPOINT-TO-POINT構成プロファイルが開始されることを示しています。このプロファイルは、セッションの定義に必要なすべての属性および値を指定します。このプロファイルに指定されたモードによって、このISERIESがリモート・システムに接続する(*DIALセッション)か、あるいはリモート・システムがこのISERIESに接続する(*ANSセッション)かが決まります。セッションの特性に関する他のすべての情報はPOINT-TO-POINT構成プロファイルに入っています。

これは必須パラメーターです。

*AUTOSTART

この属性でマークされたすべてのPOINT-TO-POINT構成ファイルを開始します。

文字値 有効で、非活動のPOINT-TO-POINT構成プロファイルの名前を指定します。

[トップ](#)

スクリプト・ダイアログ出力 (OUTPUT)

このISERIESとリモート・システムとの間のスクリプト・ダイアログのコピーを印刷するかどうかを指定します。このダイアログを使用して、POINT-TO-POINT TCP/IPセッションが正常に確立できない問題について診断することができます。

注: このパラメーターはジョブ・ログの作成または出力には影響を与えません。

***ERROR**

TCP/IP POINT-TO-POINTセッション・ジョブの確立中にエラーが起こった場合だけ、スクリプト対話を印刷してください。

***NONE**

スクリプト・ダイアログを印刷しません。

***PRINT**

エラーが起こったかどうかに関係なく、STRTCPPTPコマンドを出したジョブのスプール出力とともに、スクリプト・ダイアログを印刷します。

トップ

再始動 (RESTART)

プロファイルの構成 (CFGPRF)パラメーターで指定されたプロファイルを実行しているTCP/IP POINT-TO-POINTセッション・ジョブを、再始動するかどうかを指定します。

このパラメーターは、活動状態のTCP/IP POINT-TO-POINTプロファイルを指定した場合にだけ有効です。TCP/IP POINT-TO-POINTプロファイルが活動状態でない場合には、このパラメーターは無視されます。

***NO** TCP/IP POINT-TO-POINTセッション・ジョブを再始動しません。

***YES** TCP/IP POINT-TO-POINTセッション・ジョブを再始動します。

TCP/IP POINT-TO-POINTセッション・ジョブの再始動方法は、実行しているPOINT-TO-POINTセッションのモードによって異なります。モードにより、セッションは次のように再始動されます。

交換回線ダイヤル (ダイヤル・リモート・システム)

セッションをリモート・システムのリダイヤルによる開始にリセットします。

交換回線応答 (着信呼び出し返答)

セッションをリング待機状態 (リモート・システムのダイヤルインを待機) にリセットします。

PPPの専用回線 (開始プログラムまたは終了プログラム)

LCP構成要求状態にリセットして戻します。

SLIPの専用回線 (開始プログラムまたは終了プログラム)

「活動」状態にリセットして戻します。

ダイヤル・オンデマンド

セッションを次のダイヤル・オンデマンド要求の待機にリセットします。

トップ

照会メッセージの送信 (SNDINQMSG)

初期設定が完了した後で、照会メッセージを送るかどうかを指定します。この照会メッセージはQTCPメッセージ待ち行列に送られます。

照会メッセージに応答するまで、POINT-TO-POINTセッション・ジョブは保留されます。ジョブが保留されている間に、このTCP/IP POINT-TO-POINTセッション・ジョブと関連した問題を診断するために追跡ツールをセットアップすることができます。

注: このパラメーターは、回線タイプが*PPPのどのプロファイルの場合も無視されます。

***NO** 初期設定が完了した後で照会メッセージを送りません。

***YES** POINT-TO-POINTセッション・ジョブは、その初期設定を完了した後で、照会メッセージを送ります。構成プロファイルが制御装置と装置の自動作成の属性をもっている場合には、照会メッセージは、制御装置記述と装置記述が作成されてから送られることとなります。

トップ

構成の自動削除 (AUTODLTCFG)

POINT-TO-POINTセッション・ジョブが終了した時に、STRTCPPTPの初期設定時に自動的に作成された制御装置記述および装置記述構成オブジェクトを自動的に削除する必要があるかどうかを指定します。

***NO** STRTCPPTP初期設定時に自動的に作成された制御装置記述および装置記述構成オブジェクトを削除しません。これによって、指定した構成プロファイルを使用して次にTCP/IP POINT-TO-POINTセッション・ジョブを開始した時に、この制御装置記述および装置記述を再使用することができます。

***YES** STRTCPPTP初期設定時に自動的に作成された制御装置記述および装置記述構成オブジェクトを削除します。

トップ

STRTCPPTPの例

例1:POINT-TO-POINT TCP/IPセッション・ジョブの開始

```
STRTCPPTP CFGPRF(DIALPRF)
```

このコマンドは、POINT-TO-POINT TCP/IPセッション・ジョブを開始します。POINT-TO-POINT構成プロファイル"DIALPRF"には、このISERIES 400がリモート・システムと接触するかどうか、あるいはリモート・システムがこのISERIES 400 (*ANSセッション) と接触するかどうか判別される情報が入っています。

例2:セッションの開始およびスクリプト・ダイアログの取り込み

```
STRTCPPTP CFGPRF(DIALPRF) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、POINT-TO-POINT TCP/IPセッション・ジョブを開始します。POINT-TO-POINT構成プロファイル"DIALPRF"には、ISERIES 400がリモート・システムに接触し、それとPOINT-TO-POINT TCP/IP

セッションを確立するために使用する情報が入っています。POINT-TO-POINT TCP/IPセッションを確立する前に2つのシステム間で交換されたダイアログのコピーは、STRTCPPTPコマンドを出したジョブの出力待ち行列に書き込まれます。

例3: TCP/IPセッション・ジョブの初期化後の照会メッセージの送信

```
STRTCPPTP  CFGPRF(ANSWERPRF)  SNDINQMSG(*YES)
```

このコマンドは、POINT-TO-POINTセッションで使用される制御装置および装置記述が自動的に作成される場合に、詳細内部追跡情報を収集するために必要な場合だけ使用されるのが普通であるSNDINQMSGパラメーターを使用します。

このコマンドは、POINT-TO-POINT TCP/IPセッション・ジョブを開始します。POINT-TO-POINT構成プロファイル"ANSWERPRF"には、リモート・システムがこのISERIES 400と接触する場合に、POINT-TO-POINT TCP/IPセッションを確立するために使用する情報が入っています。

使用する制御装置および装置記述が自動的に作成された後で、POINT-TO-POINTセッション・ジョブは照会メッセージをQTCPメッセージ待ち行列に送信します。その応答に応じて、ジョブは実行を続行するか、あるいは取り消されます。

例4: POINT-TO-POINTプロファイル実行の再始動

```
STRTCPPTP  CFGPRF(ANSWERPRF)  RESTART(*YES)
```

このコマンドは、実行中のPOINT-TO-POINTプロファイルANSWERPRFを再始動します。セッションがどのようにリセット（再始動）されるかは、回線接続タイプ（交換または非交換）およびモード（ダイヤルまたは応答）によって異なります。セッションのリセット方法の詳細については、前述のRESTART(*YES)の詳細を参照してください。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： STRTCPPTP

*ESCAPE メッセージ

TCP1A1F

&3/&2/&1が&6を使用中に、要求を処理することはできない。

TCP8205

必要なオブジェクト&2/&1タイプ*&3が見つからない。

TCP8207

STRTCPPTP &1は実行されなかった。ジョブ&6/&5/&4が&1を使用中です。

TCP8208

STRTCPPTP &1は実行されなかった。前のメッセージを参照してください。

[トップ](#)

TCP/IPサーバーの開始 (STRTCPSVR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IPサーバー開始(STRTCPSVR)コマンドは、OS/400またはTCP/IPプロダクトと一緒に出荷されているTCP/IPアプリケーション・サーバーを開始するために使用します。必要な場合には、このコマンドによって開始されたサーバー・ジョブの数が拡張TCP/IPアプリケーションの構成の中に指定されます。

STRTCPSVRコマンドは、TCP/IPが完全に作動可能状態である場合にのみ使用することができます。インターフェース・サーバー・ジョブQTCPIPが使用可能でなければなりません。ISERIESが制限状態にある時に、STRTCP (TCP/IP開始) コマンドを実行することによってTCP/IP処理が開始された場合には、STRTCPSVRコマンドは正常に実行されません。

すべてのサーバーは、関連した構成コマンド（たとえば、FTP属性変更(CHGFTP) コマンド）上に自動始動(AUTOSTART)パラメーターをもっています。このパラメーターは、TCP/IP開始(STRTCP)コマンドが入力された時にサーバーが自動始動するかどうかを指示します。STRTCPSVRコマンドは、**サーバー適用業務 (SERVER)**パラメーターに*AUTOSTARTが指定されていない限り、サーバーの自動始動パラメーターの値を無視します。サーバーのAUTOSTART属性が*YESになっている場合には、SERVER(*AUTOSTART)が指定された時にSTRTCPSVRコマンドでサーバーが開始されます。ADDTCP (TCP/IPサーバー追加) CLコマンドを使用すれば、STRTCPSVRがサポートするサーバーのリストに追加のサーバーを自動的に追加することができます。

制約事項:

- このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。このコマンドは、TCP/IPサーバーの各タイプを処理するために別のプログラムを呼び出します。呼び出されるこのプログラムがスレッド・セーフの場合には、このコマンドはスレッド・セーフです。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SERVER	サーバー適用業務	単一値: *ALL , *AUTOSTART その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション、位置 1
RESTART	サーバーの再始動	*NONE , *HTTP, *DNS, *DHCP, *QOS	オプション
HTTPSvr	HTTPサーバー	単一値: *ALL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: サーバー・インスタンス	名前, *ADMIN	
	要素 2: インスタンス始動値	文字値, *NONE	

キーワード	記述	選択項目	注
DNSSVR	DNSサーバー	単一値: *ALL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: サーバー・インスタンス	文字値	
	要素 2: インスタンス始動値	文字値, *NONE	
TCMSVR	TCMサーバー	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: インスタンス名	文字値, *ALL	
	要素 2: インスタンス始動値	文字値, *NONE	
TOMCATSVR	ASFOTOMCATサーバー	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: サーバー・インスタンス名	文字値, *ALL	
NTPSRV	SNTPサービス	*ALL , *CFGFILE , *CLIENT , *SERVER	オプション

トップ

サーバー適用業務 (SERVER)

このコマンドによって始動されるTCP/IPアプリケーション・サーバーを指定します。

単一値

***ALL** すべてのTCP/IPアプリケーション・サーバーとすべてのHTTP, DNS,およびTCMサーバー・インスタンスが始動されます。

*AUTOSTART

AUTOSTART属性に*YESで定義されたすべてのTCP/IPアプリケーション・サーバーが始動されます。

その他の値 (最大300回の反復)

*ASFOTOMCAT

APACHE SOFTWARE FOUNDATION (ASF) TOMCATサーバーが始動されます。APACHE SOFTWARE FOUNDATION (ASF) TOMCATサーバーがすでに始動されている場合には、引き続きSERVER(*ASFOTOMCAT)を指定したSTRTCPSVRコマンドを使用すると診断メッセージが出されません。

*BOOTP

ブートストラップ・プロトコル(BOOTP)サーバーが始動されます。BOOTPサーバー・ジョブがすでに開始されている場合には、その後にSERVER(*BOOTP)を指定したSTRTCPSVRコマンドを使用すると、診断メッセージが出されません。

*CIMOM

COMMON INFORMATION MODELオブジェクト・マネージャー(CIMOM)サーバーが始動されます。CIMOMサーバーがすでに始動されている場合には、その後にSERVER(*CIMOM)を指定したSTRTCPSVRコマンドを使用すると、診断メッセージが出されません。

***DBG** デバッグ(DBG)サーバーが始動されます。DBGサーバーがすでに始動されている場合には、その後にSERVER(*DBG)を指定したSTRTCPSVRコマンドを使用すると、診断メッセージが出されません。

***DDM** 分散データ管理(DDM)サーバーが始動されます。DDMサーバー・ジョブがすでに開始されている場合には、その後にSERVER(*DDM)を指定したSTRTCPSVRコマンドを使用すると、診断メッセージが出されます。

***DHCP**

動的ホスト構成プロトコル(DHCP)サーバーが始動されます。DHCPサーバーがすでに始動されている場合には、その後にSERVER(*DHCP)を指定したSTRTCPSVRコマンドを使用すると、診断メッセージが出されます。

***DIRSRV**

LIGHTWEIGHT DIRECTORY ACCESS PROTOCOL (LDAP)サーバーが始動されます。このLDAPサーバーはディレクトリー・サービス(DIRSRV)サーバーとしても知られています。DIRSRVサーバーがすでに始動されている場合には、その後にSERVER(*DIRSRV)を指定したSTRTCPSVRコマンドを使用すると、診断メッセージが出されます。

***DLFM**

データ・リンク・ファイル・マネージャー(DLFM)サーバーが始動されます。DLFMサーバーがすでに始動されている場合には、その後にSERVER(*DLFM)を指定したSTRTCPSVRコマンドを使用すると、診断メッセージが出されます。

***DNS** ドメイン・ネーム・システム(DNS)サーバーの1つまたは複数のインスタンスが始動されます。DNSサーバー・インスタンスの詳細については、**DNSサーバー (DNSSVR)**パラメーターのパラメーター文書を参照してください。DNSサーバーがすでに始動されている場合には、その後にSERVER(*DNS)を指定したSTRTCPSVRコマンドを使用すると、診断メッセージが出されます。

***DOMINO**

LOTUS DOMINO (DOMINO)サーバーが始動されます。DOMINOサーバーがすでに始動されている場合には、その後にSERVER(*DOMINO)を指定したSTRTCPSVRコマンドを使用すると、診断メッセージが出されます。

***EDRSQL**

拡張動的リモートSQL (EDRSQL)サーバーが始動されます。EDRSQLサーバーがすでに始動されている場合には、その後にSERVER(*EDRSQL)を指定したSTRTCPSVRコマンドを使用すると、診断メッセージが出されます。

***FTP** FTP属性変更(CHGFTPA)コマンドによって構成されたサーバーの数に基づいて、ファイル転送プロトコル(FTP)サーバーが始動されます。その後にSERVER(*FTP)を指定したSTRTCPSVRコマンドを使用すると、FTPサーバーがもう1つ始動されます。

注: 複数のFTPサーバー・ジョブを実行すると、短期間に複数のユーザーがサーバーに接続しようとした時のセッションの開始パフォーマンスが向上することがあります。

***HOD** IBMホスト・オンデマンド(HOD)サーバーが始動されます。HODサーバーがすでに始動されている場合には、その後にSERVER(*HOD)を指定したSTRTCPSVRコマンドを使用すると、診断メッセージが出されます。

***HTTP** WORLD WIDE WEBのHTTPサーバーの1つまたは複数のインスタンスが始動されます。HTTPサーバー・インスタンスの詳細については、**HTTPサーバー (HTTPSVR)**パラメーターのパラメーター文書を参照してください。HTTPサーバーがすでに始動されている場合には、その後にSERVER(*HTTP)を指定したSTRTCPSVRコマンドを使用すると、診断メッセージが出されます。

***INETD**

インターネット・デーモン(INETD)が開始されます。INETDサーバーがすでに始動されている場合には、その後にSERVER(*INETD)を指定したSTRTCPSVRコマンドを使用すると、診断メッセージが出されます。

***LPD** ライン・プリンター・デーモン(LPD)サーバーはLPD属性変更(CHGLPDA)コマンドを使用して構成されたサーバーの数に基づいて始動されます。その後SERVER(*LPD)を指定したSTRTCPSVRコマンドを使用すると、LPDサーバーがもう1つ始動されます。

注: LPDは、2つ以上のサーバーが実行されている時に最も効率的に動作します。サーバーを1つしか実行しない場合でも動作しますが、現行ジョブが実行されている間はジョブを受け取ることはできません。大きい印刷ジョブが実行されている場合には、新しいジョブは、LPDが新しいLPR要求を受け入れる準備ができるまで待機しなければなりません。

***MGTC**

マネージメント・セントラル(MGTC)サーバーが始動されます。MGTCサーバーがすでに始動されている場合には、その後SERVER(*MGTC)を指定したSTRTCPSVRコマンドを使用すると、診断メッセージが出されます。

***NETSVR**

NETSERVER (NETSVR)サーバーが始動されます。NETSVRサーバーがすでに始動されている場合には、その後SERVER(*NETSVR)を指定したSTRTCPSVRコマンドを使用すると、診断メッセージが出されます。

***NSLD**

ネットワーク・ステーション・ログイン・デーモン(NSLD)サーバーが終了されます。NSLDサーバーがすでに始動されている場合には、その後SERVER(*NSLD)を指定したSTRTCPSVRコマンドを使用すると、診断メッセージが出されます。

***NTP**

SIMPLE NETWORK TIME PROTOCOL (SNTP)サービス・サーバーが始動されます。始動するSNTPサービスの指定の詳細については、**SNTPサービス (NTPSRV)**パラメーターのパラメーター文書を参照してください。SNTPサーバーがすでに始動されている場合には、その後SERVER(*NTP)を指定したSTRTCPSVRコマンドを使用すると、診断メッセージが出されます。

注:クライアントとサーバーSNTPサービスの両方が開始されている場合には、SERVER(*NTP)を指定してENDTCPSVRコマンドを実行することによって、クライアントとサーバー・サービスの両方が終了されます。活動状態であるSNTPサービスを変更するには、SERVER(*NTP)を指定したTCP/IPサーバー終了(ENDTCPSVR)コマンドを実行してください。これによって、活動状態のすべてのSNTPサービスが終了されます。その後、SERVER(*NTP),およびNTPSRV(*CLIENT)またはNTPSRV(*SERVER)のどちらかを指定したSTRTCPSVRコマンドを再度実行してください。

***ODPA**

オンデマンド・プラットフォーム認証(ODPA)サーバーが開始されます。ODPAサーバーがすでに開始されている場合には、続けてSTRTCPSVR SERVER(*ODPA)コマンドを出すと、診断メッセージが出されます。

***ONDMD**

オンデマンド・サーバー(ONDMD)が開始されます。ONDMDサーバーがすでに始動されている場合には、その後SERVER(*ONDMD)を指定したSTRTCPSVRコマンドを使用すると、診断メッセージが出されます。

***POP**

POPサーバー属性変更(CHGPOPA)コマンドによって構成されたサーバーの数に基づいて、POST OFFICE PROTOCOL (POP)バージョン3メール・サーバーが開始されます。その後SERVER(*POP)を指定したSTRTCPSVRコマンドを使用すると、POPサーバーがもう1つ始動されます。

***QOS**

QUALITY OF SERVICE(QOS)サーバーが開始されます。QOSサーバーがすでに開始されている場合には、その後STRTCPSVR SERVER(*QOS)コマンドを使用すると、診断メッセージが出される結果となります。

*REXEC

REXEC属性変更(CHGRXCA)コマンドによって構成されたサーバーの数に基づいて、リモート実行(REXEC)サーバーが開始されます。その後SERVER(*REXEC)を指定したSTRTCPSVRコマンドを使用すると、REXECサーバーがもう1つ始動されます。

*ROUTED

ルーター・デーモン(ROUTED)サーバーが開始されます。ROUTEDサーバーがすでに始動されている場合には、その後SERVER(*ROUTED)を指定したSTRTCPSVRコマンドを使用すると、診断メッセージが出されます。

*SMTP

SIMPLE MAIL TRANSFER PROTOCOL (SMTP)クライアントおよびサーバー・ジョブが開始されます。追加のSMTPクライアントおよびサーバー・ジョブは開始できません。SMTPサーバー・ジョブがすでに開始されている場合には、その後のSTRTCPSVR SERVER(*SMTP)コマンドの使用により診断メッセージが出されます。

*SNMP

SIMPLE NETWORK MANAGEMENT PROTOCOL (SNMP)エージェント・サーバーが始動されます。SNMPサーバーがすでに始動されている場合には、その後SERVER(*SNMP)を指定したSTRTCPSVRコマンドを使用すると、診断メッセージが出されます。

***TCM** TRIGGERED CACHE MANAGER (TCM)サーバーの1つまたは複数のインスタンスが開始されます。始動するTCMサービスの指定の詳細については、**TCMサーバー (TCMSVR)**パラメーターのパラメーター文書を参照してください。TCMサーバー・インスタンスがすでに始動されている場合には、その後SERVER(*TCM)を指定したSTRTCPSVRコマンドを使用すると、診断メッセージが出されます。

*TELNET

TELNETサーバーが開始されます。その後SERVER(*TELNET)を指定したSTRTCPSVRコマンドを使用すると、TELNETサーバーがもう1つ始動されます。

注: 複数のTELNETサーバー・ジョブを実行すると、接続の試みが拒絶される機会が少なくなります。

***TFTP** TFTP属性変更(CHGTFTPA)コマンドによって構成されたサーバーの数に基づいて、簡易ファイル転送プロトコル(TFTP)サーバーが開始されます。TFTPサーバー・ジョブがすでに開始されている場合には、その後のSTRTCPSVR SERVER(*TFTP)コマンドの使用により診断メッセージが出されます。

***VPN** 仮想プライベート・ネットワーク(VPN)サーバーが始動されます。VPNサーバーがすでに始動されている場合には、その後SERVER(*VPN)を指定したSTRTCPSVRコマンドを使用すると、診断メッセージが出されます。

*WEBFACING

WEBFACING (WEBFACING)サーバーが始動されます。WEBFACINGサーバーがすでに始動されている場合には、その後SERVER(*WEBFACING)を指定したSTRTCPSVRコマンドを使用すると、診断メッセージが出されます。

[トップ](#)

サーバーの再始動 (RESTART)

STRTCPSVRコマンドの実行時に、選択されたサーバーを再始動するかどうかを指定します。

指定するSERVERパラメーター値は次の1つでなければなりません。

- *ALL
- *DNS
- *DHCP
- *HTTP
- *QOS

そうでない場合には、パラメーターは無視されます。

*NONE

どのサーバーも再始動しません。

***HTTP HTTPサーバー (HTTPSVR)**パラメーターで指定した値を使用して、HTTPサーバーを再始動してください。STRTCPSVRコマンドの実行時にサーバーが現在実行中でない場合には、このパラメーターは無視されて、サーバーが開始されます。

***DHCP**

すでに実行中の動的ホスト構成プロトコル(DHCP)サーバー・ジョブは、その構成ファイルを再処理し、見つけた変更で初期設定します。DHCP処理サーバーが現在実行中でない場合、あるいは再始動のために正常に中断できない場合には、診断メッセージが出されます。

***DNS** すでに実行中のドメイン・ネーム・システム(DNS)サーバー・ジョブは、その構成ファイルを再処理し、見つかった変更を使用して初期設定します。DNS処理サーバーが現在実行中でないか、あるいは再始動のために正常に中断できない場合には、診断メッセージが出されます。

***QOS** すでに実行中のQUALITY OF SERVICE (QOS)サーバー・ジョブは、その構成ファイルを再処理し、見つかったすべての変更を使用して初期設定します。QOS処理サーバーが現在実行中でないか、あるいは再始動のために正常に中断できない場合には、診断メッセージが出されます。

トップ

HTTPサーバー (HTTPSVR)

開始するHTTPサーバー・インスタンスとHTTPサーバーが使用する追加の始動値を指定して、サーバー・インスタンスを制御します。(このサーバーはIBM HTTP SERVERとしても知られています。)

複数のHTTPサーバー・インスタンスが定義されている場合には、すべてのインスタンスを開始するか、あるいは開始するインスタンス名を指定することによって1つの特定のインスタンスを開始するよう選択することができます。

HTTPサーバーの詳細については、HTTPサーバーのホーム・ページ ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/SOFTWARE/HTTP](http://www.ibm.com/eserver/series/software/http)) を参照してください。

単一値

***ALL** HTTPサーバーの定義されたすべてのインスタンスが開始されます。

要素1: サーバー・インスタンス

*ADMIN

管理サーバーが開始されます。管理サーバーは、WEBブラウザを使用して特定のISERIES機能を管理できるようにするHTTPサーバーのインスタンスです。

名前 開始するHTTPサーバー・インスタンスの名前を指定します。

要素2: インスタンス始動値

*NONE

追加の始動値は定義されません。

文字値 このサーバー・インスタンスに使用する追加の始動値を指定します。これらの値は、指定されたサーバー・インスタンスについて前に定義されたサーバー始動値を一時変更するために使用されます。

注: 一時変更を指定するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限がなければなりません。インスタンス始動値が指定され、ユーザーが*IOSYSCFG権限を持っていない場合には、開始要求は拒否されます。

注: これらの一時変更の使用には注意が必要です。特殊な状況でだけ使用することを前提としています。始動値を指定するには、このコマンドではなく、WEBベースのIBM HTTP SERVER管理インターフェースを使用されることをお奨めします。始動パラメーター値は、特定のサーバー・インスタンス値、構成ディレクティブ値、グローバル・サーバー値、および省略時値を変更します。

HTTPサーバー (APACHEにより強化) の場合のインスタンス始動値。

-NETCCSID [NNN]

DEFAULTNETCCSID指示を一時変更します。

-FSCCSID [NNN]

省略時のDEFAULTFSCCSID指示を一時変更します。

-D [SERVERROOT]

サーバー・ルートに対するSERVERROOT変数の初期値を一時変更します。省略時の値は/QIBM/USERDATA/HTTP/LOGSです。

-F [CONFIGURATION]

始動時に構成の中の値を使用します。構成が/で始まっていない場合には、それがSERVERROOTと相対関係にあるパスとして取り扱われます。省略時の値はCONF/HTTPD.CONFです。

-C [DIRECTIVE]

通常の構成ファイルを実際に読み取る前に、指定された"DIRECTIVE"を (構成ファイルの一部であると見なして) 処理します。

-C [DIRECTIVE]

通常のすべての構成ファイルを読み取った後に、指定された"DIRECTIVE"を処理します。

-VV [VERBOSE LEVEL SERVICE TRACE]

冗長レベルのサービス追跡をオンにします。

-VI [INFORMATIONAL LEVEL SERVICE TRACE]

通知レベルのサービス追跡をオンにします。

-VE [ERROR LEVEL SERVICE TRACE]

エラー・レベルのサービス追跡をオンにします。

-V [NO VALUE IS PROVIDED]

サーバーの基本バージョン、その構築日付、サーバーの動作とパフォーマンスに影響するコンパイル時の設定のリストを表示し、その後で終了します。

-L [NO VALUE IS PROVIDED]

サーバーにコンパイルされたすべてのモジュールのリストを表示し、その後で終了します。

-T [NO VALUE IS PROVIDED]

構成ファイルの構文をテスト（たとえば、すべての構成ファイルの読み取りおよびその解釈）を実行しますが、サーバーは開始しません。その構成にエラーが含まれている場合には、非ゼロの終了状況で終了し、それ以外の場合には、「構文はOK」を表示し、ゼロの終了状況で終了します。このコマンドは、すべてのDOCUMENTROOT項目が存在し、ディレクトリーになっているかどうかを検査します。

トップ

DNSサーバー (DNSSVR)

開始するドメイン・ネーム・システム(DNS)サーバー・インスタンス、およびサーバー・インスタンスを制御するためにDNSサーバーが使用する追加のすべての始動値を指定します。

複数のDNSサーバー・インスタンスが定義されている場合には、すべてのインスタンスを開始するか、あるいは開始するインスタンス名を指定することによって1つの特定のインスタンスを開始するよう選択することができます。

単一値

***ALL** DNSサーバーの定義されたすべてのインスタンスが開始されます。

要素1: サーバー・インスタンス

文字値 開始するDNSサーバー・インスタンスの名前を指定します。

要素2: インスタンス始動値

***NONE**

追加の始動値は定義されません。

文字値 このサーバー・インスタンスに使用する追加の始動値を指定します。これらの値は、指定されたサーバー・インスタンスについて前に定義されたサーバー始動値を一時変更するために使用されません。

注: 一時変更を指定するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG) 特殊権限がなければなりません。インスタンス始動値が指定され、ユーザーが*IOSYSCFG権限を持っていない場合には、開始要求は拒否されます。

DNSサーバーの場合のインスタンス始動値のリストは、次の通りです。

-D [N]

ここで、Nは1-11の数値です。これは、開始するサーバーのデバッグ・レベルを設定します。

TCMサーバー (TCMSVR)

開始するトリガー・キャッシュ・マネージャー(TCM)サーバー・インスタンス、およびサーバー・インスタンスを制御するためにTCMサーバーが使用する追加のすべての始動値を指定します。

複数のTCMサーバー・インスタンスが定義されている場合には、すべてのインスタンスを開始するか、あるいは開始するインスタンス名を指定することによって1つの特定のインスタンスを開始するよう選択することができます。

単一値

*NONE

TCMサーバーの定義されたどのインスタンスも開始されません。

要素1: インスタンス名

***ALL** TCMサーバーの定義されたすべてのインスタンスが開始されます。

文字値 開始するTCMサーバー・インスタンスの名前を指定します。

要素2: インスタンス始動値

*NONE

追加の始動値は定義されません。

文字値 このサーバー・インスタンスに使用する追加の始動値を指定します。これらの値は、指定されたインスタンス名について前に定義されたサーバー始動値を一時変更するために使用されます。

注: 一時変更を指定するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG) 特殊権限がなければなりません。インスタンス始動値が指定され、ユーザーが*IOSYSCFG権限を持っていない場合には、開始要求は拒否されます。

ASFTOMCATサーバー (TOMCATSVR)

始動するTOMCATサーバー・インスタンスを指定します。

複数のTOMCATサーバー・インスタンス名が定義されている場合には、すべてのインスタンスを始動するか、あるいは始動するインスタンス名を指定することによって1つの特定のインスタンスを始動するよう選択することができます。

単一値

*NONE

TOMCATサーバーの定義されたどのインスタンスも始動されません。

要素1: サーバー・インスタンス名

***ALL** TOMCATサーバーの定義されたすべてのインスタンスが始動されます。

文字値 開始するTOMCATサーバー・インスタンスの名前を指定します。

注: 一時変更を指定するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG) 特殊権限がなければなりません。インスタンス始動値が指定され、ユーザーが*IOSYSCFG権限を持っていない場合には、開始要求は拒否されます。

[トップ](#)

SNTPサービス (NTPSRV)

開始するSIMPLE NETWORK TIME PROTOCOL (SNTP)サービスを指定します。

単一値

***CLIENT**

SNTPクライアントが開始されます。

***SERVER**

SNTPサーバーが開始されます。

***ALL** クライアントとサーバーの両方が開始されます。

***CFGFILE**

SNTP属性変更(CHGNTPA)コマンド構成ファイルでのキーワード・クライアント自動始動(AUTOSTART)およびサーバー自動始動(SVRAUTOSTR)が、開始するサービスを判別するのに使用されます。この値が*YESに設定されている場合には、そのサービスが開始されます。

[トップ](#)

STRTCPSVRの例

例1: AUTOSTART(*YES)を指定した全TCP/IPサーバーの開始

```
STRTCPSVR  SERVER(*AUTOSTART)
```

このコマンドは、アプリケーション構成でAUTOSTART属性が*YESに設定されているTCP/IPアプリケーション・サーバーのすべてを開始します。

例2:全TCP/IPサーバーの開始

```
STRTCPSVR  SERVER(*ALL)
```

このコマンドは、構成済みのTCP/IPアプリケーション・サーバーのすべてを開始します。例: FTP属性変更(CHGFTPA)コマンドが2つのFTPサーバーを構成するために前に使用された場合は、STRTCPSVRが出されると両方のサーバーが開始されます。この例は、他のTCP/IPアプリケーション・サーバーに対しても真です。

適切な場合は、開始されるサーバーの数は、開始しようとするサーバーに対して構成されたサーバー数が基になります。

例3: TELNETサーバーの開始

```
STRTCPSVR  SERVER(*TELNET)
```

このコマンドは、TCP/IP TELNETアプリケーション・サーバーを開始します。TELNETサーバーが前に開始されていた場合は、1つの追加TELNETサーバー・ジョブが開始されます。

例4: HTTPサーバーの再始動

```
STRTCPSVR SERVER(*HTTP) RESTART(*HTTP)
```

このコマンドは、HTTPサーバーの全インスタンスに対するTCP/IP HTTPアプリケーションを再始動します。HTTPサーバーが現在は実行中でなかった場合は、HTTPサーバーの定義済みインスタンスがすべて開始されます。

例5: HTTPサーバー・インスタンスの開始

```
STRTCPSVR SERVER(*HTTP) HTTPSVR('HTTP1')
```

このコマンドは、このサーバー・インスタンスに対して前に定義された開始値を使用して、'HTTP1'という名前の TCP/IP HTTP アプリケーション・サーバー・インスタンスを開始します。

例6: HTTPインスタンスに対する開始値の指定

```
STRTCPSVR SERVER(*HTTP) HTTPSVR(HTTP1 '-P 81 -SSLPORT 443')
```

このコマンドは、HTTP1という名前のTCP/IP HTTPアプリケーション・サーバー・インスタンスを開始し、そのサーバー・インスタンスは無保護要求の場合はポート81で、さらに保護要求の場合はポート443でLISTENすることを指定します。ここで定義されるポートは、このサーバー・インスタンスが使用するよう前に定義されたポートをすべて指定変更します。

例7: DNSサーバー・インスタンスの開始

```
STRTCPSVR SERVER(*DNS) DNSSVR('DNS1')
```

このコマンドは、このサーバー・インスタンスに対して前に定義された開始値を使用して、'DNS1'という名前の TCP/IP DNS アプリケーション・サーバー・インスタンスを開始します。

例8: DNSインスタンスに対する開始値の指定

```
STRTCPSVR SERVER(*DNS) DNSSVR(DNS1 '-D 5')
```

このコマンドは、DNS1という名前のTCP/IP DNSアプリケーション・サーバー・インスタンスを開始し、サーバー・インスタンスがデバッグ・レベル5をオンにすることを指定します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: STRTCPSVR

*ESCAPE メッセージ

CPF3894

メッセージ&1に対して取り消し応答を受け取った。

TCP1A11

&1が正常に実行されなかった。

TCP1A77

&1は正常に完了したが、エラーが起こった。

[トップ](#)

TIEセッション開始 (STRTISSN)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (*BATCH)
- バッチ・プログラム (*BPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (*BREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

技術情報交換セッション開始(STRTISSN)コマンドは、TIEバッチ・セッション用のデータ・リンクを確立します。このコマンドは、他のTIEバッチ・コマンドより前に使用しなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SPTUSRID	ユーザー識別コード	名前	必須, 定位置 1
SPTPWD	パスワード	文字値	必須, 定位置 2
ACCOUNT	会計	文字値, *RTV	オプション

[トップ](#)

ユーザー識別コード (SPTUSRID)

リモート保守サポート・ネットワークへのサインオンに必要なユーザー識別コードを指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

パスワード (SPTPWD)

リモート保守サポート・ネットワークへのサインオンに必要なパスワードを指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

会計 (ACCOUNT)

リモート・サポート・ネットワークにサインオンするために必要なネットワーク・アカウント番号を指定します。アカウント番号を指定しない場合は、連絡先データベースからのアカウント番号が使用されます。

***RTV** 連絡データベースからの会計番号が使用されます。

会計番号

使用される会計番号を指定してください。

[トップ](#)

STRTIESSNの例

```
STRTIESSN SPTUSRID(ACME) SPTPWD(11111) ACCOUNT(11420880)
```

このコマンドは、会計番号11420880のためのTIEメイン・メニューを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： STRTIESSN

なし

[トップ](#)

追跡の開始 (STRTRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

追跡開始(STRTRC)コマンドは、オリジナル・プログラム・モデル(OPM)プログラムおよび統合化言語環境(ILE)プロシージャおよびJAVAプログラム(コンパイル済みとJITの両方)の追跡を開始します。このコマンドを使用して、複数のジョブの追跡を実行することができます。追跡セッションは任意の数だけ開始できますが、活動状態の追跡識別コードはシステム中で固有なものでなければなりません。このコマンドは呼び出し戻りフロー、オペレーティング・システムに定義された追跡ポイントによって戻されたデータ、構成要素追跡情報、あるいはこのすべてを追跡することができます。

追跡セッションは、追跡終了(ENDTRC)コマンドによって、あるいは追跡事象機能の監視によって自動的に終了されるまで続行します。追跡セッションは、同じジョブから、または別のジョブから終了することができます。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、サービス(*SERVICE)特殊権限をもっているか、あるいはISERIESナビゲーターのアプリケーション管理サポートを介してOS/400のサービス追跡機能に許可されていなければなりません。また、QIBM_SERVICE_TRACEの機能IDをもつ機能使用法変更(CHGFCNUSG)コマンドも、追跡操作に実行できるユーザーのリストを変更するために使用できます。
- ジョブ名 (JOB)パラメーターに総称ユーザー名を指定する場合には、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限をもっているか、あるいはISERIESナビゲーターのアプリケーション管理サポートを介してOS/400の任意にユーザー追跡機能に許可されていなければなりません。また、QIBM_ALLOBJ_TRACE_ANY_USERの機能IDをもつ機能使用法変更(CHGFCNUSG)コマンドも、追跡操作に実行できるユーザーのリストを変更するために使用できます。
- すべてのジョブ名およびすべてのユーザーを追跡するための追跡を定義することはできません。
- WCHJOBパラメーターを指定した時には、コマンド発行側は、監視しているジョブのジョブ・ユーザー識別と同じユーザー・プロファイルで実行しなければなりません。また、コマンド発行側はジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限をもつユーザー・プロファイルで実行しなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SSNID	セッションID	名前, *GEN	必須, 定位置 1

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ	単一値: * その他の値 (最大 8 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ジョブ名	修飾ジョブ名	
	修飾子 1: ジョブ名	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ユーザー	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 3: 番号	000001-999999, *ALL	
	要素 2: 組み込むスレッドID	値 (最大 20 回の繰り返し): 文字値, *ALL, *INITIAL, *SELECT	
JOBTYP	ジョブ・タイプ	*ALL, *ACTIVE, *NEW	オプション
MAXSTG	使用最大記憶域	1024-4000000, <u>10000</u>	オプション
TRCFULL	追跡データ満杯時の処理	*STOPTRC, *WRAP	オプション
JOBTRCTYP	追跡タイプ	値 (最大 2 回の繰り返し): *ALL, *FLOW, *DATA, *TRCTYP	オプション
TRCTYP	追跡タイプ	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 構成要素	文字値, *ASPMGT, *CLUSTER, *DIRSRV, *ENVVAR, *HTTP, *IFS, *IPC, *LOCKSPACE, *OPASSIST, *POSIXMISC, *POSIXPROC, *PTHREAD, *QSHELL, *RAS, *SECURITY, *SOCKETS, *THREADMGT	
	要素 2: 追跡レベル	*ERROR, *INFO, *VERBOSE	
TRCFTR	追跡フィルター	名前, *NONE	オプション
WCHMSG	メッセージの監視	単一値: *NONE その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: メッセージ識別コード	名前	
	要素 2: 比較データ	文字値, *NONE	
WCHMSGQ	監視されたメッセージ待ち行列	値 (最大 3 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: メッセージ待ち行列	単一値: *SYSOPR, *JOBLOG, *HSTLOG その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL	
WCHJOB	監視されたジョブ	単一値: * その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ジョブ名	修飾ジョブ名	
	修飾子 1: ジョブ名	総称名, 名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000001-999999, *ALL	
WCHLICLOG	LICログ項目の監視	単一値: *NONE その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: メジャー・コード	文字値, *ALL	
	要素 2: マイナー・コード	文字値, *ALL	
	要素 3: 比較データ	文字値, *NONE	
WCHTIMO	監視する時間の長さ	1-43200, <u>1440</u> , *NOMAX	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
TRCPGM	追跡プログラム	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 追跡プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL	
TRCPGMITV	時間間隔	1-9999, *NONE	オプション

トップ

セッションID (SSNID)

この追跡のセッション識別コードを指定します。この識別コードは、システム上のすべての活動追跡間で固有でなければなりません。

これは必須パラメーターです。

***GEN** システムがこの追跡の固有のセッション識別コードを生成します。

名前 この追跡のセッション識別コードを指定します。

トップ

ジョブ名 (JOB)

どのジョブを追跡するかを指定します。

単一値

***** STRTRC (追跡開始) コマンドを出したジョブだけが追跡されます。

要素1: ジョブ名

修飾子1: ジョブ名

総称名 追跡されるジョブの総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば, ABC*)です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称ジョブ名は、総称接頭部で始まるジョブ名をもつすべてのジョブを指定します。

***ALL** 指定したジョブ・ユーザー名をもつすべてのジョブ名が追跡されます。ジョブ番号の*ALLは、ユーザー指定のジョブ・ユーザー名修飾子と一致するジョブのすべてを追跡するために、これは総称ジョブ指定と見なされます。

名前 追跡されるジョブの名前を指定します。最大8つのジョブ名を指定できますが、使用できる総称ジョブ名は1つだけです。

修飾子2: ユーザー

総称名 追跡レコードが収集されるジョブの総称ユーザー名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば, ABC*)です。アス

タリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称ユーザー名は、総称接頭部で始まるユーザー名をもつすべてのジョブを指定します。

***ALL** 指定したジョブ名をもつすべてのジョブ・ユーザー名が追跡されます。ジョブ・ユーザー名の*ALLは、ユーザー指定のジョブ名修飾子と一致するジョブをすべて追跡するために、これは総称ジョブ指定と見なされます。

名前 追跡されるジョブのユーザー名を指定します。

修飾子3: 番号

***ALL** 指定したジョブ名およびユーザー名のすべてのジョブが追跡されます。ジョブ番号の*ALLは、ユーザー指定のジョブ名およびジョブ・ユーザー名修飾子と一致するすべてのジョブを追跡するために、これは総称ジョブ指定と見なされます。

000001-999999

ジョブ名およびユーザー名をさらに修飾するジョブ番号を指定してください。総称ジョブ名修飾子または総称ユーザー名修飾子が指定された場合には、ジョブ番号を指定することはできません。

要素2: 組み込むスレッドID

***ALL** 指定したジョブ名およびユーザー名内のすべてのスレッドが追跡されます。

*INITIAL

指定したジョブ名およびユーザー名内の初期スレッドだけが追跡されます。

*SELECT

追跡するよう最高20までを選択できるスレッド識別コードのリストが表示されます。この値は、コマンドが対話式ジョブで実行される場合にのみ有効です。

スレッド識別コード

情報を組み込みたい最高20までのスレッドの識別コードを指定してください。

[トップ](#)

ジョブ・タイプ (JOBTYPE)

追跡データを収集する、そのジョブのタイプを指定します。

***ALL** ジョブ名の選択基準と一致するジョブがすべて、この追跡収集に組み込まれます。これは、システム上で現在活動のジョブを組み込みます。総称ジョブ名が指定された場合には、この追跡セッションの開始の後で開始して、総称ジョブ名選択基準と一致する新規のジョブも、追跡収集に組み込まれます。

*ACTIVE

この追跡セッションが活動化されている時点で現在活動状態であり、そのジョブ名選択基準と一致するジョブだけがこの追跡収集に組み込まれます。

***NEW** この追跡セッションが活動化された後に開始し、その総称ジョブ名選択基準と一致する新規のジョブだけがこの追跡収集に組み込まれます。

使用最大記憶域 (MAXSTG)

収集された追跡レコードに使用する記憶域の要求された最大キロバイト数(K)を指定します。システムは追跡に必要な記憶域の最小容量を計算します。この最小記憶域サイズの計算はシステムのプロセッサ構成によって異なります。記憶域の最小容量はMAXSTGパラメーター上に指定されたサイズよりかなり大きくなる場合があります。システムは2つの値の大きい方を使用します。

10000 最大10,000キロバイトの記憶域が使用されます。

1024-4000000

追跡レコードを記憶するために使用される記憶域の最大量（キロバイト単位）を指定します（1キロバイトは1024バイトと等しい）。

トップ

追跡データ満杯時の処理 (TRCFULL)

MAXSTGパラメーターで指定した記憶域がすべて使用された時に、追跡レコードを折り返す(最も古いレコードを新しいレコードで置き換える)か、あるいは追跡を停止するかを指定します。

***WRAP**

追跡記憶域が満杯になった時に、追跡は始めに折り返します。新しいレコードが収集されるにつれて、最も古い追跡レコードが新しいレコードによって書き換えられます。

***STOPTRC**

追跡記憶域が追跡レコードで満杯になった時に、追跡が停止します。

トップ

追跡タイプ (JOBTRCTYPE)

追跡ファイルに保管するジョブ追跡データのタイプを指定します。

このパラメーターには2個の値を指定することができます。

***ALL** 収集されたすべての追跡データを追跡レコード内に記憶します。これには、制御のフローの追跡および追跡データそのものも含まれます。

***FLOW**

制御のフローは、OPMプログラムおよびILEプロシージャが呼び出された時点、およびこれらが戻された時点で追跡されます。

***DATA**

オペレーティング・システム内のあらかじめ定義された追跡点で提供されたデータは、追跡レコードに保管されます。これには、実行されたCLコマンドの追跡レコードも含まれます。

***TRCTYPE**

追跡タイプ (TRCTYPE)パラメーターに指定された特定の構成要素を追跡します。

トップ

追跡タイプ (TRCTYPE)

追跡する構成要素，および使用するレベルを指定します。追跡する最大50個の追跡構成要素を指定することができます。

単一値

***NONE**

構成要素追跡は指定されません。

要素1: 構成要素

各追跡タイプは，特殊値で識別されます。次のテーブルから追跡構成要素の特殊値を指定します。

追跡の記述	特殊値
ASP管理	*ASPMGT
ディレクトリー・サービス	*DIRSRV
クラスター資源サービス	*CLUSTER
環境変数API	*ENVVAR
APACHEで電源の入るHTTPサーバー	*HTTP
統合ファイル・システム	*IFS
プロセス間通信API	*IPC
ロックSPACE MANAGEMENT	*LOCKSPACE
操作援助機能	*OPASSIST
POSIX各種API	*POSIXMISC
POSIXプロセス関連API	*POSIXPROC
POSIXスレッドAPI	*PTHREAD
QSHELL	*QSHELL
リモート・アクセス・サービス	*RAS
ソフトウェア機密保護	*SECURITY
ソケットAPI	*SOCKETS
スレッド管理	*THREADMGT

要素2: 追跡レベル

指定された構成要素に使用される追跡レベルを指定します。

***ERROR**

追跡レベルERRORが使用されます。構成要素は通常，エラー戻りコード，例外条件，および無効な入力データを追跡します。データ量は，常に小さいです。

***INFO** 追跡レベルINFOが使用されますが，これにはERROR追跡レベル・データも含まれます。構成要素は通常，インターフェースからの項目と出口，パラメーターと戻りコード，およびフローの主な変更または入力データまたは他の決定によるセマンティクスを追跡します。データ量は，中間です。

***VERBOSE**

追跡レベルVERBOSEが使用されますが，これにはINFOおよびERROR追跡レベル・データも含まれます。構成要素は通常，制御フロー，データ破損，データ構造，環境，呼び出しスタック，および資源割り振りのデバッグを援助できる詳細データを追跡します。データ量は，大きくなります。

[トップ](#)

追跡フィルター (TRCFTR)

使用する追跡フィルターを指定します。追跡フィルターを定義するには、追跡フィルター追加 (ADDTRCFTR) コマンドを出さなければなりません。このフィルターによって、フィルター値を基にして追跡で収集される情報が決定されます。このフィルター値は、実際の追跡データと比較されます。フィルターが指定されない場合には、すべての追跡情報が収集されます。

追跡フィルター・パラメーターを指定できるのは、**追跡タイプ (JOBTRCTYPE)** パラメーターに *ALL または *FLOW が指定された場合だけです。追跡フィルターは、*FLOW (呼び出し/戻し) 追跡のみに適用されます。

***NONE**

追跡フィルターは使用されません。

名前 使用する追跡フィルターの名前を指定します。

[トップ](#)

メッセージの監視 (WCHMSG)

監視対象の最大5個のメッセージIDを指定します。*NONE以外の値が指定された場合には、メッセージを監視する対象の位地をWCHMSGQパラメーターに指定する必要があります。監視対象メッセージが指定されたメッセージ待ち行列またはログに追加されると、追跡出口プログラムが呼び出されます。追跡出口プログラムが定義されていない場合は、その追跡は停止します。

単一値

***NONE**

メッセージは監視されません。

要素1: メッセージ識別コード

名前 監視対象となる7文字のメッセージIDを指定します。

要素2: 比較データ

指定されたメッセージIDと一致するメッセージを指定されたメッセージ待ち行列またはログに追加する場合に、使用する比較データを指定します。メッセージ・データに指定されたテキストが含まれる場合は、その監視対象条件が真になります。メッセージ・データに指定されたテキストが含まれていない場合は、追跡機能が続行されます。

***NONE**

比較データは指定されません。指定されたメッセージIDと一致するメッセージを指定されたメッセージ待ち行列またはログに追加する場合には、その監視対象条件が真になります。

文字値 監視対象メッセージのメッセージ・データと比較するために使用するテキスト・ストリングを指定します。このテキストが監視対象メッセージのメッセージ・データ中のどこかで検出された場合は、その監視条件は真とみなされます。このテキストは大文字小文字の区別が行われます。比較データは2つのフィールドにまたがった突き合わせには使用できませんが、フィールド全体またはどれかのフィールドのサブストリングを突き合わせることはできます。

[トップ](#)

監視されたメッセージ待ち行列 (WCHMSGQ)

WCHMSGパラメーターに指定されたメッセージ識別コードについて監視する位置を指定します。システム
操作員メッセージ待ち行列、活動記録ログ、他のメッセージ待ち行列、およびジョブ・ログに追加している
メッセージの監視を指定することができます。最大3個のメッセージ待ち行列または特殊値を指定するこ
とができます。

要素1: メッセージ待ち行列

単一値

***SYSOPR**

システム操作員メッセージ待ち行列（ライブラリーQSYS中のQSYSOPRメッセージ待ち行列）に追
加されるメッセージを監視します。

***JOBLOG**

監視されたジョブ (WCHJOB)パラメーターに指定されたジョブのジョブ・ログに追加されるメッ
セージを監視します。

***HSTLOG**

活動記録ログQHSTに追加されるメッセージを監視します。

修飾子1: メッセージ待ち行列

名前 監視したいメッセージ待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべての
ライブラリーが検索されます。

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

監視されたジョブ (WCHJOB)

WCHMSGパラメーターに指定されたメッセージについてそのジョブ・ログが監視される、そのジョブを指
定します。*JOBLOGがWCHMSGQパラメーターに指定された場合は、指定されたジョブだけが監視されま
す。最大5個のジョブ名を指定することができます。

単一値

*
_ この追跡コマンドを出したジョブのジョブ・ログだけが監視されます。

要素1: ジョブ名

修飾子1: ジョブ名

総称名 監視されるジョブの総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば, ABC*)です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称ジョブ名は、総称接頭部で始まるジョブ名をもつすべてのジョブを指定します。

名前 監視されるジョブの名前を指定します。

修飾子2: ユーザー

名前 監視されるジョブのユーザー名を指定します。

修飾子3: 番号

***ALL** 指定したジョブ名およびユーザー名をもつすべてのジョブが監視されます。

000001-999999

ジョブ名およびユーザー名をさらに修飾するジョブ番号を指定してください。総称ジョブ名修飾子が指定された場合には、ジョブ番号を指定することはできません。

トップ

LICログ項目の監視 (WCHLICLOG)

監視の対象となる最大5個のライセンス内部コード(LIC)ログ項目識別コードを指定します。各LICログ項目には、メジャーとマイナーのコードが含まれています。指定されたメジャーとマイナーのコードおよび指定された比較データのどれかと一致するLICログ項目が追加される場合は、条件の監視を満たすこととなります。ログ項目の監視がLICログに追加される時には、指定された比較データと一致しない場合でも追跡出口プログラムが呼び出されます。追跡出口プログラムが定義されていない場合は、その追跡は停止します。

単一値

***NONE**

LICログ項目は監視されません。

要素1: メジャー・コード

***ALL** LICログ項目のどのメジャー・コードも一致とはみなされます。*ALLがメジャー・コードに指定された場合は、LICログ項目マイナー・コードに*ALLを指定することはできません。

文字値 監視対象となるLICログ・メジャー・コードを指定します。4桁のコードの各文字に16進数または疑問符のいずれかを指定することができます。疑問符はワイルドカード文字であり、その桁の任意の数字と一致することとなります。最大3個のワイルドカード文字を指定することができます。

要素2: マイナー・コード

***ALL** LICログ項目のどのマイナー・コードも一致とみなされます。*ALLがマイナー・コードに指定された場合は、LICログ項目メジャー・コードに*ALLを指定することはできません。

文字値 監視対象となるLICログ・マイナー・コードを指定します。4桁のコードの各文字に16進数または疑問符のいずれかを指定することができます。疑問符はワイルドカード文字であり、その桁の任意の数字と一致することになります。最大3個のワイルドカード文字を指定することができます。

要素3: 比較データ

指定されたメジャーとマイナー・コードと一致するログ項目をライセンス内部コード(LIC)ログに追加する場合に、使用する比較データを指定します。このテキストが監視対象ログ項目のLICログ項目データ・フィールド中で検出されない場合には、その監視対象条件が真になります。このテキストが監視対象ログ項目のLICログ項目データ・フィールド中で検出されないで、出口プログラムがTRCPGMパラメーターに指定されない場合には、追跡機能は続行します。このログ項目が指定されたメジャーとマイナーのコードと一致して、出口プログラムはTRCPGMパラメーターに指定されているが、その項目データに指定されたテキストが含まれていない場合は、追跡を続行すべきか、停止すべきかを判別するために、出口プログラムが呼び出されます。

***NONE**

比較データは指定されません。指定されたメジャーとマイナーのコードと一致するLICログ項目をLICログに追加する場合には、監視対象条件が真になります。

文字値 監視対象ログ項目の項目データと比較するために使用するテキスト・ストリングを指定します。このテキストが監視対象ログ項目のLICログ項目データ・フィールド中で検出された場合には、その監視条件が真とみなされます。このテキストは大文字小文字の区別が行われます。比較できるLICログ・フィールドはTDE番号、タスク名、サーバー名、ジョブ名、ユーザーID、ジョブ番号、スレッドID、例外ID、LICモジュール・コンパイル2進数タイム・スタンプ、LICモジュール・オフセット、LICモジュールRU名、LICモジュール名、LICモジュール・エントリー・ポイント名です。比較データは2つのフィールドにまたがった突き合わせには使用できませんが、フィールド全体またはどれかのフィールドのサブストリングを突き合わせることはできます。

例外IDの監視の時には、例外IDの16進数の4桁すべてを指定しなければなりません。また、例外IDのフィールドに対してのみ比較し、他のフィールドと一致する可能性があるサブストリングは回避したい場合は、接頭部MCHを指定することもできます。

[トップ](#)

監視する時間の長さ (WCHTIMO)

メッセージまたはライセンス内部コード(LIC)ログ項目での監視の時間制限(分単位)を指定します。指定された時間が経過すると、追跡出口プログラムが呼び出されて(これがTRCPGMパラメーターに指定された場合)、追跡は終了されて、メッセージCPI3999がシステム操作員メッセージ待ち行列に送信されます。

1440 特定メッセージまたはLICログ項目の監視の時間制限は1440分(24時間)です。

***NOMAX**

特定メッセージまたはLICログ項目の監視の時間制限はありません。

1-43200

どの監視対象条件とも一致しなかった時に、追跡が活動のままとなっている分数を指定します。

[トップ](#)

追跡プログラム (TRCPGM)

ユーザー定義の追跡コマンドおよびプロシージャで呼び出されるプログラムを指定します。

次の時に追跡プログラムが呼び出されます。

- 適用業務追跡が開始する前
- WCHMSGパラメーターに指定されたメッセージIDの一致、あるいはWCHLICLOGパラメーターに指定されたライセンス内部コード(LIC)ログ項目の一致があった後。
- TRCPGMITVパラメーターに指定された時間間隔に達した時。
- WCHTIMOパラメーターに指定された監視の時間の長さに達した時。

追跡プログラムに関連して3つの入力パラメーターと1つの出力パラメーターがあります。この4つのパラメーターは必須です。

1	追跡オプション設定	入力	CHAR(10)
2	予約済み	入力	CHAR(10)
3	エラー検出	出力	CHAR(10)
4	比較データ	入力	CHAR(*)

「追跡オプション設定」パラメーターで許可される値は次の通りです。

***ON** 追跡情報の収集が開始される時には追跡機能の監視は開始しています。

***MSGID**

WCHMSGパラメーターに指定されたメッセージIDと一致しました。

***LICLOG**

WCHLICLOGパラメーターに指定されたLICログと一致しました。

***CMPDATA**

LICログのメジャーとマイナーのコードは一致しましたが、比較データが一致しませんでした。

***INTVAL**

TRCPGMITVパラメーターに指定された時間間隔が経過しました。

***WCHTIMO**

WCHTIMOパラメーターに指定された監視の時間の長さが経過しました。

「予約済み」パラメーターはブランクに設定する必要があります。

「エラーの検出」パラメーターで許可される値は次の通りです。

***CONTINUE**

追跡事象機能の追跡および監視の実行が続行します。

***STOP**

追跡事象機能の追跡および監視が終了されます。

***ERROR**

カスタマー追跡プログラムによってエラーが検出されました。

「追跡オプション設定」パラメーターに*MSGIDが指定された時に「比較データ」パラメーターで許可される値は次の構造となります。

オフセット タイプ フィールド

DEC HEX

0	0	BINARY(4)	追跡情報の長さ
4	4	CHAR(7)	メッセージID
11	B	CHAR(9)	予約済み
20	14	BINARY(4)	比較データに対するオフセット
24	18	BINARY(4)	比較データの長さ
*	*	CHAR(*)	メッセージ比較データ

「追跡オプション設定」パラメーターに*LICLOGまたは*CMPDATAが指定された時に「比較データ」パラメーターで許可される値は次の構造となります。

オフセット	タイプ	フィールド
DEC	HEX	
0	0	BINARY(4) 追跡情報の長さ
4	4	CHAR(4) LICログ・メジャー・コード
8	8	CHAR(4) LICログ・マイナー・コード
12	C	CHAR(8) LICログID
20	14	BINARY(4) 比較データに対するオフセット
24	18	BINARY(4) 比較データの長さ
*	*	CHAR(*) LICログ比較データ

「追跡オプション設定」パラメーターに*ON, *INTVALまたは*WCHTIMOが指定された時に「比較データ」パラメーターで許可される値は次の構造となります。

オフセット	タイプ	フィールド
DEC	HEX	
0	0	BINARY(4) 追跡情報の長さ (常に4)

追跡出口プログラム・インターフェースの詳細については、[HTTP://WWW.ISERIES.IBM.COM/INFOCENTER](http://www.iseries.ibm.com/infocenter)にあるISERIES INFORMATION CENTERの「SYSTEM API REFERENCE」情報を参照してください。

単一値

*NONE

追跡出口プログラムは定義されません。監視対象メッセージまたはライセンス内部コード(LIC)ログ項目を追加する場合、あるいは指定された監視時間制限を超えた場合には、追跡機能は終了します。

修飾子1: 追跡プログラム

名前 追跡出口プログラムの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

名前 ユーザー出口プログラムが入っているライブラリーの名前を指定します。

トップ

時間間隔 (TRCPGMITV)

追跡出口プログラムを呼び出す頻度を指定します。

*NONE

時間間隔は指定されません。時間間隔が経過したので、追跡出口プログラムは呼び出されません。

1-9999

追跡出口プログラムを呼び出す頻度の時間の間隔（秒数）を指定します。これは、**監視する時間の長さ (WCHTIMO)**パラメーターに指定された時間より小さくしなければなりません。

トップ

STRTRCの例

例1:ジョブで追跡を開始する

```
STRTRC  SSNID(*GEN)
```

このコマンドは、STRTRCコマンドと呼ばれるジョブで追跡を開始します。固有の追跡セッションIDが生成されます。セッションIDは、追跡セッションが正常に開始された後に送信される完了メッセージのメッセージ・データに戻されます。

例2:別のジョブの追跡を開始する

```
STRTRC  JOB(123456/QSYS/QSYSARB) SSNID(ARBTRACE)
```

このコマンドは、ジョブ名QSYSARB、ジョブ・ユーザー名QSYS、ジョブ番号123456のジョブで、新規追跡を開始します。このジョブだけが追跡されます。追跡セッションIDはARBTRACEです。

例3:総称ジョブ追跡を開始する

```
STRTRC  SSNID(*GEN) JOB(*ALL/QSYS/QTVTNET*) MAXSTG(80000)
```

このコマンドは、システム上においてQVTVTNETで始まるジョブ名をもつすべてのジョブで新規追跡を開始して、QSYSユーザー・プロファイルを実行します。追跡に使用される最大記憶域は80000キロバイトです。固有のセッションIDが生成されます。

例4:フィルターを使用したジョブ追跡を開始する

```
ADDTRCFTR  FTR(MYFTR)  PGMTRG(*EQ MYLIB/MYPGM *ALL *PGM *ENTRY)
```

```
STRTRC  SSNID(MYTRACE)JOB(123456/MYUSER/MYJOB) TRCFTR(MYFTR)
```

これらのコマンドは、MYLIBのMYPGM用追跡フィルターを追加します。追跡が開始されると、MYLIB/MYPGMが呼び出されるまで呼び出し/戻り追跡レコードは収集されません。MYLIB/MYPGMが呼び出されると、追跡が終了するまで追跡は呼び出し/戻り追跡レコードを収集します。

例5:定義された構成要素を使用してジョブ追跡を開始する

```
STRTRC  JOB(123456/MYUSER/MYJOB) SSNID(MYTRACE)
```

```
TRCTYPE(*ENVVAR *VERBOSE)
```

このコマンドは、ジョブ名MYJOB、ジョブ・ユーザー名MYUSER、およびジョブ番号123456のジョブで、新規追跡を開始します。このジョブだけが追跡されます。追跡セッションIDはMYTRACEです。追跡は、呼び出し/戻り追跡情報と、VERBOSEレベルでのENVVAR構成要素の情報を収集します。

例6:スレッド選択を使用してジョブ追跡を開始する

```
STRTRC JOB((123456/MYUSER/MYJOB (11111111 22222222)))  
      SSNID(MYTRACE)
```

このコマンドは、ジョブ名MYJOB、ジョブ・ユーザー名MYUSER、およびジョブ番号123456のジョブで、新規追跡を開始します。スレッド11111111および22222222だけが追跡されます。追跡セッションIDはMYTRACEです。

例7:追跡の終了に対するメッセージ用の追跡および監視を開始する

```
STRTRC SSNID(*GEN) WCHMSG((MCH2804))  
      WCHMSGQ((*SYSOPR) (*JOBLOG))  
      WCHJOB((*ALL/MYUSER/MYJOBNAME))  
      TRCPGM(MYLIB/TRCEXTPGM)
```

このコマンドは、STRTRCコマンドと呼ばれるジョブで追跡を開始します。MCH2804メッセージがシステム・オペレーター・メッセージ待ち行列上または*ALL/MYUSER/MYJOBNAMEジョブ・ログ内部で見つかり、追跡は終了します。また、MYLIB/TRCEXTPGMが追跡出口プログラムとして指定されます。

例8:追跡の終了に対するLICログ項目用の追跡および監視を開始する

```
STRTRC SSNID(*GEN) WCHLICLOG(('99??' 9932 MYJOBNAME))  
      WCHTIMO(*NOMAX)
```

このコマンドは、STRTRCコマンドと呼ばれるジョブで追跡を開始します。99で始まっているメジャー・コードおよびマイナー・コード9932をもつライセンス内部コード(LIC)ログ項目がシステム上に生成されると、追跡は終了します。また、LICログ情報にはテキスト「MYJOBNAME」が入っている必要があります。WCHTIMOパラメーター上の*NOMAXは、イベントが起こるまで、またはENDTRCコマンドを手動で出すまで、追跡が活動状態になることを示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： STRTRC

*ESCAPE メッセージ

CPC3921

STRTRCセッションID &1は正常に開始されました。

CPC3922

STRTRCセッションID &1は開始されたが、ジョブが見つからない。

CPF0006

コマンドでエラーが起こった。

CPF39C7

STRTRCセッションID &1はすでに存在している。

CPF39C9

予期しないSTRTRC障害。下位メッセージを参照してください。

CPF39C5

ジョブ名*ALLとユーザー*ALLは使用できません。

CPF39C6

総称ジョブ・ユーザーでの追跡は許可されていません。

CPF39CC

活動状態のジョブが見つからないので、STRTRCセッションは開始されない。

CPI36CE

ジョブ&3/&2/&1が見つからない。

CPF39F2

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF98A2

&1コマンドは認可されていない。

CPF39D3

追跡を開始／終了できません。

[トップ](#)

トラップ管理機能の開始 (STRTRPMGR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

トラップ管理機能開始(STRTRPMGR)コマンドを使用して、OS/400 SNMPトラップ管理機能を開始してください。オプションのトラップ転送パラメーターが指定され、これによってシステムで受け取られたトラップは、SIMPLE NETWORK MANAGEMENT PROTOCOL(SNMP)エージェントおよび分散プロトコル・インターフェース(DPI)インターフェースに構成されたその他のネットワーク管理端末に転送することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FWDTRP	トラップの転送	*YES, * <u>NO</u>	オプション、位置 1

トップ

トラップの転送(FWDTRP)

システムで受け取られたトラップをその他のネットワーク管理端末に転送するかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***NO** 受信したトラップは転送されません。トラップはエンキューされるだけです。

***YES** 受信したトラップは、SNMPエージェントおよびDPIインターフェースに提供されている機能を使用して転送されます。

トップ

STRTRPMGRの例

例1:トラップ管理機能ジョブを開始 (トラップのみエンキュー)

STRTRPMGR

このコマンドは、トラップ管理機能ジョブを開始します。トラップ管理機能が受け取ったトラップは、エンキューされるだけです。

例2:トラップ管理機能ジョブを開始 (トラップをエンキューして転送)

STRTRPMGR FWDTRP(*YES)

このコマンドは、トラップ管理機能ジョブを開始します。トラップ管理機能が受け取ったトラップは、エンキューされ、転送されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： STRTRPMGR

*ESCAPE メッセージ

CPFA80D

トラップ管理プログラム・ジョブがすでに活動状態である。

CPFA802

トラップ管理プログラムが開始されなかった。

[トップ](#)

バッチ・ジョブ転送 (TFRBCHJOB)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (*BATCH)
- バッチ・プログラム (*BPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (*BREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (*EXEC) の使用

パラメーター

例

エラー・メッセージ

スレッド・セーフ: いいえ

バッチ・ジョブ転送 (TFRBCHJOB)コマンドは、指定されたジョブ待ち行列にバッチ・ジョブを転送します。バッチ・ジョブ転送時点では、ジョブ待ち行列が活動サブシステムに割り振られている必要はありません。転送されるバッチ・ジョブは、このコマンドが出されるジョブです。バッチ・ジョブを転送する時には、そのバッチ・ジョブに経路指定データおよび要求データを指定することができます。指定された経路指定データは、ジョブ待ち行列が活動状態であるサブシステムで処理されます。この要求データは、このジョブの他の要求データの後に置かれます。転送されたバッチ・ジョブは、転送の後に要求データの処理を再開します。

注:

1. このコマンドを実行すると、スプール・インライン・ファイルが失われます。スプール・インライン・ファイルは、新しい経路指定ステップではアクセスできません。
2. システム/36環境で作業をしている場合に、TFRBCHJOBコマンドはシステム/36環境を新しい経路指定ステップには転送しません。
3. 前の経路指定ステップに割り振られたオブジェクトが、新しい経路指定ステップでも必要な場合は、これらを再び割り振らなければなりません。前の経路指定ステップでオープンされたファイルが、新しい経路指定ステップでも必要な場合は、これらを再びオープンしなければなりません。
4. CLプログラム内でTFRBCHJOBコマンドが出されると、CLプログラム内の後続のすべてのコマンドがう回されます。
5. TFRBCHJOBコマンドによってジョブ待ち行列に転送されたバッチ・ジョブは、システムが電源遮断された時にそのジョブ待ち行列に存在していれば、初期プログラム・ロード(IPL)の始めから終わりまで存在しています。バッチ・ジョブの一時オブジェクトは、電源遮断時に破棄されます。
6. TFRBCHJOBコマンドによって転送されたバッチ・ジョブのQTEMPライブラリーは、次の経路指定ステップが開始されると常に空になります。TFRBCHJOBコマンドによってジョブ待ち行列に転送されたバッチ・ジョブと一緒にライブラリー・リストを使用する際は注意してください。IPLが実行されると、TFRBCHJOB機能はライブラリー・リストを保管して、ジョブをジョブ待ち行列に回復します。転送されたバッチ・ジョブの経路指定ステップが開始された時は、保管されたライブラリー・リスト内のライブラリーがシステムに存在していなければなりません。そうでないと、ジョブの経路指定ステップは終了します。

制約事項:

1. このコマンドを使用するためには、以下の権限が必要です。
 - ジョブ待ち行列に対する使用(*USE)権限、およびそのジョブ待ち行列を含むライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
2. 転送するジョブは、ジョブ待ち行列から開始されたバッチ・ジョブでなければなりません。

3. TFRBCHJOBコマンドは、バッチ通信ジョブ（プログラム開始要求の結果として開始されたバッチ・ジョブ）またはバッチ即時ジョブでは実行できません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOBQ	ジョブ待ち行列	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
RTGDTA	経路指定データ	文字値, QCMDB, *RQSDTA	オプション
RQSDTA	要求データまたはコマンド	文字値, *NONE, *RTGDTA	オプション

トップ

ジョブ待ち行列 (JOBQ)

ジョブの転送先であるジョブ待ち行列の修飾名を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジョブ待ち行列

名前 ジョブ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 そのジョブ待ち行列があるライブラリーを指定してください。

トップ

経路指定データ (RTGDTA)

ジョブの次の経路指定ステップを開始するために使用される経路指定データを指定します。この経路指定データは、ジョブが実行するプログラムを識別する経路指定項目を決めるために使用されます。

QCMDB

この経路指定データは、IBM提供のサブシステム記述にある経路指定項目と一致しており、IBM提供の制御言語処理プログラムQCMDによって処理される経路指定ステップを開始します。

*RQSDTA

このコマンドのRQSDTAパラメーターで指定された要求データの最初の80文字は、経路指定ステップの経路指定データとして使用されます。

文字値 経路指定ステップを開始するための経路指定データとして使用される文字ストリングを指定してください。最大80文字まで入力することができます（必要な場合には、アポストロフィで囲んでください）。

[トップ](#)

要求データまたはコマンド (RQSDTA)

このジョブのメッセージ待ち行列に最後の項目として入れられる要求データを指定します。この要求データは実行するCLコマンドまたは別のプログラムによって使用される文字ストリングとすることができます。

*NONE

このジョブのメッセージ待ち行列には要求データは入りません。

*RTGDTA

経路指定データ (RTGDTA)パラメーターに指定された経路指定データは、ジョブのメッセージ待ち行列の終わりに入ります。

文字値 新しい経路指定ステップ、またはジョブの中の一部の後続の経路指定ステップで使用するために、ジョブのメッセージ待ち行列の終わりに入れておく文字ストリングを指定してください。最大256文字まで入力することができます（必要な場合には、アポストロフィで囲んでください）。

[トップ](#)

TFRBCHJOBの例

```
TFRBCHJOB JOBQ(QGPL/APPLICQ) RTGDTA(APPLICS)
```

このコマンドは、このコマンドが入っているバッチ・ジョブを、QGPLライブラリーにあるAPPLICQジョブ待ち行列に転送します。このジョブは、経路指定データAPPLICSを使用して経路指定されます。このジョブはバッチ・ジョブでなければなりません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： TFRBCHJOB

*ESCAPE メッセージ

CPF1288

ライブラリー&2のジョブ待ち行列&1に損傷がある。

CPF1289

ジョブの転送はできない。

CPF1291

ジョブ&3/&2/&1を転送することができない。

CPF1368

&1には、ライブラリー&3のジョブ待ち行列&2が認可されていない。

CPF1369

ジョブ待ち行列&1が&2に見つからなかった。

CPF1370

&2のジョブ待ち行列&1をアクセスすることができない。

CPF1372

ジョブは転送されなかった。ジョブは現在終了中です。

CPF1375

ジョブは転送されなかった。単一の活動ジョブを転送することはできません。

CPF1376

ライブラリー検索リストのライブラリーが削除された。

CPF1377

ライブラリー検索リストのライブラリーに損傷がある。

[トップ](#)

制御権転送 (TFRCTL)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

制御権転送(TFRCTL)コマンドは、指定されたプログラムを呼び出し、それに制御権を渡して、制御権を転送してきたプログラムを戻りスタックから除去します。制御権を転送してきたプログラムが呼び出しスタックから除去されるので、呼び出されたプログラムが制御権を戻した時にも、制御権はこのプログラムに戻されません。かわりに、制御権は、制御権を転送してきたプログラムの最後の呼び出しの後に続くコマンドに移されます。

制約事項:

- このコマンドは、オリジナル・プログラム・モデル(OPM) CLプログラムの中でのみ有効です。
- 呼び出し先のプログラムに対しては操作(*OBJOPR)および実行(*EXECUTE)権限が、またそのプログラムが入っているライブラリーに対しては*EXECUTE権限が必要です。
- TFRCTLコマンドはスレッド・セーフです。このことは、TFRCTLコマンドが複数のスレッドを含むジョブで実行される時にこれを使用してプログラムを呼び出せることを意味します。呼び出し先のプログラムがスレッド・セーフであるかどうかの検査は行われません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
PARM	パラメーターCL変数名	値 (最大 255 回の繰り返し): CL 変数名	オプション, 定位置 2

トップ

プログラム (PGM)

制御権を転送するプログラムから制御権を受け取るプログラムを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: プログラム

名前 プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

プログラムを見つけるために、スレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

パラメーターCL変数名 (PARM)

制御権を受け取るプログラムに渡される1つ以上のCL変数を指定します。渡すことができる変数は、現在制御権を転送してきているプログラムに渡されたパラメーターだけです。

CL変数名

渡すCL変数の名前を指定してください。最大255個の変数を指定することができます。

[トップ](#)

TFRCTLの例

```
TFRCTL PGM(PROGA) PARM(&PARM1)
```

このコマンドは、プログラムPROGAに制御権を移し、パラメーター&PARM1をこのプログラムに渡します。パラメーター&PARM1は、このコマンドを出したプログラムに前に渡されていなければなりません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： TFRCTL

***ESCAPEメッセージ**

CPF0805

&2のプログラム&1を開始した時にエラーが見つかった。

CPF0809

Cプログラムへ制御権を転送(TFRCTL)することはできない。

[トップ](#)

グループ・ジョブへの移行 (TFRGRPJOB)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

グループ・ジョブへの移行 (TFRGRPJOB)コマンドは、TFRGRPJOBコマンドを出したジョブを中断し、**グループ・ジョブ (GRPJOB)**パラメーターによって指定されたグループ・ジョブを再開（すでに存在する場合）または作成（存在しない場合）します。いずれの場合にも、制御権はGRPJOBパラメーターによって指定されたジョブに渡されます。TFRGRPJOBコマンドを出したジョブは、制御権が戻されて再開されるまで、中断状態のままです。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
GRPJOB	グループ・ジョブ	名前, *PRV, *SELECT	オプション、位置 1
INLGRPPGM	初期グループ・プログラム	修飾オブジェクト名	オプション、位置 2
	修飾子 1: 初期グループ・プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SPCENV	特殊環境	*DFT, *INLGRPPGM, *S36, *NONE	オプション
RSTDSP	画面復元	*NO, *YES	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション

トップ

グループ・ジョブ (GRPJOB)

制御の移行先のグループ・ジョブを指定します。

***PRV** 制御権は、前に活動状態であったグループ内のジョブに転送されます。前に活動状態であったジョブがすでに存在していない場合には、グループ内で直前に活動していたジョブが再開されます。この特殊値は、グループ内に別のグループ・ジョブがある場合にだけ有効です。

*SELECT

グループ・ジョブ選択表示画面が表示されます。いずれかのグループに移るか、または新しいグループ・ジョブを作成してそれに移るかを選択することができます。

名前 制御権の移行先のグループ・ジョブの名前を指定してください。

トップ

初期グループ・プログラム (INLGRPPGM)

ジョブの最初のグループ・プログラムの修飾名を指定します。このパラメーターは、グループ・ジョブが作成された場合にだけ意味を持ちます。転送先のグループ・ジョブがすでに存在している場合には、このパラメーターは無視されます。

修飾子1: 初期グループ・プログラム

名前 ジョブの最初のグループ・プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 プログラムを見つけるライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

特殊環境 (SPCENV)

グループ・ジョブを開始する環境を指定します。このパラメーターは、このコマンドがグループ・ジョブを作成する場合にだけ有効です。制御権が既存のグループに転送されている場合には、このパラメーターは無視されます。

***DFT:** グループ・ジョブは、このコマンドが実行される環境で開始されます。次の1つが起きている場合には、グループ・ジョブはシステム/36環境で開始されます。

- このコマンドを実行中のジョブでシステム/36環境が活動状態にある。
- ユーザー・プロファイルが、ユーザーがシステム/36環境で実行しており、グループ・ジョブの中で最初に呼び出されるプログラムはQCMDであることを指定している。

*INLGRPPGM

新しいグループは、グループ・ジョブの中で最初に呼び出されたグループによって判別された環境で開始されます。最初のグループ・プログラムがQCMDである場合には、ユーザー・プロファイル中の特殊環境値を使用して、環境が決定されます。

***S36** 新しいグループはシステム/36環境で開始されます。

*NONE

新しいグループは、いずれの特殊環境でも開始されません。

[トップ](#)

画面復元 (RSTDSP)

この表示装置ファイルによって表示装置に表示されたデータは、別の表示装置ファイルが別のデータを同じ表示装置上に表示するために使用できるように、ファイルを使用停止した（一時的に非活動状態にした）ときに保管するかどうかを指定します。

***NO** このファイルによって表示されるデータは、このファイルが使用停止される時に保管されません。

***YES** ファイルの使用停止時に表示されていたデータは、ファイルが再び使用された時に装置の画面に復元できるように、保管されます。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

グループ・ジョブについて説明するテキストを指定します。このパラメーターは、グループ・ジョブが作成された場合にだけ意味を持ちます。転送先のグループ・ジョブがすでに存在している場合には、このパラメーターは無視されます。

***BLANK**

テキストはすべてブランクです。

文字値 最大50文字のテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

TFRGRPJOBの例

```
TFRGRPJOB GRPJOB(GROUPJ1) INLGRPPGM(QGPL/PROGRAM1)
```

このコマンドは、現行ジョブの実行を中断します。グループ・ジョブGROUPJ1がすでに存在している場合は、中断された点(TFRGRPJOB要求の後に続く高水準言語コマンド) から再開されます。

グループ・ジョブGROUPJ1が存在しない場合は、グループ・ジョブGROUPJ1が作成され、ライブラリーQGPL内のプログラムPROGRAM1を実行します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： TFRGRPJOB

***ESCAPE** メッセージ

CPF1E15

操作援助機能の呼び出し中に問題が起こった。

CPF1310

グループ・ジョブへの移行要求が理由コード&1で正常に行なわれなかった。

CPF1313

パラメーター&2の値&1は、使用できない名前である。

CPF1314

パラメーター&2の値&1を使用することはできない。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

ジョブ転送 (TFRJOB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ転送 (TFRJOB) コマンドは、指定されたジョブ待ち行列にジョブを転送します。転送されるジョブは、このコマンドが出されたジョブです。転送されるジョブが対話式ジョブである場合には、ジョブ待ち行列における最高の優先順位が与えられます。ジョブの転送時に、新しい経路指定データおよび要求データを、そのジョブに指定することができます。

前の経路指定ステップに割り振られたオブジェクトが、新しい経路指定ステップでも必要な場合は、これらを再び割り振らなければなりません。前の経路指定ステップでオープンされたファイルが、新しい経路指定ステップでも必要な場合は、これらを再びオープンしなければなりません。

注:

1. このコマンドをバッチ・ジョブで実行すると、スプール・インライン・ファイルが失われます。スプール・インライン・ファイルは、新しい経路指定ステップではアクセスできません。
2. 対話式転送ジョブがジョブ待ち行列に入っている時に(サブシステム終了 (ENDSBS) コマンド、システム終了 (ENDSYS) コマンド、またはシステム電源遮断 (PWRDWNSYS) コマンドの実行によって) ターゲット・サブシステムが終了されると、このジョブはサブシステム終了の一部として取り消されます。
3. PWRDWNSYS コマンドは、サブシステムによる新しいジョブや経路指定ステップの開始を禁止するので、(TFRJOB コマンドによって) ジョブ待ち行列に転送されたバッチ・ジョブは、システムが電源遮断されないうちは完了しません。
4. 転送ジョブと関連した一時オブジェクト (ライブラリー・リスト、QTEMP ライブラリー、およびそれに含まれるすべてのオブジェクトなど) は、PWRDWNSYS コマンドの実行時に破棄されます。その結果、再び初期プログラム・ロード (IPL) が実行された時に、システムはこのジョブを元の状態に復元できません。再IPL時に、システムはこのジョブをジョブ待ち行列から除去して、そのジョブ・ログを作成します。
5. CL プログラム内で TFRJOB コマンドが出されると、CL プログラム内の後続のすべてのコマンドがう回されます。

制約事項:

1. このコマンドを使用するためには、以下の権限が必要です。
 - ジョブ待ち行列に対する使用 (*USE) 権限、およびそのジョブ待ち行列を含むライブラリーに対する実行 (*EXECUTE) 権限。
 - ジョブ待ち行列が割り振られているサブシステムと関連したサブシステム記述に対する使用 (*USE) 権限、およびそのサブシステム記述を含むライブラリーに対する実行 (*EXECUTE) 権限。転送するジョブがバッチ・ジョブで、ジョブ待ち行列がサブシステム記述に割り振られていなければ、この制約事項は適用されません。
2. 転送するジョブが対話式ジョブの場合は、以下の制約事項が適用されます。
 - ジョブが入っているジョブ待ち行列は、活動サブシステムと関連付けられていなければなりません。
 - ジョブと関連したワークステーションは、新しいサブシステムと関連したサブシステム記述の中に対応するワークステーション項目がなければなりません。

- ジョブと関連したワークステーションには、SYS REQ（システム要求）キーによって中断された別のジョブが関連付けられてはなりません。中断されたジョブを取り消さないと、ジョブ転送コマンドは実行できません。
 - ジョブはグループ・ジョブであってはなりません。
3. ジョブは、次のいずれかの基準を満たさない限り、（プログラム開始要求の結果として開始される）通信バッチ・ジョブであってはなりません。
- APPC通信装置から開始された。
 - 通信装置のセッションが終了した。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOBQ	ジョブ待ち行列	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
RTGDTA	経路指定データ	文字値, QCMDI, *RQSDTA	オプション
RQSDTA	要求データまたはコマンド	文字値, *NONE, *RTGDTA	オプション

トップ

ジョブ待ち行列 (JOBQ)

ジョブの転送先であるジョブ待ち行列の修飾名を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジョブ待ち行列

名前 ジョブ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 そのジョブ待ち行列があるライブラリーを指定してください。

トップ

経路指定データ (RTGDTA)

ジョブの次の経路指定ステップを開始するために使用される経路指定データを指定します。この経路指定データは、ジョブが実行するプログラムを識別する経路指定項目を決めるために使用されます。

QCMDI

この経路指定データはIBM提供のサブシステム記述の中の経路指定項目に相当するものであり、QSYSライブラリー中のIBM提供の制御言語処理プログラムQCMDによって処理される経路指定ステップを開始するためのものです。

***RQSDTA**

このコマンドの**要求データ**または**コマンド (RQSDTA)**パラメーターに指定された要求データの最初の80文字は、経路指定ステップの経路指定データとしても使用されます。

文字値 経路指定ステップを開始するための経路指定データとして使用される文字ストリングを指定してください。最大80文字まで入力することができます（必要な場合には、アポストロフィで囲んでください）。

トップ

要求データまたはコマンド (RQSDTA)

このジョブのメッセージ待ち行列に最後の項目として入れられる要求データを指定します。この要求データは実行するCLコマンドまたは別のプログラムによって使用される文字ストリングとすることができます。

*NONE

このジョブのメッセージ待ち行列には要求データは入りません。

***RTGDTA**

経路指定データ (RTGDTA)パラメーターに指定された経路指定データは、ジョブのメッセージ待ち行列の終わりにも入ります。

文字値 新しい経路指定ステップ、またはジョブの中の一部の後続の経路指定ステップで使用するために、ジョブのメッセージ待ち行列の終わりに入れておく文字ストリングを指定してください。最大256文字まで入力することができます（必要な場合には、アポストロフィで囲んでください）。

トップ

TFRJOBの例

```
TFRJOB JOBQ(QGPL/APPLICQ) RTGDTA(APPLICS)
```

このコマンドは、このコマンドが入っているジョブを、QGPLライブラリー内のAPPLICQジョブ待ち行列に転送します。このジョブは、経路指定データAPPLICSを使用して経路指定されます。このジョブが対話式ジョブの場合は、活動サブシステムによってジョブ待ち行列を割り振る必要があります。

トップ

エラー・メッセージ： TFRJOB

*ESCAPE メッセージ

CPF1289

ジョブの転送はできない。

CPF1315

この環境では、コマンド&1を使用することはできない。

CPF1357

ジョブは転送されなかった。

CPF1364

ジョブは転送されなかった。ライブラリー&2のジョブ待ち行列&1が活動状態ではありません。

CPF1365

ジョブは転送されなかった。サブシステム&1は終了中です。

CPF1366

&2のサブシステム&1に使用可能なワークステーション項目がない。

CPF1367

ユーザー&1には、サブシステム&2が認可されていない。

CPF1368

&1には、ライブラリー&3のジョブ待ち行列&2が認可されていない。

CPF1369

ジョブ待ち行列&1が&2に見つからなかった。

CPF1370

&2のジョブ待ち行列&1をアクセスすることができない。

CPF1372

ジョブは転送されなかった。ジョブは現在終了中です。

CPF1373

ジョブは転送されなかった。このジョブに対してシステム要求が有効になっています。

CPF1375

ジョブは転送されなかった。単一の活動ジョブを転送することはできません。

[トップ](#)

パススルーの転送 (TFRPASTHR)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パススルー転送(TFRPASTHR)コマンドによって、パススルー・システムからソース・システムに移行することができます。これは、システム要求(SYS REQ)のオプション10, 11, 13,または14と同じ機能を実行し、ターゲットのパススルー・システムにかぎり有効です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TOJOB	TOジョブ	*SRC , *ALT, *HOME, *HOMEALT	オプション的, 定位置 1

[トップ](#)

TOジョブ (TOJOB)

ホーム・システムまたは前のシステムに移行した時に制御権を与えるプログラムを指定します。

考えられる値は次の通りです。

- *SRC** 現行システムのジョブが保留されて、制御権は、前のシステムのパススルー開始(STRPASTHR)コマンドのシステム要求プログラムプロンプト (SRQ10PGMパラメーター) に指定されたプログラムに戻されます。指定されたプログラムが終了すると、ターゲット・システムに制御権が与えられます。
- *ALT** ターゲット・システムのジョブが保留されて、制御権は、前のシステムの代替ジョブに戻されます。制御権が移ると、ジョブ転送(TFRJOB)コマンドを使用して、代替ジョブから元のジョブに移行することができ、ターゲット・システムに制御権が与えられます。そうでない場合には、代替ジョブが終了すると、ターゲット・システムが制御権を獲得します。
- *HOME** ターゲット・システムのジョブが保留されて、制御権は、ホーム・システムのパススルー開始(STRPASTHR)コマンドのシステム要求プログラムプロンプト (SRQ10PGMパラメーター) に指定されたプログラムに戻されます。指定されたプログラムが終了すると、ターゲット・システムに制御権が与えられます。
- *HOMEALT** ターゲット・システムのジョブが保留されて、制御権は、ホーム・システムの代替ジョブに戻されます。制御権が移ると、ジョブ転送(TFRJOB)コマンドを使用して、代替ジョブから元のジョブに移行することができ、ターゲット・システムに制御権が与えられます。そうでない場合には、代替ジョブが終了すると、ターゲット・システムが制御権を獲得します。

[トップ](#)

TFRPASTHRの例

TFRPASTHR TOJOB(*HOME)

このコマンドは、ホーム・システム上のソース・ジョブに制御を戻すよう転送します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： TFRPASTHR

なし

[トップ](#)

2 次ジョブへの移行 (TFRSECJOB)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

2 次ジョブへの移行 (TFRSECJOB) コマンドは、ワークステーションで 2 次対話式ジョブを作成して、1 次ジョブと 2 次ジョブとの間で制御を転送するものです。最初にこのコマンドを出す場合には、2 次ジョブに関するサインオン・プロンプトを受け取ります。サインオンを済ませると、2 次ジョブが作成されて新しいジョブの基本作業画面を使用することができます。2 次ジョブのままになっている限りは、1 次ジョブは延期されたままになっています。次に TFRSECJOB コマンドを出すと現行ジョブが延期され、最初のジョブの元の位置に戻ります。いずれかのジョブでサインオフを行なった場合には、自動的に別のジョブに戻ります。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

TFRSECJOB の例

TFRSECJOB

このコマンドにより、現在実行中のジョブが中断されます。2 次ジョブが存在しない場合は、SIGNON プロンプトが表示されます。そうでない場合は、2 次ジョブが実行を再開します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: TFRSECJOB

***ESCAPE** メッセージ

CPF1380

2 次対話式ジョブへの移行が正しくない。

CPF1381

2 次対話式ジョブへの移行が正しくない。

CPF1383

2 次対話式ジョブへの移行が正しくない。

CPF1384

2 次対話式ジョブへの移行は正しくない。

[トップ](#)

TCP/IP経路の追跡 (TRACEROUTE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IP経路追跡(TRCTCPRTE)コマンド(TRACEROUTEとしても示される)は、ユーザー指定の宛先システムまでのIPパケットの経路を追跡します。この経路には、その途中で多数のシステムが関与していることがあります。その経路に沿っている各システムは**ホップ**として参照されます。経路に沿ったすべてのホップを追跡することも、あるいは追跡する開始と終了のホップを指定することもできます。

この経路は、宛先システムにパケット(**プローブ**と呼ばれる)を送信することによって追跡されます。各プローブには、そのプローブがパスできるホップ・システム数についての上限(**TIME TO LIVE**または**TTL**と呼ばれる)が含まれています。

注: IPバージョン6で、**存続時間(TTL)**は**ホップ限界**と呼ばれます。

経路は、プローブ・パケットのTTLを1ホップずつ連続増分することによって追跡されます。プローブ応答を宛先システムから受信した時、あるいはプローブの「存続時間」値が許される最大と等しい時、のいずれかで追跡が終了します。

プローブ・パケットからの応答は、ジョブ・ログへのメッセージとして、あるいはユーザー指定のデータ待ち行列への待ち行列項目として送信されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RMTSYS	リモート・システム	文字値	必須, 定位置 1
RANGE	プローブするホップの範囲	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始プローブ TTL (ホップ限界)	1-255, <u>1</u>	
	要素 2: 最大プローブ TTL (ホップ限界)	1-255, <u>30</u>	
PROBES	ホップ単位の送信プローブ数	1-64, <u>3</u>	オプション
WAITTIME	応答待ち時間	1-120, <u>3</u>	オプション
PKTLEN	パケットの長さ (バイト数)	40-65535, <u>40</u>	オプション
OUTPUT	出力	<u>*MSG</u> , *VERBOSE, *DTAQ	オプション
DTAQ	データ待ち行列名	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: データ待ち行列名	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB, <u>*LIBL</u>	
ADRVERFMT	アドレス・バージョン形式	<u>*CALC</u> , *IP4, *IP6	オプション
LCLINTNETA	ソースIPアドレス	文字値, <u>*ANY</u>	オプション
RMTPORT	基本・リモート・ポート	1-65535, <u>33434</u>	オプション
NAMELOOKUP	検索ホスト名	<u>*YES</u> , *NO	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
PROBEPCL	プローブ・プロトコル	*ICMP, *UDP	オプション
FRAGMENT	フラグメント化の許可	*TCPA, *NO, *YES	オプション

トップ

リモート・システム (RMTSYS)

宛先システムのリモート・システム名(255文字)またはIPアドレスを指定します。

文字値 リモート・システム名またはIPアドレスを指定してください。有効なIPバージョン4またはIPバージョン6アドレスのいずれかが受け入れられます。

トップ

プローブするホップの範囲 (RANGE)

プローブ応答が予測される元の、ホップ・システムの範囲を指定します。各プローブはTTL (TIME TO LIVE)整数値を指定します。このTTL値は、そのプローブが通過できるホップの最大数です。たとえば、TTLが3のプローブ・パケットは多くても3つのホップ・システムをパススルーすることができ、その後で、ホップ・システムはそのプローブを破棄して、プローブの発信元のシステムに情報を戻します。

要素1は、プローブ・パケットで最初に送信されるTTL値を指定します。要素2は、プローブ・パケットで最後に送信されるTTL値を指定します。追跡情報は、プローブのTTL値に達したためにプローブ・パケットを破棄する各ホップ・システムから、あるいは宛先システムに達した時に生成されます。

要素1: 開始プローブ TTL (ホップ限界)

1 省略時の開始ホップは1です。

1-255 プローブ・パケットに使用される最初のホップ限界TTL番号を指定します。

要素2: 最大プローブ TTL (ホップ限界)

30 省略時の終了ホップは30です。

1-255 宛先システムに到達するためにそのプローブが通過できるホップの最大数を指定します。

トップ

ホップ単位の送信プローブ数 (PROBES)

RANGEパラメーターによって指定された範囲内の各プローブTTL (ホップ限界) 値で、各ホップ・システムに送信されるプローブ・パケット数を指定します。

3 省略時のプローブ数は3です。

1-64 送信するプローブ数を指定します。

トップ

応答待ち時間 (WAITTIME)

各プローブに対するホップ・システムからの応答を待機する最大時間（秒数）を指定します。

3 応答を最大3秒まで待機します。

1-120 応答を待機する最大秒数を指定します。

[トップ](#)

パケットの長さ (バイト数) (PKTLEN)

各プローブで送信されるIPパケットの全長（バイト数）を指定します。

40 プローブ・パケット長は40バイトです。

40-65535

プローブIPパケットのバイト数を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

プローブ・パケットの送信から得た結果を送信する先を指定します。宛先システムに到達するまで各ホップについての情報が送信され、これにはホップ・カウント、平均往復時間、ホップのIPアドレス、およびホップのホスト名が含まれています。

***MSG** 結果は、そのコマンドを出したジョブのジョブ・ログに送信されるメッセージとして出力されません。

***VERBOSE**

結果は、そのコマンドを出したジョブのジョブ・ログに送信されるメッセージとして出力されません。受信したすべての応答が表示されます。結果はICMP TIME_EXCEEDEDおよびPORT_UNREACHABLE応答に限定されません。

***DTAQ**

プローブからの結果は、データ待ち行列(DTAQ)パラメーターで指定したデータ待ち行列に入れます。

[トップ](#)

データ待ち行列名 (DTAQ)

項目を入れるデータ待ち行列を指定します。データ待ち行列が指定された場合には、メッセージはエラーが起るまでジョブ・ログに送信されません。

応答を受信した場合には、各待ち行列項目にプローブへの応答が入れられ、そうでなければ、プローブ応答を受信しなかったことを指示します。指定するデータ待ち行列は少なくとも32文字の待ち行列項目長であり、このコマンドを出す前に存在していなければなりません。

修飾子1: データ待ち行列名

名前 データ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

アドレス・バージョン形式 (ADRVERFMT)

リモート・システム (RMTSYS)パラメーターに指定したホスト名の解決方法を指定します。

***CALC**

ホスト名の分析解決方法は、RMTSYSパラメーターに入力されたホスト名に基づいて「計算」(決定)されます。TRCTCPRTE (TRACEROUTE)は、IPアドレスの決定に際してまずIPバージョン4のホスト名分析解決を使用します。これが正常に行われないと、IPアドレスの決定でIPバージョン6のホスト名分析解決が使用されます。

***IP4** IPバージョン4ホスト名解決方法を使用します。

***IP6** IPバージョン6ホスト名解決方法を使用します。

[トップ](#)

ソースIPアドレス (LCLINTNETA)

プローブ・パケットの送信元IPアドレスの選択方法を指定します。

***ANY** プローブ・パケットの送信元IPアドレスはシステムによって選択されます。システムは、リモート・システムに到着できる任意の活動ローカル・インターフェースを使用することができます。

文字値 ソースIPアドレスとして使用するローカル・インターフェースを指定します。

[トップ](#)

基本・リモート・ポート (RMTPORT)

プローブで使用される基本UDPポート番号を指定します。

33434 省略時の基本UDPポート番号33434を使用します。

1-65535

プローブで使用される基本UDPポート番号を指定します。

[トップ](#)

検索ホスト名 (NAMELOOKUP)

IPアドレスをホスト名に解決するかどうかを指定します。

***YES** このアドレスはホスト名に解決されます。

312 iSeries: OS/400 コマンド STRDBMON (データベース・モニター開始) ~

***NO** このアドレスはホスト名に解決されません。

トップ

プローブ・プロトコル (PROBEPCL)

プローブ・パケットの送信時に使用されるプロトコルを指定します。

***ICMP** 宛先システムに送信されるプローブは、ICMP (インターネット制御メッセージ・プロトコル) エコー要求パケットです。

***UDP** 宛先システムに送信されるプローブは、UDP (ユーザー・データグラム・プロトコル) パケットです。

トップ

フラグメント化の許可 (FRAGMENT)

プローブ・パケットのIPヘッダーの「フラグメントしない」オプションの設定を判別する方法を指定します。

***TCPA**

システムは、IPパスMTUディスカバリーTCP/IP属性の設定に基づいてオプションを設定します。

注: この属性の値を変更するためには、TCP/IP属性変更(CHGTCPA)コマンドが使用されます。

***NO** この「フラグメントしない」オプションは常に指定します。

***YES** この「フラグメントしない」オプションは指定することはありません。

トップ

TRCTCPRTEの例

例1:経路全体を追跡

```
TRCTCPRTE RMTSYS('130.14.3.5')
```

このコマンドは、ローカルISERIESシステムとIPアドレスが'130.14.3.5'の宛先システムとの間の経路全体を追跡します。各ホップ・システムに3つのプローブ・パケットが送信されることになります。各IPプローブ・パケットは40バイトの長さで、ICMPエコー要求が含まれます。受信された結果は、メッセージとしてジョブ・ログに送られます。

例2:一部経路の追跡

```
TRCTCPRTE RMTSYS('AAA.BBBB.COM') RANGE(3 7)
          PROBES(5) PROBEPCL(*UDP)
          OUTPUT(*DTAQ) DTAQ(MYLIB/MYDATAQ)
```

このコマンドは、ローカルISERIESシステムとホスト名が'AAA.BBBB.COM'の宛先システムとの間の経路を追跡します。範囲の開始値3について、5つのプローブ・パケットが送信されます。各プローブは、長さ40バイトのIPパケット内のUDPパケットです。これらの5プローブはそれぞれ3のTTLを指定しています。システムAAA.BBB.COMが最大2ホップ・システムの通過によって到達できる場合にはこの点で追跡が終了することになります。

システムAAA.BBB.COMが2ホップより離れている場合には、宛先AAA.BBB.COMに対して別のセットの5プローブ・パケットが送信されます。これらの5プローブはそれぞれ4のTTLを指定します。システムAAA.BBB.COMがプローブに応答するか、あるいは範囲の終了値のTTL 7の5プローブが送信されるまで、これが反復されます。受信した結果は、ライブラリーMYLIBのデータ待ち行列MYDATAQに待ち行列項目として入れられます。

例3: IPバージョン6アドレスによる経路を追跡

```
TRCTCPRTE RMTSYS('1:2:3:4:5:6:7:8')
```

このコマンドは、ローカルISERIESシステムとIPアドレスが**1:2:3:4:5:6:7:8**の宛先システムとの間の経路全体を追跡します。各ホップ・システムに3つのプローブ・パケットが送信されることとなります。各IPプローブ・パケットは40バイトの長さで、ICMP6エコー要求が含まれます。受信された結果は、メッセージとしてジョブ・ログに送られます。

注: パラメーター値の文字コロン(:)は、IPバージョン6アドレスを通知し、これによりICMP6エコー要求パケットが生成されます。

例4: IPバージョン6ホスト名による経路を追跡

```
TRCTCPRTE RMTSYS('IP6HOST')
```

このコマンドは、ローカルISERIESシステムとホスト名が**IP6HOST**の宛先システムとの間の経路全体を追跡します。各ホップ・システムに3つのプローブ・パケットが送信されることとなります。各IPプローブ・パケットは40バイトの長さで、ICMP6エコー要求が含まれます。受信された結果は、メッセージとしてジョブ・ログに送られます。

省略時の「アドレス・バージョン形式」は*CALCです。ホスト名の解決で、指定されたホスト名に対して複数のIPアドレスが戻されることがあります。ただし、この場合(*CALC)に、経路を追跡しようとした時には、(IPバージョン4またはIPバージョン6で) 解決された最初のIPアドレスが使用されることとなります。

例5: IPバージョン6ホスト名およびIPバージョン6ホスト名解決の明示的使用による経路を追跡

```
TRCTCPRTE RMTSYS('IP6HOST') ADRVERFMT(*IP6)
```

このコマンドは、ローカルISERIESシステムとホスト名が**IP6HOST**の宛先システムとの間の経路全体を追跡します。各ホップ・システムに3つのプローブ・パケットが送信されることとなります。各IPプローブ・パケットは40バイトの長さで、ICMP6エコー要求が含まれます。受信された結果は、メッセージとしてジョブ・ログに送られます。

この例は、経路の追跡を試みる時に、有効なIPバージョン6解決アドレス**IP6HOST**だけが使用されるという点が例4とは異なっています。

トップ

エラー・メッセージ: TRCTCPRTE

*ESCAPE メッセージ

TCP3250

OUTPUT(*DTAQ)の場合にはDTAQパラメーター値が必要です。

TCP3251

DTAQパラメーターはOUTPUT(*MSG)を指定した場合は無効です。

TCP3252

範囲の開始の値が範囲の限界より大きくなっています。

[トップ](#)

ASPバランス化追跡 (TRCASPBAL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ASPバランス追跡(TRCASPBAL)コマンドは、補助記憶域プール(ASP)使用率統計を収集する機能を制御します。追跡機能は、指定されたASP内のディスク装置でデータがアクセスされる頻度をモニターします。装置上の「高」使用率データおよび「低」使用率データが識別されます。装置上のデータの使用率の追跡は、特定のASPまたは複数のASPについて開始することができます。追跡は特定の時間の間開始することができます。追跡は、**追跡オプションの設定 (SET)**パラメーターに*OFFを指定することによって停止することができます。追跡は任意の時点で終了し、後から再開することができます。収集された統計は累積されます。たとえば、追跡を開始してから終了し、その後で統計を消去しないで再開した場合には、統計の2番目のグループが最初の収集に追加されます。

統計が収集された後で、TYPE(*USAGE)またはTYPE(*HSM)を指定したASPバランス開始(STRASPBAL)コマンドを使用してASPをバランス化することができます。バランスが実行されて完了した後は、統計はバランス機能によって自動的に消去されます。

ASPのバランス化は統計が収集された後ですぐに実行しなければなりません。バランスの有用性は追跡統計が経過時間を経るほど低下します。統計が最新ものでない場合は、SETパラメーターに*CLEARを指定することによって、古い統計を消去することができます。

追跡機能がオンになった時、停止した時、あるいは追跡データが消去された時には、システム活動記録(QHST)ログにメッセージが送信されます。

ASPバランス化の詳細については、AS/400階層記憶管理(HSM) (SD88-5071)を参照してください。

制約事項:

- このコマンドを実行するためには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SET	追跡オプションの設定	*ON, *OFF, *CLEAR	オプションル
ASP	ASP番号	単一値: *ALL その他の値 (最大 32 回の繰り返し): 1-32	オプションル, 定位置 1
ASPDEV	ASP装置	単一値: *ALLAVL その他の値 (最大 32 回の繰り返し): 名前	オプションル, 定位置 2
TIMLMT	時間制限	1-9999, *NOMAX	オプションル

トップ

追跡オプションの設定 (SET)

補助記憶域プール(ASP)に対して、統計の収集を開始するか、統計の収集を終了するか、または以前に収集された使用率統計を削除するか、そのいずれかを指定します。

注: このパラメーターには常に値を指定する必要があります。

***ON** 統計の追跡が開始されます。

***OFF** 統計の追跡が終了します。

***CLEAR**

指定したASPの統計が消去されます。

[トップ](#)

ASP番号 (ASP)

ASP追跡機能が開始、終了、またはクリアされる補助記憶域プール(ASP)を指定します。

注: **ASP番号 (ASP)**パラメーターまたは**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターのいずれかに値を指定する必要があります。

単一値

***ALL** システムASP (ASP番号1)およびシステムに定義されているすべての基本ASP (ASP番号2-32)のASP追跡が開始、終了、またはクリアされます。

その他の値 (最大32反復)

1-32 ASP追跡が開始、終了、またはクリアされるASPの番号を指定してください。

[トップ](#)

ASP装置 (ASPDEV)

追跡機能が開始、終了、またはクリアされる補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。

注: **ASP番号 (ASP)**パラメーターまたは**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターのいずれかに値を指定する必要があります。

単一値

***ALLAVL**

現在「使用可能」の状態になっているすべてのASP装置のASP追跡が開始、終了、またはクリアされます。

その他の値 (最大32反復)

名前 ASPバランス化が開始される独立ASP装置の名前を指定してください。

[トップ](#)

時間制限 (TIMLMT)

ASPバランス化機能を実行できる時間（分数）を指定します。制限時間に達すると、機能が終了します。追跡機能はIPLをまたいで実行されることはありません。

注: 追跡オプションの設定 (SET)パラメーターに*ONが指定された場合は、このパラメーターに値を指定する必要があります。

1-9999

追跡機能を実行できる分数を指定してください。

[トップ](#)

TRCASPBALの例

例1: ASP 1の追跡を開始する

```
TRCASPBAL ASP(1) SET(*ON) TIMLMT(9999)
```

このコマンドにより、ユーザーは、ASP 1に対してASP追跡機能を開始することができます。この機能は、ユーザーが追跡を終了するか、追跡が9999分を経過するまで実行されます。

例2: すべてのASPの追跡を終了する

```
TRCASPBAL ASP(*ALL) SET(*OFF)
```

このコマンドにより、ユーザーは、現在追跡が実行中である各ASPに対してASP追跡機能を終了することができます。

例3: ASP 1の追跡データを消去する

```
TRCASPBAL ASP(1) SET(*CLEAR)
```

このコマンドにより、ユーザーは、ASP 1の追跡データを消去することができます。

例4: すべてのASP装置の追跡を終了する

```
TRCASPBAL ASPDEV(*ALLAVL) SET(*OFF)
```

このコマンドにより、ユーザーは、現在追跡が実行中である各ASP装置に対してASP追跡機能を終了することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: TRCASPBAL

*ESCAPE メッセージ

CPF1890

要求された操作には*ALLOBJ権限が必要である。

CPF18A9

ASP &1に対するASP追跡はすでに開始されています。

CPF18AA

ASP &1に対するASP追跡は活動状態になっていません。

CPF18AD

ASP &1には複数の装置が含まれていなければなりません。

CPF18AE

ASP &1に追跡データが含まれていません。

CPF18B1

追跡機能は現在ASP &1に対して実行中です。

CPF18B2

バランス化機能はASP &1に対して実行中です。

CPF9829

補助記憶域プール&1が見つからない。

[トップ](#)

接続の追跡 (TRCCNN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

追跡接続(TRCCNN)コマンドによって、インターネット・プロトコル(IP)およびSECURE SOCKETS LAYER (SSL)接続でフローする暗号化データを追跡できます。追跡の特定タイプは、このコマンドを使用して開始および停止されます。

TRCCNNは内部追跡(TRCINT)コマンドを使用して、追跡レコードを収集し、QPCSMPT という名前の中間スプール・ファイルを生成します。QPCSMPTスプール・ファイル・データは、QSYSPTという名前のスプール・ファイルを生成するために使用されます。QSYSPTファイルのユーザー・データは'TRCCNN'です。

また、TRCINTを直接使用して生成されたQPCSMPTスプール・ファイルをもつTRCCNNも使用できます。TRCCNNはIPおよびSSL接続関連の追跡記録を抽出および形式設定できます。これにより、追跡記録の多くのタイプを収集するためにTRCINTを使用してから、IPまたはSSL接続に関連する追跡記録のサブセットを形式設定するためにTRCCNNを使用できます。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、サービス(*SERVICE)特殊権限をもっているか、あるいはISERIESナビゲーターのアプリケーション管理サポートを介してOS/400のサービス追跡機能に許可されていなければなりません。また、QIBM_SERVICE_TRACEの機能IDをもつ機能使用法変更(CHGFCNUSG)コマンドも、追跡操作に実行できるユーザーのリストを変更するために使用できます。
- 次のユーザー・プロファイルはコマンドを使用するための私用認可を受けています。
 - QSRV
- WCHJOBパラメーターを指定した時には、コマンド発行側は、監視しているジョブのジョブ・ユーザー識別と同じユーザー・プロファイルで実行しなければなりません。また、コマンド発行側はジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限をもつユーザー・プロファイルで実行しなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注	
SET	追跡オプションの設定	*ON, *OFF, *END, *FORMAT	必須, 定位置 1	
TRCTYPE	追跡タイプ	値 (最大 2 回の繰り返し): *IP, *SSL	オプション	
TRCFULL	追跡データ満杯時の処理	*WRAP, *STOPTRC	オプション	
TRCTBL	追跡テーブル名	文字値, *GEN	オプション	
SIZE	サイズ	単一値: *MAX, *MIN その他の値: 要素リスト	オプション	
		要素 1: 単位数		1-998000, 16000
		要素 2: 計測単位		*KB, *MB
FMTDTA	形式設定するデータの追跡	72-99999, *CALC	オプション	

キーワード	記述	選択項目	注
CCSID	コード化文字セット識別コード	1-65533, *EBCDIC, *ASCII	オプション
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプション
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
SPLNBR	スプール・ファイル番号	1-999999, *ONLY, *LAST	オプション
JOBSYSNAME	ジョブ・システム名	名前, *ONLY, *CURRENT, *ANY	オプション
CRTDATE	作成されたスプール・ファイル	単一値: *ONLY, *LAST その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 作成日	日付	
	要素 2: 作成時刻	時刻, *ONLY, *LAST	
TCPDTA	TCP/IPデータ	要素リスト	オプション
	要素 1: プロトコル	*TCP, *UDP, *ICMP, *IGMP, *ARP, *ICMP6	
	要素 2: ローカル・ポート	値 (最大 2 回の繰り返し): 1-65535	
	要素 3: リモート・ポート	値 (最大 2 回の繰り返し): 1-65535	
	要素 4: ローカルIPアドレス	文字値	
	要素 5: リモートIPアドレス	文字値	
	要素 6: 回線記述	名前	
WCHMSG	メッセージの監視	単一値: *NONE その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: メッセージ識別コード	名前	
	要素 2: 比較データ	文字値, *NONE	
WCHMSGQ	監視されたメッセージ待ち行列	値 (最大 3 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: メッセージ待ち行列	単一値: *SYSOPR, *JOBLOG, *HSTLOG その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL	
WCHJOB	監視されたジョブ	単一値: * その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ジョブ名	修飾ジョブ名	
	修飾子 1: ジョブ名	総称名, 名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000001-999999, *ALL	
WCHLICLOG	LICログ項目の監視	単一値: *NONE その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: メジャー・コード	文字値, *ALL	
	要素 2: マイナー・コード	文字値, *ALL	
	要素 3: 比較データ	文字値, *NONE	
WCHTIMO	監視する時間の長さ	1-43200, 1440, *NOMAX	オプション
TRCPGM	追跡プログラム	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 追跡プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL	

キーワード	記述	選択項目	注
TRCPGMITV	時間間隔	1-9999, *NONE	オプション

トップ

追跡オプションの設定 (SET)

追跡の開始、停止、または終了を指定してください。また、TRCCNNまたはTRCINT（内部追跡）コマンドを使用して、前に収集された追跡レコード・データを形式設定するために選択できます。

これは必須パラメーターです。

- *ON** TRCTYPEパラメーターで指定された追跡タイプの内部追跡レコードの収集が開始されます。
*GENがTRCTBLパラメーターで指定されている場合には、追跡テーブル名はQTRCCNNXXXXXXとなり、ここでXXXXXXは現行ジョブのジョブ番号です。そうでない場合には、追跡テーブル名はTRCTBLパラメーターで指定された名前となります。
- *OFF** 追跡レコードの収集が停止します。QPCSMPTという名前のスプール・ファイルがTRCINTコマンドによって生成され、収集した追跡レコード・データが入ります。TRCCNNはQSYSPRTという名前の2番目のスプール・ファイルにあるこのデータを形式設定します。QSYSPRTスプール・ファイルのユーザー・データは'TRCCNN'です。追跡テーブルは、スプール・ファイルが生成されると削除されます。
- *END** 追跡レコードの収集が停止し、追跡テーブルが削除されます。スプール出力は生成されません。
- *FORMAT**
前にTRCCNNまたはTRCINTを呼び出して作成されたQPCSMPTスプール・ファイルの追跡データを形式設定します。形式設定されたデータはQSYSPRT という名前のスプール・ファイルに書き込まれます。QSYSPRTスプール・ファイルのユーザー・データは'TRCCNN'です。TRCTYPEパラメーターを使用して、形式設定する接続関連の追跡レコードを指定します。JOB, SPLNBR, JOBSYSNAME,およびCRTDATEパラメーターを使用して、使用するQPCSMPTファイルを識別します。

トップ

追跡タイプ (TRCTYPE)

SET(*ON)を指定すると、収集を開始する追跡レコードのタイプを識別します。SET(*FORMAT)を指定すると、形式設定する収集した追跡レコードのタイプを識別します。複数の追跡タイプを指定できます。

- *IP** 追跡IP（インターネット・プロトコル）データ。
- *SSL** 追跡SSL (SECURE SOCKETS LAYER)接続データ。

トップ

追跡データ満杯時の処理 (TRCFULL)

追跡テーブルがいっぱいになったときに追跡レコードを折り返す（一番古い記録を新しい記録と置き換える）かまたは追跡を停止するかを指定します。

***WRAP**

追跡テーブルが満杯になると、追跡は先頭に折り返します。新しいレコードが収集されるにつれて、最も古い追跡レコードが新しいレコードによって書き換えられます。

***STOPTRC**

追跡テーブルが追跡レコードで満杯になった時に、追跡を停止します。

トップ

追跡テーブル名 (TRCTBL)

収集された追跡データを保持する追跡テーブルを指定します。

***GEN** 追跡テーブル名はQTRCCNXXXXXXとなり、ここでXXXXXXは現行ジョブのジョブ番号です。

名前 使用する追跡テーブルの名前を指定してください。SET(*ON)が指定されていて、指定した名前が既存の追跡テーブルと一致しない場合には、指定した名前の新しい追跡テーブルが作成されます。

トップ

サイズ (SIZE)

追跡テーブルのサイズを指定してください。割り振られる記憶域の量は、キロバイト(*KB)またはメガバイト(*MB)で指定することができます。サイズがキロバイトで指定された倍には、テーブルに割り振られる記憶域の量は、最も近似したメガバイトに切り上げられます。有効なテーブル・サイズ値は、1 - 258048メガバイトです。

注: このパラメーターで指定された記憶域の量は、システム補助記憶域プール(ASP 1)から即時に割り振られます。この記憶域スペースは必要なときに動的に割り振られません。この記憶域スペースは、追跡に関連した情報を記録する場合を除いて、システムによって使用できません。このパラメーター上で大きな値を指定する前には、システムASPのフリー・スペース量を検査してください。システムASPの使用可能なフリー・スペースの量を判別するには、システム状況処理(WRKSYSSTS)コマンドを使用します。値を指定するとシステムASPにあるフリー・スペースのサイズが大きく減少する場合には、システムのパフォーマンスが低下する場合があります。

注: 追跡データがギガビット・イーサネット行を超えた場合は、追跡テーブル・サイズは128000キロバイトまたは128メガバイトより大きくなければなりません。

単一値

***MAX** 追跡テーブルは最大サイズの258048メガバイトに設定されます。

***MIN** 追跡テーブルは1メガバイトの最小サイズに設定されます。

要素1: 単位数

16000 追跡テーブル・サイズは16000キロバイトまたは16000メガバイトのいずれかとなり、これは、このパラメーターの2番目の要素に指定した値によって異なります。

1-998000

追跡テーブルのサイズをキロバイトまたはメガバイトで指定します。

要素2: 計測単位

最初の要素で指定された値を、キロバイト数としてまたはメガバイト数として扱うのかを指定します。

***KB** 追跡テーブル・サイズはキロバイトで指定されます。

***MB** 追跡テーブル・サイズはメガバイトで指定されます。

[トップ](#)

形式設定するデータの追跡 (FMTDTA)

形式設定される追跡データのバイト数を指定してください。

***CALC**

システムは形式設定されるデータのバイト数を判別します。

72-99999

形式設定されるデータのバイト数を指定します。

[トップ](#)

コード化文字セット識別コード (CCSID)

形式設定された出力に使用されるのは、拡張2進化10進コード(*EBCDIC- 37) か、情報交換用米国標準コード(*ASCII- 819)文字コードか、それ以外かを指定します。

***EBCDIC**

EBCDIC (37)文字コードが使用されます。

***ASCII**

ASCII (819)文字コードが使用されます。

1-65533

追跡データの形式設定の時に使用するコード化文字セット識別コード(CCSID)値を指定します。

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

入力QPCSMPTスプール・ファイル(SPLNBRパラメーター)を作成したジョブの名前または修飾名を指定してください。このパラメーターはSET(*FORMAT)を指定する場合にだけ有効です。

単一値

* _ このコマンドを出したジョブが、入力QPCSMPTスプール・ファイルを作成したジョブです。

修飾子1: ジョブ名

名前 入力QPCSMPTスプール・ファイルを作成したジョブの名前を指定します。

修飾子2: ユーザー

名前 入力QPCSMPTスプール・ファイルを作成したジョブが実行された、そのユーザー・プロファイルを識別するユーザー名を指定します。

修飾子3: 番号

000000-999999

入力QPCSMPTスプール・ファイルを作成したジョブのシステム割り当て番号を指定します。

[トップ](#)

スプール・ファイル番号 (SPLNBR)

スプール・ファイルを作成したジョブ(JOBパラメーター) からQPCSMPTスプール・ファイルのファイル番号を指定してください。このパラメーターはSET(*FORMAT)を指定する場合にだけ有効です。

***LAST** 指定されたジョブによって作成されたQPCSMPTという名前の一番大きい番号のスプール・ファイルが使用されます。

***ONLY**

QPCSMPTという名前のスプール・ファイル1つだけが指定したジョブによって作成されました。したがって、スプール・ファイル数は必要ありません。*ONLYを指定して、指定されたジョブの複数のスプール・ファイルをQPCSMPTという名前にすると、エラー・メッセージが出されます。

1-999999

指定したジョブによって作成されたQPCSMPTスプール・ファイルの数を指定します。

[トップ](#)

ジョブ・システム名 (JOBSYSNAME)

スプール・ファイルを作成したジョブ(JOBパラメーター) が実行されたシステムの名前を指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、およびスプール・ファイル番号のパラメーター要件が一致した後に考慮されます。

***ONLY**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびスプール・ファイル作成日時をもつスプール・ファイルは1つだけです。

***CURRENT**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、および作成日時をもつ、現行システム上で作成されたスプール・ファイルが使用されます。

***ANY** 使用するスプール・ファイルを決定するのに、ジョブ・システム名は使用されません。スプール・ファイルの選択時に、ジョブ・システム名よりスプール・ファイル作成日時パラメーターが優先されるようにする時には、この値を使用してください。

名前 スプール・ファイルを作成したジョブが実行されたシステムの名前を指定します。

[トップ](#)

作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)

スプール・ファイルが作成された日時を指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名のパラメーター要件が一致した後に考慮されます。

単一値

***ONLY**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名をもつスプール・ファイルは1つだけです。

***LAST** 指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名の最後の作成日時をもつスプール・ファイルが使用されます。

要素1: 作成日

日付 スプール・ファイルが作成された日付を指定します。

要素2: 作成時刻

***ONLY**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、およびスプール・ファイル作成日をもつスプール・ファイルは1つだけです。

***LAST** 指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、およびスプール・ファイル作成日の最後の作成時刻をもつスプール・ファイルが使用されます。

時刻 スプール・ファイルが作成された時刻を指定します。

[トップ](#)

TCP/IPデータ (TCPDATA)

TCP/IPまたはSSL（あるいはその両方）の追跡データのサブセットを収集するかどうかを指定します。各パラメーター要素はオプションです。要素値を指定しない場合には、その要素の追跡データのフィルター操作は実行されません。たとえば、要素1に*TCPを指定すると、TCPプロトコルを使用している追跡レコードだけが収集されます。要素1に値を指定しないと、すべてのTCP/IPプロトコルを使用する追跡レコードが収集されます。

要素1: プロトコル

追跡されるTCP/IPプロトコルを指定してください。

***TCP** 伝送制御プロトコルの追跡が可能となります。

***UDP** ユーザー・データグラム・プロトコルの追跡が可能となります。

***ICMP** インターネット制御メッセージ・プロトコルの追跡が可能となります。

***IGMP** インターネット・グループ管理プロトコルの追跡が使用可能となります。

***ARP** アドレス解決プロトコルの追跡が可能となります。これはTCP/IP の場合にだけ適用されます。

***ICMP6**

インターネット制御メッセージ・プロトコル・バージョン6の追跡が可能となります。

要素2: ローカル・ポート

1-65535

追跡データが収集される1つまたは2つのローカル・ポート番号を指定してください。

要素3: リモート・ポート

1-65535

追跡データを収集する1つまたは2つのリモート・ポート番号を指定してください。

要素4: ローカルIPアドレス

文字値 ローカルIPアドレスを指定してください。

要素5: リモートIPアドレス

文字値 リモートIPアドレスを指定してください。

要素6: 回線記述

名前 TCP/IP追跡データが収集される回線記述の名前を指定してください。

[トップ](#)

メッセージの監視 (WCHMSG)

監視対象の最大5個のメッセージIDを指定します。*NONE以外の値が指定された場合には、メッセージを監視する対象の位地をWCHMSGQパラメーターに指定する必要があります。監視対象メッセージが指定されたメッセージ待ち行列またはログに追加されると、追跡出口プログラムが呼び出されます。追跡出口プログラムが定義されていない場合は、その追跡は停止します。

単一値

*NONE

メッセージは監視されません。

要素1: メッセージ識別コード

名前 監視対象となる7文字のメッセージIDを指定します。

要素2: 比較データ

指定されたメッセージIDと一致するメッセージを指定されたメッセージ待ち行列またはログに追加する場合に、使用する比較データを指定します。メッセージ・データに指定されたテキストが含まれる場合は、その監視対象条件が真になります。メッセージ・データに指定されたテキストが含まれていない場合は、追跡機能が続行されます。

*NONE

比較データは指定されません。指定されたメッセージIDと一致するメッセージを指定されたメッセージ待ち行列またはログに追加する場合には、その監視対象条件が真になります。

文字値 監視対象メッセージのメッセージ・データと比較するために使用するテキスト・ストリングを指定します。このテキストが監視対象メッセージのメッセージ・データ中のどこかで検出された場合は、その監視条件は真とみなされます。このテキストは大文字小文字の区別が行われます。比較データは2つのフィールドにまたがった突き合わせには使用できませんが、フィールド全体またはどれかのフィールドのサブストリングを突き合わせることはできます。

[トップ](#)

監視されたメッセージ待ち行列 (WCHMSGQ)

WCHMSGパラメーターに指定されたメッセージ識別コードについて監視する位置を指定します。システム
操作員メッセージ待ち行列、活動記録ログ、他のメッセージ待ち行列、およびジョブ・ログに追加している
メッセージの監視を指定することができます。最大3個のメッセージ待ち行列または特殊値を指定するこ
とができます。

要素1: メッセージ待ち行列

単一値

***SYSOPR**

システム操作員メッセージ待ち行列（ライブラリーQSYS中のQSYSOPRメッセージ待ち行列）に追
加されるメッセージを監視します。

***JOBLOG**

監視されたジョブ (WCHJOB)パラメーターに指定されたジョブのジョブ・ログに追加されるメッ
セージを監視します。

***HSTLOG**

活動記録ログQHSTに追加されるメッセージを監視します。

修飾子1: メッセージ待ち行列

名前 監視したいメッセージ待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべての
ライブラリーが検索されます。

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

監視されたジョブ (WCHJOB)

WCHMSGパラメーターに指定されたメッセージについてそのジョブ・ログが監視される、そのジョブを指
定します。*JOBLOGがWCHMSGQパラメーターに指定された場合は、指定されたジョブだけが監視されま
す。最大5個のジョブ名を指定することができます。

単一値

* この追跡コマンドを出したジョブのジョブ・ログだけが監視されます。

要素1: ジョブ名

修飾子1: ジョブ名

総称名 監視されるジョブの総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタ

リスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば, ABC*)です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称ジョブ名は、総称接頭部で始まるジョブ名をもつすべてのジョブを指定します。

名前 監視されるジョブの名前を指定します。

修飾子2: ユーザー

名前 監視されるジョブのユーザー名を指定します。

修飾子3: 番号

***ALL** 指定したジョブ名およびユーザー名をもつすべてのジョブが監視されます。

000001-999999

ジョブ名およびユーザー名をさらに修飾するジョブ番号を指定してください。総称ジョブ名修飾子が指定された場合には、ジョブ番号を指定することはできません。

[トップ](#)

LICログ項目の監視 (WCHLICLOG)

監視の対象となる最大5個のライセンス内部コード(LIC)ログ項目識別コードを指定します。各LICログ項目には、メジャーとマイナーのコードが含まれています。指定されたメジャーとマイナーのコードおよび指定された比較データのどれかと一致するLICログ項目が追加される場合は、条件の監視を満たすこととなります。ログ項目の監視がLICログに追加される時には、指定された比較データと一致しない場合でも追跡出口プログラムが呼び出されます。追跡出口プログラムが定義されていない場合は、その追跡は停止します。

単一値

***NONE**

LICログ項目は監視されません。

要素1: メジャー・コード

***ALL** LICログ項目のどのメジャー・コードも一致とはみなされます。*ALLがメジャー・コードに指定された場合は、LICログ項目マイナー・コードに*ALLを指定することはできません。

文字値 監視対象となるLICログ・メジャー・コードを指定します。4桁のコードの各文字に16進数または疑問符のいずれかを指定することができます。疑問符はワイルドカード文字であり、その桁の任意の数字と一致することとなります。最大3個のワイルドカード文字を指定することができます。

要素2: マイナー・コード

***ALL** LICログ項目のどのマイナー・コードも一致とみなされます。*ALLがマイナー・コードに指定された場合は、LICログ項目メジャー・コードに*ALLを指定することはできません。

文字値 監視対象となるLICログ・マイナー・コードを指定します。4桁のコードの各文字に16進数または疑

問符のいずれかを指定することができます。疑問符はワイルドカード文字であり、その桁の任意の数字と一致することになります。最大3個のワイルドカード文字を指定することができます。

要素3: 比較データ

指定されたメジャーとマイナー・コードと一致するログ項目をライセンス内部コード(LIC)ログに追加する場合に、使用する比較データを指定します。このテキストが監視対象ログ項目のLICログ項目データ・フィールド中で検出されない場合には、その監視対象条件が真になります。このテキストが監視対象ログ項目のLICログ項目データ・フィールド中で検出されないで、出口プログラムがTRCPGMパラメーターに指定されない場合には、追跡機能は続行します。このログ項目が指定されたメジャーとマイナーのコードと一致して、出口プログラムはTRCPGMパラメーターに指定されているが、その項目データに指定されたテキストが含まれていない場合は、追跡を続行すべきか、停止すべきかを判別するために、出口プログラムが呼び出されます。

*NONE

比較データは指定されません。指定されたメジャーとマイナーのコードと一致するLICログ項目をLICログに追加する場合には、監視対象条件が真になります。

文字値 監視対象ログ項目の項目データと比較するために使用するテキスト・ストリングを指定します。このテキストが監視対象ログ項目のLICログ項目データ・フィールド中で検出された場合には、その監視条件が真とみなされます。このテキストは大文字小文字の区別が行われます。比較できるLICログ・フィールドはTDE番号、タスク名、サーバー名、ジョブ名、ユーザーID、ジョブ番号、スレッドID、例外ID、LICモジュール・コンパイル2進数タイム・スタンプ、LICモジュール・オフセット、LICモジュールRU名、LICモジュール名、LICモジュール・エントリー・ポイント名です。比較データは2つのフィールドにまたがった突き合わせには使用できませんが、フィールド全体またはどれかのフィールドのサブストリングを突き合わせることはできます。

例外IDの監視の時には、例外IDの16進数の4桁すべてを指定しなければなりません。また、例外IDのフィールドに対してのみ比較し、他のフィールドと一致する可能性があるサブストリングは回避したい場合は、接頭部MCHを指定することもできます。

トップ

監視する時間の長さ (WCHTIMO)

メッセージまたはライセンス内部コード(LIC)ログ項目での監視の時間制限(分単位)を指定します。指定された時間が経過すると、追跡出口プログラムが呼び出されて(これがTRCPGMパラメーターに指定された場合)、追跡は終了されて、メッセージCPI3999がシステム操作員メッセージ待ち行列に送信されます。

1440 特定メッセージまたはLICログ項目の監視の時間制限は1440分(24時間)です。

*NOMAX

特定メッセージまたはLICログ項目の監視の時間制限はありません。

1-43200

どの監視対象条件とも一致しなかった時に、追跡が活動のままとなっている分数を指定します。

トップ

追跡プログラム (TRCPGM)

ユーザー定義の追跡コマンドおよびプロシージャで呼び出されるプログラムを指定します。

次の時に追跡プログラムが呼び出されます。

- 適用業務追跡が開始する前
- WCHMSGパラメーターに指定されたメッセージIDの一致、あるいはWCHLICLOGパラメーターに指定されたライセンス内部コード(LIC)ログ項目の一致があった後。
- TRCPGMITVパラメーターに指定された時間間隔に達した時。
- WCHTIMOパラメーターに指定された監視の時間の長さに達した時。

追跡プログラムに関連して3つの入力パラメーターと1つの出力パラメーターがあります。この4つのパラメーターは必須です。

1	追跡オプション設定	入力	CHAR(10)
2	予約済み	入力	CHAR(10)
3	エラー検出	出力	CHAR(10)
4	比較データ	入力	CHAR(*)

「追跡オプション設定」パラメーターで許可される値は次の通りです。

***ON** 追跡情報の収集が開始される時には追跡機能の監視は開始しています。

***MSGID**

WCHMSGパラメーターに指定されたメッセージIDと一致しました。

***LICLOG**

WCHLICLOGパラメーターに指定されたLICログと一致しました。

***CMPDATA**

LICログのメジャーとマイナーのコードは一致しましたが、比較データが一致しませんでした。

***INTVAL**

TRCPGMITVパラメーターに指定された時間間隔が経過しました。

***WCHTIMO**

WCHTIMOパラメーターに指定された監視の時間の長さが経過しました。

「予約済み」パラメーターはブランクに設定する必要があります。

「エラーの検出」パラメーターで許可される値は次の通りです。

***CONTINUE**

追跡事象機能の追跡および監視の実行が続行します。

***STOP**

追跡事象機能の追跡および監視が終了されます。

***ERROR**

カスタマー追跡プログラムによってエラーが検出されました。

「追跡オプション設定」パラメーターに*MSGIDが指定された時に「比較データ」パラメーターで許可される値は次の構造となります。

オフセット タイプ フィールド

DEC HEX

0	0	BINARY(4)	追跡情報の長さ
4	4	CHAR(7)	メッセージID
11	B	CHAR(9)	予約済み
20	14	BINARY(4)	比較データに対するオフセット
24	18	BINARY(4)	比較データの長さ
*	*	CHAR(*)	メッセージ比較データ

「追跡オプション設定」パラメーターに*LICLOGまたは*CMPDATAが指定された時に「比較データ」パラメーターで許可される値は次の構造となります。

オフセット	タイプ	フィールド
DEC	HEX	
0	0	BINARY(4) 追跡情報の長さ
4	4	CHAR(4) LICログ・メジャー・コード
8	8	CHAR(4) LICログ・マイナー・コード
12	C	CHAR(8) LICログID
20	14	BINARY(4) 比較データに対するオフセット
24	18	BINARY(4) 比較データの長さ
*	*	CHAR(*) LICログ比較データ

「追跡オプション設定」パラメーターに*ON, *INTVALまたは*WCHTIMOが指定された時に「比較データ」パラメーターで許可される値は次の構造となります。

オフセット	タイプ	フィールド
DEC	HEX	
0	0	BINARY(4) 追跡情報の長さ (常に4)

追跡出口プログラム・インターフェースの詳細については、[HTTP://WWW.ISERIES.IBM.COM/INFOCENTER](http://www.iseries.ibm.com/infocenter)にあるISERIES INFORMATION CENTERの「SYSTEM API REFERENCE」情報を参照してください。

単一値

*NONE

追跡出口プログラムは定義されません。監視対象メッセージまたはライセンス内部コード(LIC)ログ項目を追加する場合、あるいは指定された監視時間制限を超えた場合には、追跡機能は終了します。

修飾子1: 追跡プログラム

名前 追跡出口プログラムの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

名前 ユーザー出口プログラムが入っているライブラリーの名前を指定します。

トップ

時間間隔 (TRCPGMITV)

追跡出口プログラムを呼び出す頻度を指定します。

*NONE

時間間隔は指定されません。時間間隔が経過したので、追跡出口プログラムは呼び出されません。

1-9999

追跡出口プログラムを呼び出す頻度の時間の間隔（秒数）を指定します。これは、**監視する時間の長さ (WCHTIMO)**パラメーターに指定された時間より小さくしなければなりません。

トップ

TRCCNNの例

例1: SSL追跡を開始する

```
TRCCNN SET(*ON) TRCTYPE(*SSL)
```

このコマンドは、セキュア・ソケット・レイヤー(SSL)接続の追跡を開始します。

例2: IP追跡を開始する

```
TRCCNN SET(*ON) TRCTYPE(*IP)
```

このコマンドは、インターネット・プロトコル(IP)レベルで接続の追跡を開始します。

例3:追跡記憶域の追跡および消去を停止する

```
TRCCNN SET(*END)
```

このコマンドは、すべての追跡を停止して、追跡テーブルを削除します。スプール出力は生成されません。

例4:追跡を印刷する

```
TRCCNN SET(*OFF)
```

このコマンドは、すべての追跡を停止し、TRCINT（内部追跡）コマンドによって収集された追跡レコードが入っているスプール・ファイル(QPCSMTRC)とフォーマット済み追跡データが入っているスプール・ファイル(QSYSPRT)を生成します。

例5: TRCINTコマンドから追跡データを書式設定する

```
TRCINT SET(*ON) TRCTYPE(*SCK)
```

```
TRCINT SET(*OFF)
```

```
TRCCNN SET(*FORMAT) TRCTYPE(*SSL) JOB(*) SPLNBR(*LAST)
```

TRCINT（内部追跡）コマンドは、すべてのソケットの使用法と関連した追跡レコードの収集を開始し、追跡レコードの収集を停止してスプール・ファイルQPCSMPRTを作成するために使用されます。TRCCNNコマンドは、現行ジョブの最終スプール・ファイルQPCSMPRTで追跡情報を使用して、スプール・ファイルQSYSPRTでSSL（セキュア・ソケット・レイヤー）と関連した追跡レコードを書式設定します。

例6:追跡テーブルを指定する

```
TRCCNN SET(*ON) TRCTYPE(*IP) TRCTBL(USER)
```

このコマンドは、インターネット・プロトコル(IP)レベルで接続の追跡を開始し、USER追跡テーブルに追跡データを保管します。

例7:追跡テーブル・サイズ（メガバイト）を指定する

```
TRCCNN SET(*ON) TRCTYPE(*IP) SIZE(20000 *MB)
```

このコマンドは、インターネット・プロトコル(IP)レベルで接続の追跡を開始して、20000メガバイトの追跡テーブルにデータを保管します。

例8:追跡データのCCSIDを指定する

```
TRCCNN SET(*OFF) CCSID(*ASCII)
```

このコマンドは、すべての追跡を停止して、スプール・ファイル(QSYSPRT)を生成します。追跡データの書式設定時には、ASCII (819) CCSIDが使用されます。

例9:追跡の終了に対するメッセージ用の追跡および監視を開始する

```
TRCCNN SET(*ON) TRCTYPE(*IP) WCHMSG((MCH2804))
      WCHMSGQ((*SYSOPR) (*JOBLOG))
      WCHJOB((*ALL/MYUSER/MYJOBNAME))
      TRCPGM(MYLIB/TRCEXTPGM)
```

このコマンドは、インターネット・プロトコル(IP)レベルで接続の追跡を開始します。MCH2804メッセージがシステム・オペレーター・メッセージ待ち行列上または*ALL/MYUSER/MYJOBNAMEジョブ・ログ内部で見つかり、追跡は終了します。また、MYLIB/TRCEXTPGMが追跡出口プログラムとして指定されます。

例10:追跡の終了に対するLICログ項目用の追跡および監視を開始する

```
TRCCNN SET(*ON) TRCTYPE(*IP)
      WCHLICLOG(('99??' 9932 MYJOBNAME))
      WCHTIMO(*NOMAX)
```

このコマンドは、インターネット・プロトコル(IP)レベルで接続の追跡を開始します。99で始まっているメジャー・コードおよびマイナー・コード9932をもつライセンス内部コード(LIC)ログ項目がシステム上に生成されると、追跡は終了します。また、LICログ情報にはテキスト「MYJOBNAME」が入っている必要があります。WCHTIMOパラメーター上の*NOMAXは、イベントが起こるまで、またはENDTRCコマンドを手動で出すまで、追跡が活動状態になることを示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

CPI通信の追跡 (TRCCPIC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

共通プログラミング・インターフェース通信追跡(TRCCPIC)コマンドは、コマンドが入力されるジョブで行なわれるすべてのCPI通信の追跡を制御します。このコマンドは、追跡をオンまたはオフに設定し、(1)プログラムによって出されたCPI通信呼び出しおよび(2)送受信されたデータを追跡します。

追跡レコードが収集されると、それらは内部追跡記憶域に記憶されます。追跡が終了した時に、追跡レコードをスプール出力ファイルまたはデータベース物理ファイルに送ることができます。

TRCCPICコマンドの前にサービス・ジョブ開始(STRSRVJOB)コマンドが入力されている場合には、STRSRVJOBコマンドに指定されたジョブが追跡されます。サービス対象ジョブからの追跡出力は、追跡がオフに設定された後か、あるいはサービス対象ジョブが終了した後にサービス・ジョブに戻されます。

制約事項(1)データベース出力ファイルのレコード様式は、弊社提供の出力ファイルQACM0TRCのレコード様式と一致していなければなりません。(2)ユーザーがこのコマンドを使用するためには、機密保護担当者からの特定権限を持っていなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SET	追跡オプションの設定	<u>*ON</u> , *OFF, *END	オプション、位置 1
MAXSTG	使用最大記憶域	1-16000, <u>200</u>	オプション、位置 2
TRCFULL	追跡データ満杯時の処理	<u>*WRAP</u> , *STOPTRC	オプション、位置 3
DTALEN	ユーザーのデータ長	0-4096, <u>128</u>	オプション、位置 4
OUTPUT	出力	<u>*PRINT</u> , *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, <u>*FIRST</u>	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	<u>*REPLACE</u> , *ADD	

[トップ](#)

追跡オプションの設定 (SET)

CPI通信追跡が開始されるか、または終了されるかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

- *ON** 追跡が開始されます。追跡記憶域がいっぱいになった場合には、TRCFULLパラメーターで指定された処置がとられます。
- *OFF** 追跡は終了されます。他の追跡情報は記録されず、現在の情報がスプール出力ファイルまたはデータベース・ファイルに書き出されます。
- *END** 追跡が終了します。他の追跡情報は記録されず、現在のすべての追跡情報が削除されます。出力は生成されません。

[トップ](#)

使用最大記憶域 (MAXSTG)

作成された追跡レコードに使用される記憶域の最大量(キロバイト)を指定します。

考えられる値は次の通りです。

200 最大200 KBまでの記憶域が追跡レコードに使用されます。

キロバイト数

追跡レコードに使用する記憶域のキロバイト数を指定してください。有効な値の範囲は1-16000です。

[トップ](#)

追跡データ満杯時の処理 (TRCFULL)

指定された最大記憶域がいっぱいになった時にとられる処置を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*WRAP

追跡記憶域がいっぱいになった時には、その記憶域の先頭から順に、古い追跡情報の上に新しい追跡情報が書き込まれます。

*STOPTRC

追跡記憶域がいっぱいになった時には、新しい追跡情報は保管されません。

[トップ](#)

ユーザーのデータ長 (DTALEN)

各追跡項目について記憶域に保管できるユーザー・データの最大長(バイト数)を指定します。指定された値が通信回線を通じて受信または送信されたデータの長さより大きい場合には、実際のデータだけが追跡されます。指定された値が受信または送信されたデータ長より小さい場合には、このパラメーターに指定された長さだけデータが追跡されます。

考えられる値は次の通りです。

128 保管されるユーザー・データの最大長は128バイトです。

バイト数

保管されるユーザー・データの最大長を指定してください。有効な値の範囲は0 - 4096です。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

[トップ](#)

出力ファイル (OUTFILE)

追跡出力の宛先となる物理ファイルの修飾名を指定します。すでにファイルが存在している場合には、システムはそれを使用します。このファイルが存在していない場合には、システムがそれを作成します。ファイルが作成された場合には、テキストは「TRCCPIC用の出力ファイル」となります。考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** データベース・ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。

*CURLIB

データベース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

データベース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

ファイル名

追跡出力の送信先となる物理データベース・ファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

追跡出力を受け取る物理ファイル中のメンバーの名前を指定します。ファイルがシステムによって作成された場合には、このパラメーターに指定された名前のメンバーが作成されます。ファイルは存在しているがメンバーが存在していない場合には、指定された名前のメンバーが作成されます。

要素1:出力を受け取るメンバー

*FIRST

指定したファイルの最初のメンバーが使用されます。

メンバー名

追跡出力を受け取るファイル中のメンバーの名前を指定してください。

要素2:メンバーで実行する操作

*REPLACE

新しいデータが既存のデータに置き換わります。

*ADD システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

[トップ](#)

TRCCPICの例

例1:追跡操作の開始

```
TRCCPIC MAXSTG(350) DTALen(256)
```

このコマンドは、現行ジョブのCPI通信呼び出しを追跡します。追跡ファイルには350KBの記憶域が含まれていて、その記憶域容量が追跡レコードで埋め込まれた場合に、先頭に折り返します。さらに、このコマンドは、それぞれの入出力操作で最大256バイトまでのユーザー・データを追跡します。

例2:追跡操作の停止

```
TRCCPIC SET(*OFF) OUTPUT(*OUTFILE) OUTFILE(TRACELIB/CPICTRACE)
      OUTMBR(TRACEMBR)
```

このコマンドは追跡を停止して、ライブラリーTRACELIBのデータベース・ファイルCPICTRACEに出力を送信します。出力はメンバーTRACEMBRに送信されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： TRCCPIC

*ESCAPEメッセージ

CPF2C90

指定された最大記憶域が小さすぎる。

CPF2C94

OUTFILEの処理中にエラーが起こった。追跡が停止されました。

CPF3B30

CPI通信呼び出しは実行されていない。追跡は終了しました。

CPF3B31

ジョブはすでに保守中または追跡中である。

CPF3B32

追跡はすでにオフになっている。

CPF3B33

予期しない追跡CPI通信エラーが起こった。

CPF3B34

追跡を非活動化できない。追跡は別のジョブから開始されました。

CPF3548

保守中のジョブの実行が完了した。

CPF3936

保守の対象となるジョブが追跡開始前に終了した。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9848

ライブラリー&2のファイル&1メンバー&3をオープンすることができない。

CPF9849

ライブラリー&2メンバー&3のファイル&1の処理中にエラー。

[トップ](#)

ICFの追跡 (TRCICF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム間通信機能追跡(TRCICF)コマンドは、プログラムによって出された言語操作およびシステム間通信機能操作の追跡を開始および定義するために使用します。TRCICFは、コマンド入力画面またはCLプログラムから開始することができます。

追跡レコードが収集されると、それらは内部追跡記憶域に記憶されます。追跡が終了した時に、追跡レコードをスプール出力ファイルまたはデータベース物理ファイルに送ることができます。

TRCICFコマンドの前にサービス・ジョブ開始(STRSRVJOB)コマンドを入力すると、追跡されるジョブはSTRSRVJOBコマンドで指定される1つです。サービス対象ジョブからの追跡出力は、追跡がオフに設定された後か、あるいはサービス対象ジョブが終了した後にサービス・ジョブに戻されます。

制約事項:

1. データベース出力ファイルのレコード様式は、弊社提供の出力ファイルQAIFTRCF のレコード様式と一致していなければなりません。
2. このコマンドを実行するためには、ユーザーは機密保護担当者から特定権限を貰わなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SET	追跡オプションの設定	<u>*ON</u> , *OFF, *END	オプションル, 位置 1
MAXSTG	使用最大記憶域	1-16000, <u>200</u>	オプションル, 位置 2
TRCFULL	追跡データ満杯時の処理	<u>*WRAP</u> , *STOPTRC	オプションル, 位置 3
DTALEN	ユーザーのデータ長	0-4096, <u>128</u>	オプションル, 位置 4
OUTPUT	出力	<u>*PRINT</u> , *OUTFILE	オプションル
OUTFILE	出力ファイル	修飾オブジェクト名	オプションル
	修飾子 1: 出力ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプションル
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, <u>*FIRST</u>	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	<u>*REPLACE</u> , *ADD	

追跡オプションの設定 (SET)

ICF追跡が開始されるか、停止されるか、または終了されるかを指定します。

- *ON** ICF追跡が開始されることを指定します。追跡記憶域がいっぱいになった場合には、TRCFULLパラメーターで指定された処置がとられます。
- *OFF** ICF追跡の停止を指定します。この後のICF活動は記録されず、作成された追跡レコードはジョブのプール印刷装置ファイルまたはデータベース・ファイルに書き出されます。
- *END** ICF追跡の終了および既存のすべての追跡情報の削除を指定します。出力は生成されません。

トップ

使用最大記憶域 (MAXSTG)

生成された追跡レコード用に使用する記憶域の最大量 (Kバイト) を指定します。このパラメーターは、*ONが追跡オプションの設定 (SET)パラメーターに指定されている場合にだけ有効です。

200 最大200キロバイトが使用されることを指定します。

1から16000

作成されたレコードのために使用する記憶域のキロバイト数を指定してください。

トップ

追跡データ満杯時の処理 (TRCFULL)

使用最大記憶域 (MAXSTG)パラメーターに指定されたすべての記憶域が使用されたときに、古い追跡レコードを新しい追跡レコードで置き換えるか、あるいは追跡機能を停止するかを指定します。このパラメーターは、*ONが追跡オプションの設定 (SET)パラメーターに指定されている場合にだけ有効です。

***WRAP**

追跡テーブルが満杯になると、追跡は先頭に折り返します。新しい追跡レコードが生成されると、最も古い追跡レコードが書き換えられます。

***STOPTRC**

追跡テーブルがいっぱいになると、追跡は停止されます。追跡出力を得るためには、さらにTRCICFコマンドを入力して、*OFFを指定しなければなりません。

トップ

ユーザーのデータ長 (DTALEN)

追跡されるユーザー・データの最大長 (バイト数) を指定します。このパラメーターは、*ONが追跡オプションの設定 (SET)パラメーターに指定されている場合にだけ有効です。

128 最大128バイトのユーザー・データが追跡されます。

0から4096

追跡されるユーザー・データの最大バイト数を指定します。

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスプール出力で印刷するかを指定します。

***PRINT**

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

***OUTFILE**

出力はユーザー指定のデータベース・ファイルに保管されます。

トップ

出力ファイル (OUTFILE)

ICF追跡の出力が指示される物理ファイルの名前およびライブラリーを指定します。指定したデータベース・ファイルがすでに存在している場合には、そのレコード様式は弊社提供の出力ファイルQAIFTRCFのレコード様式と一致しなければなりません。

修飾子1: 出力ファイル

名前 追跡出力が送られる先の物理ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

追跡出力を受け取る物理ファイル中のメンバーの名前を指定します。出力ファイル (OUTFILE)パラメーターに指定したファイルがシステムによって作成される場合は、メンバーは指定の名前のファイルに対して作成されます。OUTFILEが存在していてOUTMBRが存在していない場合には、指定した名前のメンバーが追加されます。このパラメーターはSET(*OFF)が指定された場合にだけ有効です。

要素1: 出力を受け取るメンバー

***FIRST**

OUTFILEパラメーターに指定されたファイルの最初のメンバーは、追跡出力を受け取ります。ファイルを作成して*FIRSTを指定する場合には、作成されるメンバーの名前は作成されるファイルの名前と同じになります。

名前 OUTFILEパラメーターに指定したファイル内で、追跡出力を受け取るメンバーの名前を指定してください。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

***REPLACE**

新しいデータが既存のデータに置き換わります。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

トップ

TRCICFの例

例1:追跡操作の開始

```
TRCICF MAXSTG(350) DTALen(256)
```

このコマンドは、現行ICF入出力操作を追跡します。追跡ファイルには350Kの記憶域があり、その量の記憶域が追跡レコードで満杯になった場合には先頭から折り返されます。また、このコマンドは各入出力操作において256バイトまでのユーザー・データを追跡します。

例2:追跡操作の停止

```
TRCICF SET(*OFF) OUTPUT(*OUTFILE) OUTFILE(TRACELIB/ICFTRACE)
      OUTMBR(TRACEMBR)
```

このコマンドは、追跡を停止して、ライブラリーTRACELIBのデータベース・ファイルICFTRACEに出力を送ります。その出力はメンバーTRACEMBRに送られます。

トップ

エラー・メッセージ: TRCICF

*ESCAPEメッセージ

CPF2C90

指定された最大記憶域が小さすぎる。

CPF2C93

追跡レコードがログに記録されなかった。

CPF2C94

OUTFILEの処理中にエラーが起こった。追跡が停止されました。

CPF2C95

追跡はすでに活動状態である

CPF2C96

追跡はすでにオフになっている。

CPF3B34

追跡を非活動化できない。追跡は別のジョブから開始されました。

CPF3205

ファイルは作成されなかった。

CPF3501

ジョブはすでにサービス中、追跡中、またはデバッグ中である。

CPF3530

索引QSERVICEの項目が矛盾している。

CPF3548

保守中のジョブの実行が完了した。

CPF3925

ファイル&1をオープンすることができない。

CPF3936

保守の対象となるジョブが追跡開始前に終了した。

CPF3950

ファイル&1に対してエラー・メッセージ&2を受け取った。要求は終了しました。

CPF3951

ファイル&1をファイル名&2に一時変更することはできない。

CPF3969

ファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。出力は未完了の場合があります。

CPF5004

ファイル&1で印刷装置オーバーフロー行が検出された。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9848

ライブラリー&2のファイル&1メンバー&3をオープンすることができない。

CPF9849

ライブラリー&2メンバー&3のファイル&1の処理中にエラー。

トップ

内部事象追跡 (TRCINT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

内部追跡(TRCINT)コマンドは、ライセンス内部コードの追跡保守ツールに対するコマンド・インターフェースであり、問題分析に使用されます。追跡の特定タイプは、このコマンドを使用して開始および停止されます。前に開始された内部追跡が実行されている間に、このコマンドによって追加の内部追跡を開始できません。追跡によって作成された出力は追跡テーブルに入れられます。追跡テーブルからのレコードは、スプール印刷装置ファイルに、データベース・ファイルに、あるいはテープまたは光ディスク媒体に書き出すことができます。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、サービス(*SERVICE)特殊権限をもっているか、あるいはISERIESナビゲーターのアプリケーション管理サポートを介してOS/400のサービス追跡機能に許可されていなければなりません。また、QIBM_SERVICE_TRACEの機能IDをもつ機能使用法変更(CHGFCNUSG)コマンドも、追跡操作に実行できるユーザーのリストを変更するために使用できます。
- 次のユーザー・プロファイルはコマンドを使用するための私用認可を受けています。
 - QSRV
- WCHJOBパラメーターを指定した時には、コマンド発行側は、監視しているジョブのジョブ・ユーザー識別と同じユーザー・プロファイルで実行しなければなりません。また、コマンド発行側はジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限をもつユーザー・プロファイルで実行しなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SET	追跡オプションの設定	*ON, *OFF, *END, *HOLD, *SAVE, *SIZE	必須, 定位置 1
TRCTBL	追跡テーブル名	文字値, *SYSDFT	オプション
SIZE	追跡テーブル・サイズ	単一値: *NOCHG, *MAX, *MIN その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 単位数	1-998000	
	要素 2: 計測単位	*KB, *MB	
TRCFULL	追跡データ満杯時の処理	*NOCHG, *WRAP, *STOPTRC	オプション, 定位置 4

キーワード	記述	選択項目	注
TRCTYPE	追跡タイプ	値 (最大 50 回の繰り返し): 000000-999999, *SVL, *MPL, *TNS, *TTPERF, *ACTCALL, *APPCOVRTCP, *APPCPS, *APPNALL, *APPNCPM, *APPNCPPS, *APPNDS, *APPNLM, *APPNMST, *APPNTRS, *AUTMGT, *AUXSTGALL, *AUXSTGMGT, *BSSMGT, *CCIOM, *CLUE, *CMNACCMTH, *CMNTRC, *CMTMGT, *COMMON, *CRPSRV, *CSTALL, *CSTCMN, *CTXMGT, *DBGINT, *DBMGT, *DLUR, *DSPPASTHR, *EREP, *ERRLOG, *EVTMGT, *EXCMGT, *FRCA, *HDWRSC, *HEAPMGT, *IDXMGMT, *IFS, *IPCF, *ISDN, *JRNMGMT, *LNKTST, *LODDMP, *MCHOBS, *MITFMALL, *MITFMEVAL, *MITFMHEAP, *MITFMINT, *MITFMMI, *MITFMSTG, *MODMGT, *MOD2, *MSCP, *MSMCALL, *MSMDTL, *M36ALL, *M36ASC, *M36BSC, *M36CSP, *M36DKT, *M36DSK, *M36ILAN, *M36PRT, *M36SDLC, *M36TAP, *M36TRN, *M36WS, *M36X25, *NTBTCP, *OPC, *PASE, *PFCOLSRV, *PGMBND, *PGMMGT, *PORTUTIL, *PRCMGT, *PRCTBL, *PSEUDOTERM, *PWRMGT, *QMGT, *QSMGT, *RCYMGMT, *RMTSPT, *RSCMGT, *SCK, *SCKASCIO, *SCKNET, *SCKOTHER, *SCKOVRMPTN, *SCKOVRPEC, *SCKRSLV, *SCKSEL, *SCKSSL, *SCKSTDIO, *SIG, *SMBSVR, *SPCOBJMGT, *SRCSINK, *STGMGTALL, *STM, *SYNCMGT, *SYSCALL, *SYSJRNMGMT, *TCPIP, *TLI, *TRXMGT, *VRTDEVMGT, *VRTIO	オプション, 位置 2
JOB	ジョブ名	単一値: *NOCHG その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 修飾ジョブ名	オプション
	修飾子 1: ジョブ名	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ユーザー	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 3: 番号	000000-999999, *ALL	
SLTTHD	組み込むスレッドID	単一値: *NOCHG , *ALL, *SELECT その他の値 (最大 20 回の繰り返し): 16 進値	オプション
SVRTYPE	サーバー・タイプ	単一値: *ALL, *NOCHG その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 総称名, 名前	オプション
TASK	タスク名	単一値: *ALL, *NOCHG その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 総称名, 名前	オプション
TASKNBR	タスク番号	単一値: *ALL, *NOCHG その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 16 進値	オプション
SLTTRCPNT	追跡ポイントの選択	単一値: *NOCHG その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 追跡ポイント修飾子	0-65535	
	要素 2: 終了追跡ポイント修飾子	0-65535	
OMTTRCPNT	追跡ポイントの省略	単一値: *NOCHG その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 追跡ポイント修飾子	0-65535	
	要素 2: 終了追跡ポイント修飾子	0-65535	

キーワード	記述	選択項目	注
STOPTRCPNT	追跡ポイントで停止	単一値: *NOCHG その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 追跡ポイントのタイプ	文字値	
	要素 2: 追跡ポイント修飾子	0-65535	
	要素 3: 追跡ポイント項目	1-65535	
	要素 4: トレース・ポイント項目オフセット	16 進値	
	要素 5: 追跡ポイント一致の値	文字値	
JOBTYPE	ジョブ・タイプ	単一値: *NONE , *ALL その他の値 (最大 12 回の繰り返し): *DFT , *ASJ , *BCH , *EVK , *INT , *MRT , *RDR , *SBS , *SYS , *WTR , *PDJ , *PJ , *BCI	オプション
JOBTRCIV	ジョブ追跡間隔	0.1-9.9, 0.5	オプション
TCPDTA	TCP/IPデータ	要素リスト	オプション
	要素 1: プロトコル	*TCP , *UDP , *ICMP , *IGMP , *ARP , *ICMP6	
	要素 2: ローカル・ポート	値 (最大 2 回の繰り返し): 1-65535	
	要素 3: リモート・ポート	値 (最大 2 回の繰り返し): 1-65535	
	要素 4: ローカルIPアドレス	文字値	
	要素 5: リモートIPアドレス	文字値	
	要素 6: 回線記述	名前	
	要素 7: 回線タイプ	*PPP , *OPC	
SCKDTA	ソケット・データ	要素リスト	オプション
	要素 1: アドレス・ファミリー	*INET , *UNIX , *NS , *TELEPHONY , *NETBIOS	
	要素 2: ソケット・タイプ	*STREAM , *DGRAM , *RAW , *SEQPACKET	
	要素 3: 記述子	値 (最大 2 回の繰り返し): 0-65535	
	要素 4: ソケット・オプション	*SODEBUG	
DEV	装置	単一値: *NONE その他の値 (最大 16 回の繰り返し): 名前	オプション, 定位置 3
CTL	制御装置	単一値: *NONE その他の値 (最大 16 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 制御装置	名前	
	要素 2: 接続されている装置	*NODEV , *ALLDEV	
LIN	行	単一値: *NONE その他の値 (最大 16 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 行	名前	
	要素 2: 接続される制御装置	*NOCTL , *ALLCTL	
NWI	ネットワーク・インターフェース	単一値: *NONE その他の値 (最大 16 回の繰り返し): 名前	オプション
NWS	ネットワーク・サーバー	単一値: *NONE その他の値 (最大 16 回の繰り返し): 名前	オプション
RSRCNAME	資源名	単一値: *NONE その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 名前	オプション
OUTDEV	出力装置	名前	オプション
TASKINF	タスク情報	*ALL , *TRCREF	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*PRINT , *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE , *ADD	
WCHMSG	メッセージの監視	単一値: *NONE その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: メッセージ識別コード	名前	
	要素 2: 比較データ	文字値, *NONE	
WCHMSGQ	監視されたメッセージ待ち行列	値 (最大 3 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: メッセージ待ち行列	単一値: *SYSOPR , *JOBLOG, *HSTLOG その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL	
WCHJOB	監視されたジョブ	単一値: * その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ジョブ名	修飾ジョブ名	
	修飾子 1: ジョブ名	総称名, 名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000001-999999, *ALL	
WCHLICLOG	LICログ項目の監視	単一値: *NONE その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: メジャー・コード	文字値, *ALL	
	要素 2: マイナー・コード	文字値, *ALL	
	要素 3: 比較データ	文字値, *NONE	
WCHTIMO	監視する時間の長さ	1-43200, 1440 , *NOMAX	オプション
TRCPGM	追跡プログラム	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 追跡プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL	
TRCPMITV	時間間隔	1-9999, *NONE	オプション

トップ

追跡オプションの設定 (SET)

内部追跡を開始、停止、終了、保留、または保管するかどうかを指定します。また、追跡テーブルのサイズを変更するかどうかを指定することもできます。

これは必須パラメーターです。

- *ON** 追跡タイプ (TRCTYPE)パラメーターに指定された追跡タイプに対する内部追跡レコードの収集が開始されます。追跡テーブルにすでに追跡レコードが入っている場合には、新しい追跡レコードがテーブルに追加されます。テーブルが満杯になった場合には、**追跡データ満杯時の処理 (TRCFULL)**パラメーターに指定された処置が取られます。*SYSDFT以外の追跡テーブル名が TRCTBL パラメーターに指定されていて、テーブルが存在していない場合には、自動的に作成されます。
- *OFF** 前の内部追跡(TRCINT)コマンドで要求した内部追跡レコードの収集が停止し、レコードがスプール印刷装置ファイルQPCSMPTに書き出されるか、あるいは**出力 (OUTPUT)**パラメーターで指示されたデータベース・ファイルに送信されます。
- *END** 内部追跡が終了し、内部追跡レコードが削除されます。スプール出力は生成されません。TRCTBL パラメーター*SYSDFT以外の追跡テーブル名が指定されている場合には、それは自動的に削除されます。
- *HOLD**
内部追跡が停止し、収集された内部追跡レコードは追跡テーブルに保留されます。このプロンプトに***OFF**を指定した別の内部追跡(TRCINT)コマンドを入力した場合には、保留されたレコードを後から印刷できます。あるいは***SAVE**を指定した場合には、保留されたレコードをテープまたは光ディスク媒体に入れることができます。
- *SAVE**
内部追跡が停止し、追跡レコードはOUTDEVパラメーターで指定されたテープまたは光ディスク媒体に書き出されます。
- *SIZE** 追跡テーブルのサイズが変更されます。新しいサイズは**追跡テーブル・サイズ (SIZE)**パラメーターに指定されます。

トップ

追跡テーブル名 (TRCTBL)

収集された追跡データを保持する追跡テーブルを指定します。

*SYSDFT

システムの省略時の追跡テーブルが使用されます。

名前 使用する追跡テーブルの名前を指定してください。SET(*ON)が指定されていて、指定した名前が既存の追跡テーブルと一致しない場合には、指定した名前の新しい追跡テーブルが作成されます。

トップ

追跡テーブル・サイズ (SIZE)

追跡テーブルのサイズを指定してください。このパラメーターを指定できるのは、**追跡オプションの設定 (SET)**パラメーターに*SIZEが指定されている場合、あるいはSET(*ON)が指定されていて、指定された追跡テーブル(TRCTBLパラメーター)で追跡が現在活動状態でない場合だけです。

注: このパラメーターに示された記憶域は、システム補助記憶域プール(ASP 1)から直ちに割り振られます。この記憶域は、必要に応じて動的に割り振られるものではありません。この記憶域スペースは、追跡に関連した情報を記録する場合を除いて、システムによって使用できません。このパラメーター上で大きな値を指定する前には、システムASPのフリー・スペース量を検査してください。システムASPの使用可能なフ

リー・スペースの量を判別するには、システム状況処理(WRKSYSSTS)コマンドを使用します。値を指定するとシステムASPにあるフリー・スペースのサイズが大きく減少する場合には、システムのパフォーマンスが低下する場合があります。

注: 追跡データがギガビット・イーサネット行を超えた場合は、追跡テーブル・サイズは128000キロバイトまたは128メガバイトより大きくなければなりません。

単一値

***NOCHG**

追跡テーブル・サイズは変更されません。新規追跡テーブル(TRCTBLパラメーター)を指定する場合には、省略時のサイズである128キロバイトが使用されます。

***MAX** 追跡テーブルは最大サイズの258048メガバイトに設定されます。

***MIN** 追跡テーブルは最小サイズ128キロバイトに設定されます。

要素1: 単位数

追跡テーブルのサイズを指定します。

1-998000

追跡テーブルのサイズをキロバイトまたはメガバイトで指定します。

要素2: 計測単位

最初の要素で指定された値を、キロバイト数としてまたはメガバイト数として扱うのかを指定します。

***KB** 追跡テーブル・サイズはキロバイトで指定されます。有効な値の範囲は128 - 998000です。

***MB** 追跡テーブル・サイズはメガバイトで指定されます。有効な値の範囲は1 - 258048です。

トップ

追跡データ満杯時の処理 (TRCFULL)

追跡テーブルが満杯になった時に、追跡レコードを折り返すか（最も古いレコードを新しいレコードに置き換える）、あるいは追跡を停止するかを指定します。**追跡オプションの設定 (SET)**パラメーターに*ONを指定した時には、このパラメーターを指定できます。

***NOCHG**

追跡テーブル満杯時の処置は変更されません。新しい追跡テーブルを指定(TRCTBL パラメーター)した場合には、省略時の処置は、追跡テーブルが満杯になると追跡レコードが折り返されることとなります。

***WRAP**

追跡テーブルが満杯になると、追跡は先頭に折り返します。新しいレコードが収集されるにつれて、最も古い追跡レコードが新しいレコードによって書き換えられます。

***STOPTRC**

追跡テーブルが追跡レコードで満杯になった時に、追跡を停止します。

トップ

追跡タイプ (TRCTYPE)

開始する追跡のタイプを指定します。追跡タイプには次の2つのグループがあります。

- 構成要素データ追跡コードによって、活動プロシージャがシステム内で追跡されます。
- 一般追跡コードにより、ISERIES命令監視プログラム・リンケージ、マルチプログラミング、トランザクション、またはタスクおよびスレッド・パフォーマンス機能が追跡されることになります。

追跡コード・タイプを指定する場合には、**追跡オプションの設定 (SET)**パラメーターに*ONを指定しなければなりません。SETパラメーターに*ON以外の値を指定した場合には、TRCTYPEは無視されます。各追跡タイプは、特殊値または6桁のコードで識別され、6桁すべてを指定しなければなりません。追跡コードおよび特殊値の完全リストについては、このプロンプトが出された時にカーソルをこのパラメーターに位置づけ、F4キーを押してください。次のコード・テーブルから最大50個のタイプを指定してください。

追跡のタイプ	構成要素	
	または一般 追跡コード	特殊 値
MI命令監視プログラム リンケージ(SVL)	030000	*SVL
マルチプログラミング・レベル(MPL)	040000	*MPL
トランザクション	080000	*TNS
タスク/スレッド・パフォーマンス 活動化/呼び出し	090000 014400	*TTPERF *ACTCALL
MPTN - TCP/IP MPTN経由APPC	014203	*APPCOVRTCP
APPC プレゼンテーション・サービス	014301	*APPCPS
APPN -- (すべて)	012506	*APPNALL
APPN制御点管理	012501	*APPNCPM
APPN制御点プレゼンテーション・サービス	012504	*APPNCPPS
APPN ディレクトリー・サービス	012502	*APPNDS
APPNロケーション管理	012505	*APPNLM
APPN管理サービス転送	012507	*APPNMST
APPNトポロジーおよび経路指定 サービス	012503	*APPNTRS
権限管理	010900	*AUTMGT
補助記憶域管理 --詳細	011104	*AUXSTGALL
補助記憶域管理	011101	*AUXSTGMGT
バイト・ストリング・スペース管理	012600	*BSSMGT
共通クラス入出力管理(CCIOM)	011900	*CCIOM
クラスター・エンジン	016402	*CLUE
通信アクセス方式	015900	*CMNACCMTH
コミット管理	011700	*CMTMGT
通信追跡サービス機能	012300	*CMNTRC
共通機能	011200	*COMMON
暗号サービス	013600	*CRPSRV
クラスター-- (すべて)	016400	*CSTALL

クラスター通信	016401	*CSTCMN
文脈管理	011000	*CTXMGT
デバッガー・インタープリター	014500	*DBGINT
データベース管理（すべての データベース・ファイルの 事象が追跡される）	010400	*DBMGT
従属LU要求元端末 (DLUR)通信	015400	*DLUR
表示装置バススルー	010804	*DSPPASTHR
環境・記録・編集・印刷(EREP)	012200	*EREP
エラー・ログ	012100	*ERRLOG
事象管理	010600	*EVTMGT
例外管理	010200	*EXCMGT
高速応答キャッシュ・アクセラレーター	016600	*FRCA
ハードウェア資源	014700	*HDWRSC
ヒープ管理	013400	*HEAPMGT
独立索引管理	011400	*IDXMGT
統合ファイル・システム(IFS)	014800	*IFS
プロセス間通信機能(IPCF)	012000	*IPCF
通信返答管理(ISDN)	012700	*ISDN
ジャーナル管理	011600	*JRNMG
リンク・テスト・サービス機能	012400	*LNKTST
ロード/ダンプ（保管/復元）	010801	*LODDMP
マシン監視	011300	*MCHOBS
マシン・インターフェース(MI) 変換プログラム	015100	*MITFMALL
MI変換プログラム-式の評価	015101	*MITFMEVAL
MI変換プログラム-ヒープ操作	015102	*MITFMHEAP
MI変換プログラム-インタープリター命令	015103	*MITFMINT
MI変換プログラム-MI命令	015104	*MITFMMI
MI変換プログラム-記憶域管理操作	015105	*MITFMSTG
モジュール管理	013100	*MODMGT
モジュラー2実行時サポート	012800	*MOD2
マシン・サービス制御点	010802	*MSCP
主記憶域管理-呼び出し	011102	*MSMCALL
主記憶域管理-詳細	011103	*MSMDTL
TCP/IP上のNETBIOS	015700	*NTBTC
OPTICONNECT	015500	*OPC
ポータブル・アプリケーション・ ソリューション環境	016100	*PASE
パフォーマンス収集サービス プログラム・バインダー	016200	*PFRCOLSRV
	013200	*PGBND

プログラム管理	010300	*PGMMGT
可搬性ユーティリティ	015200	*PORTUTIL
プロセス管理	010500	*PRCMGT
プロセス・テーブル	015300	*PRCTBL
疑似端末構成要素	016500	*PSEUDOTERM
電源管理	012900	*PWRMGT
待ち行列管理	010700	*QMGT
待ち行列スペース管理	013300	*QSMGT
回復管理	013500	*RCYMG
リモート・サポート	016300	*RMTSPT
資源管理	010100	*RSCMGT
ソケット-- (全API)	014000	*SCK
ソケット非同期およびオーバーラップ 入出力API	014002	*SCKASCIO
ソケット・ネットワークAPI	014004	*SCKNET
その他ソケットAPI	014007	*SCKOTHER
MPTN AF_INETソケットSNA MPTN経由	014201	*SCKOVRMPTN
MPTN AF_INETソケットSNA PEC経由	014202	*SCKOVRPEC
ソケットBERKELEYリゾルバーAPI	014005	*SCKRSLV
ソケット選択API	014003	*SCKSEL
SECURE SOCKETS LAYER (SSL) API	014006	*SCKSSL
ソケット標準入出力API	014001	*SCKSTDIO
シグナル	015600	*SIG
SMBサーバー	015800	*SMBSVR
スペース・オブジェクト管理	011500	*SPCOBJMGT
ソース/シンク (装置サポート) 管理	010803	*SRCSINK
記憶域管理-- (すべて)	011105	*STGMGTALL
ストリーム	013900	*STM
同期管理	013700	*SYNCMGT
MIシステム呼び出し	015200	*SYSCALL
システム・ジャーナル管理	014100	*SYSJRMGT
伝送制御プロトコル/ インターネット・プロトコル(TCP/IP)	013800	*TCPIP
トランスポート層インターフェース	016000	*TLI
トランザクション管理	016800	*TRXMGT
仮想入出力	016700	*VRTIO
仮想端末管理	013000	*VRTDEVMGT

注: *TTPERF追跡コードを指定する場合には、TRCTYPEパラメーター・リスト中の最初のものでなければなりません。

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

追跡レコードが収集される、そのジョブを指定します。指定されたジョブで生成された追跡レコードだけが収集されます。修飾ジョブ名（最大10まで）のリストを指定することができます。修飾ジョブ名値と一致するジョブから生成された場合にのみ、追跡レコードが収集されます。

追跡オプションの設定 (SET)パラメーターに*ONを指定した時には、このパラメーターを指定できます。SETパラメーターに*ON以外の値を指定した場合には、JOBは無視されます。

単一値

***NOCHG**

活動状態の追跡の以前のTRCINTコマンドでJOBパラメーターの修飾ジョブ名が指定されている場合には、ジョブ名フィルター情報は変更されません。活動状態の追跡の以前のTRCINTコマンドで値が指定されていない場合には、*NOCHGがJOBパラメーターの*ALL/*ALL/*ALLと同様に動作します。

修飾子1: ジョブ名

***ALL** 定義された追跡によって生成されたすべての追跡レコードは、その追跡レコードが生成されたジョブ名にかかわらず収集されます。

総称名 追跡レコードが収集されるジョブの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字とその後アスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば, ABC*)です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称ジョブ名は、総称接頭部で始まるジョブ名をもつすべてのジョブを指定します。

名前 追跡レコードが収集される、そのジョブの名前を指定します。

修飾子2: ユーザー

***ALL** 定義された追跡によって生成されたすべての追跡レコードは、その追跡レコードが生成されたジョブ・ユーザー名にかかわらず収集されます。

総称名 追跡レコードが収集されるジョブの総称ユーザー名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字とその後アスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば, ABC*)です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称ユーザー名は、総称接頭部で始まるユーザー名をもつすべてのジョブを指定します。

名前 追跡レコードが収集されるジョブのユーザーの名前を指定してください。

修飾子3: 番号

***ALL** 定義された追跡によって生成されたすべての追跡レコードは、その追跡レコードが生成されたジョブ番号にかかわらず収集されます。ジョブ番号の*ALLは、ユーザー指定のジョブ名およびジョブ・ユーザー名修飾子と一致するすべてのジョブを追跡するために、これは総称ジョブ指定と見なされます。

000000-999999

ジョブ名およびユーザー名をさらに修飾するジョブ番号を指定してください。総称ジョブ名または総称ユーザー名が指定された場合には、ジョブ番号を指定することはできません。

トップ

組み込むスレッドID (SLTTHD)

追跡レコードが収集される、そのジョブ・スレッドを指定します。指定されたスレッドで生成された追跡レコードだけが収集されます。これと関連したスレッドIDをもつジョブが1つだけの場合があります。これは、JOBパラメーターで指定された最初の修飾ジョブ名でなければならず、またこのジョブは活動状態でなければなりません。

単一値

***NOCHG**

活動状態の追跡の以前のTRCINTコマンドでSLTTHDパラメーターのスレッドID が指定されている場合には、スレッドIDフィルター情報は変更されません。活動状態の追跡の以前のTRCINTコマンドで値が指定されていない場合には、*NOCHGがこのパラメーターの*ALLと同様に動作します。

***ALL** 定義された追跡によって生成されたすべての追跡レコードは、その追跡レコードが生成されたスレッドIDにかかわらず収集されます。

***SELECT**

最高20までのスレッドを選択することができるスレッドIDのリストが表示されます。選択したスレッドIDからの追跡レコードが収集されます。*SELECTは、TRCINTコマンドが対話式ジョブで実行されている場合にのみ有効です。

その他の値

16進値

追跡レコードが収集されるスレッドのIDを指定してください。最大20のスレッドIDを指定することができます。

トップ

サーバー・タイプ (SVRTYPE)

追跡レコードを収集するかどうかを判別するのに使用されるジョブまたはタスクのサーバー・タイプ属性を指定します。指定されたサーバー・タイプをもつジョブまたはタスクで生成された追跡レコードだけが収集されます。可能なサーバー・タイプのリストについては、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「実行管理機能」情報を参照してください。

単一値

***NOCHG**

活動状態の追跡の以前のTRCINTコマンドでサーバー・タイプの値が指定されている場合には、この値は変更されません。以前のTRCINTコマンドで値が指定されていない場合には、*NOCHGがこのパラメーターの*ALLと同様に動作します。

***ALL** 定義された追跡によって生成されたすべての追跡レコードは、その追跡レコードが生成されたジョブまたはタスクのサーバー・タイプ属性にかかわらず収集されます。

その他の値

総称名 追跡レコードが収集される総称サーバー・タイプを指定してください。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば, ABC*)です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称サーバー・タイプは、総称接頭部で始まるサーバー・タイプをもつすべてのジョブを指定します。

名前 追跡レコードが収集されるサーバー・タイプを指定してください。サーバー・タイプ（最大5まで）のリストを指定することができます。

[トップ](#)

タスク名 (TASK)

追跡レコードが収集される、そのライセンス内部コード(LIC)タスクを指定します。指定されたLICタスクから生成された追跡レコードだけが収集されます。

単一値

***NOCHG**

活動状態の追跡の以前のTRCINTコマンドでタスク名(TASKパラメーター)の値が指定されている場合には、この値は変更されません。以前のTRCINTコマンドで値が指定されていない場合には、*NOCHGがタスク名の*ALLと同様に動作します。

***ALL** 定義された追跡によって生成されたすべての追跡レコードは、その追跡レコードが生成されたLICタスクにかかわらず収集されます。

その他の値

総称名 追跡レコードが収集されるLICタスクの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング（たとえば、ABC*）です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称タスク名は、総称接頭部で始まるタスク名をもつすべてのタスクを指定します。

名前 追跡レコードが収集されるLICタスクの名前を指定してください。最大10のLICタスク名を指定できます。

[トップ](#)

タスク番号 (TASKNBR)

追跡レコードが収集される、そのライセンス内部コード(LIC)タスク番号を指定します。指定されたLICタスクで生成された追跡レコードだけが収集されます。

単一値

***NOCHG**

活動状態の追跡の以前のTRCINTコマンドでタスク番号の値が指定されている場合には、この値は変更されません。以前のTRCINTコマンドで値が指定されていない場合には、*NOCHGがこのパラメーターの*ALLと同様に動作します。

***ALL** 定義された追跡によって生成されたすべての追跡レコードは、その追跡レコードが生成されたLICタスクのタスク番号にかかわらず収集されます。

その他の値

16進値

追跡レコードが収集されるLICタスク番号の名前を指定してください。タスク番号（最大10まで）のリストを指定することができます。

[トップ](#)

追跡ポイントの選択 (SLTTRCPNT)

追跡レコードが組み込まれることになる最大5つまでの個々の追跡ポイントまたは追跡ポイントの範囲のリストを指定します。SLTTRCPNTに指定されていない追跡ポイントの追跡レコードは収集されません。現在活動状態の追跡テーブルにSLTTRCPNTが指定されている場合には、指定された追跡ポイントが、追跡レコードが収集される追跡ポイントのセットに追加されます。

注: このパラメーターとOMTTRCPNTパラメーターは互いに排他的です。OMTTRCPNTを使用して特定の追跡ポイントを除外する活動追跡テーブルに対してSLTTRCPNTを指定することはできません。

単一値

***NOCHG**

追跡レコードが収集される追跡ポイントのリストは変更されません。

要素1: 追跡ポイント修飾子

0-65535

その追跡レコードが組み込まれる1つの追跡ポイント修飾子または追跡ポイント修飾子の範囲の開始を指定します。最大5つまでの個別の追跡ポイント修飾子または追跡ポイント修飾子の範囲を指定することができます。

要素2: 終了追跡ポイント修飾子

0-65535

その追跡レコードが組み込まれる追跡ポイント修飾子の範囲の終了を指定します。組み込む追跡ポイントが1つだけの場合は、このパラメーター要素に値を指定しないでください。

[トップ](#)

追跡ポイントの省略 (OMTTRCPNT)

追跡レコードが除外される最大5つまでの個別の追跡ポイントまたは追跡ポイントの範囲のリストを指定します。OMTTRCPNTに指定されていないすべての追跡ポイントの追跡レコードが収集されます。現在活動状態の追跡テーブルに対してOMTTRCPNTが指定されている場合には、指定された追跡ポイントが、追跡レコードが収集されない追跡ポイントのセットに追加されます。

注: このパラメーターとSLTTRCPNTパラメーターは互いに排他的です。SLTTRCPNTを使用して特定の追跡ポイントだけを組み込む活動状態の追跡テーブルに対してOMTTRCPNTを指定することはできません。

単一値

***NOCHG**

追跡レコードが除外される追跡ポイントのリストは変更されません。

要素1: 追跡ポイント修飾子

0-65535

その追跡レコードが除外する1つの追跡ポイント修飾子または追跡ポイント修飾子の範囲の開始を指定します。最大5つまでの個別の追跡ポイント修飾子または追跡ポイント修飾子の範囲を指定することができます。

要素2: 終了追跡ポイント修飾子

0-65535

その追跡レコードを除外する追跡ポイント修飾子の範囲の終了を指定します。除外する追跡ポイントが1つだけの場合は、このパラメーター要素に値を指定しないでください。

[トップ](#)

追跡の停止点 (STOPTRCPNT)

追跡レコードの収集を停止させる1つまたは複数の追跡ポイント（存在する場合）を指定してください。追跡テーブル・レコードは削除されず、後でSET(*OFF)またはSET(*SAVE)をもつTRCINTを起動することによってスプール・ファイルまたは出力装置に書き込みできます。

指定できる追跡ポイントは最大4つまでです。指定された追跡ポイントが、指定された追跡テーブルに追加される追跡レコードと一致すると、追跡は停止されます。

指定された追跡ポイントは、2つのパーツ（追跡ポイント・タイプおよび追跡ポイント修飾子）または5つのパーツ（追跡ポイント・タイプ、追跡ポイント修飾子、追跡項目番号、追跡ポイント項目オフセット、および追跡ポイント一致値）のいずれかをもつことができます。2つのパーツの条件では、指定された追跡ポイントの追跡レコードが収集されると追跡データ収集を停止します。5つのパーツの条件では、指定された追跡ポイント一致値が指定された追跡ポイント項目オフセットのデータと正確に一致する場合にだけ追跡データ収集を停止します。

単一値

*NOCHG

追跡テーブルと関連した停止追跡ポイントのリストは変更されません。

要素1: 追跡ポイントのタイプ

文字値 2文字の追跡ポイント・タイプを指定してください。

要素2: 追跡ポイント修飾子

0-65535

追跡ポイント修飾子番号を指定してください。

要素3: 追跡ポイント項目

1-65535

追跡ポイント項目番号を指定してください。

要素4: トレース・ポイント項目オフセット

16進値

追跡ポイント項目でオフセット(16進数)を指定してください。

要素5: 追跡ポイント一致の値

文字値 追跡レコード・データと比較する一致値を指定してください。一致値は文字または16進数で指定されます。文字ストリングは同等の16進数ストリングに変換されます。

[トップ](#)

ジョブ・タイプ (JOBTYPE)

バッチ・ジョブ追跡報告書の使用について追跡データを収集するジョブのタイプを指定します。最大11個のジョブ・タイプを指定することができます。このパラメーターは、TRCTYPE(*MPL)またはTRCTYPE(040000)が指定されている場合にのみ指定することができます。

注: 値*DFTには値*ASJ, *BCH, *EVK, *MRT, *PDJ, *PJおよび*BCIが含まれます。値*BCHには値*EVK, *MRT, *PDJ, *PJ,および*BCIが含まれます。

単一値

*NONE

ジョブは追跡されません。

*ALL すべてのジョブ・タイプが追跡されます。

その他の値

*DFT バッチおよび自動始動ジョブが追跡されます。

*ASJ 自動始動ジョブが追跡されます。

*BCH バッチ・ジョブが追跡されます。

*EVK プロシージャ開始要求によって開始されたジョブが追跡されます。

*INT 対話式ジョブが追跡されます。

*MRT 複数リクエスター端末ジョブが追跡されます。

*RDR 読み取りプログラム・ジョブが追跡されます。

*SBS サブシステム・モニター・ジョブが追跡されます。

*SYS システム・ジョブが追跡されます。

*WRT 書き出しプログラム・ジョブが追跡されます。

*PDJ 印刷ドライバー・ジョブが追跡されます。

*PJ 事前開始ジョブが追跡されます。

*BCI バッチ即時ジョブが追跡されます。

[トップ](#)

ジョブ追跡間隔 (JOBTRCITV)

ジョブ追跡データの各集合間の時間(CPUの秒数)を指定します。このパラメーターは、TRCTYPE(*MPL)またはTRCTYPE(040000)が指定されている場合にのみ指定することができます。

0.5 タイム・スライスの間隔値0.5 CPU秒が使用されます。

0.1-9.9

追跡間隔値として使用されるCPUの秒数を指定します。

[トップ](#)

TCP/IPデータ (TCPDTA)

TCP/IPまたはソケット（あるいはその両方）の追跡データのサブセットを収集するかどうかを指定します。このパラメーターは、TRCTYPE(*TCPIP)またはTRCTYPE(013800)が指定されている場合、あるいはソケット追跡タイプ(*SCK, *SCKSTDIO, *SCKASCIO, *SCKSEL, *SCKNET, *SCKRSLV, *SCKSSL, *SCKOTHERまたは014000, 014001, 014002, 014003, 014004, 014005, 014006, 014007)の1つまたは複数指定されている場合にしか指定できません。要素の値を指定しない場合には、その要素についてTCP/IPまたはソケット（あるいはその両方）の追跡データのフィルタリングは実行されません。たとえば、要素1に*UDPを指定した場合には、UDPプロトコルが使用されている追跡レコードだけが収集されます。要素1に値を指定しないと、すべてのTCP/IPプロトコルを使用する追跡レコードが収集されます。

TCPDTAのどの要素にも値を指定していないで、TCP/IPまたはソケット・データの追跡がまだ活動状態になっていない場合には、TCP/IPまたはソケット追跡データのフィルタリングは実行されません。TCP/IPまたはソケット・データの追跡がすでに活動状態になっていて、TCPDTA値が指定されていない場合には、前のデータのフィルタリング値が有効となります。

要素1: プロトコル

追跡されるTCP/IPプロトコルを指定してください。

- *TCP 伝送制御プロトコルの追跡が可能となります。
- *UDP ユーザー・データグラム・プロトコルの追跡が可能となります。
- *ICMP インターネット制御メッセージ・プロトコルの追跡が可能となります。
- *IGMP インターネット・グループ管理プロトコルの追跡が可能となります。
- *ARP アドレス解決プロトコルの追跡が可能となります。これはTCP/IP の場合にだけ適用されます。
- *ICMP6
インターネット制御メッセージ・プロトコル・バージョン6の追跡が可能となります。

要素2: ローカル・ポート

追跡データが収集される1つまたは2つのローカル・ポート番号を指定してください。

要素3: リモート・ポート

追跡データが収集される1つまたは2つのリモート・ポート番号を指定してください。

要素4: ローカルIPアドレス

ローカルIPアドレスを指定してください。

要素5: リモートIPアドレス

リモートIPアドレスを指定してください。

要素6: 回線記述

TCP/IP追跡データが収集される回線記述の名前を指定してください。

要素7: 回線タイプ

追跡情報の収集を指定された回線タイプに制限する必要があるかどうかを指定します。

*PPP 追跡情報の収集がPOINT-TO-POINT接続回線に制限されます。

*OPC 追跡情報の収集がOPTICONNECTに制限されます。

トップ

ソケット・データ (SCKDTA)

ソケット追跡データのサブセットを収集するかどうかを指定します。このパラメーターは、ソケット追跡タイプ(*SCK, *SCKSTDIO, *SCKASCIO, *SCKSEL, *SCKNET, *SCKRSLV, *SCKSSL, *SCKOTHERまたは014000,014001, 014002, 014003, 014004, 014005, 014006, 014007)の1つまたは複数が指定されている場合にしか指定できません。各パラメーター要素は任意指定です。要素の値を指定しない場合には、その要素についてソケット追跡データのフィルタリングは実行されません。たとえば、要素1に*INETを指定した場合には、AF_INETアドレス・ファミリーが使用されている追跡レコードだけが収集されます。要素1に値を指定しない場合には、すべてのソケット・アドレス・ファミリーを使用する追跡レコードが収集されます。

SCKDTAのいずれの要素にも値が指定されていないで、ソケット・データの追跡がまだ活動状態になっていない場合には、ソケット追跡データのフィルター操作は行われません。ソケット・データの追跡がすでに活動状態になっていて、SCKDTA値が指定されていない場合には、前のデータ・フィルター操作の値が有効になります。

SCKDTAパラメーターに指定されたサブセット値がTCPDTAパラメーターに指定された任意のサブセット値との組み合わせで使用されて、完全なサブセット基準が生成されます。

要素1: アドレス・ファミリー

追跡データを収集するソケット・アドレス・ファミリーを指定します。

*INET AF_INETアドレス・ファミリーの追跡を使用可能にします。

*UNIX AF_UNIXおよびAF_UNIX_CCSIDアドレス・ファミリーの追跡を使用可能にします。

*NS AF_NSアドレス・ファミリーの追跡を使用可能にします。

*TELEPHONY

AF_TELEPHONYアドレス・ファミリーの追跡を使用可能にします。

*NETBIOS

AF_NETBIOSアドレス・ファミリーの追跡を使用可能にします。

要素2: ソケット・タイプ

追跡データを収集するソケット・タイプを指定します。

*STREAM

SOCK_STREAM (全二重) ソケット・タイプの追跡を使用可能にします。

*DGRAM

SOCK_DGRAM (データグラム) ソケット・タイプの追跡を使用可能にします。

*RAW SOCK_RAW (ネットワーク・プロトコルへの直接) ソケット・タイプの追跡を使用可能にします。

*SEQPACKET

SOCK_SEQPACKET (全二重シーケンス・パケット) ソケット・タイプの追跡を使用可能にします。

要素3: 記述子

追跡データを収集する1つまたは2つのソケット記述子番号を指定します。

要素4: ソケット・オプション

追跡データを収集するソケット・オプションを指定します。

*SODEBUG

SO_DEBUGソケット・オプションが設定されたアプリケーションの追跡データが収集されます。

[トップ](#)

装置 (DEV)

関連の内部事象が追跡される装置の名前を指定します。このパラメーターを指定できるのは、010803または*SRCSINKが**追跡タイプ (TRCTYPE)**パラメーターに指定された場合だけです。最大16個までの装置名を指定することができます。

装置(DEV), 制御装置(CTL), 回線(LIN), ネットワーク・インターフェース(NWI), およびネットワーク・サーバー(NWS)パラメーターに指定できるソース/シンク・オブジェクトの合計数は16です。たとえば、DEVパラメーターに16個の値を入力すると、他のパラメーターには値を入力することはできません。

1つの追跡テーブルで追跡できるソース/シンク・オブジェクトの最大数は256です。1つのTRCINTコマンドで限界の16個以内の名前付きソース/シンク・オブジェクト数を指定していても、256個のソース/シンク・オブジェクトの限界を超えることができます。この限界を超える方法の例は次の通りです。

- 同じ追跡テーブルにSET(*ON)を複数回指定する
- CTLパラメーターに*ALLDEVを指定する
- LINパラメーターに*ALLCTLを指定する

*NONE

このコマンドで追跡する装置はありません。

名前 内部追跡が開始される装置の名前を指定してください。この装置名は、対応する装置記述に指定された名前と同じものでなければなりません。

[トップ](#)

制御装置 (CTL)

関連する内部事象が追跡される、その制御装置の名前を指定します。このパラメーターを指定できるのは、010803または*SRCSINKが**追跡タイプ (TRCTYPE)**パラメーターに指定された場合だけです。最大16個までの制御装置名を指定することができます。

装置(DEV), 制御装置(CTL), 回線(LIN), ネットワーク・インターフェース(NWI), およびネットワーク・サーバー(NWS)パラメーターに指定できるソース/シンク・オブジェクトの合計数は16です。たとえば、CTLパラメーターに16個の値を入力した場合には、他のパラメーターに値を入力することはできません。

1つの追跡テーブルで追跡できるソース/シンク・オブジェクトの最大数は256です。1つのTRCINTコマンドで限界の16個以内の名前付きソース/シンク・オブジェクト数を指定していても、256個のソース/シンク・オブジェクトの限界を超えることができます。この限界を超える方法の例は次の通りです。

- 同じ追跡テーブルにSET(*ON)を複数回指定する
- CTLパラメーターに*ALLDEVを指定する
- LINパラメーターに*ALLCTLを指定する

単一値

*NONE

このコマンドでは制御装置は追跡されません。

要素1: 制御装置

名前 内部追跡が開始される制御装置の名前を指定してください。この制御装置名は対応する制御装置記述に指定された名前と同じものでなければなりません。

要素2: 接続されている装置

制御装置上の装置を追跡するかどうかを指定します。

*NODEV

指定された制御装置に接続されている装置は追跡されません。

*ALLDEV

指定された制御装置に接続されているすべての装置が追跡されます。接続されている装置はDEV,CTL,LIN,NWIおよびNWSパラメーターに指定できる最大16個のソース/シンク・オブジェクトの数には加算されません。ただし、接続されている装置は、1つの追跡テーブルで追跡できる最大256個のソース/シンク・オブジェクトの数には加算されます。

トップ

行 (LIN)

関連する内部事象が追跡される、その回線の名前を指定します。このパラメーターを指定できるのは、010803が**追跡タイプ (TRCTYPE)**パラメーターに指定された場合だけです。最大16行までの名前を指定することができます。

装置(DEV)、制御装置(CTL)、回線(LIN)、ネットワーク・インターフェース(NWI)、およびネットワーク・サーバー(NWS)パラメーターに指定できるソース/シンク・オブジェクトの合計数は16です。たとえば、LINパラメーターに16個の値を入力した場合には、他のパラメーターに値を入力することはできません。

1つの追跡テーブルで追跡できるソース/シンク・オブジェクトの最大数は256です。1つのTRCINTコマンドで限界の16個以内の名前付きソース/シンク・オブジェクト数を指定していても、256個のソース/シンク・オブジェクトの限界を超えることができます。この限界を超える方法の例は次の通りです。

- 同じ追跡テーブルにSET(*ON)を複数回指定する
- CTLパラメーターに*ALLDEVを指定する
- LINパラメーターに*ALLCTLを指定する

単一値

*NONE

このコマンドでは回線は追跡されません。

要素1: 行

名前 内部追跡が開始される回線の名前を指定してください。この回線名は対応する回線記述に指定されている名前と同じものでなければなりません。

要素2: 接続される制御装置

回線上の制御装置を追跡するかどうかを指定します。

*NOCTL

指定された回線に接続された制御装置は追跡されません。

*ALLCTL

指定された回線に接続されているすべての制御装置が追跡されます。接続されている制御装置は DEV,CTL,LIN,NWIおよびNWSパラメーターに指定できる最大16個のソース/シンク・オブジェクトの最大数には加算されません。ただし、接続されている制御装置は、1つの追跡テーブルで追跡できる最大256個のソース/シンク・オブジェクトの最大数には加算されます。

トップ

ネットワーク・インターフェース (NWI)

関連する内部事象が追跡される、そのネットワーク・インターフェースの名前を指定します。このパラメーターを指定できるのは、010803または*SRCSINKが**追跡タイプ (TRCTYPE)**パラメーターに指定された場合だけです。最大16個までのネットワーク・インターフェース名を指定することができます。

装置(DEV)、制御装置(CTL)、回線(LIN)、ネットワーク・インターフェース(NWI)、およびネットワーク・サーバー(NWS)パラメーターに指定できるソース/シンク・オブジェクトの合計数は16です。たとえば、LINパラメーターに16個の値を入力した場合には、他のパラメーターに値を入力することはできません。

1つの追跡テーブルで追跡できるソース/シンク・オブジェクトの最大数は256です。1つのTRCINTコマンドで限界の16個以内の名前付きソース/シンク・オブジェクト数を指定していても、256個のソース/シンク・オブジェクトの限界を超えることができます。この限界を超える方法の例は次の通りです。

- 同じ追跡テーブルにSET(*ON)を複数回指定する
- CTLパラメーターに*ALLDEVを指定する
- LINパラメーターに*ALLCTLを指定する

単一値

*NONE

このコマンドによってネットワーク・インターフェースは追跡されません。

その他の値

名前 内部追跡が開始されるネットワーク・インターフェースの名前を指定してください。このネットワーク・インターフェース名は、対応するネットワーク・インターフェース記述に指定されているものと同じでなければなりません。

トップ

ネットワーク・サーバー (NWS)

関連の内部事象が追跡されるネットワーク・サーバーの名前を指定します。このパラメーターを指定できるのは、010803または*SRCSINKが**追跡タイプ (TRCTYPE)**パラメーターに指定された場合だけです。最大16個までのネットワーク・サーバー名を指定することができます。

装置(DEV), 制御装置(CTL), 回線(LIN), ネットワーク・インターフェース(NWI), およびネットワーク・サーバー(NWS)パラメーターに指定できるソース/シンク・オブジェクトの合計数は16です。たとえば, LINパラメーターに16個の値を入力した場合には, 他のパラメーターに値を入力することはできません。

1つの追跡テーブルで追跡できるソース/シンク・オブジェクトの最大数は256です。1つのTRCINTコマンドで限界の16個以内の名前付きソース/シンク・オブジェクト数を指定していても, 256個のソース/シンク・オブジェクトの限界を超えることができます。この限界を超える方法の例は次の通りです。

- 同じ追跡テーブルにSET(*ON)を複数回指定する
- CTLパラメーターに*ALLDEVを指定する
- LINパラメーターに*ALLCTLを指定する

単一値

***NONE**

ネットワーク・サーバーはこのコマンドによって追跡されません。

その他の値

名前 内部追跡が開始されるネットワーク・サーバーの名前を指定してください。このネットワーク・サーバー名は, 対応するネットワーク・サーバー記述に指定されたものと同じでなければなりません。

[トップ](#)

ハードウェア資源 (RSRCNAME)

関連した内部事象が追跡されるハードウェア資源の名前を指定します。このパラメーターを指定できるのは, 014700または011900が**追跡タイプ (TRCTYPE)**パラメーターに指定された場合だけです。

注: 10個のハードウェア資源(RSRCNAME)の結合合計が使用できます。

単一値

***NONE**

ハードウェア資源はこのコマンドでは追跡されません。

その他の値

名前 内部追跡を開始するハードウェア資源の名前を最高10まで指定してください。

[トップ](#)

装置 (OUTDEV)

保留された追跡レコードが書き出されるテープ装置または光ディスク装置を指定します。**追跡オプションの設定 (SET)**パラメーターに*SAVEを指定した場合には, このパラメーターを指定しなければなりません。

名前 テープまたは光ディスク装置の装置記述の名前を指定します。

[トップ](#)

タスク情報 (TASKINF)

すべてのライセンス内部コード(LIC)タスクの情報がスプール・ファイルまたは出力装置に書き出されるかどうかを指定します。このパラメーターは、SET(*OFF)またはSET(*SAVE)が指定されている場合にのみ指定することができます。

***TRCREF**

指定された追跡テーブルの中の追跡レコードによって参照されたLICタスクの情報だけが書き出されます。

***ALL** 追跡が活動状態の時に存在していたすべてのLICタスクの情報が書き出されます。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力をジョブのスプール出力で印刷するか、あるいはデータベース・ファイルへ送るかを指定します。

***PRINT**

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

***OUTFILE**

出力は、出力を受け取るファイル (**OUTFILE**)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

[トップ](#)

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在していない場合には、このコマンドが指定されたライブラリー内にデータベース・ファイルを作成します。ファイルが作成される場合には、ファイルの共通権限は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンド出力が送られる先のデータベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。ファイルが見つからない場合には、現行ライブラリーにファイルが作成されます。現行ライブラリーが存在していない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

注: 新しいファイルが作成される場合には、システム・ライブラリーQSYS中のシステム・ファイルQASCTRCIがモデルとして使用されます。

[トップ](#)

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、出力を指示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

***FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。OUTMBR (メンバー名) が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがそのメンバーを作成します。

メンバーが存在している場合には、レコードを既存メンバーの終りに追加するか、既存メンバーを消去してレコードを追加することができます。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

***REPLACE**

指定したデータベース・ファイル・メンバー中に既存のレコードは、新規レコードで置き換えられます。

***ADD** 新規レコードが指定されたデータベース・ファイル・メンバーの既存情報に追加されます。

[トップ](#)

メッセージの監視 (WCHMSG)

監視対象の最大5個のメッセージIDを指定します。*NONE以外の値が指定された場合には、メッセージを監視する対象の位地をWCHMSGQパラメーターに指定する必要があります。監視対象メッセージが指定されたメッセージ待ち行列またはログに追加されると、追跡出口プログラムが呼び出されます。追跡出口プログラムが定義されていない場合は、その追跡は停止します。

単一値

***NONE**

メッセージは監視されません。

要素1: メッセージ識別コード

名前 監視対象となる7文字のメッセージIDを指定します。

要素2: 比較データ

指定されたメッセージIDと一致するメッセージを指定されたメッセージ待ち行列またはログに追加する場合に、使用する比較データを指定します。メッセージ・データに指定されたテキストが含まれる場合は、その監視対象条件が真になります。メッセージ・データに指定されたテキストが含まれていない場合は、追跡機能が続行されます。

***NONE**

比較データは指定されません。指定されたメッセージIDと一致するメッセージを指定されたメッセージ待ち行列またはログに追加する場合には、その監視対象条件が真になります。

文字値 監視対象メッセージのメッセージ・データと比較するために使用するテキスト・ストリングを指定します。このテキストが監視対象メッセージのメッセージ・データ中のどこかで検出された場合は、その監視条件は真とみなされます。このテキストは大文字小文字の区別が行われます。比較データは2つのフィールドにまたがった突き合わせには使用できませんが、フィールド全体またはどれかのフィールドのサブストリングを突き合わせることはできます。

[トップ](#)

監視されたメッセージ待ち行列 (WCHMSGQ)

WCHMSGパラメーターに指定されたメッセージ識別コードについて監視する位置を指定します。システム操作員メッセージ待ち行列、活動記録ログ、他のメッセージ待ち行列、およびジョブ・ログに追加しているメッセージの監視を指定することができます。最大3個のメッセージ待ち行列または特殊値を指定することができます。

要素1: メッセージ待ち行列

単一値

***SYSOPR**

システム操作員メッセージ待ち行列（ライブラリーQSYS中のQSYSOPRメッセージ待ち行列）に追加されるメッセージを監視します。

***JOBLOG**

監視されたジョブ (WCHJOB)パラメーターに指定されたジョブのジョブ・ログに追加されるメッセージを監視します。

***HSTLOG**

活動記録ログQHSTに追加されるメッセージを監視します。

修飾子1: メッセージ待ち行列

名前 監視したいメッセージ待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

監視されたジョブ (WCHJOB)

WCHMSGパラメーターに指定されたメッセージについてそのジョブ・ログが監視される、そのジョブを指定します。*JOBLOGがWCHMSGQパラメーターに指定された場合は、指定されたジョブだけが監視されません。最大5個のジョブ名を指定することができます。

単一値

* _ この追跡コマンドを出したジョブのジョブ・ログだけが監視されます。

要素1: ジョブ名

修飾子1: ジョブ名

総称名 監視されるジョブの総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば, ABC*)です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称ジョブ名は、総称接頭部で始まるジョブ名をもつすべてのジョブを指定します。

名前 監視されるジョブの名前を指定します。

修飾子2: ユーザー

名前 監視されるジョブのユーザー名を指定します。

修飾子3: 番号

***ALL** 指定したジョブ名およびユーザー名をもつすべてのジョブが監視されます。

000001-999999

ジョブ名およびユーザー名をさらに修飾するジョブ番号を指定してください。総称ジョブ名修飾子が指定された場合には、ジョブ番号を指定することはできません。

LICログ項目の監視 (WCHLICLOG)

監視の対象となる最大5個のライセンス内部コード(LIC)ログ項目識別コードを指定します。各LICログ項目には、メジャーとマイナーのコードが含まれています。指定されたメジャーとマイナーのコードおよび指定された比較データのどれかと一致するLICログ項目が追加される場合は、条件の監視を満たすこととなります。ログ項目の監視がLICログに追加される時には、指定された比較データと一致しない場合でも追跡出口プログラムが呼び出されます。追跡出口プログラムが定義されていない場合は、その追跡は停止します。

単一値

***NONE**

LICログ項目は監視されません。

要素1: メジャー・コード

ALL** LICログ項目のどのメジャー・コードも一致とはみなされません。ALL**がメジャー・コードに指定された場合は、LICログ項目マイナー・コードに***ALL**を指定することはできません。

文字値 監視対象となるLICログ・メジャー・コードを指定します。4桁のコードの各文字に16進数または疑問符のいずれかを指定することができます。疑問符はワイルドカード文字であり、その桁の任意の数字と一致することになります。最大3個のワイルドカード文字を指定することができます。

要素2: マイナー・コード

ALL** LICログ項目のどのマイナー・コードも一致とみなされません。ALL**がマイナー・コードに指定された場合は、LICログ項目メジャー・コードに***ALL**を指定することはできません。

文字値 監視対象となるLICログ・マイナー・コードを指定します。4桁のコードの各文字に16進数または疑問符のいずれかを指定することができます。疑問符はワイルドカード文字であり、その桁の任意の数字と一致することになります。最大3個のワイルドカード文字を指定することができます。

要素3: 比較データ

指定されたメジャーとマイナー・コードと一致するログ項目をライセンス内部コード(LIC)ログに追加する場合に、使用する比較データを指定します。このテキストが監視対象ログ項目のLICログ項目データ・フィールド中で検出されない場合には、その監視対象条件が真になります。このテキストが監視対象ログ項目のLICログ項目データ・フィールド中で検出されないで、出口プログラムがTRCPGMパラメーターに指定されない場合には、追跡機能は続行します。このログ項目が指定されたメジャーとマイナーのコードと一致して、出口プログラムはTRCPGMパラメーターに指定されているが、その項目データに指定されたテキストが含まれていない場合は、追跡を続行すべきか、停止すべきかを判別するために、出口プログラムが呼び出されます。

***NONE**

比較データは指定されません。指定されたメジャーとマイナーのコードと一致するLICログ項目をLICログに追加する場合には、監視対象条件が真になります。

文字値 監視対象ログ項目の項目データと比較するために使用するテキスト・ストリングを指定します。このテキストが監視対象ログ項目のLICログ項目データ・フィールド中で検出された場合には、その監視条件が真とみなされます。このテキストは大文字小文字の区別が行われます。比較できるLICログ・フィールドはTDE番号、タスク名、サーバー名、ジョブ名、ユーザーID、ジョブ番号、スレッドID、例外ID、LICモジュール・コンパイル2進数タイム・スタンプ、LICモジュール・オフセット、LICモジュールRU名、LICモジュール名、LICモジュール・エントリー・ポイント名です。比較データは2つのフィールドにまたがった突き合わせには使用できませんが、フィールド全体またはどれかのフィールドのサブストリングを突き合わせることはできます。

例外IDの監視の時には、例外IDの16進数の4桁すべてを指定しなければなりません。また、例外IDのフィールドに対してのみ比較し、他のフィールドと一致する可能性があるサブストリングは回避したい場合は、接頭部MCHを指定することもできます。

トップ

監視する時間の長さ (WCHTIMO)

メッセージまたはライセンス内部コード(LIC)ログ項目での監視の時間制限(分単位)を指定します。指定された時間が経過すると、追跡出口プログラムが呼び出されて(これがTRCPGMパラメーターに指定された場合)、追跡は終了されて、メッセージCPI3999がシステム操作員メッセージ待ち行列に送信されます。

1440 特定メッセージまたはLICログ項目の監視の時間制限は1440分(24時間)です。

*NOMAX

特定メッセージまたはLICログ項目の監視の時間制限はありません。

1-43200

どの監視対象条件とも一致しなかった時に、追跡が活動のままとなっている分数を指定します。

トップ

追跡プログラム (TRCPGM)

ユーザー定義の追跡コマンドおよびプロシージャで呼び出されるプログラムを指定します。

次の時に追跡プログラムが呼び出されます。

- 適用業務追跡が開始する前
- WCHMSGパラメーターに指定されたメッセージIDの一致、あるいはWCHLICLOGパラメーターに指定されたライセンス内部コード(LIC)ログ項目の一致があった後。
- TRCPGMITVパラメーターに指定された時間間隔に達した時。
- WCHTIMOパラメーターに指定された監視の時間の長さに達した時。

追跡プログラムに関連して3つの入力パラメーターと1つの出力パラメーターがあります。この4つのパラメーターは必須です。

1	追跡オプション設定	入力	CHAR(10)
2	予約済み	入力	CHAR(10)
3	エラー検出	出力	CHAR(10)
4	比較データ	入力	CHAR(*)

「追跡オプション設定」パラメーターで許可される値は次の通りです。

***ON** 追跡情報の収集が開始される時には追跡機能の監視は開始しています。

*MSGID

WCHMSGパラメーターに指定されたメッセージIDと一致しました。

*LICLOG

WCHLICLOGパラメーターに指定されたLICログと一致しました。

*CMPDATA

LICログのメジャーとマイナーのコードは一致しましたが、比較データが一致しませんでした。

*INTVAL

TRCPGMITVパラメーターに指定された時間間隔が経過しました。

*WCHTIMO

WCHTIMOパラメーターに指定された監視の時間の長さが経過しました。

「予約済み」パラメーターはブランクに設定する必要があります。

「エラーの検出」パラメーターで許可される値は次の通りです。

***CONTINUE**

追跡事象機能の追跡および監視の実行が続行します。

***STOP**

追跡事象機能の追跡および監視が終了されます。

***ERROR**

カスタマー追跡プログラムによってエラーが検出されました。

「追跡オプション設定」パラメーターに*MSGIDが指定された時に「比較データ」パラメーターで許可される値は次の構造となります。

オフセット	タイプ	フィールド
DEC	HEX	
0	0	BINARY(4) 追跡情報の長さ
4	4	CHAR(7) メッセージID
11	B	CHAR(9) 予約済み
20	14	BINARY(4) 比較データに対するオフセット
24	18	BINARY(4) 比較データの長さ
*	*	CHAR(*) メッセージ比較データ

「追跡オプション設定」パラメーターに*LICLOGまたは*CMPDATAが指定された時に「比較データ」パラメーターで許可される値は次の構造となります。

オフセット	タイプ	フィールド
DEC	HEX	
0	0	BINARY(4) 追跡情報の長さ
4	4	CHAR(4) LICログ・メジャー・コード
8	8	CHAR(4) LICログ・マイナー・コード
12	C	CHAR(8) LICログID
20	14	BINARY(4) 比較データに対するオフセット
24	18	BINARY(4) 比較データの長さ
*	*	CHAR(*) LICログ比較データ

「追跡オプション設定」パラメーターに*ON, *INTVALまたは*WCHTIMOが指定された時に「比較データ」パラメーターで許可される値は次の構造となります。

オフセット	タイプ	フィールド
DEC	HEX	
0	0	BINARY(4) 追跡情報の長さ (常に4)

追跡出口プログラム・インターフェースの詳細については、[HTTP://WWW.ISERIES.IBM.COM/INFOCENTER](http://www.iseries.ibm.com/infocenter)にあるISERIES INFORMATION CENTERの「SYSTEM API REFERENCE」情報を参照してください。

単一値

***NONE**

追跡出口プログラムは定義されません。監視対象メッセージまたはライセンス内部コード(LIC)ログ項目を追加する場合、あるいは指定された監視時間制限を超えた場合には、追跡機能は終了します。

修飾子1: 追跡プログラム

名前 追跡出口プログラムの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

名前 ユーザー出口プログラムが入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

時間間隔 (TRCPGMITV)

追跡出口プログラムを呼び出す頻度を指定します。

***NONE**

時間間隔は指定されません。時間間隔が経過したので、追跡出口プログラムは呼び出されません。

1-9999

追跡出口プログラムを呼び出す頻度の時間の間隔(秒数)を指定します。これは、**監視する時間の長さ (WCHTIMO)**パラメーターに指定された時間より小さくなければなりません。

[トップ](#)

TRCINTの例

例1:構成要素データ追跡および呼び出し追跡を開始する

```
TRCINT SET(*ON) TRCTYPE(010100 010400 050500 051200)
```

このコマンドは、リソース管理およびデータベースの構成要素データ追跡と呼び出し追跡を開始します。構成要素データ追跡レコードを収集するには、データベース・ファイルと関連したデータベース操作が使用されます。

例2:回線および制御装置を追跡する

```
TRCINT SET(*ON) TRCTYPE(*SRCSINK) TRCTBL(*SYSDFT)
      DEV(WS1 WS2 WS3) CTL((C1) (C2)) LIN((L1) (L2))
```

このコマンドは、装置WS1,装置WS2,装置WS3,回線L1,回線L2,制御装置C1,および制御装置C2を含むソース/シンク管理(装置サポート)操作の構成要素データ追跡を開始します。

例3:追跡を停止して追跡テーブルを消去する

```
TRCINT SET(*END) TRCTBL(*SYSDFT)
```

このコマンドは、すべての追跡を停止し、システム省略時追跡テーブルから追跡レコードを削除します。

例4:通信追跡サービス機能を追跡する

```
TRCINT SET(*ON) TRCTYPE(*CMNTRC)
```

このコマンドは、通信追跡サービス機能の構成要素データ追跡を開始します。

例5:ジョブ・フィルター操作機能を使用する

```
TRCINT SET(*ON) TRCTBL(MYFTPTRACE)
      TRCTYPE(*TCPIP) JOB(QTCP/QTFTP*)
```

このコマンドは、TCP/IP追跡を開始して、ユーザー名QTCPと接頭部QTFTPで始まるジョブ名をもつジョブで収集された追跡ポイントの追跡レコードだけを収集します。追跡レコードは追跡テーブルMYFTPTRACEに保管されます。

例6:追跡の終了に対するメッセージ用の追跡および監視を開始する

```
TRCINT SET(*ON) TRCTYPE(*CMNTRC) WCHMSG((MCH2804))
      WCHMSGQ((*SYSOPR) (*JOBLOG))
      WCHJOB((*ALL/MYUSER/MYJOBNAME))
      TRCPGM(MYLIB/TRCEXTPGM)
```

このコマンドは、通信追跡サービス機能の構成要素データ追跡を開始します。MCH2804メッセージがシステム・オペレーター・メッセージ待ち行列上または*ALL/MYUSER/MYJOBNAMEジョブ・ログ内部で見つかると、追跡は終了します。また、MYLIB/TRCEXTPGMが追跡出口プログラムとして指定されます。

例7:追跡の終了に対するLICログ項目用の追跡および監視を開始する

```
TRCINT SET(*ON) TRCTYPE(*CMNTRC)
      WCHLICLOG(('99??' 9932 MYJOBNAME))
      WCHTIMO(*NOMAX)
```

このコマンドは、通信追跡サービス機能の構成要素データ追跡を開始します。99で始まっているメジャー・コードおよびマイナー・コード9932をもつライセンス内部コード(LIC)ログ項目がシステム上に生成されると、追跡は終了します。また、LICログ情報にはテキスト「MYJOBNAME」が入っている必要があります。WCHTIMOパラメーター上の*NOMAXは、イベントが起こるまで、またはENDTRCコマンドを手動で出すまで、追跡が活動状態になることを示します。

例8:出力ファイルに追跡出力を送信する

```
TRCINT SET(*OFF) OUTPUT(*OUTFILE)
      OUTFILE(MYOUTFILE) OUTMBR(MYOUTMBR)
```

このコマンドは、データ追跡を使用してメンバーMYOUTMBRをもつ出力ファイルMYOUTFILEを生成します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: TRCINT

*ESCAPE メッセージ

CPD3683

TRCFULLパラメーターはSET(*ON)の場合にだけ有効です。

CPD3684

指定されたパラメーターはSET(*ON)を指定した場合にだけ有効です。

CPD3685

SLTTRCPNTまたはOMTTRCPNTパラメーターは互いに排他的です。

CPD3686

TCPDTAが有効なのはTRCTYPE(*TCPIP)またはソケットTRCTYPE値の1つまたは複数を指定した場合だけです。

CPD3687

SCKDTAが有効なのは1つまたは複数のソケットTRCTYPE値が指定された場合だけです。

CPD3688

ジョブ・タイプ(JOBTYPE)パラメーターはTRCTYPE(*MPL)の場合にだけ有効です。

CPD3689

ジョブ追跡間隔(JOBTRCITV)パラメーターはTRCTYPE(*MPL)の場合にだけ有効です。

CPD368A

活動状態の追跡テーブルの追跡点選択基準を変更することはできません。

CPD36C0

OUTDEVパラメーターはSET(*SAVE)の場合にだけ有効である。

CPD36C1

SIZEパラメーターはSET(*ON)またはSET(*SIZE)の場合にだけ有効です。

CPD36CD

TASKINFパラメーターはSET(*OFF)またはSET(*SAVE)の場合にだけ有効です。

CPD3983

パラメーターSIZEの範囲が無効です。

CPD3990

ユーザー番号修飾子が無効です。

CPD3991

ジョブ、スレッド識別コード、またはタスクが活動状態ではありません。

CPF3515

追跡要求またはオブジェクトが多すぎます。

CPF3516

追跡テーブルはいっぱいです。

CPF3517

組み込むスレッドIDに対して*SELECTを指定することはできない。

CPF3518

終了の日付と時刻が開始の日付と時刻より前になっている。

CPF3659

指定されたCTL, DEV, LIN, NWI,およびのNWS合計が許容限界より大きい。

CPF3679

保守機能が完了コード&1修飾子&2を戻した。

CPF3683

印刷装置ファイルをオープンしようとした時にエラーが起こった。

CPF3684

印刷装置ファイルをクローズしようとした時にエラーが起こった。

CPF3685

印刷ファイルにデータを書き込む時にエラーが起こった。

CPF3686

保守機能がエラー・メッセージを出して終了した。

CPF3687

ファイルをオープンしようとしている時にエラーが起こった。

CPF3688

テープまたは光ディスク・ファイルのクローズ時にエラーが起こった。

CPF3689

テープまたは光ディスク装置にデータを書き込む時にエラーが起こった。

CPF368A

追跡テーブル・サイズは変更されていない。

CPF3692

テープまたは光ディスク装置にデータを書き出そうとした時にエラーが起こった。

CPF3693

エラーが起こったので保守機能は終了した。

CPF3694

保守機能を開始することができない。

CPF3695

追跡テーブルが存在していない。

CPF3696

追跡が記録されていない。

CPF3697

追跡タイプのパラメーター値が抜けている。

CPF7A11

追跡テーブル&1が見つかりません。

CPF7A13

追跡テーブルを作成することができません。

CPF7A15

追跡バッファを消去しなければなりません。

CPF7A17

追跡はすでに活動状態になっている。

CPF7A1A

活動状態の追跡テーブルの追跡点選択基準を変更することはできません。

CPF7A1C

IPアドレスが正しくない。

CPF98A2

&1コマンドは認可されていない。

[トップ](#)

ジョブ追跡 (TRCJOB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ追跡(TRCJOB)コマンドは、現行ジョブまたはそのジョブに送られたサービス・ジョブ開始(STRSRVJOB)コマンドの結果としてサービスされたジョブで起こる、オリジナル・プログラム・モデル(OPM)のプログラムおよび統合化言語環境(ILE)プロシーチャーの呼び出しおよび戻りを制御します。このコマンドは追跡をオンまたはオフにセットし、モジュール・フロー、オペレーティング・システムのデータ収集(CLコマンドの追跡を含む)、またはその両方を追跡することができます。

追跡レコードは、収集するときに内部追跡記憶域に記憶されます。追跡が終了すると、追跡レコードはスプール印刷装置ファイルQPSRVTRCに書き出すことができます。また、追跡レコードをデータベース出力ファイルに送ることもできます。

サービス・ジョブ開始(STRSRVJOB)をTRCJOBコマンドの前に入力した場合には、追跡されるジョブはSTRSRVJOBコマンドによって識別されたジョブです。サービスを受けるジョブからの追跡出力は、追跡がオフに設定された後、またはサービスを受けるジョブが終了した後に、サービスしているジョブに戻されません。

制約事項:

1. データベース出力ファイルのレコード様式は、IBM提供の出力ファイルQATRCJOBのレコード様式と一致しなければなりません。
2. 追跡の開始および終了の間に処理された追跡レコードの数は100万を超えてはいけません。
3. ジョブ転送(TFRJOB)コマンドは、TRCJOBコマンドが活動状態である間に出してはなりません。
4. 次のユーザー・プロファイルはコマンドを使用するための私用認可を受けています。
 - QPGMR
 - QSRV
 - QSRVBAS
 - QSYSOPR
 - QRJE

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SET	追跡オプションの設定	*ON, *OFF, *END	オプション、位置 1
TRCTYPE	追跡タイプ	*ALL, *FLOW, *DATA	オプション、位置 2
MAXSTG	使用最大記憶域	1-16000, 4096	オプション、位置 3

キーワード	記述	選択項目	注
TRCFULL	追跡データ満杯時の処理	*WRAP , *STOPTRC	オプション、定位置 4
EXITPGM	追跡の前に呼び出すプログラム	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 追跡の前に呼び出すプログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
SLTPRC	追跡プロシージャの選択	単一値: *ALL , *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: プログラム	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
	要素 2: タイプ	*PGM , *SRVPGM	
SLTTHD	組み込むスレッドID	単一値: *ALL , *SELECT その他の値 (最大 20 回の繰り返し): 16 進値	オプション
OUTPUT	出力	*PRINT , *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE , *ADD	

トップ

追跡オプションの設定 (SET)

追跡レコードの収集を開始するか停止するかを指定します。

- *ON** 追跡レコードの収集を開始します。
- *OFF** 追跡レコードの収集が停止し、追跡レコードはスプール印刷装置ファイルまたは出力ファイルに書き出されます。
- *END** 追跡レコードの収集を停止し、既存の追跡レコードをすべて削除します。スプール印刷装置ファイルは作成されません。

トップ

追跡タイプ (TRCTYPE)

追跡ファイルに記憶する追跡データのタイプを指定します。

- *ALL** 収集されたすべての追跡データを追跡レコード内に記憶します。これには、制御のフローの追跡および追跡データそのものも含まれます。

***FLOW**

制御のフローは、OPMプログラムおよびILEプロシージャーが呼び出された時点、および制御が戻された時点で追跡されます。

***DATA**

オペレーティング・システム内のあらかじめ定義された追跡点のデータを、追跡レコードに記憶します。これには、実行されたCLコマンドの追跡レコードも含まれます。

[トップ](#)

使用最大記憶域 (MAXSTG)

収集された追跡レコードに使用する最大記憶域を指定します。

4096 最大4096 Kバイトの記憶域が使用されます。

1-16000

追跡レコードを記憶するために使用される記憶域の最大量（キロバイト）を指定してください。
(1 Kバイトは1024バイトです。)

[トップ](#)

追跡データ満杯時の処理 (TRCFULL)

記憶域がすべて使用された場合に、追跡レコードを循環させる（最も古いレコードを新しいレコードで置き換える）か、追跡を停止するかを指定します。

***WRAP**

追跡ファイルがいっぱいになると、追跡は始めに折り返します。新しいレコードが収集されるにつれて、最も古い追跡レコードが新しいレコードによって書き換えられます。

***STOPTRC**

追跡ファイルが追跡レコードでいっぱいになった場合に、追跡を停止します。

[トップ](#)

追跡の前に呼び出すプログラム (EXITPGM)

各追跡レコードを収集する直前に制御権を与えられるユーザー作成プログラムの名前およびライブラリーを指定します。

注: 出口プログラムが使用された時に、追跡される項目が失われることがあります。追跡レコードの消失の危険性を避けたい場合には、出口プログラムを使用しないでください。

単一値

***NONE**

ユーザー作成のプログラムを呼び出しません。

修飾子1: 追跡の前に呼び出すプログラム

名前 各追跡レコードが収集される前に呼び出されるユーザー作成プログラムの名前を指定してください。このプログラムは、パラメーターとして渡された追跡レコードを調べ、最初の2文字を変更することができます。

出口プログラム・インターフェースの形式に関する情報は、ISERIES INFORMATION CENTERのサイトHTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTERで、API解説（英文）に示されています。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

プログラムを見つけるライブラリーを指定してください。

トップ

追跡プロシージャの選択 (SLTPRC)

追跡に組み込むILE（統合化言語環境）プロシージャ呼び出しおよび戻りを指定します。

単一値

***ALL** すべてのILEプロシージャ呼び出しと戻りが追跡に含まれます。

***NONE**

ILEプロシージャ呼び出しまたは戻りは追跡に含まれません。

要素1: プログラム

修飾子1: プログラム

名前 すべてのプロシージャ呼び出しと戻りが追跡に組み込まれる、その最大50のILEプログラムおよびサービス・プログラムの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 プログラムまたはサービス・プログラムが入っているライブラリーを指定します。

要素2: タイプ

***PGM** 指定されるプログラムはバインド済みプログラムです。

***SRVPGM**

指定されるプログラムはバインド済みサービス・プログラムです。

[トップ](#)

組み込むスレッドID (SLTTHD)

その呼び出しおよび戻りが追跡に組み込まれる最高20までのスレッドのリストを指定します。指定されたスレッド識別コードの追跡レコードだけが組み込まれます。

単一値

***ALL** すべてのスレッドの呼び出しおよび戻りが追跡に組み込まれます。

***SELECT**

その追跡レコードを組み込みたい最高20までを選択することができるスレッド識別コードのリストが表示されます。

その他の値

16進値

その追跡レコードを組み込みたい最高20までのスレッドの識別コードを指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力をジョブのプール出力で印刷するか、あるいはデータベース・ファイルへ送るかを指定します。

***PRINT**

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

***OUTFILE**

出力は、**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

[トップ](#)

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在していない場合には、このコマンドが指定されたライブラリー内にデータベース・ファイルを作成します。ファイルが作成される場合には、ファイルの共通権限は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンド出力が送られる先のデータベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。ファイルが見つからない場合には、現行ライブラリーにファイルが作成されます。現行ライブラリーが存在していない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

*FIRST

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。そのメンバーがすでに存在している場合には、既存のメンバーの終わりに新しいレコードを追加するか、あるいはそのメンバーを消去して新しいメンバーを追加するオプションがあります。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。存在していない場合には、システムが作成します。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

*REPLACE

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

[トップ](#)

TRCJOBの例

例1:制御のフローを追跡する

```
TRCJOB TRCTYPE(*FLOW) MAXSTG(40)
```

このコマンドは、現行ジョブのフローを追跡します。追跡レコードは、各OPMプログラムおよびILEプロシージャー呼び出しに対して収集され、ジョブで起こったそれを戻します。追跡ファイルには40Kの記憶域が入り、その容量の記憶域が追跡レコードでいっぱいになると折り返されます（最も古いレコードは新規レコードによって置き換えられます）。

例2:追跡操作を停止する

```
TRCJOB SET(*OFF) OUTPUT(*OUTFILE)
        OUTFILE(QGPL/TRCJOB) OUTMBR(TRCDTA)
```

このコマンドは追跡を停止して、出力をデータベース・ファイルQGPL/TRCJOBに送信します。出力はメンバーTRCDTAに送信されます。

例3:制御のフローを追跡する-特定のILEプロシージャを選択する

```
TRCJOB SET(*ON) TRCTYPE(*FLOW)
        SLTPRC((MYLIB/MYPGM1 *PGM) (MYLIB/MYSRVPGM1 *SRVPGM))
```

このコマンドは、現行ジョブのフローを追跡します。追跡レコードは、すべてのOPMプログラム呼び出しと戻りおよび結合プログラムMYPGM1のILEプロシージャ呼び出しと戻りに対して収集され、サービス・プログラムMYSRVPGM1を結合します。

例4: 1つのスレッドを追跡する

```
TRCJOB SET(*ON) SLTTHD(00000001)
```

このコマンドは、現行ジョブの指定スレッドだけを追跡します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： TRCJOB

*ESCAPE メッセージ

CPF2C94

OUTFILEの処理中にエラーが起こった。追跡が停止されました。

CPF2C95

追跡はすでに活動状態である

CPF2C96

追跡はすでにオフになっている。

CPF3510

ユーザー出口プログラムが指定したライブラリーに見つからない。

CPF3511

追跡はすでに活動状態である。

CPF3512

追跡はすでにオフになっている。

CPF3513

別のジョブから開始された追跡をTRACE OFFにセットすることはできない。

CPF3521

追跡テーブル用の記憶域が十分でない。

CPF3530

索引QSERVICEの項目が矛盾している。

CPF3542

ジョブが保守中のため、ジョブは追跡されない。

CPF3548

保守中のジョブの実行が完了した。

CPF3675

QSYSライブラリーを割り振ることができない。

CPF3909

サービス・コマンドが処理されないことになる。

CPF3918

保守要求が取り消された。

CPF3925

ファイル&1をオープンすることができない。

CPF3936

保守の対象となるジョブが追跡開始前に終了した。

CPF3950

ファイル&1に対してエラー・メッセージ&2を受け取った。要求は終了しました。

CPF3951

ファイル&1をファイル名&2に一時変更することはできない。

CPF3957

出口プログラム・ライブラリー&2の使用は認可されていない。

CPF3969

ファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。出力は未完了の場合があります。

CPF6611

OUTFILEの処理中にエラーが起こり、追跡が終了した。

CPF6801

ユーザーが&1キーを押して、コマンド・プロンプトを終了した。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF98A4

他の一部の処理についてスレッド制限が存在します。

[トップ](#)

REXXの追跡 (TRCREX)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

コマンド項目または制御言語(CL)プログラミング・レベルからインタープリター機能をオンまたはオフにするためには、REXX追跡(TRCREX)コマンドが使用されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SET	追跡オプションの設定	*RESULTS, *ALL, *COMMANDS, *ERROR, *FAILURE, *INTERMEDIATES, *LABELS, *NORMAL, *OFF	オプション、位置 1

[トップ](#)

追跡オプションの設定 (SET)

次に実行するREXXプロシージャの初期追跡の設定値を示します。この設定値は、REXX TRACE命令によって変更されないかぎり、有効なまま残ります。

考えられる値は、次の通りです。

*RESULTS

処理の前に、すべての文節が追跡されます。この追跡は、TRACE ?R命令がREXX プロシージャの中から使用されたかのように行なわれます。

***ALL** 処理の前に、すべての文節が追跡されます。この追跡は、TRACE ?A命令がREXX プロシージャの中から使用されたかのように行なわれます。

*COMMANDS

処理の前およびエラー戻りコードが表示される前に、すべてのホスト・コマンドが追跡されます。この追跡は、TRACE ?C命令がREXXプロシージャの中から使用されたかのように行なわれます。

*ERROR

処理の後に、エラー戻りコードの原因となったすべてのホスト・コマンドが追跡されます。この追跡は、TRACE ?E命令がREXXプロシージャの中から使用されたかのように行なわれます。

*FAILURE

処理の後に、障害の原因となったすべてのホスト・コマンドがそのコマンドからの戻りコードとともに追跡されます。この追跡は、TRACE ?F命令がREXXプロシージャの中から使用されたかのように行なわれます。

***INTERMEDIATE**

処理の前に、すべての文節が追跡されます。式の評価時の中間結果および置き換えられた名前も追跡されます。この追跡は、TRACE ?I命令がREXXプロシージャの中から使用されたかのように行なわれます。

***LABELS**

処理中に、渡されたラベルが追跡されます。この追跡は、TRACE ?L命令がREXXプロシージャの中から使用されたかのように行なわれます。

***NORMAL**

処理の後に、障害のあるすべてのホスト・コマンドが追跡されます。この追跡は、TRACE ?N命令がREXXプロシージャの中から使用されたかのように行なわれます。これが省略時の設定値です。

***OFF** 追跡は行なわれません。この追跡は、TRACE O命令がREXXプロシージャの中から使用されたかのように行なわれます。

トップ

TRCREXの例

例1:ホスト・コマンドの追跡

```
TRCREX SET(*COMMANDS)
```

このコマンドによって、REXXプロシージャのすべてのコマンドが、実行する前に表示されます。

例2:障害のあるホスト・コマンドを追跡

```
TRCREX SET(*NORMAL)
```

このコマンドによって、その結果がFAILURE条件となるすべてのコマンドが表示されます。このコマンドは、REXX追跡操作の通常設定を表示します。

トップ

エラー・メッセージ： TRCREX

なし

トップ

TCP/IP適用業務の追跡 (TRCTCPAPP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IPアプリケーション追跡(TRCTCPAPP)コマンドは、次のTCP/IPアプリケーションの1つで追跡情報の取り込みが必要になった時に、弊社技術員によって使用されます。ファイル転送プロトコル(FTP)、SMTPサーバー、SMTPクライアント、TELNET/VTAPI、ホスト・サーバー、分散データ管理機能(DDM)、仮想プライベート・ネットワーク(VPN)、2層トンネル伝送プロトコル(L2TP)、証明書サービス、POINT-TO-POINT(PPP)、QOS、単純ネットワーク・タイム・プロトコル(NTP)、ディレクトリー・サービス、APACHEにより強化されたHTTPサーバー、またはパケット規則。

制約事項:このコマンドを使用するには、*SERVICE特殊権限があるか、あるいはISERIESナビゲーターのアプリケーション管理サポートを介してオペレーティング・システム/400のサービス追跡機能の使用を許可されている必要があります。指定の適用業務では、システム上で追跡は一度に1つしか活動状態になりません。ユーザーは、追跡される回線、ネットワーク・インターフェース、またはネットワーク・サーバーに対する*USE権限を必要とします。

WCHJOBパラメーターを指定した時には、コマンド発行側は、監視しているジョブのジョブ・ユーザー識別と同じユーザー・プロファイルで実行しなければなりません。また、コマンド発行側はジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限をもつユーザー・プロファイルで実行しなければなりません。

注：このヘルプ・テキスト内にホスト・サーバーという用語が表示された場合に、それは常に次の適用業務ホスト・サーバーの1つを指しています。*CENTRAL, *DTAQ, *RMTCMD, *SIGNON, *NETPRT, *SVRMAP,または*DATABASE。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
APP	TCP/IP適用業務	*FTP, *SMTPSVR, *SMTPCLT, *TELNET, *VTAPI, *CENTRAL, *DTAQ, *RMTCMD, *SIGNON, *NETPRT, *SVRMAP, *DDM, *VPN, *CERTSRV, *L2TP, *PPP, *QOS, *NTP, *HTTP, *DIRSRV, *DATABASE, *PKTRULES	必須, 定位置 1
SET	追跡オプションの設定値	*ON, *OFF, *END, *CHK	オプション, 定位置 2
MAXSTG	追跡用最大記憶域	1-16000, *APP	オプション, 定位置 3
TRCFULL	追跡満杯処置	*WRAP, *STOPTRC	オプション, 定位置 4
ADLTRC	追加の追跡	単一値: *NONE その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *CMNTRC, *TCPIP, *SRCSINK	オプション, 定位置 5

キーワード	記述	選択項目	注
TRCPGM	追跡プログラム	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション、定位置 6
	修飾子 1: 追跡プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
TITLE	追跡タイトル	文字値, *DFT	オプション、定位置 7
USER	ユーザー・プロファイル	単純名	オプション、定位置 8
MAILADR	宛先メール・アドレス	文字値	オプション、定位置 9
HOST	宛先ホスト名	文字値	オプション、定位置 10
RMTNETADR	リモート・ネットワーク・アドレス	要素リスト	オプション、定位置 11
	要素 1: アドレス・ファミリー	*INET	
	要素 2: IPアドレス	文字値	
	要素 3: サブネット・マスク	文字値, 255.255.255.255	
	要素 4: ポート番号	1-65535, *ANY	
LCLNETADR	ローカル・ネットワーク・アドレス	要素リスト	オプション、定位置 12
	要素 1: アドレス・ファミリー	*INET , *UNIX	
	要素 2: IPアドレスまたはUNIXパス	文字値	
	要素 3: サブネット・マスク	文字値, 255.255.255.255	
	要素 4: ポート番号	1-65535, *ANY	
DEVD	装置記述	総称名, 名前	オプション、定位置 13
DEVTYPE	装置タイプ	単一値: *DSP , *PRT その他の値 (最大 6 回の繰り返し): 5251, 5291, 5292, 3196, 3488, 3487, 3179, 3180, 5555, 3477, 3277, 3278, 3279, V100, 3812, 5553	オプション、定位置 14
TRCPNT	追跡ポイント	値 (最大 12 回の繰り返し): 文字値	オプション、定位置 15
ARGLIST	引き数リスト	文字値	オプション、定位置 16
VPNSVR	仮想プライベート・ネットワーク・サーバー	値 (最大 2 回の繰り返し): *KEYMGR , *CNNMGR	オプション、定位置 17
CERTTYPE	証明書サービス・タイプ	*ALL , *DCM , *KEYMGR , *SSL , *OBJSIGN , *OTHER	オプション、定位置 18
DNS	ドメイン・ネーム・サービス	*NO , *YES	オプション、定位置 19
PPPCNNPRF	PPP接続プロファイル	文字値	オプション、定位置 20
TCPTRCDTA	追跡するTCP/IPデータ	*PPPALL , *LCPNCP	オプション、定位置 21
QOSTRCTYPE	QOS追跡タイプ	*ALL , *POLICYD , *RSVPD	オプション、定位置 22

キーワード	記述	選択項目	注
HTTPSVR	HTTPサーバー・インスタンス	文字値	オプション、位置 23
TRCLVL	追跡レベル	*ERROR , *INFO, *VERBOSE	オプション、位置 24
PKTTRCPNT	パケット規則追跡点	*TRAFFIC , *LOAD	オプション、位置 25
CFGOBJ	構成オブジェクト	名前	オプション、位置 26
CFGTYPE	タイプ	*LIN, *NWI, *NWS	オプション、位置 27
WCHMSG	メッセージの監視	単一値: *NONE その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション、位置 28
	要素 1: メッセージ識別コード	名前	
	要素 2: 比較データ	文字値, *NONE	
WCHMSGQ	監視されたメッセージ待ち行列	値 (最大 3 回の繰り返し): 要素リスト	オプション、位置 29
	要素 1: メッセージ待ち行列	単一値: *SYSOPR , *JOBLOG, *HSTLOG その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL	
WCHJOB	監視されたジョブ	単一値: * その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション、位置 30
	要素 1: ジョブ名	修飾ジョブ名	
	修飾子 1: ジョブ名	総称名, 名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000001-999999, *ALL	
WCHLICLOG	LICログ項目の監視	単一値: *NONE その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション、位置 31
	要素 1: メジャー・コード	文字値, *ALL	
	要素 2: マイナー・コード	文字値, *ALL	
	要素 3: 比較データ	文字値, *NONE	
WCHTIMO	監視する時間の長さ	1-43200, 1440 , *NOMAX	オプション、位置 32
TRCPGMITV	時間間隔	1-9999, *NONE	オプション、位置 33

トップ

TCP/IP適用業務 (APP)

TCP/IPアプリケーションを指定します。これは必須パラメーターです。

*CENTRAL

中央ホスト・サーバーの追跡を指定します。

*CERTSRV

証明書サービスの追跡を指定します。

***DATABASE**

データベース・ホスト・サーバーの追跡を指定します。

***DDM** 分散データ管理機能(DDM)サーバーの追跡を指定します。

***DIRSRV**

ディレクトリー・サービスの追跡を指定します。

***DTAQ**

データ待ち行列ホスト・サーバーの追跡を指定します。

***FTP** ファイル転送プロトコル(FTP)サーバーの追跡を指定します。

***HTTP** APACHEにより強化されたHTTPサーバーの追跡を指定します。

***L2TP** 2層トンネル伝送プロトコル(L2TP)の追跡を指定します。

***NETPRT**

ネットワーク印刷ホスト・サーバーの追跡を指定します。

***NTP** SIMPLE NETWORK TIME PROTOCOL (SNTP)クライアントの追跡を指定します。

***PKTRULES**

パケット規則(PKTRULES)の追跡を指定します。

***PPP** POINT-TO-POINTプロトコル(PPP)の追跡を指定します。

***QOS** QUALITY OF SERVICE (QOS)サーバーの追跡を指定します。

***RMTCMD**

リモート・コマンド・ホスト・サーバーの追跡を指定します。

***SIGNON**

サインオン・ホスト・サーバーの追跡を指定します。

***SMTPCLT**

アウトバウンド・メール処理接続を扱うSMTPクライアント・ジョブの追跡を指定します。

***SMTPSVR**

インバウンド・メール処理接続を扱うSIMPLE MAIL TRANSFER PROTOCOL (SMTP)の追跡を指定します。

***SVRMAP**

ポートマッパー・ホスト・サーバーの追跡を指定します。

***TELNET**

TELNETサーバーの追跡を指定します。

***VPN** 仮想専用ネットワーク(VPN)サーバーの追跡を指定します。

***VTAPI**

仮想端末アプリケーション・プログラミング・インターフェースの追跡を指定します。

トップ

追跡オプションの設定値 (SET)

追跡情報の収集を開始するか、停止するか、あるいは状況を表示するかどうかを指定します。

***ON** 追跡情報の収集が開始されます。

- *OFF** 追跡情報の収集が停止され、追跡情報がユーザーのスプール印刷装置ファイルに書き込まれます。PPP追跡の場合には、追跡ファイルは指定されたPPPプロファイルのためのOUTQにも組み込まれます。
- *END** 追跡が終了し、すべての追跡情報が削除されます。追跡情報出力は作成されません。
- *CHK** 指定した適用業務の追跡の状況が検査されます。指定したTCP/IPアプリケーションに対する追跡が活動状態かどうか、このアプリケーションについてTRCTCPAPPが最後に開始された時から指定されているコマンド・パラメーター、および追跡情報の収集に関連したその他の情報を示すメッセージが戻されます。

トップ

追跡用最大記憶域 (MAXSTG)

収集された追跡情報に対して使用される記憶域の最大量（キロバイト）を指定します。

***APP** 各アプリケーション・タイプにより、省略時のバッファ・サイズが定義されます。

- *FTP - 1 ジョブ当たり4096Kバイト
- *SMTPCLT - 1 ジョブ当たり4096Kバイト
- *SMTPSVR - 1 ジョブ当たり4096Kバイト
- *TELNET - 1 ジョブ当たり16000Kバイト
- *VTAPI - 1 ジョブ当たり16000Kバイト
- *CENTRAL - 1 ジョブ当たり16000Kバイト
- *RMTCMD - 1 ジョブ当たり16000Kバイト
- *SIGNON - 1 ジョブ当たり16000Kバイト
- *DTAQ - 1 ジョブ当たり16000Kバイト
- *NETPRT - 1 ジョブ当たり16000Kバイト
- *SVRMAP - 1 ジョブ当たり16000Kバイト
- *DATABASE - 1 ジョブ当たり16000Kバイト
- *DDM - 1 ジョブ当たり16000Kバイト
- *VPN - 1 ジョブ当たり16000Kバイト
- *PKTRULES - 1 ジョブ当たり16000Kバイト
- *L2TP - 1 ジョブ当たり4096Kバイト
- *CERTSRV - 1 ジョブ当たり16000Kバイト
- *PPP - 1 ジョブ当たり4096Kバイト
- *QOS - 1 ジョブ当たり4096Kバイト
- *NTP - 1 ジョブ当たり4096Kバイト
- *HTTP - 1 ジョブ当たり16,000Kバイト
- *DIRSRV - 1 ジョブ当たり300Kバイト

1-16000

追跡レコードを記憶するために使用される記憶域の最大量（キロバイト）を指定してください（1Kは1024バイト）。

トップ

追跡満杯処置 (TRCFULL)

MAXSTGパラメーターで指定した記憶域がすべて使用された時に、追跡レコードを折り返す（最も古いレコードを新しいレコードで置き換える）か、あるいは追跡を停止するかを指定します。

***WRAP**

追跡バッファが満杯になった時に、追跡は始めに折り返します。新しいレコードが収集されるにつれて、最も古い追跡レコードが新しいレコードによって書き換えられます。

***STOPTRC**

追跡バッファが追跡記録で満杯になった時に、追跡が停止します。

トップ

追加の追跡 (ADLTRC)

開始される追加の追跡を指定します。TRCTCPAPPコマンドが対話式に呼び出される時には、ユーザーには選択された追跡のそれぞれについて変更するオプションに関するプロンプトが出されます。このパラメーターは、すべてのアプリケーションに有効です。

***NONE**

追加の追跡は組み込まれません。

***CMNTRC**

指定されたアプリケーションの追跡情報には通信追跡が含まれます。**注:** 入出力ハードウェアの資源の制限により、複数接続PPPプロファイルは、そのPPPプロファイルによって開始されたすべての接続については追跡データを作成しないことがあります。

***TCPIP**

指定されたアプリケーションの追跡情報には単一のTCP/IP構成要素追跡が含まれます。

***SRCSINK**

指定されたアプリケーションの追跡情報にはソース/シンク構成要素追跡が含まれます。

トップ

追跡プログラム (TRCPGM)

ユーザー定義追跡コマンドおよびプロシージャーに対して呼び出されるプログラムの名前を指定します。このパラメーターは、すべてのアプリケーションに有効です。

SET(*ON)の場合、次の時点で追跡プログラムが呼び出されます。

- 適用業務追跡が開始する前
- 通信およびライセンス内部コード(LIC)の追跡が要求された場合には、それが開始された後
- WCHMSGまたはWCHLICLOGパラメーターを指定した場合には、次の時点で追跡プログラムが呼び出されます。
 - WCHMSGパラメーターで指定したメッセージ識別コードと一致した後、あるいはWCHLICLOGパラメーターで指定したLICログが一致した後。
 - TRCPGMITVパラメーターに指定された時間間隔に達した時。

- WCHTIMOパラメーターに指定された監視の時間の長さに達した時。

SET(*OFF)の場合、次の時点で追跡プログラムが呼び出されます。

- LIC追跡が要求された場合には、それが終了する前
- 通信追跡が要求された場合には、それが終了した後
- 適用業務追跡が終了した後

SET(*END)の場合、次の時点で追跡プログラムが呼び出されます。

- LIC追跡および通信追跡が要求された場合には、それが終了した後
- 適用業務追跡が終了した後

TRCTCPAPP CPPは、追跡プログラムにエラーを検出すると、TCP4537診断メッセージを表示します。追跡事象機能の監視が活動状態である場合には、追跡事象機能の追跡および監視は終了し、CPI3999メッセージが理由コード04とともにシステム・オペレーター・メッセージ待ち行列に送信されます。

追跡プログラムに関連して3つの入力パラメーターと1つの出力パラメーターがあります。この4つのパラメーターは必須です。

- 1 追跡オプション設定 入力 CHAR(10)
- 2 適用業務 入力 CHAR(10)
- 3 エラー検出 出力 CHAR(10)
- 4 比較データ 入力 CHAR(*)

追跡オプションの設定値 (SET)パラメーターで使用できる値は次の通りです。

- *ON, 追跡情報の収集が開始されます。
- *OFF, 追跡情報の収集が停止され、追跡情報がユーザーのプール印刷装置ファイルに書き込まれません。
- *END, 追跡が終了し、すべての追跡情報が削除されます。追跡情報出力は作成されません。
- *MSGID, WCHMSGパラメーターに指定されたメッセージIDと一致しました。
- *LICLOG, WCHLICLOGパラメーターに指定されたLICログと一致しました。
- *CMPDATA, LICログのメジャーとマイナーのコードは一致しましたが、比較データが一致しませんでした。
- *INTVAL, TRCPGMITVパラメーターに指定された時間間隔が経過しました。
- *WCHTIMO, WCHTIMOパラメーターに指定された監視の時間の長さが経過しました。

「適用業務」パラメーターに可能な値は、TRCTCPAPPコマンドのAPPパラメーターの値と同じです。

「エラー検出」パラメーターに可能な値は次の通りです。

- *ERROR, カスタマー追跡プログラムによってエラーが検出されました。
- *CONTINUE, 追跡事象機能の追跡および監視の実行が続行します。
- *STOP, 追跡事象機能の追跡および監視が終了されます。

「追跡オプション設定」パラメーターで*MSGIDが指定された時に「比較データ」パラメーターで使用できる値は次の構造となります。

オフセットタイプ フィールド

DEC HEX

0 0 BINARY(4) 追跡情報の長さ

4 4 CHAR(7) メッセージID

11 B CHAR(9) 予約済み

20 14 BINARY(4) 比較データに対するオフセット

24 18 BINARY(4) 比較データの長さ

* * CHAR(*) メッセージ比較データ

「追跡オプション設定」パラメーターで*LICLOGまたは*CMPDATAが指定された時に「比較データ」パラメーターで使用できる値は次の構造となります。

オフセットタイプ フィールド

DEC HEX

0 0 BINARY(4) 追跡情報の長さ

4 4 CHAR(4) LICログ・メジャー・コード

8 8 CHAR(4) LICログ・マイナー・コード

12 C CHAR(8) LICログID

20 14 BINARY(4) 比較データに対するオフセット

24 18 BINARY(4) 比較データの長さ

* * CHAR(*) LICログ比較データ

「追跡オプション設定」パラメーターで*ON, *OFF, *END, *INTVALまたは*WCHTIMOが指定された時に「比較データ」パラメーターで使用できる値は次の構造となります。

オフセットタイプ フィールド

DEC HEX

0 0 BINARY(4) 追跡情報の長さ（ここでは常に4）

追跡出口プログラム・インターフェースの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.ISERIES.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.iseries.ibm.com/eserver/series/infocenter))の「SYSTEM API REFERENCE」情報を参照してください。

単一値

*NONE

ユーザー提供の追跡プログラムは呼び出されません。監視対象メッセージまたはライセンス内部コード(LIC)ログ項目を追加する場合、あるいは指定された監視時間制限を超えた場合には、追跡機能は終了します。

修飾子1: 追跡プログラム

名前 呼び出される追跡プログラムの名前を指定してください。

400 iSeries: OS/400 コマンド STRDBMON (データベース・モニター開始) ~

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** プログラムを見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

プログラムを見つけるために現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

追跡プログラムのライブラリー

プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

追跡タイトル (TITLE)

収集された追跡情報が入るスプール・ファイルの各ページに印刷されるタイトルを指定します。このパラメーターはSET(*OFF)が指定されている時にのみ有効です。

***DFT** 省略時の追跡記述タイトル「TRCTCPAPP出力」が使用されます。

文字値 追跡出力スプール・ファイルの各ページにタイトルとして使用される文字(50文字まで)を指定します。

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル (USER)

特定のユーザー・プロファイルに関連した追跡情報だけが収集されます。このパラメーターはAPP(*FTP)が指定されている時にのみ有効です。

名前 追跡情報が収集されるユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

宛先メール・アドレス (MAILADR)

特定の宛先メール・アドレスに関連した追跡情報だけが収集されます。このパラメーターはAPP(*SMTPSVR)またはAPP(*SMTPCLT)が指定されている時にのみ有効です。

文字値 宛先メール・アドレス (最大255文字まで)は'USERID@ABC.DEF.COM'の形式でなければなりません。

[トップ](#)

宛先ホスト名 (HOST)

特定の宛先ホスト名に関連した追跡情報だけが収集されます。このパラメーターはAPP(*SMTPCLT)が指定されている時にのみ有効です。

文字値 受信側ホスト名を指定してください (最大255文字まで)。この名前は、'ABC.DEF.COM'の形式でなければなりません。

[トップ](#)

リモート・ネットワーク・アドレス (RMTNETADR)

ユーザーは、アドレス・ファミリー、リモートTCP/IPアドレス、サブネット・マスク、およびポート番号を入力することによって、収集される情報の量を制限することができます。このパラメーターが有効であるのは、APP(*FTP)、APP(*SMTPSVR)、APP(*DDM)、APP(HOST SERVER)、APP(*TELNET)、APP(*VTAPI)、またはAPP(*L2TP)が指定されている時だけです。注: L2TPの有効なフィルターはIPアドレス要素だけです。

要素1: アドレス・ファミリー

***INET** AF_INETアドレス・ファミリーのフィルター。

要素2: IPアドレス

文字値 追跡情報が収集されるリモートTCP/IPアドレスを指定してください。

要素3: サブネット・マスク

255.255.255.255

このパラメーターの2番目の要素として指定されたIPアドレスについてのみ追跡が実行されます。

文字値 追跡情報が収集されるサブネット・マスクを指定してください。

要素4: ポート番号

***ANY** TCP/IPポート番号の省略時の値は*ANYであり、これはリモート・システム上の任意のポートに関連した（およびIPアドレスとサブネット・マスクによって修飾された）トラフィックが追跡されることを意味します。

1-65535

使用するポート番号を指定します。番号が指定された場合には、サブネット・マスク値も指定しなければなりません。

[トップ](#)

ローカル・ネットワーク・アドレス (LCLNETADR)

ユーザーは、アドレス・ファミリー、ローカルTCP/IPアドレス、サブネット・マスク、およびポート番号を入力することによって、収集される情報の量を制限することができます。このパラメーターは、APP(*DDM)、APP(ホスト・サーバー)、APP(*TELNET)、またはAPP(*VTAPI)が指定されている時にのみ有効です。

要素1: アドレス・ファミリー

***INET** AF_INETアドレス・ファミリーのフィルター。

***UNIX** AF_UNIXアドレス・ファミリーのフィルター。*UNIXを選択できるのはAPP(*DDM)またはAPP(ホスト・サーバー)の場合だけであることに注意してください。

要素2: IPアドレスまたはUNIXパス

文字値 このパラメーターの要素1に*INETが指定されている時には、追跡情報が収集されるローカルTCP/IPアドレスを指定してください。

このパラメーターの要素1に*UNIXが指定されている時には、追跡情報が収集されるUNIXパスを指定してください。UNIXパスを入力できるのはAPP(*DDM)またはAPP(ホスト・サーバー)の場合だけであることに注意してください。

要素3: サブネット・マスク

255.255.255.255

このパラメーターの2番目の要素として指定されたIPアドレスについてのみ追跡が実行されます。

文字値 追跡情報が収集されるサブネット・マスクを指定してください。

要素4: ポート番号

***ANY** TCP/IPポート番号の省略時の値は*ANYであり、これはローカル・システム上の任意のポートに関連した（およびIPアドレスとサブネット・マスクによって修飾された）トラフィックが追跡されることを意味します。

1-65535

使用するポート番号を指定します。番号が指定された場合には、サブネット・マスク値も指定しなければなりません。

[トップ](#)

装置記述 (DEV D)

ユーザーは装置記述名を入力することによって、収集される情報の量を制限することができます。装置記述が指定のTELNETまたはVTAPIセッションと関連付けられると、それに関連するすべての追跡情報が収集されます。このパラメーターは、APP(*TELNET)またはAPP(*VTAPI)が指定されている時にのみ有効です。

名前 追跡情報が収集される装置記述の名前を指定してください。

総称名 追跡情報が収集される装置記述の総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字とそれに続くアスタリスク(*)からなる文字ストリングです。たとえば、CMN*です。総称名を指定した場合には、その総称名で始まる名前をもつすべての装置記述（ユーザーがそれらに対する権限をもっている）の追跡情報が収集されます。

[トップ](#)

装置タイプ (DEVTYPE)

1つまたは複数の有効な装置タイプを指定することができます。これらの装置の活動に関連した追跡情報だけが追跡されます。*DSPまたは*PRTを指定する場合には、その他の値をこのパラメーターに入力することはできません。このパラメーターは、APP(*TELNET)またはAPP(*VTAPI)が指定されている時にのみ有効です。

***DSP** 表示装置タイプの情報だけが収集されます。

***PRT** 印刷装置タイプの情報だけが収集されます。

装置タイプ

指定した装置タイプの情報だけが収集されます。最大6個までのタイプを指定することができます。有効な値は次の通りです。5251, 5291, 5292, 3196, 3488, 3487, 3179, 3180, 5555, 3477, 3277, 3278, 3279, V100, 3812, および5553

追跡ポイント (TRCPNT)

このパラメーターに追跡ポイントのリストを入力することによって、追跡バッファーに入れられる追跡ポイント数を制限することができます。最大12個までの追跡ポイントを指定することができます。このパラメーターはAPP(*TELNET), APP(*VTAPI), APP(*DDM),またはAPP (ホスト・サーバー) が指定されている時のみ有効です。

文字値 追跡ポイント識別コードを指定してください。各追跡ポイント識別コードは最大8文字までにすることができます。

TELNET/VTAPI追跡ポイントの場合は'TG#XXXXX', 'TG+XXXXX',または'TG-XXXXX'を指定してください。また、TELNET/VTAPI追跡ポイントTGTELM, TGTELO, TGEXCP, TGREQPO, TGRIO, TGRPO, TGUTIL, TGVTERM, TGV TIN, TGV TINI, TGV TM, またはTGV TOUTも指定できます。

ホスト/DDMサーバーの追跡ポイントの場合は'QCCX XXXX'を指定してください。ここで'CCC'はホスト/DDMサーバーの構成要素IDであり、'XXXX'は特定の追跡ポイントを示します。

トップ

引き数リスト (ARGLIST)

この特定の引き数リストに関連した追跡情報だけが、収集される追跡情報の中に組み込まれます。引き数リストには、デバッグ・レベルのようなデータや特殊な追跡要求が含まれます。このパラメーターが有効であるのは、APP(*VPN), APP(*QOS), APP(*PKTRULES), APP(*PPP),またはAPP(*DIRSRV)が指定されている時だけです。

文字値 引き数リストを指定してください(最大255文字まで)。

QOSによって次の引き数リストの値が可能になります。

LVL=1

LVL=1引き数は、システム操作と関連したエラーをログに記録します。1つの例としてシステムのメモリーの不足があります。これらのタイプのエラーの結果は、QOSサーバーが実行できなくなることです。

LVL=2

LVL=2引き数は、すべてのLVL=1情報を組み込みます。さらに、LVL=2引き数は、QOSサーバーの操作によって識別された内部エラーをログに記録します。これらのタイプのエラーの通常の原因は、サーバーの操作で予期しないエラーが見つかったことです。LVL=2エラーは、APARの条件と考えられます。

LVL=3

LVL=3引き数は、すべてのLVL=1およびLVL=2情報を組み込みます。さらに、LVL=3引き数は、QOSサーバーの基本操作活動をログに記録します。例として規則のロードまたはSTRTCPSVR SERVER(*QOS) RESTART(*QOS)コマンドの送信が考えられます。

LVL=4

LVL=4引き数は、すべてのLVL=1, LVL=2,およびLVL=3情報を組み込みます。さらに、LVL=4引き数は、QOSサーバーの追跡されたすべての活動をログに記録します。

トップ

仮想プライベート・ネットワーク・サーバー (VPNSVR)

VPNキー・マネージャーまたはVPN接続マネージャーの追跡情報を収集するかどうかを指定します。このパラメーターに値を指定しなかった場合には、VPNキー・マネージャーとVPN接続マネージャーの両方の追跡情報が収集されます。このパラメーターはAPP(*VPN)が指定されている時にのみ有効です。

*KEYMGR

追跡情報のフィルタリングを実行して、VPNキー・マネージャーを組み込みます。

*CNNMGR

追跡情報のフィルタリングを実行して、VPN接続マネージャーを組み込みます。

[トップ](#)

証明書サービス・タイプ (CERTTYPE)

特定の証明書サービス・タイプに関連した追跡情報だけが、取り込まれる追跡情報の中に組み込まれます。このパラメーターはAPP(*CERTSRV)が指定されている時にのみ有効です。

***ALL** 証明書サービス・タイプに対して追跡情報のフィルタリングは実行されません。

***DCM** 追跡情報のフィルタリングを実行して、DCM証明書サービス・タイプだけを組み込みます。

*KEYMGR

追跡情報のフィルタリングを実行して、VPNキー・マネージャー証明書サービス・タイプだけを組み込みます。

***SSL** 追跡情報のフィルタリングを実行して、SSL証明書サービス・タイプを組み込みます。

*OBJSIGN

追跡情報のフィルタリングを実行して、OBJSIGN証明書サービス・タイプだけを組み込みます。

*OTHER

追跡情報のフィルタリングを実行して、上記にリストされていない証明書サービス・タイプだけを組み込みます。

[トップ](#)

ドメイン・ネーム・サービス (DNS)

ドメイン・ネーム・サービス(DNS)解決に関連する追跡情報だけを収集するかどうかを指定します。このパラメーターはAPP(*SMTPCLT)が指定されている時にのみ有効です。

***NO** DNS解決に対して追跡情報のフィルタリングは実行されません。

***YES** 追跡情報には、DNS解決に関連した追跡ポイントだけが組み込まれます。

[トップ](#)

PPP接続プロファイル (PPPCNNPRF)

特定のPPP接続プロファイルに関連した追跡情報が収集されます。提供される省略時の追跡情報は、PPP接続プロファイルによって開始された各接続ごとに1つのジョブ・ログと1つの接続ダイアログ・スプール・ファイル、PPPプロファイルの設定の1つのコピー、およびそのプロファイルによって使用された回線記述の1つのコピーです。ユーザーによって選択された場合には、接続ごとに1つのSRCSINK構成要素追跡、接続ごとに1つの通信追跡、および単一のTCPIP構成要素追跡とすることも可能です。APP(*PPP)が指定されている場合には、このパラメーターは必須です。

文字値 追跡情報が収集されるPPP接続プロファイルを指定してください。

[トップ](#)

追跡するTCP/IPデータ (TCPTRCDTA)

ADLTRC(*TCPIP)が選択された時に収集される追加のデータを指定します。このパラメーターは、APP(*PPP)が指定されている場合にのみ有効です。APP(*PPP)が指定され、ADLTRC(*TCPIP)が指定されない場合には、このパラメーターは無視されます。

***PPPALL**

PPP接続のすべてのデータが追跡されます。

***LCPNCP**

PPP接続のLCPおよびNCPデータのみが追跡されます。

[トップ](#)

QOS追跡タイプ (QOSTRCTYPE)

特定のQOS追跡タイプに関連した追跡情報だけが収集される追跡情報に含められます。このパラメーターは、APP(*QOS)が指定されている場合にのみ有効です。

***ALL** 追跡情報のフィルター操作は、両方のサーバーを組み込むように実行されます。

***POLICYD**

追跡情報のフィルター操作は、QOSポリシー・サーバーを組み込むように実行されます。

***RSVPD**

追跡情報のフィルター操作は、RSVP (RESOURCE RESERVATION PROTOCOL)サーバーを組み込むように実行されます。

[トップ](#)

HTTPサーバー・インスタンス (HTTPSVR)

このパラメーターは、追跡するHTTPサーバー・インスタンスを決定します。これは、APP(*HTTP)が指定されている場合にのみ有効であり、また、必須です。

[トップ](#)

追跡レベル (TRCLVL)

サービス追跡の細分性のレベルを指定します。このパラメーターは、APP(*HTTP)が指定されている場合にのみ有効です。

***ERROR**

サービス追跡には、すべてのエラー戻りコードまたは例外条件が含まれます。

***INFO** サービス追跡には、*ERRORレベルの追跡レコードだけでなく、アプリケーション・レベルのAPIおよびAPIパラメーターからの入り口および出口点に関する追跡レコードも含まれます。

***VERBOSE**

サービス追跡には、*INFOレベルの追跡レコードだけでなく、制御流れまたはデータ汚損のデバッグに関する追跡レコードも含まれます。

[トップ](#)

パケット規則追跡点 (PKTTRCPNT)

内部追跡(TRCINT)パネルが表示される時に表示される追跡点値を表すキーワードを指定します。このパラメーターは、APP(*PKTRULES)およびADLTRC(*TCPIP)が指定されている時にのみ有効です。

***TRAFFIC**

パケット・フィルター評価の次の追跡点が内部追跡パネルに表示されます。8110-8111, 8120-8123, および8420。

***LOAD**

監査および規則のロードの次の追跡点が内部追跡パネルに表示されます。8100-8105および8430-8438。

[トップ](#)

構成オブジェクト (CFGOBJ)

追跡する構成オブジェクトを指定します。このオブジェクトは、回線記述、ネットワーク・インターフェース記述、またはネットワーク・サーバー記述のいずれかとすることができます。このパラメーターは、ADLTRC(*CMNTRC)が指定されている場合にのみ有効です。

名前 追跡したい構成オブジェクトの名前を指定します。

[トップ](#)

タイプ (CFGTYPE)

追跡する構成記述のタイプを指定します。このパラメーターは、ADLTRC(*CMNTRC)が指定されている場合にのみ有効です。

***LIN** 構成オブジェクトのタイプは回線記述です。

***NWI** 構成オブジェクトのタイプはネットワーク・インターフェース記述です。

***NWS** 構成オブジェクトのタイプはネットワーク・サーバー記述です。

[トップ](#)

メッセージの監視 (WCHMSG)

監視対象の最大5個のメッセージIDを指定します。*NONE以外の値が指定された場合には、メッセージを監視する対象の位地をWCHMSGQパラメーターに指定する必要があります。監視対象メッセージが指定されたメッセージ待ち行列またはログに追加されると、追跡出口プログラムが呼び出されます。追跡出口プログラムが定義されていない場合は、その追跡は停止します。

単一値

*NONE

メッセージは監視されません。

要素1: メッセージ識別コード

名前 監視対象となる7文字のメッセージIDを指定します。

要素2: 比較データ

指定されたメッセージIDと一致するメッセージを指定されたメッセージ待ち行列またはログに追加する場合に、使用する比較データを指定します。メッセージ・データに指定されたテキストが含まれる場合は、その監視対象条件が真になります。メッセージ・データに指定されたテキストが含まれていない場合は、追跡機能が続行されます。

*NONE

比較データは指定されません。指定されたメッセージIDと一致するメッセージを指定されたメッセージ待ち行列またはログに追加する場合には、その監視対象条件が真になります。

文字値 監視対象メッセージのメッセージ・データと比較するために使用するテキスト・ストリングを指定します。このテキストが監視対象メッセージのメッセージ・データ中のどこかで検出された場合は、その監視条件は真とみなされます。このテキストは大文字小文字の区別が行われます。比較データは2つのフィールドにまたがった突き合わせには使用できませんが、フィールド全体またはどれかのフィールドのサブストリングを突き合わせることはできます。

トップ

監視されたメッセージ待ち行列 (WCHMSGQ)

メッセージの監視 (WCHMSG)パラメーターに指定されたメッセージ識別コードについて監視する位置を指定します。システム操作員メッセージ待ち行列、活動記録ログ、他のメッセージ待ち行列、およびジョブ・ログに追加しているメッセージの監視を指定することができます。最大3個のメッセージ待ち行列または特殊値を指定することができます。

要素1: メッセージ待ち行列

単一値

*SYSOPR

システム操作員メッセージ待ち行列 (ライブラリーQSYS中のQSYSOPRメッセージ待ち行列) に追加されるメッセージを監視します。

*HSTLOG

活動記録ログQHSTに追加されるメッセージを監視します。

*JOBLOG

WCHJOBパラメーターで指定されたジョブのジョブ・ログに追加されるメッセージを監視します。

修飾子1: メッセージ待ち行列

名前 監視したいメッセージ待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

監視されたジョブ (WCHJOB)

WCHMSGパラメーターに指定されたメッセージについてそのジョブ・ログが監視される、そのジョブを指定します。*JOBLOGがWCHMSGQパラメーターに指定された場合は、指定されたジョブだけが監視されません。最大5個のジョブ名を指定することができます。

単一値

***** この追跡コマンドを出したジョブのジョブ・ログだけが監視されます。

要素1: ジョブ名

修飾子1: ジョブ名

総称名 監視されるジョブの総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば, ABC*)です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称ジョブ名は、総称接頭部で始まるジョブ名をもつすべてのジョブを指定します。

名前 監視されるジョブの名前を指定します。

修飾子2: ユーザー

名前 監視されるジョブのユーザーの名前を指定してください。

修飾子3: 番号

***ALL** 指定したジョブ名およびユーザー名をもつすべてのジョブが監視されます。

000001-999999

ジョブ名およびユーザー名をさらに修飾するジョブ番号を指定してください。総称ジョブ名修飾子が指定された場合には、ジョブ番号を指定することはできません。

トップ

LICログ項目の監視 (WCHLICLOG)

監視の対象となる最大5個のライセンス内部コード(LIC)ログ項目識別コードを指定します。各LICログ項目には、メジャーとマイナーのコードが含まれています。指定されたメジャーとマイナーのコードおよび指定された比較データのどれかと一致するLICログ項目が追加される場合は、条件の監視を満たすこととなります。ログ項目の監視がLICログに追加される時には、指定された比較データと一致しない場合でも追跡出口プログラムが呼び出されます。追跡出口プログラムが定義されていない場合は、その追跡は停止します。

単一値

***NONE**

LICログ項目は監視されません。

要素1: メジャー・コード

***ALL** LICログ項目のどのメジャー・コードも一致とはみなされません。*ALLがメジャー・コードに指定された場合は、LICログ項目マイナー・コードに*ALLを指定することはできません。

文字値 監視対象となるLICログ・メジャー・コードを指定します。4桁のコードの各文字に16進数または疑問符のいずれかを指定することができます。疑問符はワイルドカード文字であり、その桁の任意の数字と一致することとなります。最大3個のワイルドカード文字を指定することができます。

要素2: マイナー・コード

***ALL** LICログ項目のどのマイナー・コードも一致とみなされません。ALLがマイナー・コードに指定された場合は、LICログ項目メジャー・コードに*ALLを指定することはできません。

文字値 監視対象となるLICログ・マイナー・コードを指定します。4桁のコードの各文字に16進数または疑問符のいずれかを指定することができます。疑問符はワイルドカード文字であり、その桁の任意の数字と一致することとなります。最大3個のワイルドカード文字を指定することができます。

要素3: 比較データ

指定されたメジャーとマイナー・コードと一致するログ項目をライセンス内部コード(LIC)ログに追加する場合に、使用する比較データを指定します。このテキストが監視対象ログ項目のLICログ項目データ・フィールド中で検出されない場合には、その監視対象条件が真になります。このテキストが監視対象ログ項目のLICログ項目データ・フィールド中で検出されないで、出口プログラムがTRCPGMパラメーターに指定されない場合には、追跡機能は続行します。このログ項目が指定されたメジャーとマイナーのコードと一致して、出口プログラムはTRCPGMパラメーターに指定されているが、その項目データに指定されたテキストが含まれていない場合は、追跡を続行すべきか、停止すべきかを判別するために、出口プログラムが呼び出されます。

***NONE**

比較データは指定されません。指定されたメジャーとマイナーのコードと一致するLICログ項目をLICログに追加する場合には、監視対象条件が真になります。

文字値 監視対象ログ項目の項目データと比較するために使用するテキスト・ストリングを指定します。このテキストが監視対象ログ項目のLICログ項目データ・フィールド中で検出された場合には、その監視条件が真とみなされます。このテキストは大文字小文字の区別が行われます。比較できるLICログ・フィールドはTDE番号、タスク名、サーバー名、ジョブ名、ユーザーID、ジョブ番号、スレッドID、例外ID、LICモジュール・コンパイル2進数タイム・スタンプ、LICモジュール・オフセット、LICモジュールRU名、LICモジュール名、LICモジュール・エントリー・ポイント名です。比較データは2つのフィールドにまたがった突き合わせには使用できませんが、フィールド全体またはどれかのフィールドのサブストリングを突き合わせることはできます。

例外IDの監視の時には、例外IDの16進数の4桁すべてを指定しなければなりません。また、例外IDのフィールドに対してのみ比較し、他のフィールドと一致する可能性があるサブストリングは回避したい場合は、接頭部MCHを指定することもできます。

トップ

監視する時間の長さ (WCHTIMO)

メッセージまたはライセンス内部コード(LIC)ログ項目での監視の時間制限(分単位)を指定します。指定された時間が経過すると、追跡出口プログラムが呼び出されて(これがTRCPGMパラメーターに指定された場合)、追跡は終了されて、メッセージCPI3999がシステム操作員メッセージ待ち行列に送信されます。

1440 特定メッセージまたはLICログ項目の監視の時間制限は1440分(24時間)です。

*NOMAX

特定メッセージまたはLICログ項目の監視の時間制限はありません。

1-43200

どの監視対象条件とも一致しなかった時に、追跡が活動のままとなっている分数を指定します。最高43200分(30日)までを指定することができます。

トップ

時間間隔 (TRCPGMITV)

追跡出口プログラムを呼び出す頻度を指定します。

*NONE

時間間隔は指定されません。時間間隔が経過したので、追跡出口プログラムは呼び出されません。

1-9999

追跡出口プログラムを呼び出す頻度の時間の間隔(秒数)を指定します。

トップ

TRCTCPAPPの例

例1:データベースの追跡の開始

```
TRCTCPAPP APP(*DATABASE) SET(*ON) TRCPNT(QZDA1050 QZDA1060)
LCLNETADR(*INET
          '9.130.69.22'
          '255.255.255.255' 8471)
```

```
ADLTRC(*CMNTRC) TRCPGM(PGMLIB/PROG1)
CFGOBJ(TESTLIN) CFGTYPE(*LIN)
```

このコマンドは、データベース・ホスト・サーバーの追跡を開始します。AF_INETアドレス・ファミリー、ローカルTCP/IPアドレスの9.130.69.22、サブネット・マスクの255.255.255.255、ポート番号の8471、および追跡ポイントのQZDA1050およびQZDA1060と関連付けられた追跡情報が収集されます。通信追跡が追跡情報に含まれます。TESTLINは、追跡する構成オブジェクトの名前です。このオブジェクトは回線(*LIN)記述です。ユーザー定義の追跡コマンドおよびプロシージャが含まれた、ライブラリーPGMLIB内の追跡プログラムPROG1が呼び出されます。その他のTCPアプリケーションの追跡には影響がおよびません。

例2:データベース追跡の状況検査

```
TRCTCPAPP APP(*DATABASE) SET(*CHK)
```

このコマンドは、データベース・ホスト・サーバー・ジョブの追跡状況を調べるために使用されます。最後に入力されるコマンドは前述の「例1」からのものとします。このコマンドへの応答の形式は、以下のような1セットのメッセージになります。

```
TCP45B7 TRCTCPAPP APP(*DATABASE) SET(*ON)
      TRCPNT(QZDA1050 QZDA1060)
      LCLNETADR(*INET '9.130.69.22'
                '255.255.255.255' 8471)
      MAXSTG(*DFT) TRCFULL(*WRAP) ADLTRC(*CMNTRC)
      TRCPGM(PGMLIB/PROG1) CFGOBJ(TESTLIN)
      CFGTYPE(*LIN)
TCP45B1 TRACING ACTIVE FOR *DATABASE AT 20:15:14 ON 03/15/01 BY
      043432/TRCUSER/QPADEV000B.
TCP45B2 DATA CAPTURE BEGUN FOR *DATABASE.
TCP45B3 DATA BUFFER WRAPPED FOR *DATABASE.
```

例3:データベース接続追跡の終了

```
TRCTCPAPP APP(*DATABASE) SET(*OFF)
```

このコマンドは、まず、データベース・ホスト・サーバーに対して現在アクティブなアプリケーションをすべて終了してから、TCP/IPコンポーネント追跡を終了します。追跡がアクティブであった場合は、出力追跡レコードが様式設定されて、スプール・ファイルに入れられます。次のようなメッセージがユーザーのジョブ・ログに見つかります。

```
TCP45B8 TRACE DATA FOR APPLICATION DATABASE FORMATTED: QZDA001915.
```

追跡がアクティブでない場合は、次のメッセージがユーザーに戻されます。

```
TCP4580 TRACING OFF, SET(*OFF) NOT VALID.
```

例4:パケット・ルールの追跡の開始

```
TRCTCPAPP APP(*PKTRULES) SET(*ON)
      ARGLIST('DEBUGLVL=1 TRACELVL=2')
      ADLTRC(*TCPPIP) PKTTRCPNT(*LOAD)
```

このコマンドは、パケット・ルールの追跡を開始します。特定の引き数リストと関連した追跡情報が収集されます。追跡ポイントの8100-8105および8430-8438を使用しているコンポーネント追跡が、追跡情報に含まれます。その他のTCPアプリケーションの追跡には影響がおよびません。

例5: FTPの追跡の開始

```
TRCTCPAPP APP(*FTP) SET(*ON)
          RMTNETADR(*INET '9.130.69.16' '255.255.255.255' 5)
```

このコマンドは、FTPサーバーの追跡を開始します。AF_INETアドレス・ファミリー、リモートTCP/IPアドレスの9.130.69.16、サブネット・マスクの255.255.255.255、およびポート番号の5と関連した追跡情報が収集されます。その他のTCPアプリケーションの追跡には影響がおよびません。

例6: TELNETの追跡の開始

```
TRCTCPAPP APP(*TELNET) SET(*ON) DEVD(QPADEV*)
```

このコマンドは、TELNETサーバーの追跡を開始します。名前が"QPADEV"で始まっている装置記述のすべての追跡情報が収集されます。ユーザーには、これらの特定装置記述に対する権限が必要です。その他のTCPアプリケーションの追跡には影響がおよびません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: TRCTCPAPP

*ESCAPE メッセージ

TCP4595

追跡が開始されません。

[トップ](#)

TCP/IP経路の追跡 (TRCTCPRTE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IP経路追跡(TRCTCPRTE)コマンド(TRACEROUTEとしても示される)は、ユーザー指定の宛先システムまでのIPパケットの経路を追跡します。この経路には、その途中で多数のシステムが関与していることがあります。その経路に沿っている各システムは**ホップ**として参照されます。経路に沿ったすべてのホップを追跡することも、あるいは追跡する開始と終了のホップを指定することもできます。

この経路は、宛先システムにパケット(**プローブ**と呼ばれる)を送信することによって追跡されます。各プローブには、そのプローブがパスできるホップ・システム数についての上限(**TIME TO LIVE**または**TTL**と呼ばれる)が含まれています。

注: IPバージョン6で、**存続時間(TTL)**は**ホップ限界**と呼ばれます。

経路は、プローブ・パケットのTTLを1ホップずつ連続増分することによって追跡されます。プローブ応答を宛先システムから受信した時、あるいはプローブの「存続時間」値が許される最大と等しい時、のいずれかで追跡が終了します。

プローブ・パケットからの応答は、ジョブ・ログへのメッセージとして、あるいはユーザー指定のデータ待ち行列への待ち行列項目として送信されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RMTSYS	リモート・システム	文字値	必須, 定位置 1
RANGE	プローブするホップの範囲	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始プローブ TTL (ホップ限界)	1-255, <u>1</u>	
	要素 2: 最大プローブ TTL (ホップ限界)	1-255, <u>30</u>	
PROBES	ホップ単位の送信プローブ数	1-64, <u>3</u>	オプション
WAITTIME	応答待ち時間	1-120, <u>3</u>	オプション
PKTLEN	パケットの長さ (バイト数)	40-65535, <u>40</u>	オプション
OUTPUT	出力	<u>*MSG</u> , *VERBOSE, *DTAQ	オプション
DTAQ	データ待ち行列名	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: データ待ち行列名	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB, * <u>LIBL</u>	
ADRVERFMT	アドレス・バージョン形式	* <u>CALC</u> , *IP4, *IP6	オプション
LCLINTNETA	ソースIPアドレス	文字値, * <u>ANY</u>	オプション
RMTPORT	基本・リモート・ポート	1-65535, <u>33434</u>	オプション
NAMELOOKUP	検索ホスト名	* <u>YES</u> , *NO	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
PROBEPCL	プローブ・プロトコル	*ICMP, *UDP	オプション
FRAGMENT	フラグメント化の許可	*TCPA, *NO, *YES	オプション

トップ

リモート・システム (RMTSYS)

宛先システムのリモート・システム名(255文字)またはIPアドレスを指定します。

文字値 リモート・システム名またはIPアドレスを指定してください。有効なIPバージョン4またはIPバージョン6アドレスのいずれかが受け入れられます。

トップ

プローブするホップの範囲 (RANGE)

プローブ応答が予測される元の、ホップ・システムの範囲を指定します。各プローブはTTL (TIME TO LIVE)整数値を指定します。このTTL値は、そのプローブが通過できるホップの最大数です。たとえば、TTLが3のプローブ・パケットは多くても3つのホップ・システムをパススルーすることができ、その後で、ホップ・システムはそのプローブを破棄して、プローブの発信元のシステムに情報を戻します。

要素1は、プローブ・パケットで最初に送信されるTTL値を指定します。要素2は、プローブ・パケットで最後に送信されるTTL値を指定します。追跡情報は、プローブのTTL値に達したためにプローブ・パケットを破棄する各ホップ・システムから、あるいは宛先システムに達した時に生成されます。

要素1: 開始プローブ TTL (ホップ限界)

1 省略時の開始ホップは1です。

1-255 プローブ・パケットに使用される最初のホップ限界TTL番号を指定します。

要素2: 最大プローブ TTL (ホップ限界)

30 省略時の終了ホップは30です。

1-255 宛先システムに到達するためにそのプローブが通過できるホップの最大数を指定します。

トップ

ホップ単位の送信プローブ数 (PROBES)

RANGEパラメーターによって指定された範囲内の各プローブTTL (ホップ限界) 値で、各ホップ・システムに送信されるプローブ・パケット数を指定します。

3 省略時のプローブ数は3です。

1-64 送信するプローブ数を指定します。

トップ

応答待ち時間 (WAITTIME)

各プローブに対するホップ・システムからの応答を待機する最大時間（秒数）を指定します。

3 応答を最大3秒まで待機します。

1-120 応答を待機する最大秒数を指定します。

[トップ](#)

パケットの長さ (バイト数) (PKTLEN)

各プローブで送信されるIPパケットの全長（バイト数）を指定します。

40 プローブ・パケット長は40バイトです。

40-65535

プローブIPパケットのバイト数を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

プローブ・パケットの送信から得た結果を送信する先を指定します。宛先システムに到達するまで各ホップについての情報が送信され、これにはホップ・カウント、平均往復時間、ホップのIPアドレス、およびホップのホスト名が含まれています。

***MSG** 結果は、そのコマンドを出したジョブのジョブ・ログに送信されるメッセージとして出力されません。

***VERBOSE**

結果は、そのコマンドを出したジョブのジョブ・ログに送信されるメッセージとして出力されません。受信したすべての応答が表示されます。結果はICMP TIME_EXCEEDEDおよびPORT_UNREACHABLE応答に限定されません。

***DTAQ**

プローブからの結果は、データ待ち行列(DTAQ)パラメーターで指定したデータ待ち行列に入れます。

[トップ](#)

データ待ち行列名 (DTAQ)

項目を入れるデータ待ち行列を指定します。データ待ち行列が指定された場合には、メッセージはエラーが起るまでジョブ・ログに送信されません。

応答を受信した場合には、各待ち行列項目にプローブへの応答が入れられ、そうでなければ、プローブ応答を受信しなかったことを指示します。指定するデータ待ち行列は少なくとも32文字の待ち行列項目長であり、このコマンドを出す前に存在していなければなりません。

修飾子1: データ待ち行列名

名前 データ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

アドレス・バージョン形式 (ADRVERFMT)

リモート・システム (RMTSYS)パラメーターに指定したホスト名の解決方法を指定します。

*CALC

ホスト名の分析解決方法は、RMTSYSパラメーターに入力されたホスト名に基づいて「計算」(決定)されます。TRCTCPRTE (TRACEROUTE)は、IPアドレスの決定に際してまずIPバージョン4のホスト名分析解決を使用します。これが正常に行われないと、IPアドレスの決定でIPバージョン6のホスト名分析解決が使用されます。

***IP4** IPバージョン4ホスト名解決方法を使用します。

***IP6** IPバージョン6ホスト名解決方法を使用します。

[トップ](#)

ソースIPアドレス (LCLINTNETA)

プローブ・パケットの送信元IPアドレスの選択方法を指定します。

***ANY** プローブ・パケットの送信元IPアドレスはシステムによって選択されます。システムは、リモート・システムに到着できる任意の活動ローカル・インターフェースを使用することができます。

文字値 ソースIPアドレスとして使用するローカル・インターフェースを指定します。

[トップ](#)

基本・リモート・ポート (RMTPORT)

プローブで使用される基本UDPポート番号を指定します。

33434 省略時の基本UDPポート番号33434を使用します。

1-65535

プローブで使用される基本UDPポート番号を指定します。

[トップ](#)

検索ホスト名 (NAMELOOKUP)

IPアドレスをホスト名に解決するかどうかを指定します。

***YES** このアドレスはホスト名に解決されます。

418 iSeries: OS/400 コマンド STRDBMON (データベース・モニター開始) ~

***NO** このアドレスはホスト名に解決されません。

トップ

プローブ・プロトコル (PROBEPCL)

プローブ・パケットの送信時に使用されるプロトコルを指定します。

***ICMP** 宛先システムに送信されるプローブは、ICMP (インターネット制御メッセージ・プロトコル) エコー要求パケットです。

***UDP** 宛先システムに送信されるプローブは、UDP (ユーザー・データグラム・プロトコル) パケットです。

トップ

フラグメント化の許可 (FRAGMENT)

プローブ・パケットのIPヘッダーの「フラグメントしない」オプションの設定を判別する方法を指定します。

***TCPA**

システムは、IPパスMTUディスカバリーTCP/IP属性の設定に基づいてオプションを設定します。

注: この属性の値を変更するためには、TCP/IP属性変更(CHGTCPA)コマンドが使用されます。

***NO** この「フラグメントしない」オプションは常に指定します。

***YES** この「フラグメントしない」オプションは指定することはありません。

トップ

TRCTCPRTEの例

例1: 経路全体を追跡

```
TRCTCPRTE RMTSYS('130.14.3.5')
```

このコマンドは、ローカルISERIESシステムとIPアドレスが'130.14.3.5'の宛先システムとの間の経路全体を追跡します。各ホップ・システムに3つのプローブ・パケットが送信されることとなります。各IPプローブ・パケットは40バイトの長さで、ICMPエコー要求が含まれます。受信された結果は、メッセージとしてジョブ・ログに送られます。

例2: 一部経路の追跡

```
TRCTCPRTE RMTSYS('AAA.BBBB.COM') RANGE(3 7)
          PROBES(5) PROBEPCL(*UDP)
          OUTPUT(*DTAQ) DTAQ(MYLIB/MYDATAQ)
```

このコマンドは、ローカルISERIESシステムとホスト名が'AAA.BBBB.COM'の宛先システムとの間の経路を追跡します。範囲の開始値3について、5つのプローブ・パケットが送信されます。各プローブは、長さ40バイトのIPパケット内のUDPパケットです。これらの5プローブはそれぞれ3のTTLを指定しています。システムAAA.BBB.COMが最大2ホップ・システムの通過によって到達できる場合にはこの点で追跡が終了することとなります。

システムAAA.BBB.COMが2ホップより離れている場合には、宛先AAA.BBB.COMに対して別のセットの5プローブ・パケットが送信されます。これらの5プローブはそれぞれ4のTTLを指定します。システムAAA.BBB.COMがプローブに応答するか、あるいは範囲の終了値のTTL 7の5プローブが送信されるまで、これが反復されます。受信した結果は、ライブラリーMYLIBのデータ待ち行列MYDATAQに待ち行列項目として入れられます。

例3: IPバージョン6アドレスによる経路を追跡

```
TRCTCP RTE RMTSYS('1:2:3:4:5:6:7:8')
```

このコマンドは、ローカルISERIESシステムとIPアドレスが**1:2:3:4:5:6:7:8**の宛先システムとの間の経路全体を追跡します。各ホップ・システムに3つのプローブ・パケットが送信されることとなります。各IPプローブ・パケットは40バイトの長さで、ICMP6エコー要求が含まれます。受信された結果は、メッセージとしてジョブ・ログに送られます。

注: パラメーター値の文字コロン(:)は、IPバージョン6アドレスを通知し、これによりICMP6エコー要求パケットが生成されます。

例4: IPバージョン6ホスト名による経路を追跡

```
TRCTCP RTE RMTSYS('IP6HOST')
```

このコマンドは、ローカルISERIESシステムとホスト名が**IP6HOST**の宛先システムとの間の経路全体を追跡します。各ホップ・システムに3つのプローブ・パケットが送信されることとなります。各IPプローブ・パケットは40バイトの長さで、ICMP6エコー要求が含まれます。受信された結果は、メッセージとしてジョブ・ログに送られます。

省略時の「アドレス・バージョン形式」は*CALCです。ホスト名の解決で、指定されたホスト名に対して複数のIPアドレスが戻されることがあります。ただし、この場合(*CALC)に、経路を追跡しようとした時には、(IPバージョン4またはIPバージョン6で)解決された最初のIPアドレスが使用されることとなります。

例5: IPバージョン6ホスト名およびIPバージョン6ホスト名解決の明示的使用による経路を追跡

```
TRCTCP RTE RMTSYS('IP6HOST') ADRVERFMT(*IP6)
```

このコマンドは、ローカルISERIESシステムとホスト名が**IP6HOST**の宛先システムとの間の経路全体を追跡します。各ホップ・システムに3つのプローブ・パケットが送信されることとなります。各IPプローブ・パケットは40バイトの長さで、ICMP6エコー要求が含まれます。受信された結果は、メッセージとしてジョブ・ログに送られます。

この例は、経路の追跡を試みる時に、有効なIPバージョン6解決アドレス**IP6HOST**だけが使用されるという点が例4とは異なっています。

トップ

エラー・メッセージ: TRCTCP RTE

*ESCAPE メッセージ

TCP3250

OUTPUT(*DTAQ)の場合にはDTAQパラメーター値が必要です。

TCP3251

DTAQパラメーターはOUTPUT(*MSG)を指定した場合は無効です。

TCP3252

範囲の開始の値が範囲の限界より大きくなっています。

[トップ](#)

マウントFSの除去 (UNMOUNT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

マウント・ファイル・システム除去(UNMOUNT)コマンドは、前にマウントしたファイルを統合ファイル・システム名空間内でアクセスできないようにします。アクセス不能にするファイル・システムは、ローカル・システムのユーザー定義ファイル・システム(*UDFS)、ネットワーク・ファイル・システム・サーバー(*NFS)を介してアクセスされるリモート・ファイル・システム、あるいはローカルまたはリモート NETWARE ファイル・システム(*NETWARE)のいずれかとすることができます。ファイル・システム内のオブジェクトが使用中である場合には、このコマンドはユーザーにエラー・メッセージを戻します。ファイル・システムのいずれかの部分それ自体がマウントされている場合には、それがアンマウントされるまで、このファイル・システムをアンマウントすることができないことに注意してください。

このコマンドは、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- RMVMFS

ネットワーク・ファイル・システム・コマンドの詳細については、OS/400 NFSサポート(SC88-4019)を参照してください。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、入出力(I/O)システム構成(*IOSYSCFG) 特殊権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	ファイル・システムのタイプ	*NFS, *UDFS, *NETWARE, *ALL	必須, 定位置 1
MNTOVRDIR	マウントされたディレクトリー	パス名, *ALL	オプション
MFS	マウント・ファイル・システム	パス名	オプション

トップ

ファイル・システムのタイプ (TYPE)

アンマウントするファイル・システムのタイプを指定します。

***NFS** アンマウントするファイル・システムは、ネットワーク・ファイル・システムです。*NFSが指定されている場合には、マウントされたディレクトリー (**MNTOVRDIR**)パラメーターにディレクトリーを指定しなければなりません。

*UDFS

アンマウントするファイル・システムは、ユーザー定義ファイル・システムです。*UDFSが指定されている場合には、MNTOVRDIRまたはマウント・ファイル・システム (MFS)パラメーターのいずれかを指定することができます。

*NETWARE

アンマウントするファイル・システムは、NETWAREファイル・システムです。*NETWAREが指定されている場合には、MNTOVRDIRパラメーターにディレクトリーを指定しなければなりません。

***ALL** すべてのタイプのファイル・システムをアンマウントします。*ALLが指定されている場合には、MNTOVRDIRパラメーターに値を指定しなければならず、その値は*ALLとすることができます。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

マウントされたディレクトリー (MNTOVRDIR)

前のADDMFS (マウント・ファイル・システム追加) コマンドまたはMOUNTコマンドによってマウントされた(カバーされた)ディレクトリーのパス名を指定します。

'ディレクトリー・パス名'

前にマウントした指定のディレクトリーはカバーが解除されます。TYPE(*ALL)が指定された場合には、指定のディレクトリー上にマウントされたすべてのファイル・システムがアンマウントされます。ファイル・システムのタイプ (TYPE)パラメーターに特定のファイル・システム・タイプが指定されている場合には、指定されたディレクトリーに最後にマウントされたファイル・システムがアンマウントされるのは、タイプが指定されたTYPE値と一致した場合だけです。

***ALL** 前にマウントされたすべてのディレクトリーのカバーが解除されます。*ALLが指定されている場合には、TYPEパラメーターに*ALLを指定しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

マウント・ファイル・システム (MFS)

アンマウントするファイル・システムのパス名を指定します。このパラメーターを使用できるのは、ファイル・システムのタイプ (TYPE)パラメーターに*UDFSが指定されているときに、ブロック特殊ファイル (*BLKSF)をアンマウントするときだけです。

[トップ](#)

UNMOUNTの例

UNMOUNTの代替コマンド名はRMVMFSです。次の例では代替コマンド名を使用していますが、UNMOUNTはそれらのすべてで直接RMVMFSに置き換えることができます。

例1: ディレクトリーのアンマウント

```
RMVMFS TYPE (*NFS) MNTOVRDIR('/TOOLS')
```


このコマンドは、ディレクトリー *TOOLS* でアクセス可能なネットワーク・ファイル・システムをアンマウントします。

例2: ユーザー定義ファイル・システムのアンマウント

```
RMVMFS TYPE(*UDFS) MFS('/DEV/QASP02/CUST1UDFS')
```

このコマンドは、ユーザー定義ファイル・システム */DEV/QASP02/CUSTUDFS* をアンマウントします。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: UNMOUNT

*ESCAPEメッセージ

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

[トップ](#)

一時プログラムでのデータ更新 (UPDDTA)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

制御言語 (CL) コマンド(UPDDTA)は、一時DFUプログラムを作成し実行します。この一時プログラムを使用して、新しいレコードを入力するか、あるいは既存のデータベース・ファイルの既存のレコードを変更することができます。

エラー・メッセージ: UPDDTA

*STATUS メッセージ

DFU0251

DFUは、実行するための一時プログラム&1を作成中である。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	データベース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション、位置 1
	修飾子 1: データベース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	名前, *FIRST	オプション、位置 2

トップ

データベース・ファイル (FILE)

更新するデータ・ファイルの修飾名を指定します。

*LIBL DFUはライブラリー・リストを使用して、指定されたプログラムを検索します。

*CURLIB

現行ライブラリーを使用するためには、*CURLIBを入力してください。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。ライブラリー名を指定しない場合には、*LIBLが使用されます。

トップ

メンバー (MBR)

ファイル中の更新したいメンバーを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*FIRST

ファイルの最初のメンバーが更新されます。

メンバー名

更新したいメンバーの名前を入力します。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ： UPDDTA

*STATUS メッセージ

DFU0251

DFUは、実行するための一時プログラム&1を作成中である。

[トップ](#)

プログラムの更新 (UPDPGM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム更新(UPDPGM)コマンドを使用すれば、結合プログラムの変更または再コンパイルを必要とせずに、統合化言語環境(ILE)結合プログラムのモジュールをシステム上の他のモジュールで置き換えることができます。置き換えられるモジュールは、システム上のモジュール・オブジェクト(*MODULE)でなければなりません。

プログラムがこのコマンドによって更新されている間であっても、結合プログラムを実行中の他のジョブは実行することができます。現在実行中の結合プログラムはライブラリーQRPLOBJに移動され、結合プログラムの更新済みバージョンが結合プログラムのライブラリーに挿入されます。プログラムの現在の活動化は、QRPLOBJライブラリー内のプログラムのバージョンを使用して実行し続けます。

制約事項:

- 結合プログラムのライブラリーに対する使用(*USE)および追加(*ADD)権限が必要です。
- 結合プログラムに対する*USE,オブジェクト管理(*OBJMGT),およびオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限が必要です。
- 結合プログラムの所有者であるか、結合プログラムの所有者であるグループのメンバーであるか、あるいは全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限をもつユーザーである必要があります。
- 次のものに対する*USE権限が必要です。
 - モジュール (MODULE)パラメーターに指定された*MODULEオブジェクト (およびそのモジュールが存在するライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限)。
 - サービス・プログラムのバインド (BNDSRVPGM)パラメーターに指定された*SRVPGMオブジェクト。
 - ディレクトリーのバインド (BNDDIR)パラメーターに指定された*BNDDIRオブジェクト (およびそのライブラリーに対する*EXECUTE権限) および*BNDDIRオブジェクトの外部記号を分析解決するために使用されるすべてのオブジェクトとそれらのライブラリー。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *USRLIBL, *CURLIB	
MODULE	モジュール	単一値: *NONE その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: モジュール	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL	

キーワード	記述	選択項目	注
RPLLIB	置き換えライブラリー	単一値: *ONLY , *FIRST, *MODULE その他の値: 修飾子リスト	オプション
	修飾子 1: 置き換えライブラリー	名前	
BNDSRVPGM	サービス・プログラムのバインド	単一値: *NONE その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: サービス・プログラムのバインド	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL	
SRVPGMLIB	*SRVPGM ライブラリー名のバインド	単一値: *SAME , *LIBL その他の値: 修飾子リスト	オプション
	修飾子 1: *SRVPGM ライブラリー名のバインド	名前	
BNDDIR	ディレクトリーのバインド	単一値: *NONE その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ディレクトリーのバインド	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB, *USRLIBL	
ACTGRP	活動化グループ	名前, *SAME	オプション
OPTION	作成オプション	値 (最大 6 回の繰り返し): *GEN, *NOGEN, *DUPPROC, *NODUPPROC, *DUPVAR, *NODUPVAR, *WARN, *NOWARN, *TRIM, *NOTRIM, *RSLVREF, *UNRSLVREF	オプション
DETAIL	明細のリスト	*NONE , *BASIC, *EXTENDED, *FULL	オプション

トップ

プログラム (PGM)

更新する結合プログラムを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: プログラム

名前 更新する結合プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***USRLIBL**

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 結合プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

モジュール (MODULE)

結合プログラムの同じ名前のモジュールを置き換える既存の*MODULEオブジェクトの名前を指定します。結合プログラムの2つ以上のモジュールが同じ名前であった場合には、どれを置き換えるかが置き換えライブラリー (RPLLIB)パラメーターによって指示されます。

置き換えられるモジュールのライブラリーが置き換わるモジュールのライブラリーと異なる場合には、更新後のモジュールのライブラリーは、プログラムが最初に作成された時にモジュールがあったライブラリーのままです。置き換えられるモジュールを決定するのにRPLLIBパラメーターが必要な場合には、このモジュールのRPLLIBパラメーターに入力される値は、更新によっても変更されません。最大300の名前を指定することができます。

これは必須パラメーターです。

単一値

*NONE

モジュールは指定されません。

修飾子1: モジュール

***ALL** ユーザーに権限のある同じ名前のすべてのモジュールが、結合プログラムのモジュールを置き換えます。

総称名 結合プログラムのモジュールを置き換えるモジュールの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（たとえば、ABC*など）です。この総称名で始まる名前をもち、ユーザーに権限があるすべてのモジュールが、結合プログラムのモジュールを置き換えます。

名前 結合プログラムのモジュールを置き換えるモジュールの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

*USRLIBL

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

結合プログラムのモジュールを置き換えるモジュールの名前を指定してください。

[トップ](#)

置き換えライブラリー (RPLLIB)

結合プログラムの2つ以上のモジュールがMODULEパラメーターに指定された名前をもっている時に置き換えるモジュールを選択するために使用される方法を指定します。

***ONLY**

結合プログラムには、指定された名前のモジュールが1つだけ入っており、それが置き換えられます。結合プログラムの2つ以上のモジュールが指定された名前であった場合には、例外が通知され、結合プログラムは更新されません。

***FIRST**

結合プログラムのモジュール・リスト中の指定された名前の最初のモジュールが置き換えられます。

***MODULE**

指定されたモジュールと同じライブラリーを起点とするモジュールが置き換えられます。置き換えモジュールと同じライブラリーを起点とする指定された名前のモジュールがなかった場合には、モジュールは置き換えられず、例外が通知されます。

名前 置き換えのために選択したモジュールの起点ライブラリーの名前を指定してください。指定したライブラリーを起点とする指定された名前のモジュールがなかった場合には、モジュールは置き換えられません。

トップ

サービス・プログラムのバインド (BNDSRVPGM)

外部記号を分析解決するためのインポート要求を更新済み結合プログラムのモジュールおよびサービス・プログラムによって満たすことができない場合に、エクスポートを調べるサービス・プログラムを指定します。指定されたサービス・プログラムで外部記号を分析解決することができる場合には、結合プログラムにバインドされるサービス・プログラムにそれが追加されます。最大300の名前を指定することができます。

単一値

***NONE**

記号の分析解決時にサービス・プログラムは調べられません。

修飾子1: サービス・プログラムのバインド

***ALL** 記号の分析解決時にすべてのサービス・プログラムが調べられます。

総称名 記号の分析解決時に調べるサービス・プログラムの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（たとえば、ABC*など）です。この総称名で始まる名前をもち、ユーザーに権限があるすべてのサービス・プログラムが、記号の分析解決時に調べられます。

名前 記号の分析解決時に調べるサービス・プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。QTEMPは、このパラメーターで有効なライブラリー名ではありません。

トップ

*SRVPGM ライブラリー名のバインド (SRVPGMLIB)

現在バインドされているサービス・プログラムに分析解決するために使用するライブラリー名を指定します。プログラム属性ALWLIBUPDが*YESの場合には、このパラメーターに*SAME以外の値を指定することができます。

*SAME

サービス・プログラム(*SRVPGM)の現在のバインド元であるライブラリー名を使用します。

***LIBL** バインドされた各*SRVPGMについて最初に一致するまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーを検索します。*SRVPGMの最初のオカレンスが現在バインドされているサービス・プログラムに分析解決するために使用され、*LIBLが実行時に使用するために保管されます。ジョブのライブラリー・リスト中に一致が見つからない場合には、プログラムに現在バインドされている*SRVPGMが使用されます。指定されたライブラリーの*SRVPGMオブジェクトに対する*USE権限とライブラリー自体に対する*EXECUTE権限が必要です。

注: 暗黙のバインド・ディレクトリーからのサービス・プログラム（システム提供のサービス・プログラム）は変更されません。

名前 現在バインドされているすべてのサービス・プログラムに分析解決するために最初に使用されるライブラリーの名前を指定してください。バインドされた*SRVPGMがSRVPGMLIBパラメーターで指定されたライブラリーに存在する場合には、そのライブラリーからのその*SRVPGMが現在バインドされている*SRVPGMの代わりに使用され、SRVPGMLIBパラメーターで指定されたライブラリー名を実行時に使用するために保管します。*SRVPGMがSRVPGMLIBパラメーターで指定されたライブラリーに存在しない場合には、プログラムに現在バインドされている*SRVPGMが使用されます。指定されたライブラリーの*SRVPGMオブジェクトに対する*USE権限とライブラリー自体に対する*EXECUTE権限が必要です。

トップ

ディレクトリーのバインド (BNDDIR)

外部記号を分析解決するためのインポート要求を(1)更新済み結合プログラムのモジュールおよびサービス・プログラム、または(2)BNDSRVPGMパラメーターに指定されたサービス・プログラムによって満たすことができない場合に、エクスポートを調べるバインド・ディレクトリーを指定します。指定されたバインド・ディレクトリーにリストされたモジュールまたはサービス・プログラムで外部記号を分析解決することができる場合には、結合プログラムにバインドされるモジュールまたはサービス・プログラムにそれが追加されます。最大300の名前を指定することができます。

単一値

*NONE

バインド・ディレクトリーを指定しません。

修飾子1: ディレクトリーのバインド

名前 記号の分析解決時に使用されるバインド・ディレクトリーの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

***USRLIBL**

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

活動化グループ (ACTGRP)

更新済みプログラムに使用する活動化グループを指定します。

***SAME**

活動化グループは変更されません。プログラムに対してその作成時に*CALLERまたは*NEW活動化グループが割り当てられていた場合は、この値を指定してください。

名前 この呼び出されたプログラムと関連する活動化グループの名前を指定してください。作成時にプログラムが活動化グループの名前を指定された場合には、その活動化グループの名前を別の名前の活動化グループに変更することができます。

注: 活動化グループ名を変更すると、プログラム（またはサービス・プログラム）の動作に影響する場合があります。名前を指定した活動化グループの動作の詳細については、ILE概念 (SD88-5033) を参照してください。

[トップ](#)

作成オプション (OPTION)

結合プログラムの更新時に使用するオプションを指定します。

このパラメーターには最大6個までの値を指定することができます。

プログラム・オブジェクトの作成

***GEN** 更新済みプログラム・オブジェクトが作成されます。

***NOGEN**

更新済みプログラム・オブジェクトは作成されません。

重複プロシージャー名

***DUPPROC**

記号の分析解決時に、モジュールおよびサービス・プログラムからエクスポートされるプロシージャーは、固有である必要はありません。インポート要求と一致する、指定されたモジュールおよびサービス・プログラムの最初のプロシージャーがエクスポートされます。

***NODUPPROC**

記号の分析解決時に、モジュールおよびサービス・プログラムからエクスポートされる各プロシージャーは、固有のものでなければなりません。

重複変数名

***DUPVAR**

記号の分析解決時に、モジュールおよびサービス・プログラムからエクスポートされる変数は、固有である必要はありません。指定されたモジュールおよびサービス・プログラムの、インポート要求と一致した最初の変数がエクスポートされます。

***NODUPVAR**

記号の分析解決時に、モジュールおよびサービス・プログラムからエクスポートされる各変数は、固有のものでなければなりません。

診断メッセージの発行

***WARN**

適切な診断メッセージが通知されます。また、重複したプロシージャまたは変数(*DUPPROCまたは*DUPVAR)を指定し、重複が見つかった場合には、重複が見つかったことを示す診断メッセージが出されます。

***NOWARN**

情報メッセージまたは診断メッセージは出されません。

孤立モジュールのトリミング

孤立モジュールは、更新中の結合プログラムのモジュールのことです。このモジュールは、1つまたは複数のインポートを分析解決するために、最初にバインド・ディレクトリーから結合プログラムにバインドされます。このプログラム更新の間は、インポートは分析解決されません。

***NOTRIM**

孤立モジュールは結合プログラムから除去されません。

注: *NOTRIMを指定した場合には、プログラムの実行時間が大幅に増加することがあります。

***TRIM** 孤立モジュールは結合プログラムから除去されます。

注: このプログラム更新の間に孤立モジュールが結合プログラムから除去された場合には、このモジュールに入っているエクスポートを他のプログラム更新に使用することはできません。

参照の解決 (インポート)

***RSLVREF**

結合プログラムが更新されている間に、エクスポートに対してすべてのインポートを分析解決する必要があります。

***UNRSLVREF**

結合プログラムが更新されている間に、エクスポートに対してすべてのインポートを分析解決する必要はありません。

注: このコマンドに分析解決されていないインポートが含まれていた場合には、コマンドの実行時に例外が生成されます。

トップ

明細のリスト (DETAIL)

印刷するバインダー・リストの詳細レベルを指定します。リストの作成には、印刷装置ファイル *LIBL/QSYSPRTが使用されます。

***NONE**

バインダー・リストは印刷されません。

***BASIC**

簡単な要約表, このコマンドに渡されたオプション, およびいくつかの処理統計が印刷されます。

***EXTENDED**

*BASICリストで提供される情報 (簡単な要約表, このコマンドに渡されたオプション, およびいくつかの処理統計) に加えて, 拡張要約表およびバインド情報リストが印刷されます。

***FULL** *EXTENDEDリストで提供される情報 (拡張要約表, バインド情報リスト, 簡単な要約表, このコマンドに渡されたオプション, およびいくつかの処理統計) に加えて, 相互参照表が印刷されません。

[トップ](#)

UPDPGMの例

```
UPDPGM PGM(STAR) MODULE(SKY/NOVA) RPLLIB(*FIRST)
```

このコマンドは, プログラム・オブジェクトSTARに存在しているNOVAという名前の最初のモジュールを, ライブラリーSKY内のモジュールNOVAによって置き換えます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: UPDPGM

***ESCAPEメッセージ**

CPF223D

&2のタイプ*&3の&1を更新する権限を認可されていない。

CPF223E

借用権限の使用属性の権限チェックが正常に実行されなかった。

CPF5CA7

ALWLIBUPDが*NOになっている時はSRVPGMLIBは*SAMEでなければならない。

CPF5CE0

プログラム&1が更新されなかった。

CPF5CE2

プログラムまたはサービス・プログラムの更新中に予期しないエラーが起こった。

CPF5D1B

ライブラリー&2のプログラム&1の更新は使用できない。

[トップ](#)

サービス・プログラムの更新 (UPDSRVPGM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス・プログラム更新(UPDSRVPGM)コマンドを使用すれば、結合サービス・プログラムの変更または再コンパイルを必要とせずに、統合化言語環境(ILE)結合サービス・プログラムのモジュールをシステム上の他のモジュールで置き換えることができます。置き換えられるモジュールは、システム上のモジュール・オブジェクト(*MODULE)でなければなりません。

サービス・プログラムがこのコマンドによって置き換えられている間であっても、結合サービス・プログラムを実行中の他のジョブは実行することができます。現在実行中のサービス・プログラムはライブラリー QRPLOBJに移動され、サービス・プログラムの更新済みバージョンがサービス・プログラムのライブラリーに挿入されます。サービス・プログラムの現在の活動化は、QRPLOBJライブラリー内のサービス・プログラムのバージョンを使用して実行し続けます。

制約事項:

- サービス・プログラムのライブラリーに対する使用(*USE)および追加(*ADD)権限が必要です。
- サービス・プログラムに対する*USE,オブジェクト管理(*OBJMGT),およびオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限が必要です。
- サービス・プログラムの所有者であるか、サービス・プログラムの所有者であるグループのメンバーであるか、あるいは全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限をもつユーザーである必要があります。
- 次のものに対する*USE権限が必要です。
 - モジュール (MODULE)パラメーターに指定された*MODULEオブジェクト (およびそのモジュールが存在するライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限)。
 - サービス・プログラムのバインド (BNDSRVPGM)パラメーターに指定された*SRVPGMオブジェクト。
 - ディレクトリーのバインド (BNDDIR)パラメーターに指定された*BNDDIRオブジェクト (およびそのライブラリーに対する*EXECUTE権限) および*BNDDIRオブジェクトの外部記号を分析解決するために使用されるすべてのオブジェクトとそれらのライブラリー。
 - ソース・ファイルのエクスポート (SRCFILE)パラメーターに指定されたファイルに対するオブジェクト操作(*OBJOPR)および読み取り(*READ)権限。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SRVPGM	サービス・プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サービス・プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *USRLIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
MODULE	モジュール	単一値: *NONE その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: モジュール	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL	
EXPORT	エクスポート	*CURRENT, *SRCFILE, *ALL	オプション
SRCFILE	ソース・ファイルのエクスポート	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ソース・ファイルのエクスポート	名前, <u>QSRVSR</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバーのエクスポート	名前, *SRVPGM	オプション
RPLLIB	置き換えライブラリー	単一値: *ONLY, *FIRST, *MODULE その他の値: 修飾子リスト	オプション
	修飾子 1: 置き換えライブラリー	名前	
BNDSRVPGM	サービス・プログラムのバインド	単一値: *NONE その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: サービス・プログラムのバインド	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL	
SRVPGMLIB	*SRVPGM ライブラリー名のバインド	単一値: *SAME, *LIBL その他の値: 修飾子リスト	オプション
	修飾子 1: *SRVPGM ライブラリー名のバインド	名前	
BNDDIR	ディレクトリーのバインド	単一値: *NONE その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ディレクトリーのバインド	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL	
ACTGRP	活動化グループ	名前, *SAME	オプション
OPTION	作成オプション	値 (最大 6 回の繰り返し): *GEN, *NOGEN, *DUPPROC, *NODUPPROC, *DUPVAR, *NODUPVAR, *WARN, *NOWARN, *TRIM, *NOTRIM, *RSLVREF, *UNRSLVREF	オプション
DETAIL	明細のリスト	*NONE, *BASIC, *EXTENDED, *FULL	オプション

トップ

サービス・プログラム (SRVPGM)

更新するサービス・プログラムを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: サービス・プログラム

名前 更新する結合サービス・プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***USRLIBL**

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 結合サービス・プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

モジュール (MODULE)

結合プログラムの同じ名前のモジュールを置き換える既存の*MODULEオブジェクトを指定します。最大300の名前を指定することができます。結合プログラムの2つ以上のモジュールが同じ名前であった場合には、どれを置き換えるかが置き換えライブラリー (RPLLIB)パラメーターによって指示されます。

置き換えられるモジュールのライブラリーが置き換わるモジュールのライブラリーと異なる場合には、更新後のモジュールのライブラリーは、サービス・プログラムが最初に作成された時にモジュールがあったライブラリーのままです。置き換えられるモジュールを決定するのにRPLLIBパラメーターが必要な場合には、このモジュールのRPLLIBパラメーターに入力される値は、更新によっても変更されません。

これは必須パラメーターです。

単一値

***NONE**

モジュールは指定されません。

注: この値は、モジュールは変更されていないが、エクスポートを調べるためにサービス・プログラム(BNDSRVPGMパラメーター) またはバインド・ディレクトリー(BNDDIRパラメーター) を更新している時に指定することができます。既存のモジュールが使用されます。

修飾子1: モジュール

***ALL** ユーザーに権限のある同じ名前のすべてのモジュールが、結合サービス・プログラムのモジュールを置き換えます。

総称名 結合プログラムのモジュールを置き換えるモジュールの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング (たとえば、ABC*など) です。この総称名で始まる名前をもち、ユーザーに権限があるすべてのモジュールが、結合サービス・プログラムのモジュールを置き換えます。

名前 結合サービス・プログラムのモジュールを置き換えるモジュールの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

*USRLIBL

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

エクスポート (EXPORT)

更新済みサービス・プログラムからエクスポートされる変数およびプロシージャを指定します。このパラメーターは、また、サービス・プログラム内のエクスポートの順序を識別する新しい署名を作成するかどうかを指定します。

*CURRENT

現在サービス・プログラムからエクスポートされている変数、プロシージャ、および署名のエクスポートが続行されます。新しい署名は作成されません。

注: 現在エクスポートされている変数またはプロシージャが更新後のエクスポートに使用可能でない場合には、例外が通知され、サービス・プログラムは更新されません。

*SRCFILE

ソース・ファイル (SRCFILE)および**ソース・メンバー (SRCMBR)**パラメーターで識別されたソース・ファイル・メンバーには、サービス・プログラムからエクスポートするデータおよびプロシージャを識別するEXPORTステートメントが入っています。指定されたソース・ファイルがサービス・プログラムの作成に使用されたものと異なる場合には、新しい署名または署名のセットが作成されることがあります。

注: 署名が脱落していた場合には、現行のサービス・プログラムの一部のクライアントは、再びバインドしなければサービス・プログラムを使用できないことがあります。

***ALL** サービス・プログラムのモジュールからエクスポートされたすべての変数およびプロシージャが、更新済みサービス・プログラムからエクスポートされます。

サービス・プログラムの更新前にエクスポートされた変数およびプロシージャの数または名前が、サービス・プログラムの更新後にエクスポートされたものと異なる場合には、新しい署名が作成されます。

注: 新しい署名が作成された場合には、サービス・プログラムのすべてのクライアントは再びバインドしなければ、サービス・プログラムを使用することができません。

[トップ](#)

ソース・ファイルのエクスポート (SRCFILE)

この結合サービス・プログラムから変数およびプロシージャをエクスポートするための仕様が入っているソース・ファイルを指定します。

修飾子1: ソース・ファイルのエクスポート

QSRVSRC

ソース・ファイル名はQSRVSRCです。

名前 変数およびプロシージャーをエクスポートするための仕様が入っているソース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

ソース・メンバーのエクスポート (SRCMBR)

この結合サービス・プログラムから変数およびプロシージャーをエクスポートするための仕様が入っている、**ソース・ファイルのエクスポート (SRCFILE)**パラメーターに指定されたソース・ファイル中のメンバーを指定します。

***SRVPGM**

更新中のサービス・プログラムと同じ名前のソース・ファイル・メンバー。

名前 エクスポートのための仕様が入っているメンバーの名前を指定してください。

トップ

置き換えライブラリー (RPLLIB)

結合プログラムの2つ以上のモジュールがMODULEパラメーターに指定された名前をもっている時に置き換えるモジュールを選択するために使用される方法を指定します。

***ONLY**

結合サービス・プログラムには、指定された名前のモジュールが1つだけ入っており、それが置き換えられます。結合サービス・プログラムの2つ以上のモジュールが指定された名前であった場合には、例外が通知され、結合サービス・プログラムは更新されません。

***FIRST**

結合サービス・プログラムのモジュール・リスト中の指定された名前の最初のモジュールが置き換えられます。

***MODULE**

指定されたモジュールと同じライブラリーを起点とするモジュールが置き換えられます。置き換えモジュールと同じライブラリーを起点とする指定された名前のモジュールがなかった場合には、モジュールは置き換えられず、例外が通知されます。

名前 置き換えのために選択したモジュールの起点ライブラリーの名前を指定してください。指定したライブラリーを起点とする指定された名前のモジュールがなかった場合には、モジュールは置き換えられません。

サービス・プログラムのバインド (BNDSRVPGM)

外部記号を分析解決するためのインポート要求を更新済み結合サービス・プログラムのモジュールおよびサービス・プログラムによって満たすことができない場合に、エクスポートを調べるサービス・プログラムを指定します。指定されたサービス・プログラムで外部記号を分析解決することができる場合には、結合サービス・プログラムにバインドされるサービス・プログラムにそれが追加されます。最大300の名前を指定することができます。

単一値

*NONE

更新中の結合サービス・プログラムのサービス・プログラムを除き、記号の分析解決時にサービス・プログラムは調べられません。

修飾子1: サービス・プログラムのバインド

***ALL** 記号の分析解決時にすべてのサービス・プログラムが調べられます。

総称名 記号の分析解決時に調べるサービス・プログラムの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（たとえば、ABC*など）です。この総称名で始まる名前をもち、ユーザーに権限があるすべてのサービス・プログラムが、記号の分析解決時に調べられます。

名前 記号の分析解決時に調べるサービス・プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。QTEMPは、このパラメーターで有効なライブラリー名ではありません。

*SRVPGM ライブラリー名のバインド (SRVPGMLIB)

現在バインドされているサービス・プログラムに分析解決するために使用するライブラリー名を指定します。プログラム属性ALWLIBUPDが*YESの場合には、このパラメーターに*SAME以外の値を指定することができます。

*SAME

サービス・プログラム(*SRVPGM)の現在のバインド元であるライブラリー名を使用します。

***LIBL** バインドされた各*SRVPGMについて最初に一致するまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーを検索します。*SRVPGMの最初のオカレンスが現在バインドされているサービス・プログラムに分析解決するために使用され、*LIBLが実行時に使用するために保管されます。ジョブのライブラリー・リスト中に一致が見つからない場合には、プログラムに現在バインドされている*SRVPGMが使用されます。指定されたライブラリーの*SRVPGMオブジェクトに対する*USE権限とライブラリー自体に対する*EXECUTE権限が必要です。

注: 暗黙のバインド・ディレクトリーからのサービス・プログラム（システム提供のサービス・プログラム）は変更されません。

名前 現在バインドされているすべてのサービス・プログラムに分析解決するために最初に使用されるライブラリーの名前を指定してください。バインドされた*SRVPGMがSRVPGMLIBパラメーターで指定されたライブラリーに存在する場合には、そのライブラリーからのその*SRVPGMが現在バインドされている*SRVPGMの代わりに使用され、SRVPGMLIBパラメーターで指定されたライブラリー名を実行時に使用するために保管します。*SRVPGMがSRVPGMLIBパラメーターで指定されたライブラリーに存在しない場合には、プログラムに現在バインドされている*SRVPGMが使用されます。指定されたライブラリーの*SRVPGMオブジェクトに対する*USE権限とライブラリー自体に対する*EXECUTE権限が必要です。

トップ

ディレクトリーのバインド (BNDDIR)

外部記号を分析解決するためのインポート要求を(1)更新済み結合プログラムのモジュールおよびサービス・プログラム、または(2)BNDSRVPGMパラメーターに指定されたサービス・プログラムによって満たすことができない場合に、エクスポートを調べるバインド・ディレクトリーを指定します。指定されたバインド・ディレクトリーにリストされたモジュールまたはサービス・プログラムで外部記号を分析解決することができる場合には、結合サービス・プログラムにバインドされるモジュールまたはサービス・プログラムにそれが追加されます。最大300の名前を指定することができます。

単一値

*NONE

更新中の結合サービス・プログラムのバインド・ディレクトリーを除き、記号の分析解決時にバインド・ディレクトリーは調べられません。

修飾子1: ディレクトリーのバインド

名前 記号の分析解決時に使用されるバインド・ディレクトリーの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

*USRLIBL

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

活動化グループ (ACTGRP)

更新済みサービス・プログラムに使用する活動化グループを指定します。

***SAME**

活動化グループは変更されません。作成時にサービス・プログラムが*CALLER活動化グループを指定された場合には、この値を指定します。

名前 この呼び出されたサービス・プログラムと関連した活動化グループの名前を指定してください。作成時にプログラムが活動化グループの名前を指定された場合には、その活動化グループの名前を別の名前の活動化グループに変更することができます。

注: 活動化グループ名を変更すると、プログラム（またはサービス・プログラム）の動作に影響する場合があります。名前を指定した活動化グループの動作の詳細については、ILE概念 (SD88-5033) を参照してください。

トップ

作成オプション (OPTION)

サービス・プログラム・オブジェクトの更新時に使用するオプションを指定します。

このパラメーターには最大6個までの値を指定することができます。

プログラム・オブジェクトの作成

***GEN** 更新済みプログラム・オブジェクトが作成されます。

***NOGEN**

更新済みプログラム・オブジェクトは作成されません。

重複プロシージャ名

***DUPPROC**

記号の分析解決時に、モジュールおよびサービス・プログラムからエクスポートされるプロシージャは、固有である必要はありません。インポート要求と一致する、指定されたモジュールおよびサービス・プログラムの最初のプロシージャがエクスポートされます。

***NODUPPROC**

記号の分析解決時に、モジュールおよびサービス・プログラムからエクスポートされる各プロシージャは、固有のものでなければなりません。

重複変数名

***DUPVAR**

記号の分析解決時に、モジュールおよびサービス・プログラムからエクスポートされる変数は、固有である必要はありません。指定されたモジュールおよびプログラムの、インポート要求と一致した最初の変数がエクスポートされます。

***NODUPVAR**

記号の分析解決時に、モジュールおよびサービス・プログラムからエクスポートされる各変数は、固有のものでなければなりません。

診断メッセージの発行

***WARN**

適切な診断メッセージが通知されます。また、重複したプロシージャまたは変数(*DUPPROCまたは*DUPVAR)を指定し、重複が見つかった場合には、重複が見つかったことを示す診断メッセージが出されます。

***NOWARN**

情報メッセージまたは診断メッセージは出されません。

孤立モジュールのトリミング

孤立モジュールは、更新中の結合プログラムのモジュールのことです。このモジュールは、1つまたは複数のインポートを分析解決するために、最初にバインド・ディレクトリーから結合プログラムにバインドされます。このプログラム更新の間は、インポートは分析解決されません。

***NOTRIM**

孤立モジュールは結合プログラムから除去されません。

注: *NOTRIMを指定した場合には、プログラムの実行時間が大幅に増加することがあります。

***TRIM** 孤立モジュールは結合プログラムから除去されます。

注: このプログラム更新の間に孤立モジュールが結合プログラムから除去された場合には、このモジュールに入っているエクスポートを他のプログラム更新に使用することはできません。

参照の解決 (インポート)

***RSLVREF**

結合サービス・プログラムが更新されている間に、エクスポートに対してすべてのインポートを分析解決する必要があります。

***UNRSLVREF**

結合サービス・プログラムが更新されている間に、エクスポートに対してすべてのインポートを分析解決する必要はありません。

注: このコマンドに分析解決されていないインポートが含まれていた場合には、コマンドの実行時に例外が生成されます。

トップ

明細のリスト (DETAIL)

印刷するバインダー・リストの詳細レベルを指定します。リストの作成には、印刷装置ファイル

*LIBL/QSYSPRTが使用されます。

***NONE**

バインダー・リストは印刷されません。

***BASIC**

簡単な要約表、このコマンドに渡されたオプション、およびいくつかの処理統計が印刷されます。

***EXTENDED**

*BASICリストで提供される情報（簡単な要約表、このコマンドに渡されたオプション、およびいくつかの処理統計）に加えて、拡張要約表およびバインド情報リストが印刷されます。

***FULL** *EXTENDEDリストで提供される情報（拡張要約表、バインド情報リスト、簡単な要約表、このコマンドに渡されたオプション、およびいくつかの処理統計）に加えて、相互参照表が印刷されます。

トップ

UPDSRVPGMの例

```
UPDSRVPGM  SRVPGM(WORKDOC)  MODULE(BIN/TASKTWO)
           RPLLIB(*MODULE)
```

置き換えようとするモジュールがもともとはライブラリーBINからのものであった場合だけ、このコマンドはWORKDOCという名前のサービス・プログラム・オブジェクト内のTASKTWOという名前のモジュールを、ライブラリーBIN内のTASKTWOという名前の別のモジュールによって置き換えます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： UPDSRVPGM

*ESCAPEメッセージ

CPF223D

&2のタイプ*&3の&1を更新する権限を認可されていない。

CPF223E

借用権限の使用属性の権限チェックが正常に実行されなかった。

CPF5CA7

ALWLIBUPDが*NOになっている時はSRVPGMLIBは*SAMEでなければならない。

CPF5CE1

サービス・プログラム&1が更新されなかった。

CPF5CE2

プログラムまたはサービス・プログラムの更新中に予期しないエラーが起こった。

CPF5D1C

ライブラリー&2のサービス・プログラム&1の更新は使用できない。

[トップ](#)

システム情報の更新 (UPDSYSINF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム情報更新(UPDSYSINF)コマンドは、システム情報検索(RTVSYSINF)コマンドを使用して収集した
いろいろなシステム情報を更新します。このコマンドは、ユーザーのシステムの全面的なカスタマイズを復
元する場合に使用します。

次のタイプの情報を更新することができます：

- 編集記述
- ネットワーク属性
- 応答リスト項目
- サービス属性
- サービス提供元
- システム値

注: サービス属性およびサービス提供元は、ソース・システムがV3R0M5以降のものである場合にのみ復元
されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIB	ライブラリー	名前	必須, 定位置 1
TYPE	情報のタイプ	*ALL, *EDTD, *NETA, *RPYLE, *SRVATR, *SRVPVD, *SYSVAL	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

ライブラリー (LIB)

システム情報検索(RTVSYSINF)コマンドによってシステム情報が入れられたライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は次の通りです。

ライブラリー名

システム情報が存在するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

情報のタイプ (TYPE)

更新するシステム情報のタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** システム情報検索(RTVSYSINF)コマンドによってソース・システムに保管されたすべての情報を更新します。

***EDTD** システム情報検索(RTVSYSINF)コマンドによってソース・システムに保管されたすべての編集記述を更新します。

***NETA** システム情報検索(RTVSYSINF)コマンドによってソース・システムに保管されたすべてのネットワーク属性を更新します。

***RPYLE** システム情報検索(RTVSYSINF)コマンドによってソース・システムに保管されたすべての応答リスト項目を更新します。

***SRVATR** システム情報検索(RTVSYSINF)コマンドによってソース・システムに保管されたすべてのサービス属性を更新します。

***SRVPVD** システム情報検索(RTVSYSINF)コマンドによってソース・システムに保管されたすべてのサービス提供元を更新します。

***SYSVAL** システム情報検索(RTVSYSINF)コマンドによってソース・システムに保管されたすべてのシステム値を更新します。

[トップ](#)

UPDSYSINFの例

```
UPDSYSINF LIB(TEST) TYPE(*ALL)
```

このコマンドは、現行システムのすべての保管システム情報をライブラリーTESTの情報から更新します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： UPDSYSINF

*ESCAPEメッセージ

CPFA976

タイプ&1のシステム情報を更新時にエラーが起こった。

[トップ](#)

APPC接続検査 (VFYAPPCNN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

APPC接続検査(VFYAPPCNN)コマンド (APINGとも言われる) は、拡張プログラム間通信機能を使用して、ローカル・ロケーションと指定されたりリモート・ロケーションとの間でデータ・パケットを交換し、データ・パケット交換のそれぞれの反復の往復時間を測定します。

処理するこの機能では、指定されたりリモート・ロケーションがこの機能のターゲット部分、APINGD (APINGデーモン)を実行中でなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	文字値	必須, 定位置 1
MODE	モード	通信名, <u>*NETATR</u>	オプション, 定位置 2
RMTUSER	リモート・ユーザーID	文字値, <u>*NONE</u> , *CURRENT	オプション
RMPWD	リモート・パスワード	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
MSGMODE	メッセージ・モード	<u>*VERBOSE</u> , *QUIET	オプション
PKTLEN	パケットの長さ (バイト数)	0-32763, <u>100</u>	オプション
NBRITER	反復回数	1-32767, <u>2</u>	オプション
NBRPKT	パケット数	1-32767, <u>1</u>	オプション
ECHO	エコー	<u>*YES</u> , *NO	オプション
WAITTIME	待ち時間 (秒数)	2-3600, <u>10</u> , *NOMAX, *NOWAIT	オプション

[トップ](#)

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

接続するリモート・ロケーションを指定します。リモート・ロケーション名はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式を使用して指定し、このNNNNNNNNはネットワーク識別子(ID)であり、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。リモート・ロケーション名だけが指定された場合には、ローカル・ネットワークID (LCLNETID)のネットワーク属性がネットワーク識別子の値として使用されます。

[トップ](#)

モード (MODE)

APPCの会話に使用されるモードの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NETATR**

ネットワーク属性のモードが使用されます。

モード名

モード名を指定してください。8桁のブランク文字からなるモード名の場合には、BLANKを指定してください。

注: SNASVCMGおよびCPSVCMGは、予約名であり、指定することはできません。

[トップ](#)

リモート・ユーザーID (RMTUSER)

ターゲット・システムのユーザー識別子(ID)を指定します。このパラメーターにユーザーIDが指定され、パスワードによる機密保護がターゲット・システムで活動状態である場合には、RMTPWD(*NONE)は正しくありません。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

ユーザーIDは送信されません。ターゲット・システムの機密保護でユーザーIDが必要と構成された場合には、このコマンドは正常に実行されません。

***CURRENT**

このコマンドを使用するジョブのユーザーID (サインオン・ユーザー) が送信されます。

リモート・ユーザー識別子

ターゲット・システム上に存在し、使用するユーザー識別子を指定します。ユーザーIDを指定し、パスワードによる機密保護がターゲット・システムで活動状態である場合には、パスワードを指定しなければなりません。

[トップ](#)

リモート・パスワード (RMTPWD)

ターゲット・システムに送信されるパスワードを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

システムはパスワードを送信しません。RMTUSERパラメーターにユーザー識別子(ID)を指定して、パスワードによる機密保護がターゲット・システムで活動状態である場合には、コマンドは正常に実行されません。

パスワード

ターゲット・システムに送られるパスワードを指定して、RMTUSERパラメーターに指定されたコ

ーザーIDのサインオンを検査します。パスワードは、リモート・システムがパスワードの置き換えをサポートしているかどうかによって、通信回線を介した置き換えが行なわれることもあるし、行なわれないこともあります。

[トップ](#)

メッセージ・モード (MSGMODE)

コマンドによって表示される情報の容量を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***VERBOSE**

各反復の後に妥当性検査メッセージを表示します。

***QUIET**

初期および要約メッセージだけを表示します。

[トップ](#)

パケットの長さ (バイト数) (PKTLEN)

ローカルとリモートのシステム間で交換するパケットの長さ (バイト数) を指定します。

考えられる値は次の通りです。

100 パケットの長さは100バイトです。

パケットの長さ

パケットの長さを指定してください。有効な値の範囲は0 - 32763バイトです。

[トップ](#)

反復回数 (NBRITER)

反復の回数を指定します。それぞれの反復では、ローカルとリモートのシステム間で指定されたデータ・パケット数が交換されます。

考えられる値は次の通りです。

2 2回の反復が実行されます。

反復回数

反復の回数を指定します。有効な値の範囲は1 - 32767です。

[トップ](#)

パケット数 (NBRPKT)

ターゲット・システムに送信の許可を与える前に、各反復でローカル・システムによって送信されるパケット数を指定します。

考えられる値は次の通りです。

1 各反復で送信されるパケットは1つです。

パケット数

各反復で送信されるパケット数を指定します。有効な値の範囲は1 - 32767です。

[トップ](#)

エコー (ECHO)

リモート・ロケーションがローカル・ロケーションにエコー・パケットを戻す必要があるかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***YES** パケットのエコーはリモート・ロケーションからローカル・ロケーションに戻されます。

***NO** パケットだけがローカル・ロケーションからリモート・ロケーションに送信されます。パケットのエコーはローカル・ロケーションに戻されません。

[トップ](#)

待ち時間 (秒数) (WAITTIME)

リモート・ロケーションに到達不能と宣言する前に戻り (エコー) を待機する時間 (秒数) を指定します。

考えられる値は次の通りです。

10 システムは10秒間待機します。

***NOMAX**

システムは無期限に待機します。

***NOWAIT**

作動可能で使用可能な接続があると、システムは即時に戻ります。

応答待機時間

時間 (秒数) を指定してください。有効な値の範囲は2 - 3600秒です。

[トップ](#)

VFYAPPCNNの例

例1: APPC接続の検査

```
VFYAPPCNN RMTLOCNAME(RPCNET.CHICAGO) NBRITER(3) NBRPKT(4)
          PKTLEN(500)
```

このコマンドは、リモート・ロケーションCHICAGO,ネットワークID RPCNETを指定して3回の反復のそれぞれで4つの500バイト・パケットを交換します。使用される省略時モードはネットワーク属性DFTMODEから取られます。省略時の値MSGMODE(*VERBOSE)が取られたので、各反復では反復の経過時間が示されている情報メッセージがジョブ・ログになります。

例2: APING別名コマンドの使用

```
APING RMTLOCNAME(RPCNET.CHICAGO) NBRITER(3) NBRPKT(4) PKTLEN(500)
```

452 iSeries: OS/400 コマンド STRDBMON (データベース・モニター開始) ~

このコマンドは、上記の例1のコマンドと同等です。

例3:待ち時間を指定したAPINGの使用

```
APING RMTLOCNAME(RPCNET.CHICAGO) WAITTIME(20)
```

このコマンドは、リモート・ロケーションCHICAGO,ネットワークID RPCNETとの接続を検査します。リモート・ロケーションから応答を待つ最大時間は20秒です。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： APING

*ESCAPEメッセージ

CPF91CC

コマンドは正常に完了しなかった。

[トップ](#)

通信検査 (VFYCMN)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

通信検査(VFYCMN)コマンドはテストする回線の選択画面を表示するので、それを使用して、通信装置が適切に作動していることを確認することができます。

ユーザーのシステム構成によって異なりますが、次のテストを実行することができます。

- リンク
- ローカル・モデム
- リモート・モデム
- ケーブル
- 通信入出力アダプター
- リンク問題判別援助機能 2 (LPDA-2)

制約事項: このコマンドは、*EXCLUDEの共通認可で出荷され、QPGMR, QSYSOPR, QSRV,および QSRVBASユーザー・プロファイルには、このコマンドを使用する私用認可があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
VFYTYPE	検査タイプ	*REMOTE, * <u>LOCAL</u>	オプションル、定位置 1
RCPNAME	リモート制御点	名前	オプションル
NETID	ネットワークID	名前, * <u>NETATR</u>	オプションル
USERID	ユーザー識別コード	名前	オプションル
PASSWORD	パスワード	文字値, <u>X</u> ", *NONE	オプションル

トップ

検査タイプ (VFYTYPE)

妥当性検査のタイプを指定します。ローカルまたはリモート通信ハードウェアが正しく作動しているかどうかを確認することができます。

注: SYSTEMVIEW SYSTEM MANAGER/400プログラムが導入されていない場合には、リモート分析を実行することはできません。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は、次の通りです。

***LOCAL**

通信ハードウェアがこのAS/400で正しく作動しているかどうか確認されます。

***REMOTE**

通信ハードウェアがサービス要求元として登録された別のAS/400システムで正しく作動しているかどうか確認されます。

[トップ](#)

リモート制御点 (RCPNAME)

リモート検査が行なわれるサービス要求元システムのリモート制御点名を指定します。リモート制御点名を指定してください。

注: このパラメーターは、**検査タイププロンプト** (VFYTYPEパラメーター) に*REMOTEを指定した場合にだけ有効です。

[トップ](#)

ネットワークID (NETID)

リモート検査が実行されるサービス要求元システムのネットワーク識別コード (ID) を指定します。

注: このパラメーターは、**検査タイププロンプト** (VFYTYPEパラメーター) に*REMOTEを指定した場合にだけ有効です。

考えられる値は、次の通りです。

***NETATR**

サービス提供元のネットワークIDが使用されます。

ネットワークID

ネットワークIDを指定してください。

[トップ](#)

ユーザー識別コード (USERID)

リモート・システムのアクセスに使用されるユーザー識別コード (ID) を指定します。

注: このパラメーターは、**検査タイププロンプト** (VFYTYPEパラメーター) に*REMOTEを指定した場合にだけ有効です。

[トップ](#)

パスワード (PASSWORD)

リモート・システムのアクセスに使用されるパスワードを指定します。

注: このパラメーターは、**検査タイプ**プロンプト（VFYTYPEパラメーター）に*REMOTEを指定した場合にだけ有効です。

考えられる値は、次の通りです。

***NONE**

リモート・システムには10の機密保護レベルがあるので、リモート・システムのアクセスにパスワードは不要です。

パスワード

パスワードを指定してください。

[トップ](#)

VFYCMNの例

例1:テストする回線の選択パネルを表示

```
VFYCMN
```

このコマンドは、「テストする回線の選択」パネルを表示します。

例2:リモート・システムを検査

```
VFYCMN VFYTYPE(*REMOTE)
```

このコマンドは、コマンドの残りの値をプロンプトするパネルを表示します。該当の値を入力すると、リモート分析が開始されます。

例3:パスワードを使用してリモート・システムをアクセス

```
VFYCMN VFYTYPE(*REMOTE) RCPNAME(RCH38377) USERID(JON)
        PASSWORD(ABC123)
```

このコマンドは、コマンドの残りの値をプロンプトする画面を表示します。コマンドの例に示された値に重ねて該当の値を入力すると、リモート分析が開始されます。

例4:パスワードなしでリモート・システムをアクセス

```
VFYCMN VFYTYPE(*REMOTE) RCPNAME(RCH38377) USERID(JON)
```

このコマンドは、PASSWORDパラメーターが指定されていないこと以外は前の例と同じです。同じプロンプト画面が表示されますが、システムは、リモート・システムが機密保護レベル10を持つ（すなわちパスワードを使用しない）ものと見なします。このコマンドを指定した後で、別のプロンプト画面が表示されます。その画面にユーザーが該当の値を指定すると、リモート分析が開始されます。

例5:ローカル・システムを検査

```
VFYCMN VFYTYPE(*LOCAL)
```

このコマンドは、ローカル装置上で分析を開始します。残りのパラメーターは画面上に表示されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： VFYCMN

*ESCAPE メッセージ

CPF2B3C

ライセンス・プログラム&1が導入されていません。

[トップ](#)

イメージ・カタログの検査 (VFYIMGCLG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

イメージ・カタログ検査(VFYIMGCLG)コマンドは、TYPEパラメーターに指定された値に基づいてイメージ・カタログ中のイメージを検査するために使用します。ユーザーは、同様にTYPEパラメーターに基づいてオプションでイメージを導入順序で分類することができます。

コマンドが正常に完了すると、状況メッセージが出されます。VFYIMGCLGコマンドが失敗した場合には、イメージ・カタログ項目処理(WRKIMGCLGE)コマンドを使用して、そのイメージとそれぞれの状況を調べることができます。VFYIMGCLGコマンドは、ソフトウェア・アップグレード、PTFの導入、その他のタイプの導入が完全であったことを確認するためにイメージを検査することを目的としたものです。

制約事項:

- このコマンドを使用するためには、機密保護管理者(*SECADM)および全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
IMGCLG	イメージ・カタログ	名前	必須, 定位置 1
TYPE	イメージ・カタログ・タイプ	*UPGRADE, *PTF, *OTHER	オプション
SORT	イメージ・カタログのソート	*NO, *YES	オプション

[トップ](#)

イメージ・カタログ (IMGCLG)

検査するイメージ・カタログを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 イメージ・カタログの名前を指定します。

[トップ](#)

イメージ・カタログ・タイプ (TYPE)

検査するイメージ・カタログのタイプを指定します。

*UPGRADE

検査されるイメージ・カタログは完全なソフトウェア・アップグレードに関してです。システムは、ソフトウェア・アップグレードのイメージが存在し、仮想光ディスク装置にロードできることを検査します。次のリストは、検査タイプ*UPGRADEのソート順序および必要なイメージを示します。

1. OS/400ライセンス内部コード (必要)
2. オペレーティング・システム/400 (必要)
3. OS/400 -ライブラリーQGPL (必要)
4. OS/400 -ライブラリーQUSRSYS (必要)
5. オペレーティング・システム/400 (無料オプション)
6. オペレーティング・システム/400無料 (ボーナス) ライセンス・プログラムおよびオプション
7. オペレーティング・システム/400キー・セット製品
8. 単一製品
9. 2次言語
10. プログラム一時修正

***PTF** 検査されるイメージ・カタログはPTF導入に関してです。システムは、すべてのPTFボリューム・セットが完了し、仮想光ディスク装置にロードできることを検査します。PTFボリューム以外はどれもアンロードされます。

*OTHER

検査されるイメージ・カタログは特定のタイプの導入に関してではありません。このオプションは、イメージをその存在する順序でイメージ・カタログからロードします。イメージの検査またはソートは行なわれません。

[トップ](#)

イメージ・カタログのソート (SORT)

このタイプのイメージを、ソフトウェア・アップグレードまたは PTF 導入に必要な順序にソートする必要があるかどうかを指定します。TYPE(*OTHER)を指定した場合には、イメージ・カタログのイメージはソートされません。

***NO** イメージ・カタログのイメージは、TYPEパラメーターに指定された値に基づいてソートされません。

***YES** イメージ・カタログのイメージは、TYPEパラメーターに指定された値に基づいてソートされます。

[トップ](#)

VFYIMGCLGの例

例1: TYPE(*UPGRADE)のイメージ・カタログを検査

```
VFYIMGCLG IMGCLG(MYCLG) TYPE(*UPGRADE) SORT(*YES)
```

このコマンドは、ソフトウェアのアップグレードに必要なファイルが導入イメージ・カタログMYCLGに入っているかどうかを検査します。必要な媒体ファイルが存在する場合には、イメージは、ソフトウェアのアップグレードに必要な順序にソートされます。

例2: TYPE(*PTF)のイメージ・カタログを検査

```
VFYIMGCLG IMGCLG(MYCLG) TYPE(*PTF)
```

このコマンドは、イメージ・カタログ**MYCLG**中ですべての必要な累積PTFボリュームが使用可能であることを検査します。イメージのソートは行われません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： VFYIMGCLG

*ESCAPE メッセージ

CPFBC20

イメージ・カタログ&1の検査が失敗した。

CPFBC45

イメージ・カタログ&1が見つからない。

[トップ](#)

LPDA-2をサポートするリンク検査 (VFYLNKLPDA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

LPDA-2をサポートしているリンク検査(VFYLNKLPDA)コマンドによって、LPDA-2テストのいずれかを実行し、指定した形式で結果を受け取ることができます。

制約事項: このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷され、ユーザー・プロファイルQPGMR, QSYSOPR, QSRV,およびQSRVBASは、このコマンドを使用する私用認可をもっています。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LINE	行	名前	必須, 定位置 1
TEST	テスト	<u>*DCELINSTS</u> , *DCELINTST, *ANZLIN, *SNDRCV	オプション
LCLDCEADR	ローカルDCEアドレス	X'01'-X'FB', <u>*LCL</u>	オプション
RMTDCEADR	リモートDCEアドレス	X'01'-X'FB', <u>*ANY</u>	オプション
OUTPUT	出力	<u>*</u> , *PRINT	オプション
SEQCOUNT	順序の数	1-3, <u>1</u>	オプション
DTEPORT	リモートDTEポート	<u>A</u> , B, C, D	オプション
DTERTY	DTE再試行	<u>*NO</u> , *YES	オプション
DCERTY	DCE再試行	<u>*NO</u> , *YES	オプション
VRYLNKSTS	テスト後のリンク状況	<u>*SAME</u> , *ON, *OFF	オプション

[トップ](#)

行 (LINE)

テストされるリンク上の回線（非交換*SDLC）の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

テスト (TEST)

4つのテストのどれが実行されるかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***DCEINSTS**

データ回線終端装置(DCE)の回線状況が戻されます。

***DCELINTST**

データ回線終端装置(DCE)の回線テストが行なわれます。

***ANZLIN**

回線分析テストが行なわれます。このテストはアナログ回線専用です。

***SNDRCV**

送受信テストが行なわれます。

[トップ](#)

ローカルDCEアドレス (LCLDCEADR)

ローカル・データ回線終端装置(DCE)アドレスを指定します。規則によって、このバイトのビット4-7は、ローカルおよびリモートのDCEのリンク・セグメント・レベル(LSL)を示します。ビット0-3は、同じLSLでの複数のローカルDCEからローカルDCEを固有に識別するために使用されます。このアドレスは構成時にローカルDCE でセットされ、この規則に従います。

注: X'00'はローカルDCEに有効なアドレスではありません。

考えられる値は、次の通りです。

***LCL** LSL 1のローカルDCEのアドレスであるX'01'が使用されます。

ローカルDCEアドレス

ローカルDCEアドレスを指定してください。有効な値の範囲はX'01'からX'FB' です。

[トップ](#)

リモートDCEアドレス (RMTDCEADR)

リモート・データ回線終端装置(DCE)アドレスを指定します。

マルチポイント・リンクをテストする場合には、このパラメーターを指定しなければなりません。

考えられる値は、次の通りです。

***ANY** グローバル・リモートDCEアドレスのX'FD'が使用されます。リモートDCEがアイドル状態でない場合には、前に構成されているアドレスに関係なくリモートDCEが応答します。

注: マルチポイント従属端末DCEは*ANYのアドレスには応答しません。

リモートDCEアドレス

リモートDCEアドレスを指定してください。有効な値の範囲はX'01'からX'FB' です。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

- * 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

順序の数 (SEQCOUNT)

送受信テスト用に送信する文字列の数を指定します。文字列は、16ブロックのグループであり、ブロック長はDCEの構成によります。

考えられる値は、次の通りです。

- 1 テスト中に1文字列が送られます。

文字列の数

送信する文字列の数を指定してください。有効な値の範囲は1-3です。

[トップ](#)

リモートDTEポート (DTEPORT)

リモートDCEのデータ端末装置(DTE)ポートを指定します。これについての状況が戻されます。このパラメーターが有効なのは、DCEの回線状況および回線テストを処理している時だけです。このパラメーターは、複数ポートDCEだけに意味があります。

考えられる値は、次の通りです。

- A Aポートの状況が戻されます。
- B** Bポートの状況が戻されます。
- C** Cポートの状況が戻されます。
- D** Dポートの状況が戻されます。

[トップ](#)

DTE再試行 (DTERTY)

ローカルDCEからの応答が間違っているか、あるいは応答が受け取られなかったために、このコマンドでシステムDTEからローカルDCEへのリンク操作がやり直されることを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***NO** このコマンドで再試行は行なわれません。

***YES** このコマンドで再試行されます。

[トップ](#)

DCE再試行 (DCERTY)

リモートDCEから間違った応答が受け取られた場合、あるいは応答が受け取られなかった場合に、ローカルDCEがリモートDCEに対するコマンドをやり直すかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***NO** ローカルDCEはこのコマンドをやり直しません。

***YES** ローカルDCEはこのコマンドをやり直します。

[トップ](#)

テスト後のリンク状況 (VRYLNKSTS)

テスト完了後のリンクの所要の状況（オンへの構成変更またはオフへの構成変更）を指定します。

注: 手動交換リンクでのテストの実行後に、ほとんどの場合、同じ接続でさらに情報を受け取ることができるように、リンクはオンに構成変更されたままになります。交換リンクがオフに構成変更された場合には、障害のある接続は失われ、それ以上の分析は行なうことができません。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

指定されたリンクは、テストの直前の状況に戻ります。

***ON** リンクはオンに構成変更されたままです。

***OFF** リンクはオフに構成変更されます。

[トップ](#)

VFYLNKLPDAの例

例1:回線状況を検査する

```
VFYLNKLPDA LINE(LINE1) DTEPORT(B)
```

このコマンドは、同期データ・リンク制御(SDLC)回線LINE1からDCE回線状況を検索して、状況を表示します。ユーザーがマルチポートDCEを検査している場合は、ポートBのリモートDCE DTE回線接続状況が戻されます。リモートDTEに単一ポート（たとえばポートA）だけがある場合は、エラー・メッセージが戻されます。省略時の値VRYLNKSTS(*SAME)により、回線LINE1はテスト前の状況に戻ることになります。

例2:回線を分析する

```
VFYLNKLPDA LINE(LINE2) TEST(*ANZLIN) OUTPUT(*PRINT)
LCLDCEADR(02) VRYLNKSTS(*ON)
```

このコマンドは、SDLC回線LINE2を分析します。2番目のLSLが使用されます。下段の4ビットのローカルDCEアドレス(LCLDCEADR)は2です。結果はスプール・ファイルに送信されます。テスト後には、さらにテストできるようにLINE2はオンに変更されたままになっています。

例3:送受信機能をテストする

```
VFYLNKLPDA  LINE(LINE3)  TEST(*SNDRCV)  SEQCOUNT(3)
              RMTDCEADR(21)  DCERTY(*YES)
```

このコマンドは、マルチポイント回線LINE3で送受信機能をテストします。16ブロックの3つのシーケンスが、ローカル（制御）DCEおよびアドレスX'21'のリモート（従属端末）DCE間で送信されます。ローカルDCEが最初の試みで応答の受信に失敗すると、ローカルDCEはこのコマンドをリモートDCEに対して再試行します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： VFYLNKLPDA

*ESCAPE メッセージ

CPF1BAF

VFYLNKLPDAコマンドの処理中に、エラーが起こった。

CPF1BA9

回線&1のオフへの構成変更が正常に実行されなかった。

CPF1BCC

この時点でテストを実行することができない。

CPF1BCD

DCE自己検査が正常に実行されなかった。

CPF1BCE

戻されたセンス・バイトが正しくない。

CPF1BC1

VFYLNKLPDAコマンドの処理中にエラーが検出された。

CPF1BC3

このテストは交換網バックアップ・モードで実行することはできない。

CPF1BC4

要求されたテストはサポートされていない。

CPF1BC5

必要な機能が導入されていない。

CPF1BC6

必要な機能が操作可能になっていない。

CPF1BC7

このテストはDCE構成と互換性がありません。

CPF1BC8

DTEPORTパラメーターを指定することができない。

CPF1BD1

回線記述&1は*SDLCでない。

CPF1BD2

システム保守ツールが活動状態になっている。

CPF1BD4

回線記述&1の使用は認可されていない。

CPF1BD7

VFYLNKLPDAコマンドは交換回線をサポートしていない。

CPF1B8A

テスト中に回線&1で障害が起こった。

CPF1B8B

テスト要求の応答が受け取られていない。

CPF1B8C

回線&1でテストを実行することができない。

CPF1B8D

VFYLNKLPDAコマンドの処理中に、エラーが起こった。

CPF1B8E

この時点でテストを実行することができない。

CPF1B8F

テスト要求が正常に実行されなかった。テストはすでに回線で活動状態になっています。

CPF1B80

回線記述&1が存在していない。

CPF1B81

構成情報の検索中にエラーが起こった。

CPF1B83

回線&1はテストに適切な状態でない。

CPF1B89

回線&1でテストを実行することができない。

CPF1B9F

この時点で回線&1をオフに構成変更することはできない。

CPF1B93

回線&1はオンに構成変更されなかった。

[トップ](#)

NETWARE認証項目の検査 (VFYNTWAUTE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

NETWARE認証項目の検査(VFYNTWAUTE)コマンドは、サーバーに関する認証項目を検査します。ユーザー名、パスワード、およびその他のデータがサーバーに送られ、そのサーバーへのサインオンに使用されます。このコマンドは、たとえば、サーバーを使用するバッチ・ジョブの投入前に、パスワードが正しいことを検査するために使用されることがあります。ユーザー・プロファイル内のサーバー認証項目を表示するためには、NETWARE認証項目処理(WRKNTWAUTE)コマンドを使用してください。

注: このコマンドは、PASSWORD(*STRNTWCNN)を指定した項目に使用することはできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SVRTYPE	サーバー・タイプ	*NDS	必須, 定位置 1
NDSTREE	NDSツリー	文字値	オプション
SERVER	サーバー	文字値, *ANY	オプション
USRPRF	ユーザー・プロファイル	名前, *CURRENT	オプション

[トップ](#)

サーバー・タイプ (SVRTYPE)

確認するサーバー認証項目のサーバー・タイプを指定します。

*NDS 項目はNETWAREディレクトリー・サービス・ツリーに関するものです。

[トップ](#)

NDSツリー (NDSTREE)

確認する認証項目のNDSツリーを指定します。

文字値 NDSツリーの名前を指定します。

[トップ](#)

サーバー (SERVER)

確認する認証項目のサーバーを指定します。

***ANY** NDSツリー内の任意のサーバーを使用します。

文字値 サーバーの名前を指定します。

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

認証項目が入っているユーザー・プロファイルを指定します。

***CURRENT**

現行ユーザー・プロファイルを使用します。

名前 ユーザー・プロファイルの名前を指定します。このユーザー・プロファイルは現行のユーザー・プロファイルであるか、あるいはユーザーはこのユーザー・プロファイルに対する*USEと*OBJMGT権限および*SECADM特殊権限をもっていなければなりません。

[トップ](#)

VFYNTWAUTEの例

```
VFYNTWAUTE SVRTYPE(*NETWARE3) SERVER(SERVER03)
```

このコマンドは、現行ユーザー・プロファイルから、NETWARE 3.XサーバーSERVER03のサーバー認証項目を検査します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： VFYNTWAUTE

***ESCAPE** メッセージ

FPE021A

認証項目の検査が失敗した。

[トップ](#)

OPTICONNECT接続の検査 (VFYOPCCNN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

OPTICONNECT接続検査(VFYOPCCNN)コマンドは、光ファイバー・ネットワーク内のすべてのシステムへの接続を検査します。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

VFYOPCCNNの例

VFYOPCCNN

このコマンドは、OPTICONNECTによって要求側システムに接続している他のすべてのシステムとの接続を検査します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: VFYOPCCNN

なし

[トップ](#)

光ディスクの検査 (VFYOPT)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

光ディスク検査(VFYOPT)コマンドは、指定された光ディスク・ドライブ装置または指定された光媒体ライブラリー装置が操作中かどうかを検査します。

制約事項: このコマンドは、共通の*EXCLUDE権限で出荷され、QPGMR, QSYSOPR, QSRV,およびQSRVBASユーザー・プロファイルには、このコマンドを使用する私用認可があります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	装置	名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

装置 (DEV)

操作が検査されている光ディスク・ドライブまたは光媒体ライブラリー装置の名前を指定します。

[トップ](#)

VFYOPTの例

例1:光ディスク・ドライブを検査

```
VFYOPT DEV(OPT1)
```

このコマンドは、名前OPT1の光ディスク・ドライブ装置が操作中かどうかを検査します。

例2:光ディスク媒体ライブラリーを検査

```
VFYOPT DEV(OPTMLB1)
```

このコマンドは、名前OPTMLB1の光ディスク媒体ライブラリー装置が操作中かどうかを検査します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: VFYOPT

*ESCAPE メッセージ

CPF2C31

光ディスク装置記述&1が見つかりません。

CPF2C33

装置記述&1が光ディスク装置ではありません。

[トップ](#)

印刷装置検査 (VFYPRT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

印刷装置検査(VFYPRT)コマンドは、サポートされている印刷装置で指定の回数だけテスト・パターンを印刷します。次の印刷装置がサポートされています。

IPDSグラフィック可能: 3812 IPDSおよび4224

SCSグラフィック可能: 4214, 4234, 5224,および5225

SCSグラフィック不能:

- 3287
- 3812 SCS
- 4210
- 5219
- 5256
- 5262
- 5553 (DBCSのみ)
- 5583 (DBCSのみ)

制約事項:

- VFYPRTは、AFPパラメーターに指定された*YESで構成された印刷装置をサポートしません。3820, 3827,および3835など一部の印刷装置は、このようにしてしか構成することができません。これは、このコマンドが、装置記述にAFP(*NO)が指定された非高機能印刷装置と高機能印刷装置（3812および3816印刷装置など）の両方で働かせることができることを意味します。
- QPGMR, QSRV,およびQSRVBASユーザー・プロファイルには、このコマンドを使用するための専用認があります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	ワークステーション印刷装置	名前	必須, 定位置 1
TIMES	印刷回数	1-99, <u>1</u>	オプション

[トップ](#)

ワークステーション印刷装置 (DEV)

テスト・パターンを実行する印刷装置を指定します。この装置名は、印刷装置の装置記述に指定されたものと同じでなければなりません。

これは必須パラメーターです。

名前 印刷装置記述の名前を指定します。

[トップ](#)

印刷回数 (TIMES)

指定した印刷装置がテスト・パターンを印刷する回数を指定します。

1 テスト・パターンを1回印刷します。

1-99 テスト・パターンを印刷する回数を指定します。

[トップ](#)

VFYPRTの例

```
VFYPRT DEV(PRTR3) TIMES(15)
```

このコマンドにより、プリンターPRTR3がテスト・パターンを15回印刷できます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： VFYPRT

*ESCAPE メッセージ

CPF3943

装置パラメーターに正しくない値を指定している。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9831

装置&1を割り当てることができない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

サービス・エージェントの検査 (VFYSRVAGT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス・エージェントの検査(VFYSRVAGT)コマンドによって、ユーザーは、サービス・エージェントの操作を検査できます。検査される操作は、**タイプ(TYPE)**パラメーターで指定します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	タイプ	*SRVCNN, *TSTPRB	必須, 定位置 1
ERRLOGID	エラー・ログ識別コード	16 進値, <u>00000000</u>	オプション

[トップ](#)

タイプ(TYPE)

検査されるサービス・エージェントの特徴を指定します。

これは必須パラメーターです。

*SRVCNN

システムまたは論理区画とIBMとの間の接続が検査されます。問題報告のためにサービス・エージェントが活動化されていても、いなくても、インベントリー伝送にはこの接続を使用できます。

*TSTPRB

サービス・エージェントは、指定されたエラー・ログIDまたはヌル(00000000)のエラー・ログIDで問題ログ項目を作成します。これで、問題は、サービス・エージェントの通常の問題報告機能によって報告されることとなります。これにより、サービス・エージェントの問題報告機能のテストが可能となります。サービス・エージェントのメッセージおよび問題管理レコード(PMR)を見つけるために、数分間後、QSRVおよびQSYSOPRのメッセージを調べることができます。

[トップ](#)

エラー・ログ識別コード(ERRLOGID)

テスト問題を送るための問題ログ項目の作成に使用されるプロダクト活動ログ・レコードのレコード識別コードを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*TSTPRB)を指定した場合だけです。

00000000

プロダクト活動ログ・レコードが使用されないことを指定します。問題ログ項目およびテスト問題にはプロダクト活動ログ・レコード識別コードはありません。

16進値

所要のプロダクト活動ログ・レコードの8文字の16進識別コードを指定してください。識別コードは、TYPE(*EVENT)を指定したサービス・エージェント処理(WRKSRVAGT)コマンドを使用するか、保守ツール開始(STRSST)コマンドを使用して見つけることができます。

[トップ](#)

VFYSRVAGTの例

```
VFYSRVAGT TYPE(*TSTPRB) ERRLOGID(00000000)
```

このコマンドは、エラー・ログ識別コードのないテスト問題を送ってサービス・エージェントの操作を検査します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： VFYSRVAGT

***ESCAPE メッセージ**

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

サービス構成の検証 (VFYSRVCFG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス構成の検証 (VFYSRVCFG)コマンドによって、既存のAT&T グローバル・ネットワーク・サービス(AGNS)または仮想プライベート・ネットワーク(VPN)サービス構成を検査することができます。現在の構成を使用して、選択されたサービスに対して、セッションが開始されます。セッションが活動状態になった後で、サービス構成が検査されてセッションが終了されます。

制約事項:

- 通信構成オブジェクト（回線，制御装置，および装置記述）に対する使用(*USE)権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SERVICE	サービス	*ECS, *SRVAGT	必須, 定位置 1

[トップ](#)

サービス (SERVICE)

検査するサービスを指定します。

これは必須パラメーターです。

***ECS** ISERIESサービス・エージェントのエレクトロニック支援(ECS)およびハードウェア障害報告機能で使用されるサービス構成が検査されます。

***SRVAGT**

ISERIESサービス・エージェントのインベントリー収集および送信機能で使用されるサービス構成が検査されます。

[トップ](#)

VFYSRVCFGの例

例1: ECSサービス構成の検査

```
VFYSRVCFG SERVICE (*ECS)
```

このコマンドは、ISERIESサービス・エージェントのエレクトロニック支援(ECS)およびハードウェア障害報告機能で使用されるサービス構成がIBMに接続できるのを検査します。

例2: ISERIESサービス・エージェントのサービス構成の検査

VFYSRVCFG SERVICE (*SRVAGT)

このコマンドは、ISERIESサービス・エージェントのインベントリ収集および送信機能で使用されるサービス構成がIBMに接続できるのを検査します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： VFYSRVCFG

*ESCAPE メッセージ

CPFB041

パラメーターSERVICEが必要です。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

TCP8205

必要なオブジェクト&2/&1タイプ*&3が見つからない。

TCP8211

POINT-TO-POINTプロファイル&1が見つかりません。

[トップ](#)

テープの検査 (VFYTAP)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

テープ検査(VFYTAP)コマンドによって、すべてのテープ装置に対してテープ装置操作の妥当性検査を行なうことができます。

制約事項: このコマンドは、*EXCLUDEの共通認可で出荷され、QPGMR, QSYSOPR, QSRV,およびQSRVBASユーザー・プロファイルには、このコマンドを使用する私用認可があります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	装置	名前, *RSRCNAME	必須, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

装置 (DEV)

操作を検査中のテープ装置の名前を指定します。

装置名 操作を検査中のテープ装置の名前を指定してください。

***RSRCNAME**

操作を検査中のテープ装置の資源名が使用されます。

[トップ](#)

資源名 (RSRCNAME)

操作を検査中のテープ装置の資源名を指定します。

[トップ](#)

VFYTAPの例

VFYTAP DEV(TAP3)

このコマンドは、名前TAP3のテープ装置が作動中かどうかを検査します。

エラー・メッセージ： VFYTAP

*ESCAPE メッセージ

CPF2B31

テープ装置記述&1が見つかりません。

CPF2B32

資源&1が見つからない。

CPF2B33

装置記述&1がテープ装置ではありません。

CPF2B34

資源&1はテープ装置ではありません。

CPF2B35

テープの検査は'&1'タイプのテープ装置には使用できません。

CPF2B36

資源&1の装置記述が見つかりません。

CPF2B37

テープの検査要求が正しくありません。

CPF2B39

エラーのために問題分析が完了しなかった。

TCP/IP接続の検査 (VFYTCPCNN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IP接続検査(VFYTCPCNN)コマンド(PINGとも呼ばれる)は、システムとリモート・システム・パラメーターに指定されているリモート・システムとの間の接続をテストします。

注:

- VFYTCPCNN (PING)コマンドはSNA接続を介したIPを検査することはできません。
- ローカル・ドメイン名は、PINGを含む多くのアプリケーションで使用されます。ドメインが指定されていない場合、あるいは指定されたホスト名の終わりにピリオド(.)が表示されない場合には、PINGはホスト名にローカル・ドメインを付加します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RMTSYS	リモート・システム	文字値, *INTNETADR	必須, 定位置 1
INTNETADR	リモート・インターネット・アドレス	文字値	オプション
ADRVERFMT	アドレス・バージョン形式	* CALC , *IP4, *IP6	オプション
MSGMODE	メッセージ・モード	要素リスト	オプション
	要素 1: 応答メッセージの詳細	* VERBOSE , *QUIET	
	要素 2: 要約, 応答エラーの場合	* COMP , *ESCAPE	
PKTLEN	パケットの長さ (バイト数)	8-512, 256	オプション
NBRPKT	パケット数	1-999, 5	オプション
WAITTIME	待ち時間 (秒数)	1-120, 1	オプション
LCLINTNETA	ローカル・インターネット・アドレス	文字値, * ANY	オプション
TOS	TYPE OF SERVICE	*MINDELAY, *MAXTHRPUR, *MAXRLB, *MINCOST, * NORMAL	オプション
IP TTL	IP有効時間 (ホップ限界)	1-255, * DFT	オプション

[トップ](#)

リモート・システム (RMTSYS)

TCP/IP検査命令が実行されるホストのリモート・システム名を指定します。正常に実行するためには、名前が有効なものでなければならず、リモート・システムがローカル・システムと通信できなければなりません。次のいずれかを使用して、IPアドレスに名前を割り当てることができます。

- 「ホスト・テーブルの処理」メニュー。これは「TCP/IPの構成」メニューのオプションです。
- リモート・ネーム・サーバー。リモート・システム名をIPアドレスにマップする場合。

ホスト名の分析解決は、**アドレス・バージョン形式 (ADRVERFMT)**パラメーターに指定された値によります。

*INTNETADR

リモート・システムは、**リモート・インターネット・アドレス (INTNETADR)**パラメーターに指定された値によって識別されます。

文字値 検査するリモート・システムの名前を指定してください。

[トップ](#)

リモート・インターネット・アドレス (INTNETADR)

リモートIPアドレスを指定します。有効なIPバージョン4またはIPバージョン6アドレスのいずれかが受け入れられます。IPバージョン4のIPアドレスは、そのアドレスのネットワーク識別コード(ID)部分またはホストID部分の値がすべて2進数の1またはすべて2進数の0の場合には、正しくありません。

文字値 リモート・システムのインターネット・アドレスを指定してください。コマンド入力行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

[トップ](#)

アドレス・バージョン形式 (ADRVERFMT)

リモート・システム (RMTSYS)パラメーターに指定したホスト名の解決方法を指定します。

*CALC

ホスト名の分析解決方法は、RMTSYSパラメーターに入力されたホスト名に基づいて「計算」(決定)されます。VFYTCPCNN (PING)は、IPアドレスの決定に際してまずIPバージョン4のホスト名分析解決を使用します。これが正常に行われないと、IPアドレスの決定でIPバージョン6のホスト名分析解決が使用されます。

***IP4** IPバージョン4ホスト名解決方法を使用します。

***IP6** IPバージョン6ホスト名解決方法を使用します。

[トップ](#)

メッセージ・モード (MSGMODE)

表示される情報の量を指定します。

要素1: 応答メッセージの詳細

***VERBOSE**

各PING応答が届くたびにメッセージを表示します。

***QUIET**

最初のPING (VFYTCPCNN)メッセージおよび要約メッセージだけを表示します。

要素2: 要約, 応答エラーの場合

***COMP**

PING (CFYTCPCNN)要求が成功した場合には, 戻される要約メッセージは完了メッセージです。

***ESCAPE**

モニター可能エスケープ・メッセージが戻されます。これは, PING要求を出すプログラムを書いていて, エラーがないかどうかPING要求をモニターしたい場合に有用です。可能なエスケープ・メッセージのリストが必要な場合には, PING (VFYTCPCNN) コマンドのエラー・メッセージの説明を参照してください。

[トップ](#)

パケットの長さ (バイト数) (PKTLEN)

リモート・システムに送られるパケットの長さ (バイト数) を指定します。

256 パケットの長さは256バイトです。

8-512 各パケットのバイト数を指定してください。

[トップ](#)

パケット数 (NBRPKT)

リモート・システムに送られるパケットの数を指定します。

5 5つのパケットが送られます。

1-999 リモート・システムに送られるパケットの数を指定してください。

[トップ](#)

待ち時間 (秒数) (WAITTIME)

このパケット転送を障害と通知する前に戻り (エコー) パケットを待機する秒数を指定します。

1 システムは1秒間待機します。

1-120 待機する秒数を指定してください。

[トップ](#)

ローカル・インターネット・アドレス (LCLINTNETA)

アウトバウンド・パケットが使用するインターフェースのローカルIPアドレスを指定します。いずれかの有効なIPバージョン4またはIPバージョン6アドレスのいずれかが受け入れられます。IPバージョン4のIPアドレスは、そのアドレスのネットワーク識別コード(ID)部分またはホストID部分の値がすべて2進数の1またはすべて2進数の0の場合には、正しくありません。コマンド入力行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

***ANY** 任意のインターフェースのローカルIPアドレスを使用してください。

文字値 ローカルIPアドレスを指定してください。

[トップ](#)

TYPE OF SERVICE (TOS)

使用するTYPE OF SERVICEを指定します。TYPE OF SERVICEは、インターネット・ホストおよびルーターがスループット、遅延、信頼性、およびコストの間で行うトレードオフを定義します。

注: アウトバウンド・パケットに使用するインターフェースを指定するためにローカル・インターネット・アドレス(LCLINTNETA)を使用してVFYTCPCNNを出す場合には、そのインターフェースと一致するTYPE OF SERVICE (TOS)も指定しなければなりません。

注: リモート・システムとの接続の検査にIPバージョン6のアドレス解決が使用される場合には、このパラメーターは使用されません。

***NORMAL**

データの転送に通常のサービスが使用されます。

***MINDELAY**

遅延の最小化は、この接続ではプロンプト配信が重要であることを意味します。

***MAXTHRPUT**

スループット最大化は、この接続でデータに対する高いデータ速度が重要であることを意味します。

***MAXRLB**

信頼性最大化は、この接続でデータに対する配布を確実にするための高水準の努力が重要であることを意味します。

***MINCOST**

金銭上のコストの最小化は、この接続ではデータのコストの低下が重要であることを意味します。

[トップ](#)

IP有効時間 (ホップ限界) (IPTTL)

IPデータグラム (パケット) 存続時間値を指定します。データグラムは、このパラメーターによって指定されたルーター・ホップ数に対してのみ有効です。存続時間値は、「ホップ・カウンター」として機能します。ルーターまたはゲートウェイを介してデータグラムが渡されるたびにカウンターが減少します。ホップ数によってデータグラムの妥当性を制限することは、インターネットの経路指定ループを避ける上で役立ちます。

注: IPバージョン6は、このパラメーターを**ホップ限界**として参照します。

***DFT** 省略時の存続時間値を使用してください。

マルチキャスト・アドレスの省略時の存続時間値は1です。他のすべてのアドレスの省略時の存続時間値は、TCP/IP属性変更(CHGTCPA)コマンドのIPTTLパラメーターによって指定されます。

1-255 IPデータグラム (パケット) の存続時間値を指定してください。

トップ

VFYTCPCNNの例

例1:指定したホスト名によるTCP/IP接続を検査

```
VFYTCPCNN  RMTSYS(IPHOST)  PKTLEN(100)  NBRPKT(10)
           WAITTIME(15)
```

このコマンドは、TCP/IPリンクを介してそれぞれ100バイトの10パケットをリモート・システム(TCP/IP構成にはIPHOSTとして認識されています)に送信します。各パケットの転送は15秒以内に実行する必要があります。実行できないと失敗します。

例2: IPアドレスによるTCP/IP接続を検査

```
VFYTCPCNN  RMTSYS(*INTNETADR)  INTNETADR('128.1.1.10')
           PKTLEN(100)  NBRPKT(10)  WAITTIME(15)
```

このコマンドは、TCP/IPインターフェースを介してそれぞれ100バイトの10パケットをリモート・システムに送信しようとします。ユーザーは、割り当てられたシステム名ではなく、IPアドレス128.1.1.10でRMTSYSを表現しています。15秒を超えて行われる各パケット転送は失敗します。

例3:ホスト名および特定のローカル・インターフェース・アドレスを使用したTCP/IP接続を検査

```
VFYTCPCNN  RMTSYS(IPHOST)  MSGMODE(*QUIET)
           LCLINTNETA('9.2.2.3')
```

このコマンドは、それぞれ256バイト (省略時の値) の5パケット (省略時の値) を、ローカル・アドレス9.2.2.3をもつ特定のTCP/IPインターフェースを介してリモート・システムに送信しようとします。

MSGMODE(*QUIET)が指定されているので、基本出力メッセージだけが表示されます。マルチホーム・ホストでは、特定の物理インターフェースを介したネットワーク接続を検査するのに、インターフェース・パラメーターが役立ちます。

例4: IPバージョン6によるTCP/IP接続を検査

```
VFYTCPCNN  RMTSYS(*INTNETADR)
           INTNETADR('1:2:3:4:5:6:7:8')
```

このコマンドは、ローカル・アドレス**1:2:3:4:5:6:7:8**をもつリモート・システムのTCP/IP接続を検査しようとします。

例5:指定したIPバージョン6定義ホスト名によるTCP/IP接続を検査

```
VFYTCPCNN  RMTSYS(IPV6HOST)
```

このコマンドは、TCP/IPリンクを介してそれぞれ256バイト（省略時の値）の5パケット（省略時の値）をリモート・システム(IPバージョン6 TCP/IP構成にIPV6HOSTとして認識されています)に送信しようとしています。

省略時の「アドレス・バージョン形式」は*CALCです。ホスト名の解決で、指定されたホスト名に対して複数のIPアドレスが戻されることがあります。ただし、この場合(*CALC)に、TCP/IPリンクを介してその接続を検査した時には、(IPバージョン4またはIPバージョン6で)解決された最初のIPアドレスが使用されることとなります。

例6: TCP/IP接続およびIPバージョン6ホスト名解決の明示的使用を検査

```
VFYTCPCNN RMTSYS(IPV6HOST) ADRVERFMT(*IP6)
```

このコマンドは、TCP/IPリンクを介してそれぞれ256バイト（省略時の値）の5パケット（省略時の値）をリモート・システム(IPバージョン6 TCP/IP構成にIPV6HOSTとして認識されています)に送信しようとしています。

この例は、TCP/IPリンクを介した接続の検査時に、有効なIPバージョン6解決アドレスIPV6HOSTだけが使用されるという点が例5とは異なっています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： VFYTCPCNN

なし

*ESCAPE メッセージ

TCP3210

接続検査の統計：&2の&1は正常に実行された(&3 %)。

TCP3219

アドレス&1がアドレス・バージョン形式&2と一致していません。

[トップ](#)

構成変更 (VRYCFG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

構成変更(VRYCFG)コマンドは、1つまたは複数の構成オブジェクトをオンまたはオフに構成変更するとともに、下位構成に接続された構成オブジェクトをオンに構成変更することができます。また任意選択でVRYCFGは、指定されたオブジェクトに関連した入出力プロセッサ(IOP)をリセットすることもできます。

オンまたはオフに構成変更できる構成オブジェクトは、ネットワーク・サーバー、ネットワーク・インターフェース、回線、制御装置、および入出力装置です。このコマンドは、システム上のすべてのネットワーク・インターフェース、回線、制御装置、および入出力装置に適用されます。

媒体ライブラリー資源の構成オブジェクト・タイプの場合は、このコマンドを使用して、テープ媒体ライブラリー装置内のドライブをリセットするか、あるいはテープ媒体ライブラリー装置内または光ディスク媒体ライブラリー装置内のドライブの割り振りを変更することができます。ドライブ資源の現行割り振りを判別するには、媒体ライブラリー状況処理(WRKMLBSTS)コマンドを使用してください。

タイプ*WINDOWSNTのネットワーク・サーバー・オブジェクトに接続された外部LAN TCP/IPインターフェースは省略時の値によって自動的に開始され、**TCP/IPインターフェースの開始**プロンプト(STRTCPIFCパラメーター)で任意に制御できます。

下位構成接続されたオブジェクトは、**範囲**プロンプト (RANGEパラメーター) に値*NETを指定することにより、ここで指定したオブジェクトと一緒にオンまたはオフに構成変更することができます。ネットワーク・インターフェース記述の下位構成接続オブジェクトは、ネットワーク・インターフェースに接続されたすべての回線、回線に接続されたすべての制御装置、および制御装置に接続されたすべての入出力装置です。回線の下位構成接続オブジェクトは、接続されたすべての制御装置および制御装置に接続されたすべての入出力装置です。制御装置の下位構成接続オブジェクトは、接続されたすべての入出力装置です。入出力装置には、下位構成されているものはありません。入出力装置の構成変更を行なう時には、**範囲**プロンプト (RANGEパラメーター) は影響しません。

ネットワーク・インターフェースおよび回線をオンに構成変更するのに同期的に行なうかあるいは非同期的に行なうかを、**オンへの構成変更待機**プロンプト (VRYWAITパラメーター) によって制御することができます。これは、トークンリング、イーサネット、X.25、または交換SDLC、IDLC、BSC、および非同期回線記述にのみ適用されます。オンに構成変更コマンドの完了前にオブジェクトがオンに構成変更された状態になるか、あるいはタイマーが満了するまでのシステムの待機時間は、**オンへの構成変更待機**プロンプト (VRYWAITパラメーター) に指定された値によって決定されます。

構成変更(VRYCFG)コマンドは、入出力プロセッサをリセットするためにも使用することができます。IOPは、通信制御装置、ローカル・ワークステーション制御装置、または磁気媒体制御装置とすることができます。IOPのリセットは、次のものをオンに構成変更する時にだけ有効です。

- ネットワーク・インターフェース記述
- 回線 (平衡型データ・リンク制御(TDLC)回線を除く)
- ローカル・ワークステーション制御装置

- テープ
- ディスケット

次のようなときは、回線をオンに構成変更することはできません。

- IDLC回線の場合に、ネットワーク・インターフェース記述がオンに構成変更されるまで。
- 交換回線の場合に、ダイヤル接続が完了するまで。

次のようなときは、制御装置をオンに構成変更することはできません。

- 非交換回線の場合に、接続する回線がオフに構成変更される場合。
- 交換回線の場合に、ダイヤル接続が完了するまで。

次のようなときは、装置をオンに構成変更することができません。

- 接続する制御装置がオフラインに構成変更された場合。ディスク装置および一部のテープ装置の場合には、制御装置に接続されないのので、この制約事項は適用されません。

次の時点まであるいは次のような場合には、ネットワーク・サーバーは、オフに構成変更することはできません。

- 接続されたすべての装置および制御装置がオフに構成変更されるまで。サーバーをオフに構成変更すると、接続された回線記述もオフに構成変更されます。
- AS/400クライアントがサーバー上でオープンされているファイルをもっている場合

注: ネットワーク・サービス状況処理(WRKNWSSTS)コマンド（「構成状況の処理」画面から使用可能）を使用して、他のクライアントとのネットワーク・サーバー・セッションの状況を判別してください。

ネットワーク・インターフェース記述は、次の時点までオフに構成変更できません。

- 接続されたすべての回線、制御装置、および入出力装置がオフに構成変更されるまで。

次のようなときは、回線をオフに構成変更することはできません。

- すべての接続制御装置および装置がオフに構成変更されていない場合。

次のようなときは、制御装置をオフに構成変更することはできません。

- その制御装置が使用中の場合、あるいは使用のために割り振られている場合。
- すべての接続装置がオフに構成変更されていない場合。

次のようなときは、装置をオフに構成変更することはできません。

- その制御装置が使用中の場合、あるいは使用のために割り振られている場合。

範囲プロンプト（RANGEパラメーター）が使用される場合。

- 装置の場合、下位構成接続オブジェクトをオンまたはオフに構成変更する値*NET は影響しません。装置には下位構成接続オブジェクトはありません。
- 交換回線の場合、値*NETは、オンに構成変更する場合に限り、効力がありません。オフに構成変更する場合には、値*NETは、回線およびその下位構成接続オブジェクトをオフに構成変更します。
- ネットワーク・インターフェース記述の場合、オンに構成変更する時には、値*NETはすべての非交換接続機構をオンに構成変更し、オフに構成変更する時には、値*NETはすべての非交換接続機構をオフに構成変更します。
- 省略時の値は*NETです。

オンへの構成変更待機プロンプト（VRYWAITパラメーター）が使用される場合。

- 回線またはネットワーク・インターフェースをオンに構成変更する時間とは、回線を管理するタスクの適切な実行に要する時間、IOPプログラムのダウンロードを含め、通信入出力プロセッサ(IOP)を活動化する時間、回線終端装置(DCE)との通信を確立する時間などです。
- 回線またはネットワーク・インターフェースをオンに構成変更する時間には、電話ダイヤル呼び出し時間は含まれません。ただし、モデムの電源がオフになると、オンへの構成変更の完了が妨げられ、そのために待機時間が満了する場合があります。タイマーが満了した場合には、通知メッセージがQSYSOPRメッセージ待ち行列に送られます。これに続いて、オンへの構成変更完了メッセージが出されます。
- トークンリング、ETHERNET、X.25、あるいは交換SDLC、IDLC、BSC、または非同期以外の回線記述に対するVRYCFGコマンドでオンへの構成変更待機プロンプト（VRYWAITパラメーター）を指定した場合には、このパラメーターは受け入れられますが、無視されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CFGOBJ	構成オブジェクト	単一値: *ANYNW, *APPN, *PRVCFGTYPE その他の値 (最大 256 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 1
CFGTYPE	タイプ	*NWS, *NWI, *LIN, *CTL, *DEV, *MLBRSC	必須, 定位置 2
STATUS	状況	*ON, *OFF, *RESET, *ALLOCATE, *UNPROTECTED, *DEALLOCATE	必須, 定位置 3
RANGE	範囲	*NET, *OBJ	オプション
VRYWAIT	オンへの構成変更待機	15-180, *CFGOBJ, *NOWAIT	オプション
ASCVRVYOFF	非同期のオフに構成変更	*NO, *YES	オプション
RESET	リセット	*NO, *YES	オプション
RSRCNAME	資源名	単一値: *ALL その他の値 (最大 16 回の繰り返し): 名前	オプション
RESETCFGF	構成ファイルのリセット	*NO, *YES	オプション
FRCVRVYOFF	強制的にオフに構成変更	*NO, *YES, *LOCK	オプション
STRTCPIFC	TCP/IPインターフェースの開始	*NO, *YES	オプション
SBMMLTJOB	複数ジョブの投入	*NO, *YES	オプション
JOBID	ジョブ記述	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, QBATCH	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, LIBL	

トップ

構成オブジェクト (CFGOBJ)

オンまたはオフに構成変更する構成オブジェクトの名前を指定します。最大256個の名前を指定することができます。名前は最大10桁の長さにするすることができます。

*ANYNW

*ANYNWのリンク・タイプを指定するすべての制御装置記述がオンまたはオフに構成変更されます。この値が有効であるのはCFGTYPEが*CTLの場合だけです。

*APPN

拡張分散ネットワーク機能(APPN)を使用するすべてのオブジェクトがオンまたはオフに構成変更されます。この値は、CFGTYPEが*CTLまたは*DEVの場合にだけ有効です。

*PRVCFGTYPE

指定された構成オブジェクト・タイプについて、このコマンドをこのジョブで最後に実行した時に処理されたすべてのオブジェクトを処理します。

総称記述名

総称記述名を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

[トップ](#)

タイプ (CFGTYPE)

構成変更されるオブジェクトのタイプを指定します。

考えられる値は次の通りです。

- *NWS ネットワーク・サーバーがオンまたはオフに構成変更されます。
- *NWI ネットワーク・インターフェース記述がオンまたはオフに構成変更されます。
- *LIN 回線記述がオンまたはオフに構成変更されます。
- *CTL 制御装置記述がオンまたはオフに構成変更されます。
- *DEV 装置記述がオンまたはオフに構成変更されます。

*MLBRSC

媒体ライブラリー中のドライブの状況が変更されます。

[トップ](#)

状況 (STATUS)

オブジェクトをオンまたはオフに構成変更するかどうかを指定します。

- *ON オブジェクトはオンに構成変更されます。
- *OFF オブジェクトはオフに構成変更されます。

*RESET

テープ媒体ライブラリー装置のドライブ資源がリセットされます。

注: ドライブ資源はRSRCNAMEパラメーターで指定しなければなりません。

媒体ライブラリー装置をオンに構成変更してからでなければ、この値を指定することはできません。

*ALLOCATE

テープの場合は、テープ媒体ライブラリー装置のドライブ資源がこのシステムによる使用専用

り振られます。ライブラリー装置が複数のシステムで共用されるときには、この装置記述がオンに構成変更されている間は、他のシステムがこれらのドライブを使用できません。光ディスクの場合は、光ディスク媒体ライブラリー装置のドライブ資源が使用のために割り振られます。ドライブ資源は、この媒体ライブラリー装置だけに使用できます。

注: ドライブ資源はRSRCNAMEパラメーターで指定しなければなりません。

***UNPROTECTED**

テープ媒体ライブラリー装置のドライブ資源は、このライブラリー装置を共用するすべてのシステムで使用することができます。

注: この値はお奨めしません。ドライブ資源が非保護モードの時には、各システムは同時に資源にアクセスできます。予測できない結果が起こる可能性があります。

***DEALLOCATE**

テープの場合は、テープ媒体ライブラリー装置のドライブ資源がこのシステムに対して割り振り解除されます。テープ媒体ライブラリーが複数のシステムで共用される場合には、このシステムはこのドライブを使用できませんが、他のシステムはこのドライブを使用できます。光ディスクの場合は、光ディスク媒体ライブラリー資源のドライブ資源がこの媒体ライブラリー資源に対して割り振り解除されます。ドライブは、別の光ディスク媒体ライブラリー装置に使用できません。

注: ドライブ資源はRSRCNAMEパラメーターで指定しなければなりません。

[トップ](#)

範囲 (RANGE)

構成変更される構成要素を指定します。

***NET** すべての下位接続構成要素が構成変更されます。

***OBJ** 指定されたオブジェクトだけが構成変更されます。

[トップ](#)

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

回線が非同期または同期のどちらでオンに構成変更されるかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、このパラメーターは、システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

***CFGOBJ**

システムは、ネットワーク・インターフェース記述または回線記述中の**オンへの構成変更待機**プロンプト (VRYWAITパラメーター) に指定された値を使用します。

***NOWAIT**

オンへの構成変更の完了を待つ必要はありません。ネットワーク・インターフェースまたは回線は非同期的にオンに構成変更されます。

待機時間

1秒間隔で15秒から180秒までの値を指定してください。システムは、VRYCFG コマンドの完了前に、タイマーが満了するかあるいは回線またはネットワーク・インターフェースがオンに構成変更されるまで、待機します。

[トップ](#)

非同期のオフに構成変更 (ASCVRYOFF)

オブジェクトを同期または非同期のどちらでオフに構成変更するかを指定します。

***NO** オブジェクトは同期でオフに構成変更されます。

***YES** オブジェクトは非同期でオフに構成変更されます。

[トップ](#)

リセット (RESET)

オブジェクトに関連する入出力プロセッサ(IOP)に対してリセットを行なうかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NO** 関連するIOPはリセットされません。

***YES** 関連するIOPはリセットされます。

[トップ](#)

資源名 (RSRCNAME)

リセットまたは割り振り解除する媒体ライブラリー装置の中の資源名を指定します。

[トップ](#)

構成ファイルのリセット (RESETCFGF)

構成ファイルのリセットするかどうかを指定します。このパラメーターは、オンに構成変更中のネットワーク・サーバー記述のタイプが*WINDOWSNTである場合には無視されます。このパラメーターが有効であるのは、CFGTYPEが*NWSの時だけです。

考えられる値は次の通りです。

***NO** 構成ファイルはリセットされません。

***YES** 構成ファイルはリセットされます。

[トップ](#)

強制的にオフに構成変更 (FRCVRYOFF)

活動ジョブの照会メッセージを出すかどうかを指定します。STATUS(*ON)が指定されている時には、このパラメーターは使用できません。

注: *NO以外の値の場合、ユーザー出口プログラムを介して構成変更要求を拒否する機能は取り消されません。構成変更出口点処理については、ISERIES INFORMATION CENTERのQIBM_QDC_VRYEXIT点の文書を参照してください。

考えられる値は次の通りです。

***NO** 活動ジョブの照会メッセージを出します。

***YES** 活動ジョブの照会メッセージを出さず、ジョブを終了します。

***LOCK**

APPCおよびシステム内通信以外の装置では、装置記述のロックが現在の状況に関係なく試みられます。ロックが正常に行われると、装置がオフに構成変更された状態の時に、割り当てられたシステム・ジョブに転送されて装置記述ロックを保留します。装置がオフに構成変更された状態以外の場合には、装置記述をオフに構成変更する試みも行われます。

トップ

TCP/IPインターフェースの開始 (STRTCPIFC)

タイプ*WINDOWSNTのネットワーク・サーバー記述の外部LANポート1および2 と関連したTCP/IPインターフェースを、開始するかどうかを指定します。このパラメーターが有効であるのは、CFGTYPEが*NWSの時だけです。このパラメーターは、オンに構成変更されるネットワーク・サーバー記述がタイプ*WINDOWSNTでない場合には無視されます。

考えられる値は次の通りです。

***YES** ポート1および2と関連した外部LAN TCP/IPインターフェースが開始されます。

***NO** ポート1および2と関連した外部LAN TCP/IPインターフェースは開始されません。

トップ

複数ジョブの投入 (SBMMLTJOB)

指定されたネットワーク・サーバー記述オブジェクトまたは補助記憶域プール(ASP)装置記述オブジェクトを構成変更するために、複数のバッチ・ジョブを投入するかどうかを指定します。このパラメーターが有効であるのは、CFGTYPEが*NWSまたは*DEVのときだけです。

考えられる値は次の通りです。

***NO** 指定されたすべてのネットワーク・サーバー記述または補助記憶域プール(ASP)装置記述が、元のVRYCFGコマンドを出したジョブで同期的に構成変更されます。

***YES** 指定された各ネットワーク・サーバー記述または補助記憶域プール(ASP)記述ごとに、新しいVRYCFGコマンドがバッチで投入されます。

トップ

ジョブ記述 (JOBBD)

複数のVRYCFGコマンドがバッチで投入されるジョブを記述するJOBBDを指定します。このパラメーターが有効であるのは、CFGTYPEが*NWSまたは*DEVであり、SBMMLTJOBが*YESであるときだけです。

考えられる値は次の通りです。

QBATCH

投入されたジョブのジョブ記述としてジョブ記述QBATCHが使用されます。システムとともに出荷されるQBATCHは一度に最大1つのジョブを実行できるように構成されているジョブ待ち行列QBATCHを指定するので、注意してください。

ジョブ記述名

投入されたジョブに対して使用されるジョブ記述の名前（ライブラリー名/ジョブ記述名）を指定してください。複数の構成変更を並行して実行するためには、活動ジョブの数に制限がないままで出荷されるジョブ待ち行列QSYS/QUSRNOMAXにジョブを渡すようにジョブ記述を作成することができます。

```
CRTJOB JOB(QSYS/QUSRNOMAX) JOBQ(QSYS/QUSRNOMAX)
```

その他の考慮事項としては、ジョブ待ち行列を割り振るサブシステムが待ち行列を保留状態にしておかないこと、およびシステムが制限状態でないことがあります。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

ジョブ記述名が入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

VRFCFGの例

例1:ネットワーク・インターフェースおよび下位構成接続をオンに構成変更

```
VRFCFG CFGOBJ(NWI1) CFGTYPE(*NWI) STATUS(*ON)
```

このコマンドは、ネットワーク・インターフェースおよびすべての下位構成接続をオンに構成変更します。

例2:回線および下位構成接続オブジェクトをオフに構成変更

```
VRFCFG CFGOBJ(LINE1) CFGTYPE(*LIN) STATUS(*OFF)
```

このコマンドは、回線およびすべての下位構成接続オブジェクトをオフに構成変更します。RANGEパラメーターには省略時値の*NETが取られています。

例3:制御装置をオンに構成変更

```
VRFCFG CFGOBJ(CONTROLLER1) CFGTYPE(*CTL) STATUS(*ON)  
RANGE(*OBJ)
```

このコマンドは、制御装置だけをオンに構成変更します。

例4:装置をオンに構成変更

```
VRFCFG CFGOBJ(DEVICE1) CFGTYPE(*DEV)  
STATUS(*ON) RANGE(*NET)
```

このコマンドは、装置だけをオンに構成変更します。RANGEパラメーターは装置では効力をもたないということに注意してください。

例5:回線をオンに構成変更して、IOPをリセット


```
VRYCFG  CFGOBJ(LINE1)  CFGTYPE(*LIN)  STATUS(*ON)
        RANGE(*OBJ)  RESET(*YES)
```

このコマンドは、回線だけをオンに構成変更して、関連のIOPをリセットします。

例6:待ち時間に回線記述の値を使用

```
VRYCFG  CFGOBJ(LINE1)  OBJTYPE(*LIN)  STATUS(*ON)
        RANGE(*OBJ)  VRYWAIT(*CFGOBJ)
```

このコマンドは、回線だけをオンに構成変更して、LINE1の回線記述に指定された「構成変更の待ち時間」値を使用します。

例7:「構成変更の待ち時間」に80秒を使用

```
VRYCFG  CFGOBJ(LINE1)  CFGTYPE(*LIN)  STATUS(*ON)
        RANGE(*OBJ)  VRYWAIT(80)
```

このコマンドは、「構成変更の待ち時間」の値として80秒を使用して回線だけをオンに構成変更します。

例8:ネットワーク・サーバーをオンに構成変更

```
VRYCFG  CFGOBJ(SERVER1)  CFGTYPE(*NWS)  STATUS(*ON)
```

このコマンドは、SERVER1という名前のネットワーク・サーバー記述およびその接続回線記述をオンに構成変更します。ネットワーク・サーバー記述に指定された「オンに構成変更の待ち時間」値が使用されます。RANGEおよびRESETのパラメーターは、ネットワーク・サーバーの場合、指定されても無視されるということに注意してください。

例9:媒体ライブラリー内のドライブのリセット

```
VRYCFG  CFGOBJ(MYLIBRARY)  CFGTYPE(*MLBRSC)  STATUS(*RESET)
        RSRNAME(TAP01 TAP02)
```

このコマンドは、媒体ライブラリー装置MYLIBRARY内のドライブTAP01およびTAP02をリセットします。このアクションを実行するには、装置MYLIBRARYをオンに構成変更しなければなりません。

例10:媒体ライブラリー内のドライブの割り振り解除

```
VRYCFG  CFGOBJ(MYLIBRARY)  CFGTYPE(*MLBRSC)
        STATUS(*DEALLOCATE)  RSRNAME(OPT02)
```

このコマンドは、媒体ライブラリー装置MYLIBRARY内のドライブOPT02を割り振り解除します。このアクションを実行するには、装置MYLIBRARYをオンに構成変更しなければなりません。

例11:複数のネットワーク・サーバーを並行してオンに構成変更

```
VRYCFG  CFGOBJ(IPCS*)  CFGTYPE(*NWS)  STATUS(*ON)
        SBMLTJOB(*YES)  JOB(*LIBL/QBATCH)
```

このコマンドは、IPCSで始まる名前をもつ各ネットワーク・サーバーをオンに構成変更するために、個別のバッチ・ジョブを投入します。並行して実行するジョブの数は、使用されるサブシステムの構成によります。

トップ

エラー・メッセージ： VRYCFG

*ESCAPEメッセージ

CPF26AF

装置記述&1中の駆動機構資源の状況が変更されなかった。

CPF26B6

ハードのエラーで初期設定プログラムが終了した。

CPF26B7

ソフトのエラーで初期設定プログラムが終了した。

CPF262E

IPL処理のオンへの構成変更中にエラーが起こった。

CPF262F

障害のためにQDCTRFが停止した。

CPF2640

構成変更コマンドは処理されなかった。

CPF2659

構成変更コマンドは完了していない場合がある。

CPDB1B9

補助記憶域プール(ASP)装置&1の状況が変わらない。理由コードは&2です。

CPD2609

装置&25の構成が正しくない。理由コードは&1です。

CPDB1B1

装置&25の構成が正しくない。理由コードは&1です。

CPDB157

装置&25の構成が正しくない。理由コードは&1です。

[トップ](#)

待機 (WAIT)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例
エラー・メッセージ

待機(WAIT)コマンドは、前のファイル受け取り(RCVF)コマンド、ファイル送出し(SNDF)コマンド、またはファイル送信/受信(SNDRCVF)コマンドの1つまたは複数のものによって、ユーザー・データを要求した表示装置ファイルから、入力データを待機しない、入力を受け入れます。これらのコマンドでは、WAITパラメーターに*NOが指定されるか、あるいはSNDFの場合には、その画面に送信するレコード様式にINVITE DDSキーワード・オプションが指定されて、CLプロシージャとの間でデータの受け渡しを行なうために特定の表示装置ファイルが指定されています。任意の時点で未処理とできる入力要求は、装置当たり1つだけです。複数の未処理入力要求がある場合には、指定された装置ファイルに応答するために、最初の装置のユーザー・データがCLプロシージャに送信されます。待機間隔内にデータを受信した場合には、待機操作が終了して、プログラムの次のコマンドが処理されます。そうでない場合には、CLプロシージャにエスケープ・メッセージが送られます。

プログラムは入力要求に対する応答を、その装置の表示装置ファイル作成(CRTDSPF)コマンド、表示装置ファイル変更(CHGDSPF)コマンド、または表示装置ファイル一時変更(OVRDSPF)コマンドのWAITRCDキーワードに指定された秒数だけ待機します。

制約事項:

- このコマンドは、CLプロシージャの中で表示装置ファイルに対してのみ有効です。データベース・ファイルでは、これを使用することはできません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	応答する装置のCL変数	CL 変数名, <u>*NONE</u>	オプションル, 定位置 1
OPNID	オープン・ファイル識別コード	単純名, <u>*NONE</u>	オプションル

トップ

応答する装置のCL変数 (DEV)

CLプロシージャへのユーザー・データを応答として送る表示装置の名前を受け入れるCL 変数の名前を指定します。

*NONE

CL 変数名が指定されません。応答する装置の名前は必要ありません。

名前 応答側装置の名前を受け取るCL変数の名前を指定してください。装置名を指定することはできません。

トップ

オープン・ファイル識別コード (OPNID)

同じCLプロシージャー内の先行するファイル宣言(DCLF)コマンドで宣言したオープン・ファイル識別コードを指定します。このパラメーター値にCL変数を指定することはできません。

*NONE

オープン・ファイル識別コードは指定されていません。このコマンドは、OPNIDパラメーターに*NONEを指定したDCLFコマンドと関連したファイルを使用します。オープン・ファイル識別コードとして*NONEを持つファイルはCLプロシージャーの中で1つしか宣言できません。

単純名 同じCLプロシージャー内の先行するDCLFコマンドのOPNIDパラメーター値と一致する名前を指定してください。

トップ

WAITの例

例1:ユーザー・データの受け取り

```
DCLF  FILE(MSCREEN)
:
RCVF  DEV(DEV1)  WAIT(*NO)
:
RCVF  DEV(DEV2)  WAIT(*NO)
:
WAIT  DEV(&DEVNAM)
```

この例では、ユーザー・データを受け取るために装置ファイルMSCREENが使用されています。RCVFコマンドは、プロシージャーがデータを待たないことを指定しています。WAITコマンドにより、プロシージャーは、表示装置ファイルMSCREENがその装置の1つからプロシージャーに入力データを渡すまで待機します。応答する表示装置の名前は、CL変数&DEVNAMに入れます。受け取ったデータは、宣言されたファイルのレコード様式と関連したCL変数に入れます。

例2:オープン・ファイル識別コードを使用したデータの受け取り

```
DCLF  FILE(DF1)  RCDfmt(FMT1)  OPNID(DSPF1)
:
RCVF  DEV(DEV1)  OPNID(DSPF1)  WAIT(*NO)
:
WAIT  DEV(*NONE)  OPNID(DSPF1)
```

この例では、RCVFコマンドが、オープン・ファイル識別コードDSPF1と関連した装置ファイル、すなわちDF1を使用することを指定しています。プロシージャーはユーザー・データを待ちません。WAITコマンド

が同じオープン・ファイル識別コードと一緒に出されると、受け取ったデータは、装置ファイルDF1のレコード様式FMT1に対して宣言されたCL変数に入れます。応答する装置の名前は、CL変数には戻されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WAIT

*ESCAPEメッセージ

CPF0859

ファイル一時変更により入出力バッファ・サイズを超えた。

CPF0882

WAITコマンドに対応するRCVFまたはSNDRCVFコマンドがない。

CPF0886

レコードに正しくないデータ・フィールドが入っている。

CPF0888

ジョブが終了中のため、コマンドは実行されなかった。

CPF0889

指定時間内に入力要求に使用できるデータがなかった。

CPF4101

ライブラリー&3にファイル&2が見つからないか、インライン・データ・ファイルがない。

CPF5068

プログラム装置&4がライブラリー&3のファイル&2に見つからない。

CPF5070

ライブラリー&3のファイル&2には獲得済みプログラム装置がない。

[トップ](#)

いつ (WHEN)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター

例

エラー・メッセージ

WHENコマンドは、論理式を評価し、式の評価にしたがってCLプロシージャのコマンドを条件つきで処理します。論理式が真（論理1）の場合は、THENパラメーターに指定されたコマンド（またはDOグループ内のコマンドのグループ）が処理され、SELECTコマンド・グループ内の後続のWHENおよびOTHERWISEコマンドはすべて処理されません。論理式の結果が偽（論理0）の場合は、SELECTグループ内の次にあるWHENまたはOTHERWISEコマンドに制御が渡されます。

THENパラメーターにIF, DO, DOWHILE, DOUNTIL,またはDOFORコマンドが指定されていると、論理式の結果が偽の場合は、コマンドのグループ全体がバイパスされます。制御は次のWHEN, OTHERWISE,またはENDSELECTコマンドに渡されます。

THENパラメーターで指定されたコマンドまたはDOグループが完了すると、ENDSELECTコマンドの次のコマンドに制御が渡され、そのコマンドから処理が続行されます。

制約事項:

- このコマンドはCLプロシージャ内でのみ有効です。
- このコマンドは、SELECT-ENDSELECTコマンド・グループ内でのみ有効です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
COND	条件	論理値	必須, 定位置 1
THEN	コマンド	コマンド・ストリング	オプション, 定位置 2

トップ

条件 (COND)

プログラム中の条件および次に実行される処置を決定するために評価される論理式を示します。論理式については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「論理式」を参照してください。式の中では変数、固定情報、そして%SUBSTRING, %SWITCH,および %BINARY組み込み関数を使用できることに注意してください。

これは必須パラメーターです。

論理値 CL論理変数または論理式の名前を指定してください。

コマンド (THEN)

論理式の評価結果が真の場合に処理されるコマンドまたはコマンドのグループ(DOグループまたはIFコマンド内の)を指定します。コマンドまたはDOグループが処理されると、このWHENコマンドと関連したENDSELECTコマンドの後にある次のコマンドに制御が移ります。このパラメーターで指定したコマンドがDO, DOWHILE, DOUNTIL,またはDOFORコマンドである場合には、DOグループ内のすべてのコマンドがパラメーターによって指定したコマンドと見なされます。

THENパラメーターにコマンドが指定されないと(ヌルTHEN),このWHENコマンドと関連したENDSELECTコマンドより後の次のコマンドに制御が渡されます。

DOコマンドが指定された場合には、DOコマンドだけ(DOグループ中に指定されたコマンドではない)が括弧に入れられます。たとえば、次の通りです。

```
WHEN COND(&A *EQ &B) THEN(DO)
  CMD1
  CMD2
  ...
ENDDO
```

論理式が真に評価され、THENパラメーターにコマンドが指定されていないと(ヌルTHEN),このWHENコマンドと関連したENDSELECTコマンドより後の次のコマンドに制御が渡されます。

CLコマンドはTHENパラメーターに指定することができますが、次のコマンドは例外です。

- ELSE
- PGM, ENDPGM
- ENDDO
- MONMSG
- DCL, DCLF
- WHEN, OTHERWISE, ENDSELECT

WHENの例

```
DCL VAR(&NAME) TYPE(*CHAR) LEN(10)
DCL VAR(&INT) TYPE(*INT) LEN(4)
:
SELECT
  WHEN COND(&NAME *EQ *CMD) THEN(DO)
  : (CLコマンドのグループ)
ENDDO
  WHEN COND(&INT *EQ 1 & &NAME *EQ *PGM) THEN(DO)
  : (CLコマンドのグループ)
```


ENDDO

ENDSELECT

WHENは、その条件が真に評価された場合に実行するコマンドを指定します。SELECTグループ内のWHENコマンドは、検出された順に評価されます。WHEN条件が満たされない場合は、ENDSELECTコマンドの次にあるコマンドから処理が続行されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WHEN

なし

[トップ](#)

活動ジョブ処理 (WRKACTJOB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

活動ジョブ処理 (WRKACTJOB)コマンドによって、システム中の活動ジョブのパフォーマンスおよび状況情報を処理することができます。できます。ジョブの順序は、**順序 (SEQ)**パラメーターを使用してか、あるいは画面上の操作を通じて変更することができます。その他のパラメーターでは、画面上にジョブの選択を表示することができます。選択パラメーターは、また、画面上の操作によって変更することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	<u>*</u> , *PRINT	オプション、位置 1
RESET	状況統計リセット	* <u>NO</u> , *YES	オプション、位置 2
SBS	サブシステム	単一値: * ALL その他の値 (最大 25 回の繰り返し): 名前	オプション
CPUPCTLMT	CPUパーセント限界	0.1-99.9, * NONE	オプション
RSPLMT	応答時間限界	0.1-999.9, * NONE	オプション
SEQ	順序	* SBS , *AUXIO, *CPU, *CPUPCT, *FUNCTION, *INT, *JOB, *NUMBER, *POOL, *PTY, *RSP, *STS, *THREADS, *TYPE, *USER	オプション
JOB	ジョブ名	修飾子リスト	オプション
	修飾子 1: ジョブ名	総称名, 名前, * ALL , *SYS, *SBS	
INTERVAL	自動再表示間隔	5-999, * PRV	オプション

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

状況統計リセット (RESET)

活動ジョブ統計をリセットするかどうかを指定します。

- *NO** 活動ジョブ統計はリセットされません。前のWRKACTJOBコマンドが現行ジョブで実行された場合には、測定時間間隔が延長されます。すべての活動ジョブが表示されます。
- *YES** 活動ジョブ統計がリセットされます。測定時間間隔にはゼロが使用されます。すべての活動ジョブが表示されます。

[トップ](#)

サブシステム (SBS)

活動ジョブが表示されるサブシステムの名前（またはすべてのサブシステム）を指定します。

単一値

- *ALL** システム中のすべての活動ジョブが表示されます。どのサブシステムにも関連しないシステム・ジョブも表示されます。

その他の値（最大25回の反復）

名前 表示されるサブシステムの名前を指定してください。このサブシステム中のすべての活動ジョブ（モニターも含む）が表示されます。

[トップ](#)

CPUパーセント限界 (CPUPCTLMT)

画面に含められる前にジョブ処理に必要な最小処理時間を表すパーセント値を指定します。

***NONE**

ジョブを表示するために必要な最小処理時間に制限を設けません。

0.1-99.9

画面上に組み込まれるためにジョブが必要とする最小処理時間パーセント限界を指定します。

[トップ](#)

応答時間限界 (RSPLMT)

ジョブを画面に含めるために必要な最小応答時間限界を指定します。

***NONE**

ジョブを表示するために必要な最小応答時間に制限を設けません。

0.1-999.9

画面上に組み込まれるためにジョブが必要とする最小応答時間限界を指定します。

[トップ](#)

順序 (SEQ)

表示される活動ジョブの順序を指定します。

***SBS** ジョブは、実行中のサブシステムに基づいて順序付けられます。サブシステムで実行されるジョブ（自動始動ジョブ、対話式ジョブ、バッチ・ジョブ、読み取りプログラム、および書き出しプログラム）は、ジョブ名のアルファベット順に配置され、関連するサブシステムの下に字下げして示されます。サブシステム・モニター・ジョブは、（各モニター・ジョブの下にグループ化されたサブシステム中のジョブとともに）アルファベット順に配置され、システム・ジョブの前に示されます。システム・ジョブは、ジョブ名でアルファベット順に配置され、サブシステム・モニターおよびサブシステム中のジョブの後に示されます。

*AUXIO

ジョブは、測定間隔中に実行された補助記憶域入出力(I/O)操作の回数によって順序付けられます。最大値が最初に表示されます。

***CPU** ジョブは、ジョブ開始以後に使用された処理時間の量によって順序付けられます。最大値が最初に表示されます。

*CPUPCT

ジョブは、測定間隔中に使用した処理装置資源のパーセントによって順序付けられます。最大値が最初に表示されます。

*FUNCTION

ジョブは、機能フィールドの内容に従って、アルファベット順に配列されます。

***INT** ジョブは、測定間隔中に行われた操作員との対話の回数によって順序付けられます。最大値が最初に表示されます。非対話式ジョブは最後に示され、対話フィールドがブランクになります。

***JOB** ジョブは、ジョブ名でアルファベット順に配置されます。

*NUMBER

ジョブはジョブ番号の順序となります。最大値が最初に表示されます。

*POOL

ジョブは、実行中のシステム・プールで順序付けられます。最低の値を持つものが最初に示されます。

***PTY** ジョブは、実行優先順位によって順序付けられます。最高の優先順位値(0)が最初に表示されます。

***RSP** ジョブは、測定間隔中の平均応答時間によって順序付けられます。最大値が最初に表示されます。非対話式ジョブは最後に示され、対話フィールドがブランクになります。

***STS** ジョブは、状況フィールドの内容に従って、アルファベット順に配列されます。

*THREADS

活動スレッドの数によって、ジョブが配列されます。活動スレッド数が最大のジョブが最初に表示されます。

***TYPE** ジョブは、ジョブ・タイプでアルファベット順に配置されます。同じジョブ・タイプではジョブ名でアルファベット順に配置されます。

*USER

ジョブは、ユーザー名でアルファベット順に配置されます。

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

表示される活動ジョブの名前を指定します。選択したサブシステム (SBSパラメーター) 内で活動状態のジョブだけが表示されます。*ALLまたは*SBSが指定された時には、サブシステム・モニター名が表示されません。システム・ジョブは、*ALLまたは*SYSが指定された時にだけ表示されます。

修飾子1: ジョブ名

***ALL** すべての活動ジョブが表示されます。

***SYS** すべての活動システム・ジョブが表示されます。この値を使用する時にSBSパラメーターに省略時の値以外の値が指定された場合には、エラー・メッセージが出されます。

***SBS** すべての活動サブシステム・モニターが表示されます。

総称名 基準を満たすすべての活動ジョブが表示されるように指定してください。このパラメーターを使用した場合には、システム・ジョブおよびサブシステム・モニターは表示されません。

名前 表示される活動ジョブを指定してください。このパラメーターを使用した場合には、システム・ジョブおよびサブシステム・モニターは表示されません。

[トップ](#)

自動再表示間隔 (INTERVAL)

自動最新表示オプション中に待機する間隔 (秒数) を指定します。省略時の時間は300秒 (5分) です。有効な値の範囲は5-999秒です。ユーザーがこの値を変更すると、その値が省略時の値として保管され使用されます。自動最新表示が開始されると、指定された時間に基づいて画面は自動的に最新表示されます。

***PRV** 前の呼び出しで使用された時間間隔。この間隔が指定されるまで、300秒が使用されます。

5-999 自動最新表示の遅延時間 (秒数) を指定します。

[トップ](#)

WRKACTJOBの例

例1:活動ジョブ統計のリセット

```
WRKACTJOB  RESET(*YES)  CPUPCTLMT(2)
```

このコマンドによって、ジョブが表示されていない画面を処理することができます。活動ジョブ統計はリセットされ、そのリセット点以降に処理装置時間を使用したジョブはありません。画面が表示された時に、F5キーを押すことができます。これによって、リセット点以降に処理装置使用率の2%を超えたすべてのジョブが表示されます。

例2:サブシステム内のジョブの処理

```
WRKACTJOB  SBS(QINTER)  SEQ(*INT)
```

このコマンドによって、QINTERサブシステム内のすべてのジョブを処理することができます。ジョブの順序は操作員の対話の数によります。最も対話の多いジョブが最初に表示されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKACTJOB

*ESCAPE メッセージ

CPF1093

ファイル装置タイプの一時的変更が正しくない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時的変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

警報処理 (WRKALR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

警報処理(WRKALR)コマンドは、システムによって作成されたか、あるいは警報フォーカル・ポイント・サービスの一部として別のシステムから受け取られた警報を表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DSPOPT	表示オプション	*ALL , *RCV, *LOCAL, *HELD	オプション、位置 1
PERIOD	期間	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, *AVAIL	
	要素 2: 開始日付	日付, *BEGIN , *CURRENT	
	要素 2: 終了時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, *AVAIL	
要素 2: 終了日付	日付, *END		
ALRTYPE	警報タイプ	単一値: *ALL その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 文字値, *PERM, *TEMP, *PERF, *PAFF, *IMPEND, *UNKNOWN	オプション
ALRRSC	資源警報	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション
ALRRSCTYPE	警報資源タイプ	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
ASNUSER	ユーザー割り当て	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値, *NONE	オプション
GROUP	グループ	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前, *NONE, *DEFAULT	オプション
OUTPUT	出力	* , *PRINT	オプション
DETAIL	詳細	*BASIC , *EXTENDED, *FULL	オプション

[トップ](#)

表示オプション (DSPOPT)

他のシステムから受け取られた警報またはローカルで作成された警報を表示するかどうかを指定します。システム・フォーカル・ポイントに送ることができず、保留としてマークされている警報が表示されます。

***ALL** 受け取られた警報およびローカルで作成された警報のすべてが表示されます。

***RCV** 他のシステムから受け取られた警報だけが表示されます。

***LOCAL**

ローカルで作成された警報だけが表示されます。

***HELD**

システムのフォーカル・ポイントに送ることができず、保留としてマークされているすべての警報が表示されます。

注: このシステムが送信または転送する保留中の警報と別のシステムが受信する保留中の警報との間には区別があります。DSPOPT(*HELD) は、このシステムによって送信または転送できない保留中の警報だけを表示します。

トップ

期間 (PERIOD)

どの時間間隔で記録された警報が表示されるかを指定します。

要素1: 開始時刻および日付

要素1: 開始時刻

次の1つを使用して、その時またはそれ以後警報がログされていない開始時刻を指定します。指定した時刻と日付より前の警報は表示されません。

***AVAIL**

指定した開始日で使用可能な記録済み警報が表示されます。

時刻 どの記録済み警報が表示されるかを示すためには、指定した開始日に開始時刻を指定してください。開始時刻は4桁または6桁 (HHMMまたはHHMMSS) として入力することができます。ここで、**HH**=時、**MM**=分、および**SS**=秒です。

時刻は、時刻区切り記号つきまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のstring (HHMMまたはHHMMSS) を指定してください。ここで、HH =時、MM =分、SS =秒です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ユーザーのジョブに指定された時刻区切り記号を使用して、時、分、および秒を区切った5または8桁のstring を指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、string をアポストロフで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

要素2: 開始日付

次の1つを使用して、その日またはそれ以後警報がログされていない開始日付を指定します。指定した日付より前に記録された警報は表示されません。

***BEGIN**

ログの始めから記録済み警報が示されます。*BEGINを指定した場合には、開始時刻の*AVAIL以外の時刻値はすべて無視されます。

***CURRENT**

現在日で指定された開始時刻と終了時刻（指定した場合）の間に記録された警報が表示されます。

日付 ログインされた警報が示される開始日を指定してください。日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

要素2: 終了時刻および日付

要素1: 終了時刻

次の1つを使用して、それ以前に警報がログされていない終了時刻を指定します。

*AVAIL

指定された終了日で使用可能な記録済み警報が表示されます。

時刻 どの記録済み警報が表示されるかを示すためには、指定した終了日に終了時刻を指定してください。終了時刻は4桁または6桁（HHMMまたはHHMMSS）として入力します。

時刻は、時刻区切り記号つきまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、HH =時、MM =分、SS =秒です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ユーザーのジョブに指定された時刻区切り記号を使用して、時、分、および秒を区切った5または8桁のストリングを指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

要素2: 終了日付

次の1つを使用して、その日またはそれ以前に警報がログされていない終了日付を指定します。

***END** 警報が記録された最後の日付は、記録済み警報が表示される最後の日付です。*ENDを指定した場合には、*AVAIL以外の終了時刻値はすべて無視されます。

日付 ログインされた警報が示される最後の日付の終了日を指定してください。日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

[トップ](#)

警報タイプ (ALRTYPE)

どのタイプの警報が表示されるかを指定します。警報タイプは、警報の重大度を示します。

単一値

***ALL** すべてのタイプの警報が表示されます。

その他の値（最大 5 回の反復）

***TEMP**

一時的な問題を報告するすべての警報が表示されます。

***PERM**

永続的な問題を報告するすべての警報が表示されます。

***PERF**

パフォーマンスの問題を報告するすべての警報が表示されます。

***IMPEND**

切迫した問題を報告するすべての警報が表示されます。

***UNKNOWN**

重大度が不明な問題を報告するすべての警報が表示されます。

***PAFF** 永続的に資源を損なう問題を報告するすべての警報が表示されます。

文字値 警報タイプのコード点を指定してください。コード点は 2 つの 16 進数字で指定されます。

[トップ](#)

資源名 (ALRRSC)

問題を報告している資源の名前を指定します。

単一値

***ALL** 障害のあるすべての資源に関連した警報が表示されます。

その他の値（最大 50 回の反復）

名前 警報資源名を指定してください。この警報資源名に関連した問題を報告している警報が表示されます。

[トップ](#)

警報資源タイプ (ALRRSCTYPE)

問題を報告している資源のタイプを指定します。各警報資源名にはその資源と関連した警報資源タイプがあります。

単一値

***ALL** すべての警報資源タイプの警報が表示されます。

その他の値（最大 50 回の反復）

文字値 警報資源タイプを指定してください。割り当てられた警報資源タイプに関連した問題を報告している警報が表示されます。

[トップ](#)

ユーザー割り当て (ASNUSER)

表示されている警報が割り当てられるユーザーを指定します。この値は、警報処置項目追加 (ADDALRACNE)コマンドのASNUSERパラメーターの値からとられます。

単一値

***ALL** すべての警報が表示されます。

その他の値 (最大 50 回の反復)

*NONE

ユーザーに割り当てられていない警報が表示されます。

文字値 表示されている警報が割り当てられるユーザーの名前を指定してください。

[トップ](#)

グループ (GROUP)

表示されている警報が割り当てられるグループを指定します。この値は、警報選択項目追加 (ADDALRSLTE)コマンドのGROUPパラメーターの値からとられます。

単一値

***ALL** すべての警報が表示されます。

その他の値 (最大 50 回の反復)

*DEFAULT

省略時のグループに割り当てられた警報が表示されます。

*NONE

グループに割り当てられていない警報が表示されます。

名前 表示されている警報が割り当てられるグループの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元ワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

詳細 (DETAIL)

出力プロンプト (OUTPUTパラメーター) で*PRINTが指定された場合には、印刷されるリストの詳細のレベルを指定します。

*BASIC

基本警報情報のリストが印刷されます。この情報には警報資源およびタイプ、オカレンスの日付および時刻、問題識別、警報記述、および起こり得る原因が含まれています。

*EXTENDED

警報情報の拡張リストが印刷されます。この情報には、*BASIC値によって提供されるすべての情報に加えて、好ましいすべての処置、および警報の主要な詳細が含まれています。

***FULL** 全警報情報が印刷されます。この情報には、*BASIC値によって提供されるすべての情報に加えて、好ましいすべての処置、およびすべての警報の詳細が含まれています。

トップ

WRKALRの例

```
WRKALR  DSPOPT(*LOCAL)  ALRTYPE(*TEMP *PERM)  ALRRSCTYPE(DKT)
```

このコマンドによって、ユーザーは一時と永続の両方であるローカル側で警報データベース中に作成された警報を処理することができます。表示された警報が、ディスクットに関して問題を報告中です。

トップ

エラー・メッセージ: WRKALR

*ESCAPEメッセージ

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

トップ

警報記述の処理 (WRKALRD)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

警報記述処理(WRKALRD)コマンドによって、警報記述を表示、追加、変更、および除去することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MSGID	メッセージ識別コード	名前, <u>*FIRST</u>	オプション、位置 1
ALRTBL	警報テーブル	修飾オブジェクト名	オプション、位置 2
	修飾子 1: 警報テーブル	名前, <u>QCPFMSG</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	

[トップ](#)

メッセージ識別コード (MSGID)

WRKALRD画面を使用して処理するメッセージIDを指定します。

*FIRST

指定の警報テーブルで見つかった最初の警報記述がWRKALRD画面に表示されます。

名前 処理するメッセージIDを指定してください。

[トップ](#)

警報テーブル (ALRTBL)

処理する警報テーブルを指定します。

修飾子1: 警報テーブル

QCPFMSG

QCPFMSGという名前の警報テーブルが使用されます。

名前 使用される警報テーブルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

警報テーブルを見つけるために、現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 警報テーブルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

WRKALRDの例

WRKALRD MSGID(USR1234) ALRTBL(USER/USRMSG)

このコマンドは、ライブラリーUSER内の警報テーブルUSRMSGからのメッセージID USR1234で始まっている「警報記述の処理」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKALRD

*ESCAPEメッセージ

CPF2499

メッセージ識別コード&1を使用することはできない。

CPF7D41

オーダー援助要求のロギング時にエラーが起こった。

CPF7D42

データベース操作の実行中にエラーが起こった。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9811

ライブラリー&2でプログラム&1が見つからない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9821

ライブラリー&2のプログラム&1は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9831

装置&1を割り当てることができない。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

警報テーブルの処理 (WRKALRTBL)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

警報テーブル処理(WRKALRTBL)コマンドは、警報テーブルのリストを表示し、これによって指定された警報テーブルを変更および削除し、指定された警報テーブルに入っている警報記述を処理し、新しい警報テーブルを作成することができます。警報の詳細は、AS/400 ALERT SUPPORT (SC41-5413)にあります。

制約事項:

- 使用(*USE)権限があるライブラリーだけが検索されます。
- 何らかの権限をもっている警報テーブルだけが、画面に表示されます。
- 警報テーブルに対して操作を実行するためには、その操作で使用されるコマンドに対する*USE権限、およびその操作の実行対象である警報テーブルに対する適切な権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
ALRTBL	警報テーブル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 警報テーブル	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	

トップ

警報テーブル (ALRTBL)

処理する警報テーブルを指定します。特定の警報テーブル名または総称警報テーブル名を指定することができます。オプションで、名前のいずれかのタイプはライブラリー名で修飾することができます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 警報テーブル

***ALL** ライブラリー修飾子で識別されるライブラリーのすべての警報テーブルが検索されます。警報テーブルに対してユーザーが特定の権限をもつ警報テーブルだけを表示することができます。

総称名 表示する警報テーブルの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称警報テーブル名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべての警報テーブルが表示されます。

名前 表示する警報テーブルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

***USRLIBL**

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

#CGULIB #DSULIB #SEULIB
#COBLIB #RPGLIB
#DFULIB #SDALIB

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

QDSNX QRCLXXXXX QUSRIJS QUSRVXRXXMX
QGPL QSRVAGT QUSRINFSKR
QGPL38 QSYS2 QUSRNOTES
QMGTC QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2 QS36F QUSRPOSGS
QMPGDATA QUSER38 QUSRPOSSA
QMQRDATA QUSRADSM QUSRPYMSVR
QMQRPROC QUSRBRM QUSRDRARS
QPFRDATA QUSRDIRCL QUSRSYS
QRCL QUSRDIRDB QUSRVI

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

WRKALRTBLの例

WRKALRTBL ALRTBL(ALRTBLLIB/AL*)

このコマンドは、'AL'で始まっているライブラリーALRTBLLIB内の警報テーブルのすべてのリストを表示します。表示されたリストから、表示された警報テーブルのどれかまたはすべての警報記述を変更、削除、または処理することができます。また、新規警報テーブルを作成することもできます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKALRTBL

*ESCAPEメッセージ

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

[トップ](#)

APPN状況の処理 (WRKAPPNSTS)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

APPN状況処理(WRKAPPNSTS)コマンドによって、APPNとHPRのネットワーク・セッションおよびローカル・システム上のRTP接続の状況に関する情報を表示して処理することができます。表示する情報の選択には、制御装置(CTL)パラメーターと、RMTLOCNAMEパラメーターかRMTCPNAMEパラメーターのいずれか一方（指定された場合）が使用されます。RMTLOCNAMEとRMTCPNAMEの両方は指定できないことに注意してください。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	オプション	<u>*SELECT</u> , *LOC, *RTP	オプション、位置 1
CTL	接続される制御装置	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク 識別コード	通信名, <u>*ALL</u> , *NETATR	オプション
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプション
RMTCPNAME	リモート制御点	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプション
MODE	モード	総称名, 名前, <u>*ALL</u> , *NETATR	オプション
TCID	トランスポート接続ID	文字値, <u>*ALL</u>	オプション

[トップ](#)

オプション (OPTION)

処理することができる情報のタイプを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*SELECT

ユーザーが処理する情報を選択することができるオプションのリストが表示されます。

***LOC** APPNロケーションの処理パネルが表示されます。

***RTP** RTP接続の処理パネルが表示されます。

[トップ](#)

接続される制御装置 (CTL)

状況を表示する制御装置名を指定します。指定された制御装置を使用しているセッションだけがAPPN状況の処理画面にリストされます。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** APPNセッションが活動中のすべての制御装置が示されます。

総称 * 制御装置名

制御装置の総称名を指定します。

制御装置名

制御装置の名前を指定してください。

[トップ](#)

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

リモート制御点またはリモート・ロケーションが置かれているリモート・ネットワークの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** APPNセッションが活動中のすべてのリモート・ロケーションおよびリモート制御点が示されます。RMTNETIDに*ALLを指定した場合には、RMTCPNAMEおよびRMTLOCNAME は*ALLでなければなりません。

*NETATR

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLNETID値が使用されます。

リモート・ネットワーク識別コード

リモート・ネットワーク識別コードを指定してください。

[トップ](#)

リモート制御点 (RMTLOCNAME)

状況が示される活動APPNセッションのリモート・ロケーション名を指定します。指定されたリモート・ロケーション名をもつセッションだけがAPPN状況の処理画面にリストされます。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** APPNセッションが活動中のすべてのリモート・ロケーションが示されます。

総称 * リモート・ロケーション名

リモート・ロケーションの総称名を指定してください。

リモート・ロケーション名

リモート・ロケーションのフルネームを指定してください。

[トップ](#)

リモート制御点 (RMTCPCNAME)

状況が示される活動APPNセッションのリモート制御点名を指定します。指定されたりモート制御点名をもつセッションだけがAPPN状況の処理画面にリストされます。

OPTION(*RTP)ビューの場合には、RTP接続パートナーの制御点名の指定にRMTCPCNAME が使用されます。OPTION(*LOC)ビューの場合には、接続制御装置の制御点名の指定にRMTCPCNAMEが使用されます。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** APPNセッションが活動中のすべてのリモート制御点が表示されます。

総称*リモート制御点名

リモート制御点の総称名を指定してください。

リモート制御点名

リモート制御点のフルネームを指定してください。

[トップ](#)

モード (MODE)

すべてのリスト項目のサブセットを作成するために使用されるモードの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** すべての活動セッションが表示されます。

*NETATR

システム・ネットワーク属性に指定されたDFTMODE値が使用されます。

総称*モード点名

モードの総称名を指定してください。

モード名

モードの完全な名前を指定してください。

[トップ](#)

トランスポート接続ID (TCID)

RTP接続のトランスポート接続識別コード(TCID)を指定します。指定されたTCIDを持つRTP接続経由で実行されているセッションだけがRTP接続用のセッションの処理パネルにリストされます。このパラメーターは、OPTION(*RTP)を指定した場合にだけ有効です。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** セッションが活動中のすべてのTCIDが表示されます。

トランスポート接続識別コード

表示するTCIDを指定してください。TCIDパラメーターが*ALLと等しくない場合には、CTLパラメーターとRMTCPCNAMEパラメーターは両方とも*ALLでなければなりません。

[トップ](#)

WRKAPPNSTSの例

例1: RTP接続の処理

```
WRKAPPNSTS OPTION(*RTP) TCID(*ALL)
```

このコマンドによって、ユーザーは活動状態のすべてのRTP接続を表示できるようになります。

例2: APPNロケーションの処理

```
WRKAPPNSTS OPTION(*LOC) RMTNETID(ROCV) RMTCPNAME(ROCAS*)
```

指定されたりモート制御点の場合、このコマンドによって、ユーザーは、活動状態のAPPNセッションがあるすべてのAPPNロケーションの対を表示できます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: WRKAPPNSTS

なし

[トップ](#)

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、米国以外の国においては本書で述べる製品、サービス、またはプログラムを提供しない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。

使用許諾については、下記の宛先に書面にてご照会ください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Software Interoperability Coordinator, Department 49XA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

Advanced Function Printing

AFP

AS/400

CICS

COBOL/400

C/400

DataPropagator

DB2

IBM

Infoprint

InfoWindow

iSeries

LPDA

OfficeVision

OS/400
Print Services Facility
RPG/400
SystemView
System/36
TCS
WebSphere

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

資料に関するご使用条件

お客様がダウンロードされる資料につきましては、以下の条件にお客様が同意されることを条件にその使用が認められます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布（頒布、送信を含む）または表示（上映を含む）することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

これらの資料の著作権はすべて、IBM Corporation に帰属しています。

お客様が、このサイトから資料をダウンロードまたは印刷することにより、これらの条件に同意されたものとさせていただきます。

コードに関する特記事項

本書には、プログラミングの例が含まれています。

IBM は、お客様に、すべてのプログラム・コードのサンプルを使用することができる非独占的な著作使用权を許諾します。お客様は、このサンプル・コードから、お客様独自の特別のニーズに合わせた類似のプログラムを作成することができます。

すべてのサンプル・コードは、例として示す目的でのみ、IBM により提供されます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

ここに含まれるすべてのプログラムは、現存するままの状態を提供され、いかなる保証も適用されません。商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任の保証の適用も一切ありません。



Printed in Japan